

科目名	初等国語科内容論 (FEP00100)
英文科目名	Japanese Language for Primary Education
担当教員名	小川孝司 (おがわたかし)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。本科目を学ぶ意義と目的について説明する。
2回	国語教育と国語科教育の違いや、人格形成に深く関係する言葉のはたらき等について説明する。
3回	現行小学校学習指導要領(国語科)の改善の基本方針及び内容の改善について説明する。
4回	現行小学校学習指導要領(国語科)における、小学校「国語」の全体目標、小学校「国語」の学年別「目標」及び系統性について説明する。
5回	国語科の授業を構成する「教師の役割」、「学習者把握」及び「教材開発」の意味について説明する。
6回	言葉の力の定着に向け、単元指導計画及び学習指導案作成の意義、学習指導の評価について説明する。
7回	現行の小学校学習指導要領(国語科1)。「話すこと・聞くこと」の指導目標と内容の系統性について説明する。
8回	現行の小学校学習指導要領(国語科2)。「書くこと」の指導目標と内容の系統性について説明する。中間試験を実施する。試験終了後、出題内容について解説を行う。
9回	現行の小学校学習指導要領(国語科3)。「読むこと」の指導目標と内容の系統性について説明する。
10回	現行の小学校学習指導要領(国語科4)。「伝統的な言語文化に関する事項」新設の意味と、指導の目標及び内容について説明する。
11回	現行の小学校学習指導要領(国語科5)。「国語の特質に関する事項」新設の意味と、指導内容等について説明する。
12回	現行の小学校学習指導要領(国語科6)。「読書活動の充実」の意味、読書指導の目標及び内容について説明する。
13回	国語科教育と関連の深いメディア・リテラシーの指導内容及び指導の実際について説明する。
14回	小学校学習指導要領(国語科)を中心に、国語科教育の理論及び実践の変遷について説明する。
15回	今日の国語科教育の課題を整理し、日常生活に必要な言葉の力を育むための国語科教育のあり方について説明する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、本授業の概要を確認しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	テキスト中の「国語教育」と「国語科教育」の違い等について、予習カードにまとめておくこと。(標準学習時間60分)
3回	テキスト中の「国語科の改善の基本方針」について予習カードにまとめておくこと。(標準学習時間60分)
4回	小学校学習指導要領(国語科)の「国語科全体目標」及び「学年別目標」について予習カードにまとめておくこと。(標準学習時間60分)
5回	テキスト中の「学習者の実態とその把握」について予習カードにまとめておくこと。(標準学習時間60分)
6回	テキスト中の「年間指導計画・単元計画・学習指導案」について予習カードにまとめておくこと。(標準学習時間60分)
7回	テキスト中の「『話すこと・聞くこと』の指導の目標と内容」について、予習カードにまとめておくこと。(標準学習時間60分)
8回	テキスト中の「『書くこと』の指導の目標と内容」について予習カードにまとめておくこと。(標準学習時間90分)
9回	テキスト中の「文学的文章及び説明的文章の目標と内容」について、予習カードにまとめておくこと。(標準学習時間60分)
10回	テキスト中の「伝統的な言語文化の授業」について予習カードにまとめておくこと。(標準学習時間60分)
11回	テキスト中の「言語の機能・言語感覚」について、予習カードにまとめておくこと。(標準学習時間60分)
12回	テキスト中の「読書指導の目標と内容」について、予習カードにまとめておくこと。(標準学習時間60分)
13回	テキスト中の「国語科教育とメディア・リテラシー」について、予習カードにまとめておくこと。(標準学習時間60分)

14回	テキスト中の「初等国語科教育の歴史」について、予習カードにまとめておくこと。（標準学習時間60分）
15回	テキスト中の「国語科教育の現状」について予習カードにまとめておくこと。（標準学習時間60分）
16回	小学校国語の「内容」について復習しておくこと。（標準学習時間90分）

講義目的	・小学校「国語」に関する基礎理論、指導内容について身に付ける。（この講義は初等教育学科の学位授与方針のAに強く関与する）
達成目標	1 小学校学習指導要領国語編に示された小学校「国語」の目標や指導事項について説明できる。 （A） 2 教材の特質を深く理解し、小学校「国語」の目標や指導事項に照らして、教材開発に生かすことができる。 （C）
キーワード	国語科改訂の趣旨及び要点、小学校「国語」の目標及び内容の構成、小学校「国語」の学年の内容、知識及び技能、思考力・判断力・表現力
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	中間試験、最終評価試験などによって総合的に評価し、総計で60%以上を合格とする。予習レポート：（毎回提出）評価割合10%（達成目標1・2を確認）授業時間内小レポート：（毎回提出）評価割合10%（達成目標1・2を確認）中間試験：評価割合30%（達成目標1・2を確認）最終評価試験：評価割合50%（達成目標1・2を確認）
教科書	小学校国語科授業研究第五版 / 田近洵一・大熊徹・塚田泰彦編 / 教育出版 / 9784316804651
関連科目	初等国語科教育法、教材分析・開発演習A（国・社・家）
参考書	小学校学習指導要領解説国語編 / 文部科学省 / 東洋館出版社 / 9784491034621
連絡先	A1号館 9F 小川研究室
授業の運営方針	・予習レポート及び毎時間の小レポートを、必ず期限内に提出すること。 ・グループ協議により学習を深めます。グループ活動に積極的に参加すること。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク レポートをもとにグループでディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	予習レポート及び授業時間内の小レポートは採点后、コメントを入れて返却する。最終試験は、試験終了時に模範解答を配付する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、正当な理由からディスカッションに参加することが困難と認められる場合は、代替の措置を検討するので、事前に相談すること。
実務経験のある教員	元公立小学校及び附属小学校教諭、(副)校長：学校現場における経験者がその経験を生かし、国語科における教材分析の方法、小学校学習指導要領国語の指導内容とのつながり等について解説する。
その他（注意・備考）	実際に教壇に立ち授業することを目指し、強い目的意識をもって授業に臨むことが望ましい。

科目名	初等社会科内容論 (FEP00200)
英文科目名	Social Studies for Primary Education
担当教員名	紙田路子 (かみたみちこ)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして講義の目的と概略を説明するとともに、社会科の目標である市民的資質の概念について説明する。
2回	市民的資質を構成する知識・技能・態度について、中央教育審議会答申、および新学習指導要領をもとに説明する。
3回	学習指導要領解説社会科編の分析を通して、小学校社会科の内容編成原理について説明する。
4回	中学年社会科授業における社会認識の方法(フィールドワーク)と内容(地誌学的視点)について説明する。
5回	中学年社会科授業における社会認識(地域のへの貢献・参画の視点)について説明する。
6回	中学年社会科授業における社会認識(公共施設の役割)について説明する。
7回	中学年社会科授業における社会認識(地域の歴史・文化)について説明する。
8回	高学年社会科授業における社会認識(日本農業とフードシステム)について説明する。
9回	高学年社会科授業における社会認識(日本の工業と経済システム)について説明する。
10回	高学年社会科授業における社会認識(解釈としての歴史学習)について説明する。
11回	高学年社会科授業における社会認識(政治と法)について説明する。
12回	価値判断能力を育成する社会科授業の目的・内容・方法について説明する。
13回	小学校高学年社会科における世界地理(領土と国際交流)について説明する。
14回	小学校社会科学習の特質と課題について説明する。
15回	これまでの講義内容をもとに、小学校社会科授業の教材を開発する。
16回	最終評価試験を実施する。試験後模範解答の提示と内容についての解説を行う。

回数	準備学習
1回	初等社会科教育のシラバスや教科書に目を通し、学習の過程を把握しておくこと。(1時間)
2回	前回の講義で配布した中央教育審議会答申、および新学習指導要領を読み、「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力」について整理しておくこと。なおこの課題をもとにグループディスカッションを行い、評価する。(2時間)
3回	学習指導要領解説社会科編を読み、各学年の学習内容における「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力」についてまとめておくこと。なおこの課題をもとにグループディスカッションを行い、評価する。(2時間)(1.5時間)
4回	前回の講義で配布した小学校第3学年単元「私たちの町を調べよう」の授業計画書と実践記録について目を通し、「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力」について整理しておくこと。(2時間)
5回	前回の講義で配布した小学校第4学年単元「ごみの処理と私たちの生活」の授業計画書と実践記録について目を通し、「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力」について整理しておくこと。(2時間)
6回	前回の講義で配布した小学校第4学年単元「水はどこから」の授業計画書と実践記録について目を通し、「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力」について整理しておくこと。(2時間)
7回	前回の講義で配布した小学校第4学年単元「地域のために尽くした人々」の授業計画書と実践記録について目を通し、「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力」について整理しておくこと。(2時間)
8回	前回の講義で配布した小学校第5学年単元「日本農業とフードシステム」の授業計画書と実践記録について目を通し、「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力」について整理しておくこと。(2時間)
9回	前回の講義で配布した小学校第5学年単元「日本の工業と自動車産業」の授業計画書と実践記録について目を通し、「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力」について整理しておくこと(2時間)。
10回	前回の講義で配布した小学校第5学年単元「明治時代 産業化する社会」の授業計画書と実践記録について目を通し、「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力」について整理しておくこと。(2時間)
11回	前回の講義で配布した小学校第6学年単元「協働化する社会」「アメリカの人権問題」の授業計画書と実践記録について目を通し、「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力」について整理しておくこと。(2時間)
12回	新小学校学習指導要領解説社会科編を読み、主体的な判断力形成についてのどのように記述されて

	いるか整理しておくこと。なおこの課題をもとにグループディスカッションを行い、評価する。(1.5時間)
13回	前回の講義で配布した資料を読み、小学校社会科では領土問題と国際交流の視点から世界地理がどのように扱われているか整理しておくこと。(2時間)
14回	これまでの講義内容から小学校社会科の特徴について整理したうえで、考えられる問題点について整理しておくこと。なおこの課題をもとにグループディスカッションを行い評価する。(2時間)
15回	小学校社会科の教材開発のための資料を準備しておくこと。(2時間)
16回	小学校社会科学習の内容について、市民的資質育成の面から説明できるようにしておくこと。(3時間)

講義目的	社会科授業設計を行うために必要な社会認識を身に着けるとともに教材開発力を養う。(この講義は教育学部の学位授与方針のA・Cに強く関与する)
達成目標	1. 小学校社会科における教科内容を地理的、歴史的、公民的分野の知見に基づき解釈・説明することができる。(A) 2. 小学校児童が現代社会の課題や将来の展望を思考・判断するのに有益な主題について認識し、教材開発に生かすことができる。(A・C) 3. 目的に応じて複数の資料を収集し、教材開発を行うことができる。(C)
キーワード	社会認識、科学的知識、社会構成主義、価値観形成、主体的な判断力の育成、フードシステム、経済システム、法・政治システム、地誌的視点、フィールドワーク、地域への貢献・参画、歴史的な解釈、社会的な見方・考え方
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験60%(主に達成目標1・2を評価)、レポート20%(主に達成目標2・3を評価)、グループ発表20%(主に達成目標3を評価)により評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。ただし最終評価試験において基準点を設け、得点が100点中60点未満は不合格とする。
教科書	『小学校学習指導要領 解説 社会編』/文部科学省/東洋館出版社 その他、必要な資料等は講義の中で適宜配布する。
関連科目	探究活動 を受講していることが望ましい。
参考書	『社会科授業構成の理論と方法』/森分孝治/明治図書/1978年 『社会科固有の授業論 30の提言』/岩田一彦/明治図書/2001年
連絡先	A1号館 9F 紙田研究室
授業の運営方針	・毎時間のミニレポート及び仮題レポートを必ず期限内に提出すること。 ・遅刻、課題未提出等が重なり当該回の講義の目標を達成できる状況にないと判断したときは欠席扱いとすることがあるので十分注意すること。 ・講義資料は講義開始時に配布する。なお、特別の事情のない限り後日の配布には応じない。
アクティブ・ラーニング	・ディスカッション：課題レポート、およびミニレポートをもとにグループでディスカッション、ワークショップを行う。
課題に対するフィードバック	・課題レポート、およびミニレポートは添削・評価の後、次時の授業の際に返却する。 ・最終試験調査を60分行い、30分で模範解答の解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。
実務経験のある教員	元公立小学校教諭：学校現場における教育経験者が、その経験を生かして、小学校社会科の学校教育における意義や教材解釈、教材開発の方法等について解説する。
その他(注意・備考)	・実際に授業に立つことを考え、高い目的意識をもって講義に臨むことが望ましい。 ・社会科は「社会を知る」教科である、という特性を持つ。日ごろから新聞やニュースに目を通し、社会に関心をもつことが望ましい。 ・試験は定期試験中に行う。

科目名	算数科内容論 (FEP00300)
英文科目名	Arithmetic
担当教員名	黒崎東洋郎 (くろさきとよお)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	算数科の指導内容は「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データ活用」で4つの領域で構成されていること、算数科で、なぜ、これらの指導内容を取り上げるかを解説する。
2回	算数科が重視する資質能力について解説する。「数学的な見方考え方」「数学的活動」「数学的に考える」の3者の関係を解説する。
3回	「数と計算」の領域の低学年の重点的な指導内容を系統的に解説する。
4回	「数と計算」の「小数」の指導内容について、指導の系統に即して小数指導の重点内容を解説する。
5回	「数と計算」の「分数」の指導内容について、系統的に分数指導の重点内容を解説する。
6回	加法、減法に関する2つの計算の意味(単項演算、2項演算)があること、及び、位取り記数法に基づく計算原理を解説する。
7回	かけ算・わり算の2つの意味(単項演算、二項演算)と九九の構成の仕方、加減の計算の相互の関係を解説する。
8回	見積もり、暗算と関連付けて、四則計算の筆算の価値及びその計算の仕方を解説する。
9回	小数・分数のかけ算・わり算の意味の拡張を系統的に解説する。
10回	既習事項を活用した小数・分数のかけ算・わり算の仕方を解説する。分数のかけ算・わり算の仕方を重点的に解説する。
11回	なぜ、図形を指導するのか概説し、「図形」の領域における基本的図形(平面図形、立体図形)の意味や性質の指導内容と関連付けて解説する。
12回	図形の面積(長方形、三角形、四角形、円)に関して、重点的な指導内容を系統的に解説する。
13回	「変化と関係」の領域における比例の表、式、グラフの指導内容、関数的な見方、考え方について解説する。
14回	「データ活用」の領域が重視される背景及びデータの分類整理と表・グラフの特徴を解説する。
15回	散らばりのあるデータの整理の仕方、不確定事象の起こりうる場合の考察の仕方など、統計的探究のプロセスを解説する。
16回	定期試験を行う。試験後、解答例を口頭で解説する。

回数	準備学習
1回	小学校の算数科の標準時数、算数科の指導内容としてどのような領域で、どのような指導内容が取り扱われるのかを概観すること。2時間。
2回	「数学的な見方考え方」「数学的活動」「数学的に考える」について、事前に調べてくること。2時間。
3回	第1学年、第2学年、第3学年と学年が上がるに従って取り扱われる整数についての指導内容を系統的に事前に調べる。2時間。
4回	第3学年以降で取り扱う「小数」の指導内容について系統的に調べてくること。2時間。
5回	第2学年以降で取り扱う「分数」の指導内容について系統的に調べてくること。2時間。
6回	第1学年で取り扱う加法、減法の計算の意味と計算の仕方を調べてくること。2時間。
7回	第2学年のかけ算の意味と九九の構成の仕方、第3学年のわり算の意味について調べてくること。2時間。
8回	筆算とは暗算の違い。加法、乗法、除法の基本的な筆算の原理を事前に調べてくること。2時間。
9回	整数の場合のかけ算の意味と小数・分数のかけ算・わり算の意味の違いを調べてくること。2時間。
10回	小数・分数のかけ算・わり算の原理を調べてくること。2時間。
11回	図形指導の系統性や三角形、四角形、円(対象概念)の意味について事前に調べてくること。2時間。
12回	円周、円の面積における指導内容について事前に調べてくること。2時間。
13回	4, 5, 6年の「変化と関係」に関する学習指導案を、表、式、グラフ指導の得意分野で1事例を構成し持ち寄る。2時間。
14回	データを整理するポイントと2次元表や棒グラフ、割合のグラフの特徴を調べてくること。2時間。
15回	統計的な見方・考えを伸ばす探究プロセス、度数分布表の区間の決め方によってデータがどのように変わるか調べてくること。2時間。

講義目的	「数学的な見方考え方を道具として働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える」資質能力むための算数科の4領域(「A数と計算」「B図形」「C変化と関係」「Dデータの活用」)の指導内容に
------	--

	ついて確実に習得させる（初等教育学課学位授与方針Aに関する修得）
達成目標	算数科を担当する上で最小限必要な「数学的な見方考え方を働かせて、数学的活動を通して、数学的に考える」という資質・能力を育むための4領域（「A数と計算」「B図形」「C変化と関係」「Dデータの活用」）の指導内容に関する知識・技能、及び数学的な思考力の捉え方を確実に理解できるようにする（A・B）。
キーワード	「数と計算」の概念・原理、図形の概念と性質、測定の原理、比例関係、データの活用、数学的な見方、数学的な考え方、数学的活動、数学的に考える
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	4領域の指導内容に関する小論文40%（達成目標A・Bを評価）、最終評価試験60%（達成目標（A・B）を評価）により達成目標を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	小学校学習指導要領解説算数科編／文部科学省／2017）、検定教科書「わくわく算数」／啓林館出版社、1年、3年、6年
関連科目	本授業科目は、「算数科教材研究・教材開発（2年次）」「算数科教育法（3年次）」「理数教育の実践と方法（4年次）」へと発展する
参考書	「数学教育学研究ハンドブック」／東洋館出版社／ISBN978-4-491-02062-8／2010．「算数科深い学びを実現させる理論と実践」／金本良通、池野正晴、黒崎東洋郎／東洋館出版社／ISBN9784491034454／2017．
連絡先	A1号館9階、906号室。オフィスアワー：月曜日午前、火曜日午後、水曜日午前、金曜日午後、e-mail;kursaki@ped.ous.ac.jp、256-8475
授業の運営方針	原則：毎回、無遅刻、無欠席で真摯に授業に取り組むこと。小論文は提出期限を厳守すること。水準に達しない小論文は再提出を求めることがあります。授業では、資料を配付しますが、欠席した場合、資料及びこれにまつわる小論文を配布することは致しません。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション：授業の後半に、授業のリフレクションタイムを設定し、授業で分かったこと、気付いたこと、探究すべき課題等をグループで協議し、指名（アットランダム）により口頭発表を行う。
課題に対するフィードバック	小論文の模範解答に関しては、次時の冒頭でキーワードを示して口頭で概要を解説する。水準に達していない小論文は授業後に返却し、再提出を求めるようにする。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	岡山県教育センター長期研修員、岡山大学附属小学校における文部教官教諭、教育委員会学校教育部指導課指導主任、係長の実務経験あり。デマンドサイトのニーズに応じて、算数の指導内容の重点化を図った授業を行いたい。
その他（注意・備考）	講義内容を録音、録画したり、板書、パワーポイントの画像を撮影することは禁止する。

科目名	初等理科内容論(A) (FEP00400)
英文科目名	Science for Primary Education
担当教員名	山下浩之(やましたひろゆき)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして学習指導要領の理科の目標を基に、本講義の目的と方法、授業計画を解説する。同時に理科を学ぶ意義や理科を指導する教師のあり方について議論する。
2回	「B生命・地球」領域に関わる内容を主に観察を通して解説する。特に小学校で「昆虫」を取り扱う意味や観察の方法を実際の昆虫を教材にして理解する。
3回	「B生命・地球」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。特に小学校における「観察」の意味について議論し、観察記録やスケッチの手法を修得する。
4回	「B生命・地球」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。スケッチした昆虫の形態と環境との関係をそれぞれの観察の視点からプレゼンテーションする。
5回	「B生命・地球」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。光学顕微鏡での観察の指導の仕方と血流の観察方法を修得する。観察の視点とスケッチでプレゼンテーションする。
6回	「B生命・地球」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。この回は「月」の観察を取り上げ、天体に関する児童の実態を解説し、実際の月をスケッチして指導方法を検討する。
7回	「B生命・地球」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。特に南天の「星座」の観察を取り上げ、実際の星座のスケッチをもとにプレゼンテーションする。また、指導方法についても検討する。
8回	「B生命・地球」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。特に北天の「星座」の観察を取り上げ、実際の星座のスケッチをもとにプレゼンテーションする。南天の「星座」と併せ、天体全体の動きの指導法について検討する。
9回	「B生命・地球」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。地層の観察を取り上げ、実際に地層をつくりながら地層が出来る過程や原理を考察する。また、地層を教材としたときの指導法について検討する。
10回	「A物質・エネルギー」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。特に電気教材を取り上げ、光電池やLEDを使用した内容の指導法について考察する。
11回	「A物質・エネルギー」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。特に電気教材を取り上げ、エネルギーという観点から手回し発電機やモーターの取り扱い、およびその指導法について考察する。
12回	「A物質・エネルギー」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。特に振り子を取り上げ、条件設定についての議論を行う。また、振り子の指導法についても考察する。
13回	「A物質・エネルギー」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。特にてこを取り上げ、てこの原理の指導法についての議論を行うとともに応用出来る場面設定をプレゼンテーションする。
14回	「A物質・エネルギー」領域および「B生命・地球」領域に関わる内容についての「評価試験」を90分行う。
15回	「評価試験」のフィードバックを行い、試験問題の解説を行うと同時に、これまでの内容を総括しながら自己評価を行う。

回数	準備学習
1回	小学校学習指導要領の理科の目標と学年の目標および内容を熟読し、「問題解決学習」の意味を予習しておくこと。(標準学習時間90分)
2回	小学校学習指導要領の理科の目標と学年の目標および内容を復習しておくこと。「B生命・地球」領域で扱われる各学年の内容を予習しておくこと。(標準学習時間90分)
3回	小学校3年の「B生命・地球」領域で扱われる内容を復習しておくこと。小学校3年で取り扱う昆虫を採集し、描きやすいように工夫してスケッチしておくこと。(標準学習時間90分)
4回	小学校3年の「B生命・地球」領域で扱われる内容を復習しておくこと。小学校5年の「B生命・地球」領域で扱われる光学顕微鏡に関する内容を予習しておくこと。(標準学習時間90分)
5回	小学校高学年の「B生命・地球」領域で扱われる内容を復習すること。小学校4年の「B生命・地球」領域で扱われる内容を予習しておくこと。(標準学習時間90分)
6回	小学校4年の「B生命・地球」領域で扱われる内容を復習すること。小学校4年の「B生命・地球」領域で扱われる南天の星座の動きを1時間ごとにスケッチしておくこと。(標準学習時間90分)
7回	小学校4年の「B生命・地球」領域で扱われる内容を復習しておくこと。小学校4年の「B生命・地球」領域で扱われる北天の星座の動きを1時間ごとにスケッチしておくこと。(標準学習時間90分)
8回	小学校4年の「B生命・地球」領域で扱われる内容を復習すること。小学校高学年の「B生命・地球」領域で扱われる地学に関する内容を予習すること。(標準学習時間90分)

9回	小学校高学年の「B生命・地球」領域で扱われる地学に関する内容を復習すること。物理分野(2)小学校中学年の「A物質とエネルギー」領域で扱われる電気教材に関する内容を予習しておくこと。(標準学習時間90分)
10回	小学校高学年の「B生命・地球」領域で扱われる地学の内容を復習すること。小学校高学年の「A物質・エネルギー」領域で扱われる電気教材の内容を予習しておくこと。(標準学習時間90分)
11回	小学校5年の「A物質・エネルギー」領域で扱われる内容を復習すること。小学校5年の「A物質・エネルギー」領域で扱われる振り子の原理を予習しておくこと。(標準学習時間90分)
12回	小学校5年の「A物質・エネルギー」領域で扱われる振り子の原理を復習すること。小学校6年の「A物質・エネルギー」領域で扱われるこの原理を予習しておくこと。(標準学習時間90分)
13回	小学校6年の「A物質・エネルギー」領域で扱われるこの原理を復習すること。小学校6年の内容「A物質とエネルギー」領域で扱われる内容を予習しておくこと。(標準学習時間90分)
14回	これまでに学習した内容全体を十分に復習しておくこと。「評価試験」についての自己評価をしておくこと。(標準学習時間120分)
15回	「評価試験」の内容を十分に復習しておくこと。最後にフィードバック後の自己評価を行い総括すること。(標準学習時間90分)

講義目的	児童が目的意識を持って観察実験を行い、科学的に調べる能力や態度を育てるためには教師自身が十分な知識と技能を修得する必要がある。この授業では各学年の理科の学習内容を、個別あるいはグループによる観察実験を通して検討しながら、授業づくりの基礎を学ぶ科目である。この目的は教育学部学位授与(DP)のAおよびBと深く関連している。
達成目標	1) 観察実験を通して基礎的な原理を確実に理解できる。(A) 2) 基本的な機器の取り扱い方や観察実験技能の習得および教材の取り扱い方に関する内容を、総合的に身につけることができる。(A) 3) 教師の立場としての安全面への配慮を行うことができる。(B)
キーワード	基礎的な内容や原理の理解、実験技能の習得、指導時の配慮、理科学習指導
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	実験レポート40%、評価試験30%、プレゼンテーション30%の点数により成績を総合的に評価する。特にプレゼンテーションでは論理性と表現力を主な観点として評価する。
教科書	小学校学習指導要領解説理科編/文部科学省/大日本図書(2017)/MEXT1-1706 初等理科教育/山下芳樹・平田豊誠/ミネルヴァ書房/978-4-623-08200-1
関連科目	初等理科教育法
参考書	高等学校で学ぶ生物基礎・化学基礎・物理基礎・地学基礎(出版社は問わない)
連絡先	山下研究室A1号館10F1012 直通電話 086-256-9624 E-mail:yamashita ped.ous.ac.jp(はat sign) オフィスアワー 木曜日4・5時限
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> 予習復習および補足を必要とする内容についてはMomo-campusに配信する。 実験時には安全面に十分に留意する。白衣・安全ゴーグル着用のこと。長髪は括ること。 授業の始めに出席をとるが、返答がない場合は遅刻あるいは欠席扱いにするので注意すること。 遅刻は15分までは認めるがそれ以降は欠席扱いにする。 全てのレポートを期限内に提出すること。期限を過ぎての提出は減点対象にする。 入室時は挨拶をすること。 入室退室時および教室使用上のルールを厳守すること。注意については第1回目にアナウンスする。 最終評価試験は実施しないので、授業時間と授業時間外での活動が重要である。課題レポート等にコピーなどの剽窃がある場合は成績評価の対象としない場合もある。
アクティブ・ラーニング	<p>ディスカッション・プレゼンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的にはまず自分自身でデータをとり、その結果や考察についてのオーラルプレゼンテーションを行う。 授業中のグループディスカッションを通してテーマを深めていく。さらにグループで意見を集約して発表する。 リフレクションノートにより相互評価、自己評価を行う。
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> 予習復習課題は採点后、返却する。 課題についてはその内容を各自プレゼンテーションし、内容を学生全体で共有した上で相互評価する。 課題についての補足やフィードバックに関する情報はMomocampusで行う場合がある。
合理的配慮が必要な学生への対応	<ul style="list-style-type: none"> 「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音・録画・撮影は個人で利用する場合に限り、許可する場合があるので事前に相談すること。 障害に応じて補助器具(ICレコーダー、タブレット型端末の撮影、録画機能)の使用を認めるので、事前に相談すること。 配布資料や録画データなどは他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)や転用は禁止する。

実務経験のある教員	ア) 元小学校勤務イ) 学校現場の経験を活かして、今日的な教育的な課題(理科離れ、理科嫌い等)とその対策方法について講義する。
その他(注意・備考)	

科目名	初等理科内容論(B) (FEP00410)
英文科目名	Science for Primary Education
担当教員名	山下浩之(やましたひろゆき)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして学習指導要領の理科の目標を基に、本講義の目的と方法、授業計画を解説する。同時に理科を学ぶ意義や理科を指導する教師のあり方について議論する。
2回	「B生命・地球」領域に関わる内容を主に観察を通して解説する。特に小学校で「昆虫」を取り扱う意味や観察の方法を実際の昆虫を教材にして理解する。
3回	「B生命・地球」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。特に小学校における「観察」の意味について議論し、観察記録やスケッチの手法を修得する。
4回	「B生命・地球」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。スケッチした昆虫の形態と環境との関係をそれぞれの観察の視点からプレゼンテーションする。
5回	「B生命・地球」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。光学顕微鏡での観察の指導の仕方と血流の観察方法を修得する。観察の視点とスケッチでプレゼンテーションする。
6回	「B生命・地球」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。この回は「月」の観察を取り上げ、天体に関する児童の実態を解説し、実際の月をスケッチして指導方法を検討する。
7回	「B生命・地球」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。特に南天の「星座」の観察を取り上げ、実際の星座のスケッチをもとにプレゼンテーションする。また、指導方法についても検討する。
8回	「B生命・地球」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。特に北天の「星座」の観察を取り上げ、実際の星座のスケッチをもとにプレゼンテーションする。南天の「星座」と併せ、天体全体の動きの指導法について検討する。
9回	「B生命・地球」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。地層の観察を取り上げ、実際に地層をつくりながら地層が出来る過程や原理を考察する。また、地層を教材としたときの指導法について検討する。
10回	「A物質・エネルギー」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。特に電気教材を取り上げ、光電池やLEDを使用した内容の指導法について考察する。
11回	「A物質・エネルギー」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。特に電気教材を取り上げ、エネルギーという観点から手回し発電機やモーターの取り扱い、およびその指導法について考察する。
12回	「A物質・エネルギー」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。特に振り子を取り上げ、条件設定についての議論を行う。また、振り子の指導法についても考察する。
13回	「A物質・エネルギー」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。特にてこを取り上げ、てこの原理の指導法についての議論を行うとともに応用出来る場面設定をプレゼンテーションする。
14回	「A物質・エネルギー」領域および「B生命・地球」領域に関わる内容についての「評価試験」を90分行う。
15回	「評価試験」のフィードバックを行い、試験問題の解説を行うと同時に、これまでの内容を総括しながら自己評価を行う。

回数	準備学習
1回	小学校学習指導要領の理科の目標と学年の目標および内容を熟読し、「問題解決学習」の意味を予習しておくこと。(標準学習時間90分)
2回	小学校学習指導要領の理科の目標と学年の目標および内容を復習しておくこと。「B生命・地球」領域で扱われる各学年の内容を予習しておくこと。(標準学習時間90分)
3回	小学校3年の「B生命・地球」領域で扱われる内容を復習しておくこと。小学校3年で取り扱う昆虫を採集し、描きやすいように工夫してスケッチしておくこと。(標準学習時間90分)
4回	小学校3年の「B生命・地球」領域で扱われる内容を復習しておくこと。小学校5年の「B生命・地球」領域で扱われる光学顕微鏡に関する内容を予習しておくこと。(標準学習時間90分)
5回	小学校高学年の「B生命・地球」領域で扱われる内容を復習すること。小学校4年の「B生命・地球」領域で扱われる内容を予習しておくこと。(標準学習時間90分)
6回	小学校4年の「B生命・地球」領域で扱われる内容を復習すること。小学校4年の「B生命・地球」領域で扱われる南天の星座の動きを1時間ごとにスケッチしておくこと。(標準学習時間90分)
7回	小学校4年の「B生命・地球」領域で扱われる内容を復習しておくこと。小学校4年の「B生命・地球」領域で扱われる北天の星座の動きを1時間ごとにスケッチしておくこと。(標準学習時間90分)
8回	小学校4年の「B生命・地球」領域で扱われる内容を復習すること。小学校高学年の「B生命・地球」領域で扱われる地学に関する内容を予習すること。(標準学習時間90分)

9回	小学校高学年の「B生命・地球」領域で扱われる地学に関する内容を復習すること。物理分野(2)小学校中学年の「A物質とエネルギー」領域で扱われる電気教材に関する内容を予習しておくこと。(標準学習時間90分)
10回	小学校高学年の「B生命・地球」領域で扱われる地学の内容を復習すること。小学校高学年の「A物質・エネルギー」領域で扱われる電気教材の内容を予習しておくこと。(標準学習時間90分)
11回	小学校5年の「A物質・エネルギー」領域で扱われる内容を復習すること。小学校5年の「A物質・エネルギー」領域で扱われる振り子の原理を予習しておくこと。(標準学習時間90分)
12回	小学校5年の「A物質・エネルギー」領域で扱われる振り子の原理を復習すること。小学校6年の「A物質・エネルギー」領域で扱われるこの原理を予習しておくこと。(標準学習時間90分)
13回	小学校6年の「A物質・エネルギー」領域で扱われるこの原理を復習すること。小学校6年の内容「A物質とエネルギー」領域で扱われる内容を予習しておくこと。(標準学習時間90分)
14回	これまでに学習した内容全体を十分に復習しておくこと。「評価試験」についての自己評価をしておくこと。(標準学習時間120分)
15回	「評価試験」の内容を十分に復習しておくこと。最後にフィードバック後の自己評価を行い総括すること。(標準学習時間90分)

講義目的	児童が目的意識を持って観察実験を行い、科学的に調べる能力や態度を育てるためには教師自身が十分な知識と技能を修得する必要がある。この授業では各学年の理科の学習内容を、個別あるいはグループによる観察実験を通して検討しながら、授業づくりの基礎を学ぶ科目である。この目的は教育学部学位授与(DP)のAおよびBと深く関連している。
達成目標	1) 観察実験を通して基礎的な原理を確実に理解できる。(A) 2) 基本的な機器の取り扱い方や観察実験技能の習得および教材の取り扱い方に関する内容を、総合的に身につけることができる。(A) 3) 教師の立場としての安全面への配慮を行うことができる。(B)
キーワード	基礎的な内容や原理の理解、実験技能の習得、指導時の配慮、理科学習指導
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	実験レポート40%、評価試験30%、プレゼンテーション30%の点数により成績を総合的に評価する。特にプレゼンテーションでは論理性と表現力を主な観点として評価する。
教科書	小学校学習指導要領解説理科編/文部科学省/大日本図書(2017)/MEXT1-1706 初等理科教育/山下芳樹・平田豊誠/ミネルヴァ書房/978-4-623-08200-1
関連科目	初等理科教育法
参考書	高等学校で学ぶ生物基礎・化学基礎・物理基礎・地学基礎(出版社は問わない)
連絡先	山下研究室A1号館10F1012 直通電話 086-256-9624 E-mail:yamashita ped.ous.ac.jp(はat sign) オフィスアワー 木曜日4・5時限
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> 予習復習および補足を必要とする内容についてはMomo-campusに配信する。 実験時には安全面に十分に留意する。白衣・安全ゴーグル着用のこと。長髪は括ること。 授業の始めに出席をとるが、返答がない場合は遅刻あるいは欠席扱いにするので注意すること。 遅刻は15分までは認めるがそれ以降は欠席扱いにする。 全てのレポートを期限内に提出すること。期限を過ぎての提出は減点対象にする。 入室時は挨拶をすること。 入室退室時および教室使用上のルールを厳守すること。注意については第1回目にアナウンスする。 最終評価試験は実施しないので、授業時間と授業時間外での活動が重要である。課題レポート等にコピーなどの剽窃がある場合は成績評価の対象としない場合もある。
アクティブ・ラーニング	<p>ディスカッション・プレゼンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的にはまず自分自身でデータをとり、その結果や考察についてのオーラルプレゼンテーションを行う。 授業中のグループディスカッションを通してテーマを深めていく。さらにグループで意見を集約して発表する。 リフレクションノートにより相互評価、自己評価を行う。
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> 予習復習課題は採点后、返却する。 課題についてはその内容を各自プレゼンテーションし、内容を学生全体で共有した上で相互評価する。 課題についての補足やフィードバックに関する情報はMomocampusで行う場合がある。
合理的配慮が必要な学生への対応	<ul style="list-style-type: none"> 「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音・録画・撮影は個人で利用する場合に限り、許可する場合があるので事前に相談すること。 障害に応じて補助器具(ICレコーダー、タブレット型端末の撮影、録画機能)の使用を認めるので、事前に相談すること。 配布資料や録画データなどは他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)や転用は禁止する。

実務経験のある教員	ア) 元小学校勤務イ) 学校現場の経験を活かして、今日的な教育的な課題(理科離れ、理科嫌い等)とその対策方法について講義する。
その他(注意・備考)	

科目名	生活科内容論 (FEP00500)
英文科目名	Living Environment Studies
担当教員名	筒井愛知* (つついよしとも*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。生活科という教科を理解するために必要な視点や、学生自身の小学生時代の生活科の授業の内容について振り返る。
2回	自然と関わるワークショップを行い、普段見落とされがちな身の回りの自然環境に対して、目を向けるための様々な方法を実践する。
3回	季節の変化や年中行事などが生活にどのようにかかわっているのかを考察する。
4回	自然や物を使った遊びについて紹介し、遊びを通じて自然観が養われたり、自然科学への興味が深まっていくことを解説する。
5回	動植物の飼育・栽培などの方法や実践例を紹介するとともに、学生自身の動植物の飼育・栽培体験を振り返る。
6回	幼児期から児童期の子供の遊びについて、時代と地域による共通点や、相違点を概説する。学生自身の遊び体験を振り返る。
7回	現代的な遊びである電子メディアについて、その歴史や現状を概説する。それを踏まえて現代社会における生活科の意味を再考する。
8回	こどもの手作業や手仕事が、遊びと生活とを結び付けていることを解説する。
9回	学生自身が住んでいる街と、学生自身とのつながりを見直すワークショップを通じて、個人と社会、個人と組織のつながりについて、考える。
10回	こどもを取り巻く学校・地域・公共施設などを調べて、こどもを取り巻く社会的な環境について考える。
11回	学生同士の交流のワークショップを行い、人との交流を進めていくための様々な技法について解説する。
12回	大学周辺の街を探検して、社会的な環境や自然環境などのアクションリサーチを行う。
13回	プレーパークでこどもの様子を観察したり、こどもと関わりながら、生活科全体の振り返りを行う。
14回	大学に入学してから今までの自分を振り返るワークショップを行い、「振り返る」ことの意味を考える。
15回	14回の内容を踏まえて、生活科という教科の意義や授業の展開、指導案などについてまとめて解説する。

回数	準備学習
1回	自らが小学生の時の生活科の内容について、思いだせるだけ思いだし、メモをしてくること。(60分)
2回	朝起きてから、大学に足を運ぶまでの間に、どのような自然を目にしたり、耳にしたかを意識してくること。(60分)
3回	自分が参加したことのある年中行事を書きだすとともに、思い出深いエピソードがあればメモしてくること。(60分)
4回	「自然」という言葉が表している自分にとってのイメージをはっきりとさせておくこと。(60分)
5回	小学校でよく飼育・栽培されている動植物について、調べておくこと。(60分)
6回	こどもの頃に夢中になった遊びをできるだけたくさん思いだしておくこと。(60分)
7回	こどもの頃に夢中になった電子ゲームについて、思いだしておくこと。(60分)
8回	折り紙を二種類、追ってくること。(30分)
9回	行きつけのお店、行きつけの病院、アルバイト先、よく使う交通機関、カード類など、自分と社会とのかかわりについて、確認しておくこと。(60分)
10回	小学生時代に利用した公共施設について、調べておくこと。(60分)
11回	授業後、授業でやったのと同じワークショップを、誰かと行うこと。(60分)
12回	授業後、授業では行かなかった場所に行き、より深く街への理解を進めること。(60分)
13回	授業後、プレーパークにもう一度足を運んでみること。(60分)
14回	授業後、改めて振り返ってみて、レポートの作成に備えること。(60分)
15回	14回分の配布資料やワークシートなどを全て見直しておくこと。(90分)

講義目的	生活科の教科内容について、誕生の背景と意義について知り、生活科の役割について検討する。学生自らが学んできた生活科を振り返り、生活科での学びが自らの人間形成にどのように関わっているかを考える。 その上で、発達・成長、日常生活と社会、自然科学の視点から、生活科への興味と理解を深めてい
------	---

	く。学位授与の方針Aに関連する科目である。
達成目標	(1) 教科の位置付けを理解できる (A) (2) 生活科の特性がわかり他教科との相違を説明できる (A) (3) 学習指導要領に明記されている生活科の目標及び内容について理解できる (A) (4) 生活科の授業(活動)について、具体的な展開方法を検討できる (A)
キーワード	生活、社会、理科、環境、遊び、コミュニケーション
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	レポート(50%)、授業で行う演習(30%)、授業中の活動(20%)を総合して評価する。
教科書	小学校学習指導要領解説生活編/文部科学省/日本文教出版
関連科目	生活科教育法 教材分析・開発演習B(算数、理科、生活)
参考書	適宜指定する
連絡先	ph6y-tti@j.asahi-net.or.jp 筒井愛知
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の始めに出席をとるが、返答がない場合は遅刻あるいは欠席扱いにするので注意すること。 ・ 遅刻は15分までは認めるがそれ以降は欠席扱いにする。 ・ 全てのレポートを期限内に提出すること。期限を過ぎての提出は減点の対象にする。 ・ 最終評価試験は実施しないので授業時間と授業時間外での活動が重要である。課題レポート等にコピーなどの剽窃がある場合は、成績評価の対象としない場合もある。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・ 毎回のレポート「質問」には次回の講義内で返答する。
合理的配慮が必要な学生への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・ 講義中の録音・録画・撮影は個人で利用する場合に限り、許可する場合がありますので事前に相談すること。 ・ 障害に応じて補助器具(ICレコーダー、タブレット型端末の撮影、録画機能)の使用を認めるので、事前に相談すること。 ・ 配布資料や録画データなどは他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)や転用は禁止する。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	受け身ではなく積極的に授業に参加する態度が望まれる。

科目名	初等音楽科内容論(A) (FEP00600)
英文科目名	Music for Primary Education
担当教員名	井本美穂(いもとみほ)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。小学校における音楽の役割を考え、小学校音楽の領域には「歌唱」「器楽」「音楽づくり」「鑑賞」の4つの領域で構成されていることを解説する。各領域の音楽指導を行うためにどのような音楽の知識・技術が必要なのかを説明する。
2回	音の長さ(音符と休符、リズムにのろう)：音の長さを表す方法を説明する。 低学年の「歌唱」の指導内容について解説する。
3回	音の高さ(音名あそび、イロハうた、ドレミのうた)：音の高さを表す方法を説明する。 中学年の「歌唱」の指導内容について解説する。
4回	音程(全音と半音、長短・完全系の音程)：音同士の関係を説明する。 高学年の「歌唱」の指導内容について解説する。
5回	音階と調(長音階、調あてクイズ)：長音階と長調のしくみを説明する。 「器楽」の指導内容について解説する。
6回	音階と調(短音階、調あてクイズ)：短音階と短調のしくみを説明する。 「器楽」におけるリコーダーの演奏について解説する。
7回	和音(長3和音と短3和音)：和音の構造を説明する。 「器楽」の楽器の取扱いについて解説する。
8回	これまで学んだ音楽理論を復習する。第7回までの講義内容について振り返ると同時に、これまでの講義内容について中間的な評価をするために試験を実施する。試験終了後に、出題内容について解説する。
9回	コードネームを弾いてみよう(コードの基本)：コード記号を用いて演奏する方法を説明する。 低・中学年の「鑑賞」の指導内容について解説する。
10回	コードネームで伴奏してみよう(メジャーコード)：メジャーコードの曲の伴奏付けを説明する。 高学年の「鑑賞」の指導内容について解説する。
11回	コードネームで伴奏してみよう(マイナーコード)：マイナーコードの曲の伴奏付けを説明する。 低学年の「音楽づくり」の指導内容について解説する。
12回	移調(調をかえてみよう、移調リレー)：移調の方法を説明する。 中学年の「音楽づくり」の指導内容について解説する。
13回	いろんな調で弾いてみよう：移調の実践方法を説明する。 高学年の「音楽づくり」の指導内容について解説する。
14回	これまでの学習を総合し、グループ創作発表会に向けた準備について説明する。
15回	これまで学んだ音楽理論を復習する。第14回までの講義内容について振り返ると同時に、これまでの講義内容について最終的な評価をするために試験を実施する。試験終了後に、出題内容について解説する。
16回	グループ創作発表会を実施する。発表会終了後、発表内容について解説する。

回数	準備学習
1回	小学校でどのような音楽活動を行ったかを思い出しておくこと。シラバスに目を通し、学習の流れを把握しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	第1回の授業内容を復習し、自分の身のまわりの様々な音や音楽について考えたことを記述しておくこと。(標準学習時間80分)
3回	第2回の授業内容を復習し、リズム打ち課題に取り組むこと。(標準学習時間80分)
4回	第3回の授業内容を復習し、音高に関する課題に取り組むこと。(標準学習時間100分)
5回	第4回の授業内容を復習し、音程に関する課題に取り組むこと。(標準学習時間120分)
6回	第5回の授業内容を復習し、長調に関する課題に取り組むこと。(標準学習時間80分)
7回	第6回の授業内容を復習し、短調に関する課題に取り組むこと。(標準学習時間100分)
8回	第7回の授業内容を復習し、和音に関する課題に取り組むこと。(標準学習時間120分)
9回	第8回の授業内容を復習し、これまでの学習内容に関する課題に取り組むこと。(標準学習時間100分)
10回	第9回の授業内容を復習し、コード記号に関する課題に取り組むこと。(標準学習時間100分)
11回	第10回の授業内容を復習し、メジャーコードに関する課題に取り組むこと。(標準学習時間100分)
12回	第11回の授業内容を復習し、マイナーコードに関する課題に取り組むこと。(標準学習時間100分)
13回	第12回の授業内容を復習し、移調に関する課題に取り組むこと。(標準学習時間120分)

14回	第13回までの授業内容を復習し、コードネーム・移調に関する課題に取り組むこと。(標準学習時間100分)
15回	これまでの授業内容を復習し、音楽理論に関する課題に取り組むこと。(標準学習時間100分)
16回	これまでの学習を総括し、グループ発表会に向けて準備すること。(標準学習時間180分)

講義目的	小学校で音楽指導を行うために必要な音楽の知識および技術を修得するとともに、音楽することの意味や楽しさを深く認識することを目的とする。歌唱・ソプラノリコーダーや打楽器を用いた器楽合奏・身体表現活動などをおして、実践的に学ぶ。期の終わりにはグループでの創作発表会を行い、学習の成果を確認する。初等教育学科の学位授与方針Aに最も強く関与する。
達成目標	基本的な楽譜の読み書きができる。 (A) 楽譜に示されたりズムや音程に従って演奏することができる。(C) 音楽を形づくっている要素について説明することができる。(A) コードネームをもとに簡易伴奏することができる。(C) 移調して演奏することができる。(C) グループ内で協調して学習を進めることができる。(A)
キーワード	歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞、音符、休符、音程、音階、調、和音、コードネーム
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	中間試験(20%)、期末試験(30%)、グループ発表の内容(25%)、平素の授業での活動および提出課題(25%)によって総合的に評価する。 総計60%以上を合格とする。
教科書	文部科学省/『小学校学習指導要領解説 音楽編』/教育芸術社 『保育士・幼稚園教諭・小学校教諭養成のためのピアノテキスト 楽典・身体表現教材付』/全国大学音楽教育学会九州地区学会編著/カワイ出版(ピアノ奏法の教科書と同じ)
関連科目	ピアノ奏法I、ピアノ奏法II、ピアノ奏法、初等音楽科教育法
参考書	『5訂版 歌はともだち』/教育芸術社 その他、適宜紹介する。
連絡先	A1号館 10F 井本研究室 オフィスアワー:月曜日3限、水曜日3限 Email: imoto@ped.ous.ac.jp Tel:086-256-9723
授業の運営方針	・すべてのグループ活動を行い、すべてのレポートを期限内に提出すること。 ・グループ活動により授業を行うので、毎回出席して、真摯に授業に取り組むこと。遅刻してグループに迷惑をかけることが重なりと欠席扱いとすることがあるので十分注意すること。 ・講義資料はWebを通じて配布する。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、ライティング ・音楽授業に関わる課題についてグループ討議を行い、グループで出た意見を全体で発表する。 ・グループで実技実践を行い、成果を全体で発表する。 ・毎回授業の振り返りを記述し、提出する。
課題に対するフィードバック	提出課題については、講義中にコメントおよび模範解答を配布するなどしてフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障害学習支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	・ソプラノリコーダーを使用するので、持っている人は準備しておくこと。 ・「音楽に自信がない」「楽譜が読めない」人は、この授業で学んで自信をつけよう。

科目名	初等音楽科内容論(B) (FEP00610)
英文科目名	Music for Primary Education
担当教員名	井本美穂(いもとみほ)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。小学校における音楽の役割を考え、小学校音楽の領域には「歌唱」「器楽」「音楽づくり」「鑑賞」の4つの領域で構成されていることを解説する。各領域の音楽指導を行うためにどのような音楽の知識・技術が必要なのかを説明する。
2回	音の長さ(音符と休符、リズムにのろう)：音の長さを表す方法を説明する。 低学年の「歌唱」の指導内容について解説する。
3回	音の高さ(音名あそび、イロハうた、ドレミのうた)：音の高さを表す方法を説明する。 中学年の「歌唱」の指導内容について解説する。
4回	音程(全音と半音、長短・完全系の音程)：音同士の関係を説明する。 高学年の「歌唱」の指導内容について解説する。
5回	音階と調(長音階、調あてクイズ)：長音階と長調のしくみを説明する。 「器楽」の指導内容について解説する。
6回	音階と調(短音階、調あてクイズ)：短音階と短調のしくみを説明する。 「器楽」におけるリコーダーの演奏について解説する。
7回	和音(長3和音と短3和音)：和音の構造を説明する。 「器楽」の楽器の取扱いについて解説する。
8回	これまで学んだ音楽理論を復習する。第7回までの講義内容について振り返ると同時に、これまでの講義内容について中間的な評価をするために試験を実施する。試験終了後に、出題内容について解説する。
9回	コードネームを弾いてみよう(コードの基本)：コード記号を用いて演奏する方法を説明する。 低・中学年の「鑑賞」の指導内容について解説する。
10回	コードネームで伴奏してみよう(メジャーコード)：メジャーコードの曲の伴奏付けを説明する。 高学年の「鑑賞」の指導内容について解説する。
11回	コードネームで伴奏してみよう(マイナーコード)：マイナーコードの曲の伴奏付けを説明する。 低学年の「音楽づくり」の指導内容について解説する。
12回	移調(調をかえてみよう、移調リレー)：移調の方法を説明する。 中学年の「音楽づくり」の指導内容について解説する。
13回	いろんな調で弾いてみよう：移調の実践方法を説明する。 高学年の「音楽づくり」の指導内容について解説する。
14回	これまでの学習を総合し、グループ創作発表会に向けた準備について説明する。
15回	これまで学んだ音楽理論を復習する。第14回までの講義内容について振り返ると同時に、これまでの講義内容について最終的な評価をするために試験を実施する。試験終了後に、出題内容について解説する。
16回	グループ創作発表会を実施する。発表会終了後、発表内容について解説する。

回数	準備学習
1回	小学校でどのような音楽活動を行ったかを思い出しておくこと。シラバスに目を通し、学習の流れを把握しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	第1回の授業内容を復習し、自分の身のまわりの様々な音や音楽について考えたことを記述しておくこと。(標準学習時間80分)
3回	第2回の授業内容を復習し、リズム打ち課題に取り組むこと。(標準学習時間80分)
4回	第3回の授業内容を復習し、音高に関する課題に取り組むこと。(標準学習時間100分)
5回	第4回の授業内容を復習し、音程に関する課題に取り組むこと。(標準学習時間120分)
6回	第5回の授業内容を復習し、長調に関する課題に取り組むこと。(標準学習時間80分)
7回	第6回の授業内容を復習し、短調に関する課題に取り組むこと。(標準学習時間100分)
8回	第7回の授業内容を復習し、和音に関する課題に取り組むこと。(標準学習時間120分)
9回	第8回の授業内容を復習し、これまでの学習内容に関する課題に取り組むこと。(標準学習時間100分)
10回	第9回の授業内容を復習し、コード記号に関する課題に取り組むこと。(標準学習時間100分)
11回	第10回の授業内容を復習し、メジャーコードに関する課題に取り組むこと。(標準学習時間100分)
12回	第11回の授業内容を復習し、マイナーコードに関する課題に取り組むこと。(標準学習時間100分)
13回	第12回の授業内容を復習し、移調に関する課題に取り組むこと。(標準学習時間120分)

14回	第13回までの授業内容を復習し、コードネーム・移調に関する課題に取り組むこと。(標準学習時間100分)
15回	これまでの授業内容を復習し、音楽理論に関する課題に取り組むこと。(標準学習時間100分)
16回	これまでの学習を総括し、グループ発表会に向けて準備すること。(標準学習時間180分)

講義目的	小学校で音楽指導を行うために必要な音楽の知識および技術を修得するとともに、音楽することの意味や楽しさを深く認識することを目的とする。歌唱・ソプラノリコーダーや打楽器を用いた器楽合奏・身体表現活動などをおして、実践的に学ぶ。期の終わりにはグループでの創作発表会を行い、学習の成果を確認する。初等教育学科の学位授与方針Aに最も強く関与する。
達成目標	基本的な楽譜の読み書きができる。 (A) 楽譜に示されたりズムや音程に従って演奏することができる。(C) 音楽を形づくっている要素について説明することができる。(A) コードネームをもとに簡易伴奏することができる。(C) 移調して演奏することができる。(C) グループ内で協調して学習を進めることができる。(A)
キーワード	歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞、音符、休符、音程、音階、調、和音、コードネーム
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	中間試験(20%)、期末試験(30%)、グループ発表の内容(25%)、平素の授業での活動および提出課題(25%)によって総合的に評価する。 総計60%以上を合格とする。
教科書	文部科学省/『小学校学習指導要領解説 音楽編』/教育芸術社 『保育士・幼稚園教諭・小学校教諭養成のためのピアノテキスト 楽典・身体表現教材付』/全国大学音楽教育学会九州地区学会編著/カワイ出版(ピアノ奏法の教科書と同じ)
関連科目	ピアノ奏法I、ピアノ奏法II、ピアノ奏法、初等音楽科教育法
参考書	『5訂版 歌はともだち』/教育芸術社 その他、適宜紹介する。
連絡先	A1号館 10F 井本研究室 オフィスアワー:月曜日3限、水曜日3限 Email: imoto@ped.ous.ac.jp Tel:086-256-9723
授業の運営方針	・すべてのグループ活動を行い、すべてのレポートを期限内に提出すること。 ・グループ活動により授業を行うので、毎回出席して、真摯に授業に取り組むこと。遅刻してグループに迷惑をかけることが重なりと欠席扱いとすることがあるので十分注意すること。 ・講義資料はWebを通じて配布する。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、ライティング ・音楽授業に関わる課題についてグループ討議を行い、グループで出た意見を全体で発表する。 ・グループで実技実践を行い、成果を全体で発表する。 ・毎回授業の振り返りを記述し、提出する。
課題に対するフィードバック	提出課題については、講義中にコメントおよび模範解答を配布するなどしてフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障害学習支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	・ソプラノリコーダーを使用するので、持っている人は準備しておくこと。 ・「音楽に自信がない」「楽譜が読めない」人は、この授業で学んで自信をつけよう。

科目名	図画工作科内容論(A) (FEP00700)
英文科目名	Arts and Handicrafts
担当教員名	妻藤純子(さいとうじゅんこ)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の計画とその進め方について説明をする。図画工作の学習内容や教師の指導について想起し、図画工作科の現状や抱える課題について話し合う。
2回	図画工作科教育のあゆみを説明する。
3回	学習指導要領の変遷を説明する。
4回	図画工作科の意義と目的を説明する。
5回	教科目標と内容の構成について説明する。
6回	「造形遊び」の学習指導(目的と内容等)について説明する。
7回	「絵に表す」の学習指導(目的と内容等)について説明する。
8回	「立体に表す」の学習指導(目的と内容等)について説明する。
9回	「工作に表す」の学習指導(目的と内容等)について説明する。
10回	鑑賞の学習指導(目的と内容等)について説明する。 また、ここまでの講義内容について振り返るとともに、中間的な評価をするためのテストを実施する。
11回	学習指導要領と検定教科書(図画工作)の題材配列をもとに、学びの連続性について説明する。
12回	地域の特性を生かしたカリキュラム(特色ある学校づくり、学級づくり)について説明する。
13回	指導の実際と評価について説明する。
14回	図画工作科の基礎知識(用語、備品等)について説明する。 デジタル機器を活用した学習内容について説明する。
15回	振り返りと総括をする。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	小学生の時の図画工作の授業内容や制作した作品等について想起し、まとめておくこと。また、作品制作で使用した材料や道具についても学習内容ごとに整理し、まとめておくこと。(標準学習時間60分)
2回	図画工作科の現状と課題について話し合ったことをまとめ、自分の考えを整理しておくこと。 教科書第6章の1を読み、図画工作科教育の成立過程についてまとめておくこと。 (標準学習時間90分)
3回	図画工作科教育がどのように成り立ち、現在に至っているか復習すること。 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説図画工作編の第1章を読み、改定の経緯についての大体を把握しておくこと。(標準学習時間60分)
4回	図画工作科の経緯について、復習すること。 自分の経験をもとに図画工作科で培われる力を考え、理由をつけて説明できるようまとめておくこと。(標準学習時間60分)
5回	教科の意義と目的について復習すること。 教科書P88~93を読み、目標と内容についてまとめておくこと。 (標準学習時間90分)
6回	教科目標と内容について復習すること。 教科書P70~73を読み、造形遊びによって育てられる力は何か、理由をつけて説明できるようまとめておくこと。(標準学習時間90分)
7回	「造形遊び」の教育的意義について復習すること。 教科書P94~95を読み、低学年における「絵に表す」の教育的意義について自分の考えをまとめておくこと。(標準学習時間90分)
8回	「絵に表す」の教育的意義について復習すること。 教科書P96~97(造形遊び)を読み、「立体に表す」と何が異なるかを説明できるようまとめておくこと。(標準学習時間90分)
9回	「絵に表す」の教育的意義について復習すること。 教科書P98~99、学習指導要領の内容を読み、「工作に表す」と「立体に表す」の違いについて学

	習目標や学習内容をもとに説明できるようまとめておくこと。 (標準学習時間90分)
10回	教科の意義や目標、学習内容(指導)について復習すること。(中間テスト) 学習指導要領P31~32を読み、鑑賞の目標についてまとめておくこと。 (標準学習時間120分)
11回	鑑賞の学習について復習すること。 教科書P28~35を読み、就学前の子どもの学びと発達についてまとめ、その概要が説明できるようにしておくこと。(標準学習時間90分)
12回	学びの連続性について復習しておくこと。 教科書P19~22を読み、環境と子どもについてまとめておくこと。 (標準学習時間90分)
13回	地域教材について復習すること。 評価の観点や評価の特徴について教科書等を読み、まとめておくこと。 (標準学習時間90分)
14回	指導の実際と評価について復習すること。 教科書P125を読み、ICT活用による授業についてまとめておくこと。 (標準学習時間90分)
15回	1回から14回までの内容を整理すること。 総括としての話し合いで、教科意義、指導の在り方等、自分の考えが発言できるようまとめておくこと。 (標準学習時間90分)

講義目的	図画工作科の意義や目的、教科内容を正しく理解し、学校現場での指導において、題材(単元)の教育的意義を把握しながら、主体的かつ創造的に年間指導計画を立てたり、児童の実態に応じた指導の工夫をしたりすることのできる力を養うことを目的とする。その方法として、学習指導要領に挙げられている教科の内容と検定教科書に提示されている題材と児童の実際の表現活動を照らし合わせながら講義をする。初等教育学科の学位授与の方針(DP)のAに最も強く関連する科目である。
達成目標	1) 図画工作科教育についての歴史的変遷について理解し、具体的に説明できる。(A) 2) 教科の目標、内容と題材について、児童の発達段階を基にしながら説明できる。(A) 3) 地域の特性を生かした題材について、自然環境や文化財等を活用した学習内容を考え、提案できる。(A) 4) 授業で使用する材料や道具、デジタル機器について、それぞれの特徴や効果的な活用方法や安全管理について説明できる。(A)
キーワード	教科目標、内容、道具、児童の発達
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	・達成目標1、2、3、4について、毎時間ごとに講義での学びについて、提示されたキーワードを的確に用いてレポートにする(20%) ・達成目標1、2、4について、教科目標、内容、材料や道具について、中間試験を行う。(30%) ・最終評価試験において、本教科の理解をみる。(50%) 総計で60%以上を合格とする。
教科書	やわらかな感性を育む 図画工作科教育の指導と学び アートの体験による子どもの感性の成長と発達/村田利裕・新関伸也編著/ミネルヴァ書房/978-4-623-08080-9: 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 図画工作編/文部科学省/日本文教出版/978-4-536-59011-2
関連科目	図画工作科教育法 教材分析・開発演習C
参考書	小学校図画工作教科書(日本文教出版・開隆堂)
連絡先	A1号館9階妻藤研究室
授業の運営方針	・全てのレポートは、期限を守って提出すること。 ・中間試験、最終評価試験においては、不正行為に対して厳格に対処する。 ・講義資料は講義開始時に配布する。特別な事情がない限り、後日配布はしない。 ・道具等の準備は個々に責任をもって行い、忘れ物についての貸し借りはしない。
アクティブ・ラーニング	・ディスカッション、グループ討議、プレゼンテーションを行い、グループごとに意見発表する。
課題に対するフィードバック	・提出されたレポートは書かれた内容についてコメントを入れて返却する。 ・中間試験、最終評価試験のフィードバックとして、模範解答に関わるキーワードについてプリントし、後日配布する。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。と別の理由がある場合、事前に相談すること。
実務経験のある教員	ア) 元公立小学校、国立大学附属小学校勤務 イ) 学校現場での経験を活かして、現場の実態に応じた具体的かつ実践的な教科の指導法について

	講義する。
その他（注意・備考）	・実技を行うので、提示された道具等は各自準備し、持参すること。友達との貸し借りはしないこと。また、大学からの貸し出しもしない。

科目名	図画工作科内容論(B) (FEP00710)
英文科目名	Arts and Handicrafts
担当教員名	妻藤純子(さいとうじゅんこ)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の計画とその進め方について説明をする。図画工作の学習内容や教師の指導について想起し、図画工作科の現状や抱える課題について話し合う。
2回	図画工作科教育のあゆみを説明する。
3回	学習指導要領の変遷を説明する。
4回	図画工作科の意義と目的を説明する。
5回	教科目標と内容の構成について説明する。
6回	「造形遊び」の学習指導(目的と内容等)について説明する。
7回	「絵に表す」の学習指導(目的と内容等)について説明する。
8回	「立体に表す」の学習指導(目的と内容等)について説明する。
9回	「工作に表す」の学習指導(目的と内容等)について説明する。
10回	鑑賞の学習指導(目的と内容等)について説明する。 また、ここまでの講義内容について振り返るとともに、中間的な評価をするためのテストを実施する。
11回	学習指導要領と検定教科書(図画工作)の題材配列をもとに、学びの連続性について説明する。
12回	地域の特性を生かしたカリキュラム(特色ある学校づくり、学級づくり)について説明する。
13回	指導の実際と評価について説明する。
14回	図画工作科の基礎知識(用語、備品等)について説明する。 デジタル機器を活用した学習内容について説明する。
15回	振り返りと総括をする。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	小学生の時の図画工作の授業内容や制作した作品等について想起し、まとめておくこと。また、作品制作で使用した材料や道具についても学習内容ごとに整理し、まとめておくこと。(標準学習時間60分)
2回	図画工作科の現状と課題について話し合ったことをまとめ、自分の考えを整理しておくこと。 教科書第6章の1を読み、図画工作科教育の成立過程についてまとめておくこと。 (標準学習時間90分)
3回	図画工作科教育がどのように成り立ち、現在に至っているか復習すること。 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説図画工作編の第1章を読み、改定の経緯についての大体を把握しておくこと。(標準学習時間60分)
4回	図画工作科の経緯について、復習すること。 自分の経験をもとに図画工作科で培われる力を考え、理由をつけて説明できるようまとめておくこと。(標準学習時間60分)
5回	教科の意義と目的について復習すること。 教科書P88~93を読み、目標と内容についてまとめておくこと。 (標準学習時間90分)
6回	教科目標と内容について復習すること。 教科書P70~73を読み、造形遊びによって育てられる力は何か、理由をつけて説明できるようまとめておくこと。(標準学習時間90分)
7回	「造形遊び」の教育的意義について復習すること。 教科書P94~95を読み、低学年における「絵に表す」の教育的意義について自分の考えをまとめておくこと。(標準学習時間90分)
8回	「絵に表す」の教育的意義について復習すること。 教科書P96~97(造形遊び)を読み、「立体に表す」と何が異なるかを説明できるようまとめておくこと。(標準学習時間90分)
9回	「絵に表す」の教育的意義について復習すること。 教科書P98~99、学習指導要領の内容を読み、「工作に表す」と「立体に表す」の違いについて学

	習目標や学習内容をもとに説明できるようまとめておくこと。 (標準学習時間90分)
10回	教科の意義や目標、学習内容(指導)について復習すること。(中間テスト) 学習指導要領P31~32を読み、鑑賞の目標についてまとめておくこと。 (標準学習時間120分)
11回	鑑賞の学習について復習すること。 教科書P28~35を読み、就学前の子どもの学びと発達についてまとめ、その概要が説明できるようにしておくこと。(標準学習時間90分)
12回	学びの連続性について復習しておくこと。 教科書P19~22を読み、環境と子どもについてまとめておくこと。 (標準学習時間90分)
13回	地域教材について復習すること。 評価の観点や評価の特徴について教科書等を読み、まとめておくこと。 (標準学習時間90分)
14回	指導の実際と評価について復習すること。 教科書P125を読み、ICT活用による授業についてまとめておくこと。 (標準学習時間90分)
15回	1回から14回までの内容を整理すること。 総括としての話し合いで、教科意義、指導の在り方等、自分の考えが発言できるようまとめておくこと。 (標準学習時間90分)

講義目的	図画工作科の意義や目的、教科内容を正しく理解し、学校現場での指導において、題材(単元)の教育的意義を把握しながら、主体的かつ創造的に年間指導計画を立てたり、児童の実態に応じた指導の工夫をしたりすることのできる力を養うことを目的とする。その方法として、学習指導要領に挙げられている教科の内容と検定教科書に提示されている題材と児童の実際の表現活動を照らし合わせながら講義をする。初等教育学科の学位授与の方針(DP)のAに最も強く関連する科目である。
達成目標	1) 図画工作科教育についての歴史的変遷について理解し、具体的に説明できる。(A) 2) 教科の目標、内容と題材について、児童の発達段階を基にしなが説明できる。(A) 3) 地域の特性を生かした題材について、自然環境や文化財等を活用した学習内容を考え、提案できる。(A) 4) 授業で使用する材料や道具、デジタル機器について、それぞれの特徴や効果的な活用方法や安全管理について説明できる。(A)
キーワード	教科目標、内容、道具、児童の発達
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	・達成目標1、2、3、4について、毎時間ごとに講義での学びについて、提示されたキーワードを的確に用いてレポートにする(20%) ・達成目標1、2、4について、教科目標、内容、材料や道具について、中間試験を行う。(30%) ・最終評価試験において、本教科の理解をみる。(50%) 総計で60%以上を合格とする。
教科書	やわらかな感性を育む 図画工作科教育の指導と学び アートの体験による子どもの感性の成長と発達/村田利裕・新関伸也編著/ミネルヴァ書房/978-4-623-08080-9: 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 図画工作編/文部科学省/日本文教出版/978-4-536-59011-2
関連科目	図画工作科教育法 教材分析・開発演習C
参考書	小学校図画工作教科書(日本文教出版・開隆堂)
連絡先	A1号館9階妻藤研究室
授業の運営方針	・全てのレポートは、期限を守って提出すること。 ・中間試験、最終評価試験においては、不正行為に対して厳格に対処する。 ・講義資料は講義開始時に配布する。特別な事情がない限り、後日配布はしない。 ・道具等の準備は個々に責任をもって行い、忘れ物についての貸し借りはしない。
アクティブ・ラーニング	・ディスカッション、グループ討議、プレゼンテーションを行い、グループごとに意見発表する。
課題に対するフィードバック	・提出されたレポートは書かれた内容についてコメントを入れて返却する。 ・中間試験、最終評価試験のフィードバックとして、模範解答に関わるキーワードについてプリントし、後日配布する。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。と別の理由がある場合、事前に相談すること。
実務経験のある教員	ア) 元公立小学校、国立大学附属小学校勤務 イ) 学校現場での経験を活かして、現場の実態に応じた具体的かつ実践的な教科の指導法について

	講義する。
その他（注意・備考）	・実技を行うので、提示された道具等は各自準備し、持参すること。友達との貸し借りはしないこと。また、大学からの貸し出しもしない。

科目名	初等家庭科内容論(A) (FEP00800)
英文科目名	Home Economics for Primary Education
担当教員名	原田省吾 (はらだしょうご)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして本授業の目的と方法、授業計画を説明する。続いて、小学校家庭科の内容構成について確認する。
2回	衣生活学習(1)教科書『わたしたちの家庭科5・6』に示されている学習内容を分析し説明する。
3回	衣生活学習(2)学習指導要領に示されている目標・内容を分析し説明する。
4回	衣生活学習(3)学習指導要領や教科書に示されている指導内容と被服学との関係を説明する。
5回	衣生活学習(4)ミシンを用いた被服製作実習について、実践を通して説明する。
6回	食生活学習(1)教科書『わたしたちの家庭科5・6』に示されている学習内容を分析し説明する。
7回	食生活学習(2)学習指導要領に示されている目標・内容を分析し説明する。
8回	食生活学習(3)学習指導要領や教科書に示されている指導内容と食物学との関係を説明する。
9回	食生活学習(4)調理実習について、実践を通して説明する。
10回	家族学習(1)教科書『わたしたちの家庭科5・6』に示されている学習内容を分析し説明する。
11回	家族学習(2)学習指導要領に示されている目標・内容を分析するとともに、基盤となっている家族関係学との関係性について説明する。
12回	家庭生活・消費生活学習(1)教科書『わたしたちの家庭科5・6』に示されている学習内容を分析し説明する。
13回	家庭生活・消費生活学習(2)学習指導要領に示されている目標・内容を分析するとともに、基盤となっている家庭経営学との関係性について説明する。
14回	住生活学習(1)教科書『わたしたちの家庭科5・6』に示されている学習内容を分析し説明する。
15回	住生活学習(2)学習指導要領に示されている目標・内容を分析するとともに、基盤となっている住居学との関係性について説明する。
16回	1回～15回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。試験終了後解説をする。

回数	準備学習
1回	予習：小学校の家庭科で学習した内容を思い出しておくこと。シラバスを確認し、本授業の全体像を把握しておくこと。 復習：小学校家庭科の内容を系統別に分類し整理しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	予習：教科書『わたしたちの家庭科5・6』において、衣生活についての学習内容がどこに示されているか確認しておくこと。 復習：教科書における衣生活学習の構成の特徴をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
3回	予習：『小学校学習指導要領解説家庭編』第3節の「B 衣食住の生活」における衣生活に関する記述内容を確認しておくこと。 復習：学習指導要領における衣生活学習の内容をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
4回	予習：教科書と学習指導要領に示されている衣生活についての学習内容について確認しておくこと。 復習：被服学の内容が学習指導要領や教科書においてどのように示されているかまとめておくこと。(標準学習時間90分)
5回	予習：ミシンの各部の名称や操作方法について教科書を見て確認しておくこと。 復習：ミシンを使った被服製作実習の授業展開をイメージしておくこと。(標準学習時間90分)
6回	予習：教科書『わたしたちの家庭科5・6』において、食生活についての学習内容がどこに示されているか確認しておくこと。 復習：教科書における食生活学習の構成の特徴をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
7回	予習：『小学校学習指導要領解説家庭編』第3節の「B 衣食住の生活」における食生活に関する記述内容を確認しておくこと。 復習：学習指導要領における食生活学習の内容をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
8回	予習：教科書と学習指導要領に示されている食生活についての学習内容について確認しておくこと。 復習：食物学の内容が学習指導要領や教科書においてどのように示されているかまとめておくこと。(標準学習時間90分)
9回	予習：調理用具の安全かつ衛生的な扱い方について教科書を見て確認しておくこと。 復習：安全かつ衛生的な調理実習の授業展開をイメージしておくこと。(標準学習時間90分)
10回	予習：教科書『わたしたちの家庭科5・6』において、家族についての学習内容がどこに示されているか確認しておくこと。 復習：教科書における家族学習の構成の特徴をまとめておくこと。(標準学習時間90分)

1 1 回	予習：『小学校学習指導要領解説家庭編』第3節の「A 家族・家庭生活」における家族に関する記述内容を確認しておくこと。 復習：家族関係学の内容が学習指導要領や教科書においてどのように示されているかまとめておくこと。（標準学習時間90分）
1 2 回	予習：教科書『わたしたちの家庭科5・6』において、家庭生活や消費生活についての学習内容がどこに示されているか確認しておくこと。 復習：教科書における家庭生活・消費生活学習の構成の特徴をまとめておくこと。（標準学習時間90分）
1 3 回	予習：『小学校学習指導要領解説家庭編』第3節の「A 家族・家庭生活」「C 消費生活・環境」における家族や消費に関する記述内容を確認しておくこと。 復習：家庭経営学の内容が学習指導要領や教科書においてどのように示されているかまとめておくこと。（標準学習時間90分）
1 4 回	予習：教科書『わたしたちの家庭科5・6』において、住生活についての学習内容がどこに示されているか確認しておくこと。 復習：教科書における住生活学習の構成の特徴をまとめておくこと。（標準学習時間90分）
1 5 回	予習：『小学校学習指導要領解説家庭編』第3節の「B 衣食住の生活」における住生活に関する記述内容を確認しておくこと。 復習：住居学の内容が学習指導要領や教科書においてどのように示されているかまとめておくこと。（標準学習時間90分）
1 6 回	予習：小学校家庭科における各領域の学習内容を確認しておくこと。 復習：小学校家庭科における学習内容について整理しておくこと。（標準学習時間90分）

講義目的	学習指導要領ならびに教科書に示された小学校家庭科の学習内容を領域ごとに分析することで、小学校家庭科の内容編成の特徴と指導内容を理解する。小学校家庭科において、「食生活」、「衣生活」、「住生活」、「家族」、「家庭生活」、「消費生活」に関する指導に必要な基礎的事項及び技能を身につける。初等教育学科学位授与の方針（DP）のAに最も強く関与している。
達成目標	1) 小学校家庭科における内容編成の特徴と教育内容を説明できる（A） 2) 小学校家庭科授業の計画・立案に、本授業において習得した基礎的事項や技能を用いることができる（A）（B）
キーワード	衣生活 食生活 住生活 家庭生活 家族 消費生活 被服製作実習 調理実習 学習指導要領 教科書 内容構成
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	毎回授業終了時に行う確認テスト：評価割合20%（達成目標1、2を評価） 課題レポート、実習作品提出：評価割合20%（達成目標1、2を評価） 最終評価試験：評価割合60%（達成目標1、2を評価） 以上により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	わたしたちの家庭科5・6 / 文部科学省検定済教科書 / 開隆堂：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説家庭編 / 文部科学省 / 東洋館出版社
関連科目	・初等家庭科教育法 ・教材分析・開発演習A
参考書	必要に応じて適宜紹介する。
連絡先	A1号館 9F 原田研究室 オフィスアワー：木曜3時限、金曜3時限 メールアドレス：harada@ped.ous.ac.jp 電話番号：086-256-9842
授業の運営方針	・講義資料は講義開始時に配付する。再配付を希望する場合は回目の講義終了時まで申し出ること。それ以降の配付はしない。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、実験・実習 ・教科書や学習指導要領の内容、自分の小学校での経験等についてディスカッションをする。 ・被服製作実習や調理実習の指導に必要な技能について実験・実習を通して身につける。
課題に対するフィードバック	・確認テストについては終了時に模範解答を示しフィードバックを行う。 ・課題レポートや実習作品にはコメントを付して返却しフィードバックを行う。 ・最終評価試験については終了後に模範解答と解説を配付する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。当別の理由がある場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	元公立中学校教諭・元教育委員会指導主事：学校現場における教育経験者が、その経験を生かして小学校家庭科の指導に必要な基礎的事項及び技能について解説・指導する。
その他（注意・備考）	

科目名	初等家庭科内容論(B) (FEP00810)
英文科目名	Home Economics for Primary Education
担当教員名	原田省吾 (はらだしょうご)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして本授業の目的と方法、授業計画を説明する。続いて、小学校家庭科の内容構成について確認する。
2回	衣生活学習(1)教科書『わたしたちの家庭科5・6』に示されている学習内容を分析し説明する。
3回	衣生活学習(2)学習指導要領に示されている目標・内容を分析し説明する。
4回	衣生活学習(3)学習指導要領や教科書に示されている指導内容と被服学との関係を説明する。
5回	衣生活学習(4)ミシンを用いた被服製作実習について、実践を通して説明する。
6回	食生活学習(1)教科書『わたしたちの家庭科5・6』に示されている学習内容を分析し説明する。
7回	食生活学習(2)学習指導要領に示されている目標・内容を分析し説明する。
8回	食生活学習(3)学習指導要領や教科書に示されている指導内容と食物学との関係を説明する。
9回	食生活学習(4)調理実習について、実践を通して説明する。
10回	家族学習(1)教科書『わたしたちの家庭科5・6』に示されている学習内容を分析し説明する。
11回	家族学習(2)学習指導要領に示されている目標・内容を分析するとともに、基盤となっている家族関係学との関係性について説明する。
12回	家庭生活・消費生活学習(1)教科書『わたしたちの家庭科5・6』に示されている学習内容を分析し説明する。
13回	家庭生活・消費生活学習(2)学習指導要領に示されている目標・内容を分析するとともに、基盤となっている家庭経営学との関係性について説明する。
14回	住生活学習(1)教科書『わたしたちの家庭科5・6』に示されている学習内容を分析し説明する。
15回	住生活学習(2)学習指導要領に示されている目標・内容を分析するとともに、基盤となっている住居学との関係性について説明する。
16回	1回～15回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。試験終了後解説をする。

回数	準備学習
1回	予習：小学校の家庭科で学習した内容を思い出しておくこと。シラバスを確認し、本授業の全体像を把握しておくこと。 復習：小学校家庭科の内容を系統別に分類し整理しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	予習：教科書『わたしたちの家庭科5・6』において、衣生活についての学習内容がどこに示されているか確認しておくこと。 復習：教科書における衣生活学習の構成の特徴をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
3回	予習：『小学校学習指導要領解説家庭編』第3節の「B 衣食住の生活」における衣生活に関する記述内容を確認しておくこと。 復習：学習指導要領における衣生活学習の内容をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
4回	予習：教科書と学習指導要領に示されている衣生活についての学習内容について確認しておくこと。 復習：被服学の内容が学習指導要領や教科書においてどのように示されているかまとめておくこと。(標準学習時間90分)
5回	予習：ミシンの各部の名称や操作方法について教科書を見て確認しておくこと。 復習：ミシンを使った被服製作実習の授業展開をイメージしておくこと。(標準学習時間90分)
6回	予習：教科書『わたしたちの家庭科5・6』において、食生活についての学習内容がどこに示されているか確認しておくこと。 復習：教科書における食生活学習の構成の特徴をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
7回	予習：『小学校学習指導要領解説家庭編』第3節の「B 衣食住の生活」における食生活に関する記述内容を確認しておくこと。 復習：学習指導要領における食生活学習の内容をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
8回	予習：教科書と学習指導要領に示されている食生活についての学習内容について確認しておくこと。 復習：食物学の内容が学習指導要領や教科書においてどのように示されているかまとめておくこと。(標準学習時間90分)
9回	予習：調理用具の安全かつ衛生的な扱い方について教科書を見て確認しておくこと。 復習：安全かつ衛生的な調理実習の授業展開をイメージしておくこと。(標準学習時間90分)
10回	予習：教科書『わたしたちの家庭科5・6』において、家族についての学習内容がどこに示されているか確認しておくこと。 復習：教科書における家族学習の構成の特徴をまとめておくこと。(標準学習時間90分)

1 1 回	予習：『小学校学習指導要領解説家庭編』第3節の「A 家族・家庭生活」における家族に関する記述内容を確認しておくこと。 復習：家族関係学の内容が学習指導要領や教科書においてどのように示されているかまとめておくこと。（標準学習時間90分）
1 2 回	予習：教科書『わたしたちの家庭科5・6』において、家庭生活や消費生活についての学習内容がどこに示されているか確認しておくこと。 復習：教科書における家庭生活・消費生活学習の構成の特徴をまとめておくこと。（標準学習時間90分）
1 3 回	予習：『小学校学習指導要領解説家庭編』第3節の「A 家族・家庭生活」「C 消費生活・環境」における家族や消費に関する記述内容を確認しておくこと。 復習：家庭経営学の内容が学習指導要領や教科書においてどのように示されているかまとめておくこと。（標準学習時間90分）
1 4 回	予習：教科書『わたしたちの家庭科5・6』において、住生活についての学習内容がどこに示されているか確認しておくこと。 復習：教科書における住生活学習の構成の特徴をまとめておくこと。（標準学習時間90分）
1 5 回	予習：『小学校学習指導要領解説家庭編』第3節の「B 衣食住の生活」における住生活に関する記述内容を確認しておくこと。 復習：住居学の内容が学習指導要領や教科書においてどのように示されているかまとめておくこと。（標準学習時間90分）
1 6 回	予習：小学校家庭科における各領域の学習内容を確認しておくこと。 復習：小学校家庭科における学習内容について整理しておくこと。（標準学習時間90分）

講義目的	学習指導要領ならびに教科書に示された小学校家庭科の学習内容を領域ごとに分析することで、小学校家庭科の内容編成の特徴と指導内容を理解する。小学校家庭科において、「食生活」、「衣生活」、「住生活」、「家族」、「家庭生活」、「消費生活」に関する指導に必要な基礎的事項及び技能を身につける。初等教育学科学位授与の方針（DP）のAに最も強く関与している。
達成目標	1）小学校家庭科における内容編成の特徴と教育内容を説明できる（A） 2）小学校家庭科授業の計画・立案に、本授業において習得した基礎的事項や技能を用いることができる（A）（B）
キーワード	衣生活 食生活 住生活 家庭生活 家族 消費生活 被服製作実習 調理実習 学習指導要領 教科書 内容構成
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	毎回授業終了時に行う確認テスト：評価割合20%（達成目標1、2を評価） 課題レポート、実習作品提出：評価割合20%（達成目標1、2を評価） 最終評価試験：評価割合60%（達成目標1、2を評価） 以上により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	わたしたちの家庭科5・6 / 文部科学省検定済教科書 / 開隆堂：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説家庭編 / 文部科学省 / 東洋館出版社
関連科目	・初等家庭科教育法 ・教材分析・開発演習A
参考書	必要に応じて適宜紹介する。
連絡先	A1号館 9F 原田研究室 オフィスアワー：木曜3時限、金曜3時限 メールアドレス：harada@ped.ous.ac.jp 電話番号：086-256-9842
授業の運営方針	・講義資料は講義開始時に配付する。再配付を希望する場合は次回の講義終了時まで申し出ること。それ以降の配付はしない。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、実験・実習 ・教科書や学習指導要領の内容、自分の小学校での経験等についてディスカッションをする。 ・被服製作実習や調理実習の指導に必要な技能について実験・実習を通して身につける。
課題に対するフィードバック	・確認テストについては終了時に模範解答を示しフィードバックを行う。 ・課題レポートや実習作品にはコメントを付して返却しフィードバックを行う。 ・最終評価試験については終了後に模範解答と解説を配付する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。当別の理由がある場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	元公立中学校教諭・元教育委員会指導主事：学校現場における教育経験者が、その経験を生かして小学校家庭科の指導に必要な基礎的事項及び技能について解説・指導する。
その他（注意・備考）	

科目名	初等体育科内容論(A) (FEP00900)
英文科目名	Physical Education for Primary Education
担当教員名	笹山健作(ささやまけんさく)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。授業の概要とその進め方について説明する。
2回	走・跳の運動、陸上運動の短距離走、リレーについて説明し、実践を指導する。
3回	走・跳の運動、陸上運動のハードル走について説明し、実践を指導する。
4回	走・跳の運動、陸上運動の走り幅跳び、走り高跳びについて説明し、実践を指導する。
5回	体づくり運動の体ほぐしの運動について説明し、実践を指導する。
6回	体づくり運動の体力を高める運動について説明し、実践を指導する。
7回	ゲーム、ボール運動のゴール型(サッカー)について説明し、実践を指導する。
8回	ゲーム、ボール運動のネット型(バレーボール)について説明し、実践を指導する。
9回	ゲーム、ボール運動のベースボール型(ソフトボール)について説明し、実践を指導する。
10回	表現運動の表現について説明し、実践を指導する。
11回	表現運動のフォークダンスについて説明し、実践を指導する。
12回	器械運動のマット運動について説明し、実践を指導する。
13回	器械運動の鉄棒運動について説明し、実践を指導する。
14回	器械運動の跳び箱運動について説明し、実践を指導する。
15回	授業全体の振り返りとまとめを行う。

回数	準備学習
1回	シラバスを確認しておくこと。『小学校学習指導要領解説体育編』の目次と第1章総説について確認しておくこと。(標準学習時間180分)
2回	『小学校学習指導要領解説体育編』の走・跳の運動、陸上運動に関する部分を確認しておくこと。短距離走、リレーのルールについて予習を行うこと。(標準学習時間180分)
3回	『小学校学習指導要領解説体育編』の走・跳の運動、陸上運動に関する部分を確認しておくこと。ハードル走のルールについて予習を行うこと。(標準学習時間180分)
4回	『小学校学習指導要領解説体育編』の走・跳の運動、陸上運動に関する部分を確認しておくこと。走り幅跳び、走り高跳びのルールについて予習を行うこと。(標準学習時間180分)
5回	『小学校学習指導要領解説体育編』の体ほぐしの運動に関する部分を確認しておくこと。(標準学習時間180分)
6回	『小学校学習指導要領解説体育編』の体力を高める運動に関する部分を確認しておくこと。(標準学習時間180分)
7回	『小学校学習指導要領解説体育編』のゲーム、ボール運動に関する部分を確認しておくこと。サッカーのルールについて予習を行うこと。(標準学習時間180分)
8回	『小学校学習指導要領解説体育編』のゲーム、ボール運動に関する部分を確認しておくこと。バレーボールのルールについて予習を行うこと。(標準学習時間180分)
9回	『小学校学習指導要領解説体育編』のゲーム、ボール運動に関する部分を確認しておくこと。ソフトボールのルールについて予習を行うこと。(標準学習時間180分)
10回	『小学校学習指導要領解説体育編』の表現リズム遊び、表現運動に関する部分を確認しておくこと。(標準学習時間180分)
11回	『小学校学習指導要領解説体育編』の表現リズム遊び、表現運動に関する部分を確認しておくこと。(標準学習時間180分)
12回	『小学校学習指導要領解説体育編』の器械・器具を使つての運動遊びと器械運動に関する部分を確認しておくこと。マット運動の技について予習を行うこと。(標準学習時間180分)
13回	『小学校学習指導要領解説体育編』の器械・器具を使つての運動遊びと器械運動に関する部分を確認しておくこと。鉄棒運動の技について予習を行うこと。(標準学習時間180分)
14回	『小学校学習指導要領解説体育編』の器械・器具を使つての運動遊びと器械運動に関する部分を確認しておくこと。跳び箱運動の技について予習を行うこと。(標準学習時間180分)
15回	『小学校学習指導要領解説体育編』の指導計画の作成と内容の取扱いについて確認しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	小学校学習指導要領および同解説体育編に示される小学校体育科の各運動領域について実践を通して理解することを目的とする。初等教育学科学位授与の方針Aと深く関連する科目である。
達成目標	1) 学習指導要領における小学校体育科の内容について説明できる(A・B)。2) 小学校体育科の各運動領域について、基本的・基礎的知識ならびに技能を習得できている(A・B)。
キーワード	小学校, 体育, 学習指導要領

試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	小テスト10%（達成目標1,2を評価）、プリント・ノート60%（達成目標1,2を評価）、実技の習得状況30%（達成目標2を評価）によって総合的に評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	小学校学習指導要領解説 体育編 平成29年7月 / 文部科学省 / 東洋館出版社 / 978-4491034676
関連科目	初等体育科教育法
参考書	体づくり運動 授業の考え方と進め方(改訂版) (学校体育実技指導資料) / 文部科学省 / 東洋館出版社 / 978-4491029283 表現運動系及びダンス指導の手引 学校体育実技指導資料 / 文部科学省 / 東洋館出版社 / 978-4491029771 ゲーム及びボール運動 (学校体育実技指導資料) / 文部科学省 / 東洋館出版社 / 978-4491026114
連絡先	研究室A1号館10階1007室 / 直通電話086-256-9525 / E-mail: sasayama@ped.ous.ac.jp / オフィスアワー : 水曜木曜の昼休み
授業の運営方針	・体育実技はグループで行うため、遅刻・欠席をせず積極的に取り組むこと。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション, グループワーク ・この講義ではアクティブラーニングの一環として、体育科内容に関するグループワーク, グループディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	・ノート, プリント等の課題に対するフィードバックは, 講義中に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	元公立中学校教諭、学校現場における教育経験を踏まえ、体育科授業の教材分析の方法、教材作成の方法等について解説する。
その他（注意・備考）	・講義中の論音/録画/撮影は原則認めない。特別な理由がある場合、事前に相談すること。 ・土曜日（10月26日または11月2日の予定）に笹ヶ瀬体育館で授業を実施します。 ・VODを用いた学習も行います。

科目名	初等体育科内容論(B) (FEP00910)
英文科目名	Physical Education for Primary Education
担当教員名	笹山健作(ささやまけんさく)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。授業の概要とその進め方について説明する。
2回	走・跳の運動、陸上運動の短距離走、リレーについて説明し、実践を指導する。
3回	走・跳の運動、陸上運動のハードル走について説明し、実践を指導する。
4回	走・跳の運動、陸上運動の走り幅跳び、走り高跳びについて説明し、実践を指導する。
5回	体づくり運動の体ほぐしの運動について説明し、実践を指導する。
6回	体づくり運動の体力を高める運動について説明し、実践を指導する。
7回	ゲーム、ボール運動のゴール型(サッカー)について説明し、実践を指導する。
8回	ゲーム、ボール運動のネット型(バレーボール)について説明し、実践を指導する。
9回	ゲーム、ボール運動のベースボール型(ソフトボール)について説明し、実践を指導する。
10回	表現運動の表現について説明し、実践を指導する。
11回	表現運動のフォークダンスについて説明し、実践を指導する。
12回	器械運動のマット運動について説明し、実践を指導する。
13回	器械運動の鉄棒運動について説明し、実践を指導する。
14回	器械運動の跳び箱運動について説明し、実践を指導する。
15回	授業全体の振り返りとまとめを行う。

回数	準備学習
1回	シラバスを確認しておくこと。『小学校学習指導要領解説体育編』の目次と第1章総説について確認しておくこと。(標準学習時間180分)
2回	『小学校学習指導要領解説体育編』の走・跳の運動、陸上運動に関する部分を確認しておくこと。短距離走、リレーのルールについて予習を行うこと。(標準学習時間180分)
3回	『小学校学習指導要領解説体育編』の走・跳の運動、陸上運動に関する部分を確認しておくこと。ハードル走のルールについて予習を行うこと。(標準学習時間180分)
4回	『小学校学習指導要領解説体育編』の走・跳の運動、陸上運動に関する部分を確認しておくこと。走り幅跳び、走り高跳びのルールについて予習を行うこと。(標準学習時間180分)
5回	『小学校学習指導要領解説体育編』の体ほぐしの運動に関する部分を確認しておくこと。(標準学習時間180分)
6回	『小学校学習指導要領解説体育編』の体力を高める運動に関する部分を確認しておくこと。(標準学習時間180分)
7回	『小学校学習指導要領解説体育編』のゲーム、ボール運動に関する部分を確認しておくこと。サッカーのルールについて予習を行うこと。(標準学習時間180分)
8回	『小学校学習指導要領解説体育編』のゲーム、ボール運動に関する部分を確認しておくこと。バレーボールのルールについて予習を行うこと。(標準学習時間180分)
9回	『小学校学習指導要領解説体育編』のゲーム、ボール運動に関する部分を確認しておくこと。ソフトボールのルールについて予習を行うこと。(標準学習時間180分)
10回	『小学校学習指導要領解説体育編』の表現リズム遊び、表現運動に関する部分を確認しておくこと。(標準学習時間180分)
11回	『小学校学習指導要領解説体育編』の表現リズム遊び、表現運動に関する部分を確認しておくこと。(標準学習時間180分)
12回	『小学校学習指導要領解説体育編』の器械・器具を使つての運動遊びと器械運動に関する部分を確認しておくこと。マット運動の技について予習を行うこと。(標準学習時間180分)
13回	『小学校学習指導要領解説体育編』の器械・器具を使つての運動遊びと器械運動に関する部分を確認しておくこと。鉄棒運動の技について予習を行うこと。(標準学習時間180分)
14回	『小学校学習指導要領解説体育編』の器械・器具を使つての運動遊びと器械運動に関する部分を確認しておくこと。跳び箱運動の技について予習を行うこと。(標準学習時間180分)
15回	『小学校学習指導要領解説体育編』の指導計画の作成と内容の取扱いについて確認しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	小学校学習指導要領および同解説体育編に示される小学校体育科の各運動領域について実践を通して理解することを目的とする。初等教育学科学位授与の方針Aと深く関連する科目である。
達成目標	1) 学習指導要領における小学校体育科の内容について説明できる(A・B)。2) 小学校体育科の各運動領域について、基本的・基礎的知識ならびに技能を習得できている(A・B)。
キーワード	小学校, 体育, 学習指導要領

試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	小テスト10%（達成目標1,2を評価）、プリント・ノート60%（達成目標1,2を評価）、実技の習得状況30%（達成目標2を評価）によって総合的に評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	小学校学習指導要領解説 体育編 平成29年7月 / 文部科学省 / 東洋館出版社 / 978-4491034676
関連科目	初等体育科教育法
参考書	体づくり運動 授業の考え方と進め方(改訂版) (学校体育実技指導資料) / 文部科学省 / 東洋館出版社 / 978-4491029283 表現運動系及びダンス指導の手引 学校体育実技指導資料 / 文部科学省 / 東洋館出版社 / 978-4491029771 ゲーム及びボール運動 (学校体育実技指導資料) / 文部科学省 / 東洋館出版社 / 978-4491026114
連絡先	研究室A1号館10階1007室 / 直通電話086-256-9525 / E-mail:sasayama@ped.ous.ac.jp / オフィスアワー : 水曜木曜の昼休み
授業の運営方針	・体育実技はグループで行うため、遅刻・欠席をせず積極的に取り組むこと。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション, グループワーク ・この講義ではアクティブラーニングの一環として、体育科内容に関するグループワーク, グループディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	・ノート, プリント等の課題に対するフィードバックは, 講義中に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・講義中の論音/録画/撮影は原則認めない。特別な理由がある場合、事前に相談すること。 ・土曜日（10月26日または11月2日の予定）に笹ヶ瀬体育館で授業を実施します。 ・VODを用いた学習も行います。

科目名	書写(A) (FEP01000)
英文科目名	Penmanship
担当教員名	前田秀雄* (まえだひでお*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	導入。各自の小中高校での学習を振り返り、書写・書道学習への目標を再確認する。
2回	「永字八法」を参考にしながら、伝統的な楷書基本点画の執筆方法を説明する。
3回	「春」字を執筆し毛筆書の本質を説明する。
4回	「一三」・「土工」を臨書して横画と縦画の執筆法の練習を指導する。
5回	「十干」・「口目」を臨書して横画・縦画・折れの執筆法の練習を指導する。
6回	「山里」・「八人」を臨書して折れ・払いの執筆法の練習を指導する。
7回	「大木」・「走者」を臨書して横画・縦画・折れ・払いの執筆法の練習を指導する。
8回	古典の中にある文字を利用して、「青春」をテーマに作品の製作を指導する。
9回	筆線を使った「年賀状」の表現を指導する。
10回	「分散」・「水力」を臨書して、払い・跳ねの執筆法の練習を指導する。
11回	「魚」「黒点」を臨書して、点の執筆法の練習を指導する。
12回	「方向」「七光」を臨書して、漢字の結構法の練習を指導する。
13回	「南風」を臨書して、楷書の用筆法・結構法の習得を指導する。
14回	「南風」の臨書作品を分析して、楷書の用筆法・結構法を確認する。
15回	1～14回で仕上げた課題を踏まえて、書写・書道の鑑賞法と評価法を指導する。

回数	準備学習
1回	使用する各種書道用具をきちんと整えておくこと。特に筆の寿命は約2年、古くて使いにくくなっている筆は新しいものにしておくこと。(標準学習時間120分)
2回	使用する各種書道用具をきちんと整えておくこと。特に筆の寿命は約2年、古くて使いにくくなっている筆は新しいものにしておくこと。(標準学習時間120分)
3回	使用する各種書道用具をきちんと整えておくこと。特に筆の寿命は約2年、古くて使いにくくなっている筆は新しいものにしておくこと。(標準学習時間120分)
4回	正しい執筆法から始まり用筆の方法について、授業で学んだことを何度も復習して筆で文字を書くことに慣れること。筆による執筆に興味を持ち、好きになること。
5回	正しい執筆法から始まり用筆の方法について、授業で学んだことを何度も復習して筆で文字を書くことに慣れること。筆による執筆に興味を持ち、好きになること。(標準学習時間120分)
6回	正しい執筆法から始まり用筆の方法について、授業で学んだことを何度も復習して筆で文字を書くことに慣れること。筆による執筆に興味を持ち、好きになること。(標準学習時間120分)
7回	正しい執筆法から始まり用筆の方法について、授業で学んだことを何度も復習して筆で文字を書くことに慣れること。筆による執筆に興味を持ち、好きになること。(標準学習時間120分)
8回	生活の中にある筆で書かれた文字に興味を持つこと。現代社会における筆文字の価値を考えること。(標準学習時間120分)
9回	生活の中にある筆で書かれた文字に興味を持つこと。現代社会における筆文字の価値を考えること。(標準学習時間120分)
10回	毎時間に習得する技法を反復練習して、新しく学ぶ内容を加味しながら、楷書学習の成果を高めること。(標準学習時間120分)
11回	毎時間に習得する技法を反復練習して、新しく学ぶ内容を加味しながら、楷書学習の成果を高めること。(標準学習時間120分)
12回	毎時間に習得する技法を反復練習して、新しく学ぶ内容を加味しながら、楷書学習の成果を高めること。(標準学習時間120分)
13回	1～12回の授業で学んだことを総合して楷書技法のまとめをすること。(標準学習時間120分)
14回	前回の授業の成果を踏まえて、楷書技法の鑑賞分析のための独自の判断能力を養うこと。(標準学習時間120分)
15回	書写・書道の本質を理解すること。生涯学習、独習の方法を確認すること。(標準学習時間120分)

講義目的	初等教育の現場で自信を持って書写指導が出来る教師の育成を目指す。そのため、小学校における国語科書写として必要な、用筆・筆順・字形・字体・字配りなどに関して、硬筆と毛筆とを併用しながら、知識と技能を習得させる能力の養成を目指す。学位授与の方針Aに関連する科目である。
達成目標	・小学校の国語科書写に必要な基礎的技能について、毛筆での臨書の実習を中心に、基本点画から始め、仮名・漢字を正しく整えて書くことができること(B) ・筆で文字を書くことに慣れ、好きになること(C)

	。 ・姿勢や執筆法、基本的な教材教具の工夫や鑑賞についての理解を深めること(A) 。学位授与の方針Aに関連する科目である。
キーワード	好学（学を好む・好きこそもの上手なれ）
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎回の課題作品60％，レポート20％、最終評価試験20％による総合評価。
教科書	使用しない。
関連科目	書写、書道
参考書	使用しない。
連絡先	maedax@mb.pikara.ne.jp（*連絡の際は、まず「理科大 書写・書道 ・学籍番号・学年・氏名」を明記のこと）
授業の運営方針	毛筆による実習を中心とします。
アクティブ・ラーニング	生徒間で添削評価する時間を設けます。
課題に対するフィードバック	机間巡視・鑑賞指導の時間を通して適宜アドバイスを行います。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	毛筆書道用具・2B鉛筆・新聞紙など、実習に必要な備品を各自準備すること。

科目名	書写(B) (FEP01010)
英文科目名	Penmanship
担当教員名	前田秀雄* (まえだひでお*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	導入。各自の小中高校での学習を振り返り、書写・書道学習への目標を再確認する。
2回	「永字八法」を参考にしながら、伝統的な楷書基本点画の執筆方法を説明する。
3回	「春」字を執筆し毛筆書の本質を説明する。
4回	「一三」・「土工」を臨書して横画と縦画の執筆法の練習を指導する。
5回	「十干」・「口目」を臨書して横画・縦画・折れの執筆法の練習を指導する。
6回	「山里」・「八人」を臨書して折れ・払いの執筆法の練習を指導する。
7回	「大木」・「走者」を臨書して横画・縦画・折れ・払いの執筆法の練習を指導する。
8回	古典の中にある文字を利用して、「青春」をテーマに作品の製作を指導する。
9回	筆線を使った「年賀状」の表現を指導する。
10回	「分散」・「水力」を臨書して、払い・跳ねの執筆法の練習を指導する。
11回	「魚」「黒点」を臨書して、点の執筆法の練習を指導する。
12回	「方向」「七光」を臨書して、漢字の結構法の練習を指導する。
13回	「南風」を臨書して、楷書の用筆法・結構法の習得を指導する。
14回	「南風」の臨書作品を分析して、楷書の用筆法・結構法を確認する。
15回	1～14回で仕上げた課題を踏まえて、書写・書道の鑑賞法と評価法を指導する。

回数	準備学習
1回	使用する各種書道用具をきちんと整えておくこと。特に筆の寿命は約2年、古くて使いにくくなっている筆は新しいものにしておくこと。(標準学習時間120分)
2回	使用する各種書道用具をきちんと整えておくこと。特に筆の寿命は約2年、古くて使いにくくなっている筆は新しいものにしておくこと。(標準学習時間120分)
3回	使用する各種書道用具をきちんと整えておくこと。特に筆の寿命は約2年、古くて使いにくくなっている筆は新しいものにしておくこと。(標準学習時間120分)
4回	正しい執筆法から始まり用筆の方法について、授業で学んだことを何度も復習して筆で文字を書くことに慣れること。筆による執筆に興味を持ち、好きになること。
5回	正しい執筆法から始まり用筆の方法について、授業で学んだことを何度も復習して筆で文字を書くことに慣れること。筆による執筆に興味を持ち、好きになること。(標準学習時間120分)
6回	正しい執筆法から始まり用筆の方法について、授業で学んだことを何度も復習して筆で文字を書くことに慣れること。筆による執筆に興味を持ち、好きになること。(標準学習時間120分)
7回	正しい執筆法から始まり用筆の方法について、授業で学んだことを何度も復習して筆で文字を書くことに慣れること。筆による執筆に興味を持ち、好きになること。(標準学習時間120分)
8回	生活の中にある筆で書かれた文字に興味を持つこと。現代社会における筆文字の価値を考えること。(標準学習時間120分)
9回	生活の中にある筆で書かれた文字に興味を持つこと。現代社会における筆文字の価値を考えること。(標準学習時間120分)
10回	毎時間に習得する技法を反復練習して、新しく学ぶ内容を加味しながら、楷書学習の成果を高めること。(標準学習時間120分)
11回	毎時間に習得する技法を反復練習して、新しく学ぶ内容を加味しながら、楷書学習の成果を高めること。(標準学習時間120分)
12回	毎時間に習得する技法を反復練習して、新しく学ぶ内容を加味しながら、楷書学習の成果を高めること。(標準学習時間120分)
13回	1～12回の授業で学んだことを総合して楷書技法のまとめをすること。(標準学習時間120分)
14回	前回の授業の成果を踏まえて、楷書技法の鑑賞分析のための独自の判断能力を養うこと。(標準学習時間120分)
15回	書写・書道の本質を理解すること。生涯学習、独習の方法を確認すること。(標準学習時間120分)

講義目的	初等教育の現場で自信を持って書写指導が出来る教師の育成を目指す。そのため、小学校における国語科書写として必要な、用筆・筆順・字形・字体・字配りなどに関して、硬筆と毛筆とを併用しながら、知識と技能を習得させる能力の養成を目指す。学位授与の方針Aに関連する科目である。
達成目標	・小学校の国語科書写に必要な基礎的技能について、毛筆での臨書の実習を中心に、基本点画から始め、仮名・漢字を正しく整えて書くことができること(B) ・筆で文字を書くことに慣れ、好きになること(C)

	。 ・姿勢や執筆法、基本的な教材教具の工夫や鑑賞についての理解を深めること(A) 。学位授与の方針Aに関連する科目である。
キーワード	好学（学を好む・好きこそもの上手なれ）
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎回の課題作品60％，レポート20％、最終評価試験20％による総合評価。
教科書	使用しない。
関連科目	書写、書道
参考書	使用しない。
連絡先	maedax@mb.pikara.ne.jp（*連絡の際は、まず「理科大 書写・書道 ・学籍番号・学年・氏名」を明記のこと）
授業の運営方針	毛筆による実習を中心とします。
アクティブ・ラーニング	生徒間で添削評価する時間を設けます。
課題に対するフィードバック	机間巡視・鑑賞指導の時間を通して適宜アドバイスを行います。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	毛筆書道用具・2B鉛筆・新聞紙など、実習に必要な備品を各自準備すること。

科目名	教職論 (FEP01100)
英文科目名	Introduction to the Teaching Profession
担当教員名	山中芳和 (やまなかよしかず)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	教職論の講義内容の概要、授業の目的及び履修に向けての心構えを説明するとともに、授業で使用するテキストの使い方、ノートの取り方などについても説明する。
2回	公教育制度とその法体系について説明する。
3回	教育の歴史と学校教育制度の成立について説明する。
4回	学校教育の内容と学習指導要領について、その概要とこれからの課題について説明する。
5回	学級経営と学習指導の原理及び方法について説明する。
6回	生徒指導と進路指導の原理と実際について説明する。
7回	教科外の教育である特別活動、および特別の教科である道徳について説明する。
8回	学校と地域の連携における教師の役割について説明する。
9回	全体の奉仕者・教育公務員としての教員について説明する。
10回	学校組織の一員としての教員と学校内の校務分掌について説明する。
11回	教員の身分と服務及び職務について説明する。
12回	生涯学習の観点から見たキャリアとしての教職について説明する。
13回	専門職としての教員について説明する。
14回	教育改革の動向とこれからの学校教育の課題について説明する。
15回	教職の在り方について省察を深めることの意義について説明する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスの内容を確認し、教職論の講義の概要や目的について確認しておくとともに、入手したテキストの「はじめに」と「目次」の部分を参照しておくこと。 (準備学習80分)
2回	第1回の内容を振り返り、「教職論」の講義内容を確認するとともに、公教育という言葉の意義について、テキストなどを参考にして、その概要について、あらかじめ予備知識を得ておくこと。(準備学習90分)
3回	公教育がどのような法体系によって制度化されているかの理解を深めておくこと。教育の歴史や学校教育が制度として成立する経緯についての関心を深めておくこと。 (準備学習100分)
4回	教育の歴史の概要と学校教育制度が成立する経緯について復習しておくこと。学校教育ではどのような教育内容が指導されるのか、またそれらはどのような法律によって定められているのかについて関心を深めておくこと。(準備学習80分)
5回	学校教育の内容と学習指導要領について、要点を整理しておくこと。各自の学校生活を振り返り、その中で学級がどのような場であったのかを想起し、どのような学級が子どもの学ぶ意欲を促進する集団であるのか、またどのような学習の仕方が子どもの成長をうながすことになるのかを考えておくこと。 (準備学習80分)
6回	学級経営の基本的な考え方や子どもたちの意欲を引き出す学習指導の方法について復習しておくこと。生徒指導や進路指導について、各自の経験を思い起こし、どのような考え方で指導するのが児童、生徒にとって好ましいのかを考えておくこと。 (準備学習80分)
7回	生徒指導や進路指導の基本的な考え方、方法について復習しておくこと。教科外の教育である特別活動や特別な教科である道徳についてその内容や問題について関心を持っておくこと。(準備学習100分)
8回	特別活動や特別な教科である道徳の内容について復習しておくこと。学校と教師が子どもたちの健全な成長のためにどのように連携すればよいのか、また、教師は其中でどのような役割を担えばよいのかを復習しておくこと。(準備学習80分)
9回	学校と地域の連携における教師の役割について自らの体験などを思い起こしながら復習しておくこと。全体の奉仕者といわれる教員の公的な性格とその身分の位置づけについての関心を深めておくこと。(準備学習80分)
10回	全体の奉仕者といわれる教員の公的な性格と役割とその身分の位置づけについて復習しておくこと。さらに教員は組織体としての学校の一員であり、それぞれが適切に校務を分掌することで学校が教育機関として機能することについて関心を持っておくこと。(準備学習100分)

1 1 回	学校組織の一員としての教員と校務分掌の考え方について復習しておくこと。 教員の身分と服務及び職務の内容とその在り方について関心を深めておくこと。 (準備学習100分)
1 2 回	教員の身分と服務及び職務について復習しておくとともに、生涯学習の観点から見てキャリアとしての教職の在り方について関心を持っておくこと。(準備学習80分)
1 3 回	生涯学習の観点から見てキャリアとしての教職の在り方について復習しておくとともに、教員がいかなる意味で専門職といわれるのかについて関心を持っておくこと。 (準備学習80分)
1 4 回	教員が専門職といわれる意味について復習しておくとともに、教育がこれからどのような方向へ改革されていき、そのなかで学校教育はどのような課題を担うことになるのかについて関心を持っておくこと。(準備学習80分)
1 5 回	これからの学校教育の課題について復習しておくこと。 自らの目指す教師像について考えておくとともに、最終評価試験に向けてこれまでの授業の内容を総合的に復習しておくこと。(準備学習100分)
1 6 回	授業内容の全体を復習するとともに、子どもの成長における学校と教師の役割について自らの考えをまとめておくこと。(準備学習120分)

講義目的	本講義は「学位の授与の方針」のBにもっとも強く関連するものであり、小学校教育の意義と役割を理解し、教育への強い使命感をもって教職に携わることが出来るようになることを目指すものである。 具体的には、学校における教師という存在と教職の本質を中心に公教育における教職の意義や教員の役割、学校現場での教師の仕事などについて、歴史的・制度的・実践的な側面から理解することを通して、専門職としての教員に求められる資質・能力の基礎を培い、自らの教師像を明確にできるようになることを目指す。
達成目標	「学位授与の方針」のBとDに関連する次の三つを目標とする。 1. 学校教育における教師の役割とその職務内容について具体的に説明できる。(B) 2. 学校教育における教育活動の内容と課題についての理解を深め、現実の教育課題と関係づけて説明することが出来る。(B、D) 3. 教師としての在り方を自己の将来と関連付けて探究し、目指す教師像を説明出来る。(B)
キーワード	・教職 ・公教育 ・学校教育 ・専門職 ・地域との連携 ・教師像
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終試験に拠る評価(80点)と毎回の授業後に提出するコメントの内容に拠る評価(20点)の合計100点。(上記の1~3を評価) 合計で60点以上を合格とする。
教科書	安彦忠彦ほか編『よくわかる教育学原論』ミネルヴァ書房 このテキストは秋学期の『教育学原論』(必修科目)にも使用する。 受講生は必ず入手し、第1回目の講義から持参すること。
関連科目	教育学原論、教育史、学校経営、教育行政論
参考書	適宜、参考資料をプリントし、配布する。
連絡先	A1号館、9F 山中研究室。
授業の運営方針	毎回の授業には、必ずノート・テキストを持参し、板書内容を適宜記録すること。テキストについては、授業の中で適宜参考にしていくので、準備学習に示されている内容に沿って各自準備しておくこと。 毎回の授業終了まえには5~10分程度の時間をとってコメントを書く事になるので、集中して授業に望むこと。
アクティブ・ラーニング	授業の中では、随時、教員から質問を提示し、それに対して個々の学生が考えをまとめ、それらを複数の人数からなるグループの中でディスカッションする機会を設けていく。
課題に対するフィードバック	毎回の授業終了後に提出するコメントの中から、全員で共有することにより、より理解が深まると思われるコメントを抽出し、プリントして次回の授業の冒頭に配布していく。 最終評価試験の模範解答は試験終了後1週間以内に研究室に掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	配慮が必要な学生については随時その実情に応じた対応を考え実施するので、授業担当者に申し出てほしい。
実務経験のある教員	国公立学校の教員及び管理職経験を講義の中で生かしていく。
その他(注意・備考)	この科目は、教員免許状取得のための必修科目です。

科目名	教育学原論 (FEP01200)
英文科目名	Principles of Education
担当教員名	山中芳和 (やまなかよしかず)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	教育学の研究对象と領域について説明する。
2回	教育の意義と本質について説明する。
3回	教育に理念について説明する。
4回	教育目的の類型と歴史的変遷について説明する。
5回	教育学における人間論について説明する。
6回	子どもの弱さから見た教育の必要性と可能性について説明する。
7回	ルソーの子ども観と教育思想の特質について説明する。
8回	ペスタロッチーの教育思想と学校教授学について説明する。
9回	デューイの教育論と学校論について説明する。
10回	学校の誕生と入社式儀礼の教育的意義について説明する。
11回	義務教育思想の成立と発展について説明する。
12回	教職と教員養成の歴史について説明する。
13回	教育制度と学校教育について説明する。
14回	日本の学校教育制度と教育課程について説明する。
15回	人間形成における教育の意義について説明する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスによってこの授業の概要を確認するとともに、テキストの全体構成を見ておくこと。(標準学習時間60分)
2回	教育学の研究对象や領域について復習しておくこと。教育とは何かということを考えることに関心を持つこと。(標準学習時間80分)
3回	教育の意義と本質について復習しておくこと。教育はどうあればよいのかなどの問題を中心に、教育の理念について考えることに関心を持っておくこと。(標準学習時間80分)
4回	教育の理念に関してどのように考えていけばよいのかを復習しておくこと。教育の目的についての考え方や、それが歴史的にどのような変遷をたどってきたかについて関心をもっておくこと。(標準学習時間100分)
5回	教育目的が類型化されることや、それが歴史的に変遷をたどってきたことについて復習しておくこと。教育学では教育の対象である人間をどのような存在として考えるのかについて関心を持っておくこと。(標準学習時間100分)
6回	教育学では人間をどのような存在として考えるのかという人間論について復習しておくこと。さらに、人間にとって教育はひつようなのか、また可能なのかなどの問題について関心を持っておくこと。(標準学習時間100分)
7回	弱い存在としての子どもという視点から教育のあり方を復習しておく事。ルソーの子ども観と教育思想の特質について関心を持っておくこと。(標準学習時間100分)
8回	ルソーの子ども観と教育思想の特質について復習しておくこと。ペスタロッチーの教育思想と学校教授学について関心を持っておくこと。(標準学習時間100分)
9回	ペスタロッチーの教育思想と学校教授学についてその特質を復習しておくこと。これとの関連においてデューイの教育論と学校論について関心を持っておくこと。(標準学習時間100分)
10回	デューイの教育論と学校論について、ペスタロッチーとの違いを復習しておくこと。人類社会はなぜ学校をつくったのかについて関心を持っておくこと。(標準学習時間100分)
11回	入社式の儀礼が学校の起源の一つであることの意義を復習しておくこと。教育を受けさせることを義務とする考え方について関心を持っておくこと。(標準学習時間100分)
12回	義務教育という考え方の歴史やその特質について復習しておくこと。教職と教員養成はそれぞれの国の仕組みの中で歴史的な背景をもって制度化されてきたことに関心を持っておくこと。(標準学習時間100分)
13回	教職や教員養成の歴史的変遷について復習しておくこと。教育の制度やその中の学校教育の仕組みについて関心を持っておくこと。(標準学習時間100分)
14回	教育制度の多様性や国に拠る学校教育の特質などについて復習しておくこと。前回の授業と関連付けて日本の学校教育制度と教育課程の特質などについて関心をもっておくこと。(標準学習時間80分)

	分)
15回	日本における学校教育制度と教育課程について復習しておくこと。人間形成における教育の意義について考えておくこと。最終評価試験にむけてこれまでの授業の内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
16回	授業内容の全体を復習する。(標準学習時間120分)

講義目的	この講義は教育学への入門講義であり、教職を目指す学びの出発点に位置づけられるものである。教育という営みを対象に、その本質を思想的・歴史的・制度的な観点から考察する。成長発達の上にある子どもたちに対して、大人や社会、国家は教育という名のもとに何をなすべきなのか。このような問題関心のもとに人間形成の基本原則を学ぶ。
達成目標	「学位授与の方針」のBとDに関連する以下の三つを目標とする。 1 ヒトが人間にまで成長発達するための教育の本質を理解する。 2 人間形成の基本的な原理と教育論の歴史的展開を理解する。 3 児童・生徒の指導に必要な基礎的知見と教育の原理を修得する。
キーワード	教育学・教育の理念・人間形成
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験に拠る評価(80点)および毎回の授業後に提出するコメントに拠る評価(20点)の合計100点。合格基準は60点。これによって達成目標の1・2・3を評価する。
教科書	安彦忠彦編『よくわかる教育学原論』(ミネルヴァ書房) このテキストは『教職論』でも使用する。
関連科目	教職論、教育史、学校経営、教育行政論
参考書	適宜参考資料をプリントして配布する。
連絡先	A1号館901研究室
授業の運営方針	毎回の授業には必ずノート・テキストを持参し、板書内容を記録すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク・ディスカッション 授業では、随時質問に対し、グループで考えをまとめそれに基づいてディスカッションし、また全体に発表する。
課題に対するフィードバック	授業終了後に提出するコメントの中から、全員で共有することによって全体の理解が深まると思われるコメントを抽出・プリントし、次回の授業の冒頭で配布する。 最終評価試験の模範解答は試験終了後、1週間以内に掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	配慮が必要な学生については、随時その実情に応じて対応を考え実施する。
実務経験のある教員	小学校教員及び小・中学校の校長経験を講義の中で生かしていく。
その他(注意・備考)	この科目は教員免許状取得のための必修科目です。

科目名	教育史 (FEP01300)
英文科目名	History of Education
担当教員名	山中芳和 (やまなかよしかず)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の目的・概要・授業計画を説明する。
2回	近世日本の社会と文化の特質を説明する。
3回	江戸幕藩体制の特質と教育について説明する。
4回	近世における教育論の多様な展開について説明する。
5回	近世社会における武士と教育について説明する。
6回	近世社会における民衆と教育について説明する。
7回	幕末における教育近代化への胎動と西欧教育の受容について説明する。
8回	近代教育の模索と学制の成立について説明する。
9回	西欧における教育思想の特質と日本への影響について説明する。
10回	教職の誕生と教員養成の開始について説明する。
11回	教育理念の模索と臣民像について説明する。
12回	世界の教育改革と大正新教育運動の展開について説明する。
13回	第二次世界大戦後の教育改革と教育基本法の成立について説明する。
14回	教育内容の改革と学習指導要領について説明する。
15回	現代社会の動向と教育の課題について説明する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	教育学原論や教職論の講義内容を振り返り、特に歴史的視点から教育を考察した部分を復習しておくこと。 シラバスを見て授業の内容を確認しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	近世という時代についての関心を持っておくこと。 近世と近代の基本的な違いについて調べておくこと。(標準学習時間80分)
3回	近世日本の社会と文化の特質を整理しておくこと。江戸幕藩体制の特質と教育への関心を持っておくこと。(標準学習時間100分)
4回	江戸幕藩体制の特質とその教育について内容を確認しておくこと。 近世の教育に対する考え方への関心を持っておくこと。(標準学習時間100分)
5回	近世に展開した教育論についてその特色をまとめておくこと。 近世社会の支配層であった武士の特徴とその教育について関心を持っておくこと。 (標準学習時間100分)
6回	近世社会における武士と教育についてその関係をまとめておくこと。 近世社会の民衆にとって教育はどのような実態であったのかについて関心をもっておくこと。(標準学習時間100分)
7回	近世社会の民衆と教育について復習しておくこと。 幕末の特徴と近代への胎動という転換期の中での教育について関心を持っておくこと。(標準学習時間100分)
8回	近代への転換期の中の教育について整理しておくこと。 近代教育はどのように制度化されるのかについての関心を持っておくこと。 (標準学習時間100分)
9回	近代の制度化された教育の特質を理解しておくこと。 日本の教育に西欧の教育思想がどのような影響を及ぼしたのかについての関心を持っておくこと。 (標準学習時間100分)
10回	西欧における教育思想の特質と日本への影響についてまとめておくこと。 教職がどのようにして職業として成立するのかについての関心を持っておくこと。 (標準学習時間100分)
11回	教職の誕生と教員養成の開始についてまとめておくこと。 教育のあり方についてどのような議論がこれまでなされてきたのかについての関心を持っておくこと。(標準学習時間100分)
12回	教育理念の模索と臣民像についての考えを整理しておくこと。 政界の教育改革とその日本への影響について関心を持っておくこと。 (標準学習時間100分)
13回	世界の教育改革と大正新教育について整理しておくこと。 第二次大戦後の教育改革について関心を持っておくこと。(標準学習時間100分)

14回	第二次世界大戦後の教育改革の特質について整理しておくこと。 戦後の日本の教育内容に対する改革について関心を持っておくこと。 (標準学習時間100分)
15回	教育内容の改革と学習指導要領についてまとめておくこと。
16回	最終評価試験に対する取り組みを振り返っておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	この授業では日本の教育の歴史を中心に、教育の思想や制度、実践の歴史的展開とそれに伴う諸問題を、諸外国の教育の歴史との比較などの視点から考察することを通して、これからの教育のあり方を考えることが出来るようになることを目的とする。
達成目標	「学位授与の方針」のBとDに関連する以下の三つを目標とする。 1 教育に拠る人間形成の歴史的展開をたどり、その特質を理解することが出来る。 2 教育の思想の歴史的展開をたどり、それによって今日の教育の課題の史的背景を考えることができる。 3 教職に必要な教育観の基礎を培う。
キーワード	教育の歴史・人間形成の歩み・教育の思想・これからの教育の課題
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験に拠る評価(80点)と毎回の授業後の小レポートによる評価(20点)の合計100点。総計で60点以上を合格とする。これによって達成目標の評価とする。
教科書	特になし。
関連科目	教職論、教育学原論
参考書	適宜、参考資料をプリントして配布する。
連絡先	A1号館901研究室
授業の運営方針	毎回の授業には必ずノートを取り、板書内容を記録すること。 随時演習形態を採り入れる。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション 随時演習形態を採り入れ、資料の読解、それに基づく意見交換の機会を導入する
課題に対するフィードバック	授業終了後に提出するコメントにもとづいて意見交換を行う。 最終評価試験の模範解答は試験終了後1週間以内に掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	配慮が必要な学生については随時その実情に応じて対応を考え実施する。
実務経験のある教員	小学校教員及び小・中学校の校長経験をいかし、歴史を現在の教育課題との関連のなかで考える意欲を育む。
その他(注意・備考)	歴史に関心のある学生の意欲的な参加を期待する。

科目名	教育心理学 (FEP01400)
英文科目名	Educational Psychology
担当教員名	森敏昭 (もりとしあき)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	教育心理学の歴史について説明する。
2回	教育心理学の理論と研究法について説明する。
3回	学習理論と教育心理学について説明する。
4回	発達理論と教育心理学について説明する。
5回	教育心理学の領域と課題について説明する。
6回	グローバル社会のなかでの学校教育について説明する。
7回	知の教育と心の教育の統合について説明する。
8回	21世紀型学力の育成について説明する。
9回	自ら学び自ら考える力の育成について説明する。
10回	知識活用力の育成について説明する。
11回	持続可能な学力の育成について説明する。
12回	個人差に応じた学習支援について説明する。
13回	発達段階に応じた学習支援について説明する。
14回	障害のある児童生徒の学習支援について説明する。
15回	教育評価の改善について説明する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、授業計画の概要を把握しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	授業の前に、教育心理学の歴史について復習し、教育心理学の理論と研究法について予習しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	授業の前に、教育心理学の理論と研究法について復習し、教科書などにより、学習理論に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	授業の前に、教育心理学の主要な学習理論について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、発達理論に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	授業の前に、教育心理学の発達理論について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、教育心理学の領域と課題に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	授業の前に、教育心理学の領域と課題に関し説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などによりグローバル社会の学校教育について予習しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	授業の前に、グローバル社会の学校教育について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、知の教育と心の教育の統合に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	授業の前に、知の教育と心の教育の統合について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、21世紀型学力の育成に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
9回	授業の前に、21世紀型学力の育成について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、自ら学び自ら考える力の育成に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
10回	授業の前に、自ら学び自ら考える力の育成について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、知識活用力の育成に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
11回	授業の前に、知識活用力の育成について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、持続可能な学力の育成に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
12回	授業の前に、持続可能な学力の育成について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、個人差に応じた学習支援に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
13回	授業の前に、個人差に応じた学習支援について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、発達段階に応じた学習支援に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
14回	授業の前に、発達段階に応じた学習支援について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより障害のある児童生徒の学習支援に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
15回	授業の前に、障害のある児童生徒の学習支援について説明・質疑応答ができるように復習し、教育評価の改善について予習しておくこと。(標準学習時間120分)
16回	1回から15回までの内容を理解し整理しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	教育心理学の理論と方法を正しく深く理解し、学校教育の現代的課題に対し主体的・創造的に取り組む資質を養うことを目的とする。そのために、教育心理学の最新の知見を学校教育の実践と関係づけて講義する。「学位授与の方針」のB(小学校教育の意義と役割を理解し、教職に関わることへの強い使命感を身につけている)に最も強く関連する科目である。
------	---

達成目標	教育心理学の理論・研究法・領域と課題について説明できる (B)。 21世紀型学力の育成など学校教育の課題について説明できる (B)。 個人差に応じた学習支援など実践的課題について説明できる (B)。 従来の教育評価の問題点および改善方法について説明できる (D)。
キーワード	学習理論 発達理論 学習指導 教育評価
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	提出課題30%、最終評価試験70%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。達成目標のに関しては最終評価試験で、 に関しては提出課題で評価する。
教科書	よくわかる学校教育心理学 / 森 敏昭ほか / ミネルヴァ書房 / ISBN978-4-623-05642-2
関連科目	教育学演習 (教育心理学)
参考書	適宜紹介する。
連絡先	A 1号館 9F 森研究室
授業の運営方針	深い学びを促すために、毎回の授業の終わりに振り返りの時間を設け、学習内容についての理解の深化を図る。
アクティブ・ラーニング	ライティング。毎回の授業の終わりに振り返りの時間を設け、学習内容についての小レポートを課す。
課題に対するフィードバック	各回的小レポートに対するフィードバックは次回の授業で行い、最終試験のフィードバックとして、模範答案の提示と解説を掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障害学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。
実務経験のある教員	
その他 (注意・備考)	試験は最終評価試験期間中に行い、試験形態は筆記による。深い学びを促すために、各回の授業の終わりに学習内容についての質問を用紙に書いて提出させ、その質問に対する回答のための時間を次回の授業の最初に設ける。

科目名	学習心理学 (FEP01500)
英文科目名	Psychology of Learning
担当教員名	森敏昭 (もりとしあき)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	学習心理学の目的・方法・領域について説明する。
2回	学習心理学の理論について説明する。
3回	古典的条件づけの原理について説明する。
4回	オペラント条件づけの原理について説明する。
5回	学習と記憶のメカニズムについて説明する。
6回	知識獲得と学習の原理について説明する。
7回	技能の学習の原理について説明する。
8回	問題解決と学習の原理について説明する。
9回	社会的学習の原理について説明する。
10回	学習と認知発達の原理について説明する。
11回	学習の転移について説明する。
12回	学習と動機づけの原理について説明する。
13回	学習理論の教育場面への応用について説明する。
14回	学習理論の臨床場面への応用について説明する。
15回	学習心理学と21世紀型学びについて説明する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、授業計画の概要を把握しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	授業の前に、学習心理学の目的・方法・領域について復習し、教科書などにより、学習心理学の理論について予習しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	授業の前に、学習心理学の理論について復習し、教科書などにより、古典的条件づけに関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	授業の前に、古典的条件づけについて説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、オペラント条件づけに関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	授業の前に、オペラント条件づけについて説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、学習と記憶のメカニズムに関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	授業の前に、学習と記憶のメカニズムに関し説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより知識獲得と学習の原理について予習しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	授業の前に、知識獲得と学習の原理について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、技能の学習の原理に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	授業の前に、技能の学習の原理について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、問題解決と学習の原理に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
9回	授業の前に、問題解決と学習の原理について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、社会的学習の原理に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
10回	授業の前に、社会的学習の原理について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、学習と認知発達の原理に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
11回	授業の前に、学習と認知発達の原理について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、学習の転移に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
12回	授業の前に、学習の転移について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、学習と動機づけの原理に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
13回	授業の前に、学習と動機づけの原理について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、学習理論の教育場面への応用に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
14回	授業の前に、学習理論の教育場面への応用について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、学習理論の臨床場面への応用に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
15回	授業の前に、学習理論の臨床場面への応用について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、学習心理学と21世紀型学びについて予習しておくこと。(標準学習時間120分)
16回	1回から15回までの内容を理解し整理しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	学習心理学の理論と方法を正しく深く理解し、学校教育の現代的課題に対し主体的・創造的に取り組む資質を養うことを目的とする。そのために、学習心理学の最新の知見を学校での学習指導の実践と関係づけて講義する。初等教育学科の「学位授与の方針」B(小学校教育の意義と役割を理解し、教職へ関わることへの強い使命感を身につけている)に最も強く関連する科目である。
------	---

達成目標	学習心理学の古典的理論から最新の理論について具体的に説明できる（B）。 「学習の基礎過程」「知識獲得と学習」「問題解決と学習」「技能の学習」「社会的学習」「発達理論と学習」「学習の転移」「学習の動機づけ」「学習理論の応用」など学習心理学の主要な研究領域について具体的に説明できる（B）。
キーワード	学習理論と学習指導
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	提出課題30%、最終評価試験70%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。達成目標のに関しては最終評価試験で評価する。
教科書	使用しない。
関連科目	教育心理学
参考書	
連絡先	A 1号館 9F 森研究室
授業の運営方針	深い学びを促すために、毎回の授業の終わりに振り返りの時間を設け、学習内容についての理解の深化を図る。
アクティブ・ラーニング	ライティング。毎回の授業の終わりに振り返りの時間を設け、学習内容についての小レポートを課す。
課題に対するフィードバック	各回の小レポートに対するフィードバックは次回の授業で行い、最終試験のフィードバックとして、模範答案の提示と解説を掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障害学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	試験は最終評価試験期間中に行い、試験形態は筆記による。深い学びを促すために、各回の授業の終わりに学習内容についての質問を用紙に書いて提出させ、その回答のための時間を次回の授業の最初に設ける。

科目名	教育行政学 (FEP01600)
英文科目名	Education Administration
担当教員名	高瀬淳* (たかせあつし*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	【学校を取り巻く内外環境の変化(導入)】今日の学校を取り巻く内外環境が、どのように変化しているかを明らかにし、そこでの教育活動に従事する教員に求められる専門職性について発問する。
2回	【教育制度の基本構造 - 法制化と慣習化】日本における教育行政について、日本国憲法の精神と教育を受ける権利を踏まえて実施されることの意味について検討する。
3回	【個と公共の精神の尊重】教育基本法に前文に記された「個人の尊重」と「公共の精神」の関係性を理解し、日本における教育行政の基本方針について検討する。
4回	【公教育の原則】日本における学校体系を確認するとともに、日本並びに諸外国における義務教育・無償制の意義やあり方について検討する。
5回	【公教育の原則】日本における教育の政治的・宗教的中立の意義や内容について検討する。
6回	【学校教育法制】学校教育法第1条に定められた学校の意味や教育行政の関わりについて、教育の系統性と総合性の保持といった観点から検討する。
7回	【学校教育法制】学校教育法第1条以外に定められた学校の意味や教育行政の関わりについて、教育に関する自由権と社会権といった観点から検討する。
8回	【国レベルの教育行政】国レベルの教育行政について、内閣、文部科学大臣及び文部科学省の関係性を中心に検討する。
9回	【国レベルの教育行政】国レベルの教育行政について、中央教育審議会やその他の審議機関の位置づけやその意味について検討する。
10回	【地方レベルの教育行政】都道府県・市町村レベルの教育行政について、首長、地方議会及び教育委員会の関係性を中心に検討する。
11回	【地方レベルの教育行政】都道府県・市町村レベルの教育行政について、教育委員会制度の基本構造やその意味について検討する。
12回	【教育課程行政】教育課程の国レベルの基準である学習指導要領の変遷について概観し、それをめぐる問題点について検討する。
13回	【教育課程行政】次期学習指導要領のねらいや特色について、育みたい生徒の資質能力(学力)を踏まえながら検討する。
14回	【教育行政と学校の危機管理】学校の危機管理について、学校の一体的なマネジメントの観点から検討する。
15回	【教職員の管理】教職員に対する懲戒と分限について、国民全体の奉仕者としてのあり方から検討する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】現代社会の特色や課題について、自分なりの見解を形づくっておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
2回	【予習】第1回の授業内容を確認するとともに、日本国憲法第13/14/25/26条の条文を読んでおくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
3回	【予習】第2回の授業内容を確認するとともに、教育基本法前文を読んでおくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
4回	【予習】第3回の授業内容を確認するとともに、日本における学校体系を調べておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
5回	【予習】第4回の授業内容を確認するとともに、日本における政治教育の問題点を調べておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
6回	【予習】中学校又は高校の目標について調べておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
7回	【予習】日本における教員養成の原則(開放制度と大学における養成)について確認し、その意味を自分なりに検討しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。

8回	【予習】文部科学省の所管や組織について確認しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
9回	【予習】第8回の授業内容を確認するとともに、中央教育審議会について確認し、その意味を自分なりに検討しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
10回	【予習】第8・9回の授業内容を確認するとともに、教育委員会の所管や組織について確認しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
11回	【予習】第10回の授業内容を確認するとともに、自分が出身の都道府県又は市町村教育委員会のホームページを閲覧しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
12回	【予習】教育課程の定義並びに学習指導要領の成り立ちについて調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
13回	【予習】第12回の授業内容を確認するとともに、「社会に開かれた教育課程」の意味について調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
14回	【予習】学校が直面しうる危機について、新聞記事等をもとに自分なりに考えをまとめておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
15回	【予習】教職員の不祥事について、過去に新聞に取り上げられたものを確認しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
16回	【予習】第1～15回の内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	日本の学校制度を、教育基本法ならびに学校教育法の基本的な考え方から紹介し、教育制度の具体的な運用のあり方を、教育現場の様々な場面から検討する。さらに教員として基本的に身につけておくべき教育行政上の知見、教員としての行動の制度的意味について考察する。学位授与の方針Bに関連する科目である。
達成目標	個人の生涯発達と社会の維持・発展の両面から学校教育を中心とした教育行政・制度を理解し、そこに認められる意味や問題点についてリーガルマインドをもって考察することができる（B）。
キーワード	教育行政、教育法制、教育を受ける権利
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験（70%）と授業中に課す小レポート（30%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	教職に関する科目
参考書	授業中に適宜、提示する。
連絡先	takase@okayama-u.ac.jp
授業の運営方針	教育行政のあり方について、他の授業科目との関連性を重視しながら理解・考察できるように講義・演習を進めます。特に、授業中のレポート作成や小グループによる意見交換などの際に他の授業科目で学修した内容を活用する点に留意してください。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出課題や授業時間内の試験については、全体的な傾向を踏まえつつ、講義の一部としてフィードバックすることを原則とします。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	教育社会学 (FEP01700)
英文科目名	Sociology of Education
担当教員名	松岡律 (まつおかただし)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	社会学という考え方・・・授業の内容・進行について説明する
2回	社会化(1) 家庭と教育・・・社会化エージェントとしての親について解説する
3回	社会化(2)-1 教師と学校・・・公教育制度の社会的役割について解説する
4回	社会化(2)-2 教師と生徒の関係性・・・コミュニケーションの非対称性について解説する
5回	社会化(3) 教育とジェンダー・・・日常に埋め込まれたコードについて解説する
6回	教師という生き方・・・教師集団の特質について解説する
7回	階層社会と学歴社会・・・メリトクラシーに隠された不平等について解説する
8回	大学と大学生・・・全入時代と格差の拡大について解説する
9回	教育とマス・メディア・・・商業主義との葛藤について解説する
10回	教育問題(1) いじめ・・・いじめの原因は何かについて解説する
11回	教育問題(2) 不登校・・・責任は誰にあるのかについて解説する
12回	教育問題(3) 少年非行・・・行為の瞬間の内面について解説する
13回	教育と社会(1) ニート・フリーター・・・社会と個人の関係性について解説する
14回	教育と社会(2) 政治と教育・・・教育施策の変遷から見えるもの
15回	まとめと展望・・・教育をめぐる大人の責任と子どもの成長について解説する

回数	準備学習
1回	社会学に関する概説書を読んでおくこと。(標準学習時間:90分)
2回	社会化という概念について調べておくこと。(標準学習時間:90分)
3回	学校の社会的役割について調べておくこと。(標準学習時間:90分)
4回	ヘゲモニーという言葉の意味を調べておくこと。(標準学習時間:90分)
5回	ジェンダー問題について調べておくこと。(標準学習時間:90分)
6回	学閥について調べておくこと。(標準学習時間:90分)
7回	メリトクラシーという言葉について調べておくこと。(標準学習時間:90分)
8回	大学生の学力低下について調べておくこと。(標準学習時間:90分)
9回	メディア・リテラシーについて調べておくこと。(標準学習時間:90分)
10回	自身といじめの関連について整理しておくこと。(標準学習時間:90分)
11回	不登校の原因について考えておくこと。(標準学習時間:90分)
12回	非行はなぜ起きるのか、考えをまとめておくこと。(標準学習時間:90分)
13回	ニートとフリーターの違いについて調べておくこと。(標準学習時間:90分)
14回	政治が教育にどう関わってくるのか、調べて考えておくこと。(標準学習時間:90分)
15回	これまでの講義ノートをよく見返しておくこと。(標準学習時間:90分)

講義目的	教育社会学は社会学の立場から「教育」をながめる学問である。通常、「教育」と聞けば真っ先に「学校」が思い浮かぶが、「教育」という現象は「学校生活」の限られた空間・時間だけでなく、家庭や身近な大人たちとの関わりの中で日常的に発生する、不断の社会的営為である。本講義では、教育にまつわる様々な事象を社会との関係性において捉え、そうした観点から受講生がこれまで過ごして来た学校生活を振り返り、また「教師になるとは何を意味するのか?」という根源的な問いも含めて幅広く理解して行くことを目的とする。 (初等教育学科の学位授与方針Dに最も強く関与する)
達成目標	教育の社会的意義・教職の社会的役割について客観的に深く理解すること。(D) 受講者が自身の職業選択をめくり、繰り返し問い直すことのできる視点を獲得すること。(D)
キーワード	社会、学校教育、教育問題
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	毎回の小レポート(50%)(到達目標を確認)、および最終課題(50%)(到達目標を確認)を総合評価する。
教科書	なし
関連科目	生徒・進路指導論
参考書	・荻谷剛彦 他著『教育の社会学 新版- 常識の問い方、見直し方』有斐閣アルマ、2010年
連絡先	A1号館904
授業の運営方針	授業中に扱うトピックスについて適宜指名して回答を求めめるため、事前学習が重要である。

アクティブ・ラーニング	授業中の応答、リフレクションペーパーを用いた双方向化
課題に対するフィードバック	各回のレポートについては次回冒頭でフィードバックを行う。 最終課題については、mylogの掲示を用いて模範例を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	学校経営 (FEP01800)
英文科目名	School Administration
担当教員名	金川舞貴子* (かながわまきこ*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション：講義の進め方、評価方法を説明する。
2回	現代の教職と学校：「教員」という職業の歴史の変遷を迎えることを通じて、教職が社会変化や国家制度・政策などと密接な関係を持ちながら、どのような意義や期待、課題などを有するのかを説明する。
3回	学校教育の発展と諸課題：戦後のわが国の学校教育について、制度的な観点から教育政策と学校現場の課題について説明する。
4回	学校教育を支える法制度：義務教育制度がどのように進展してきたのか、「教育を受ける権利」を保障する制度の一つとしての学校教育を支える様々な法律を説明する。
5回	近代公教育制度の成立と構成原理：わが国の公教育制度を支える原理、「教育の機会均等」、それを保障する「義務性」「無償性」「中立性」について説明する。
6回	教育行政の組織と運営：中央と地方の教育行政のしくみと働きを説明する。
7回	教育課程行政とカリキュラム開発：教育課程の法制度について教育権論争、教育課程の編成権、また学習指導要領の拘束性や改訂の歴史などを説明する。その上で、学校現場の創造性や組織性に基づくカリキュラム開発やマネジメントについて説明する。
8回	学校の組織と経営 ～ 歴史的展開～：学校が組織となるために必要な営み、すなわち学校経営について、その必要性および歴史的展開について説明する。
9回	学校の組織と経営 ～ 学校組織マネジメントの発想～：学校組織とその経営をめぐるトピックについて具体例をもとに理解を深め、学校経営改革をめぐる近年の動向について説明する。
10回	学校経営の理論的展開 ～ 科学的管理法～現代化論～：学校経営についての考え方は、一般経営学の理論を参照しつつ、またその時々々の教育政策や教育課題と向き合う形で発展してきた。そこで、学校経営の諸理論が、学校の組織特性をどのように理解し、学校経営のモデルを提示してきたのかを説明する。
11回	学校経営の理論的展開 ～ 組織文化～組織的知識創造経営～：第10回に引き続き、学校経営の諸理論をもとに、学校経営の在り方を説明する。
12回	学校経営の現代的課題と学校組織の特徴：学校経営が現在直面している現代的課題、学校組織としての対応が求められる理由、その際、学校組織の特徴をいかに把握したらいいのかについて検討する。
13回	地域コミュニティの中の学校経営：地域連携の歴史と制度を概観し、学校と地域・保護者の連携という観点から、これからの小学校に求められる学校経営の課題を説明する。
14回	教員の専門性と学校の自律性：学校に配置される教職員等の多様性をそこにおける協働性の重要性について、小学校の特性を踏まえ検討する。
15回	学校評価と学校改善：学校評価制度を概観し、学校評価の意義、および学校改善に資する学校評価の在り方について、小学校の具体事例をもとに検討する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	近代学校制度が成立して以降の小学校教員・中学校教員の教師像、求められてきた役割について予習すること。(標準学習時間120分)
2回	社会変化や制度・政策との関わりを押さえつつ、教職観の変遷について復習を行うこと。臨時教育審議会答申・教育改革国民会議の提言について予習すること。(標準学習時間120分)
3回	戦後のわが国の学校教育について、制度的観点から教育政策と学校現場の課題について復習を行うこと。2006年に改正された教育基本法について、旧法と比較しながら改正内容を予習すること。(標準学習時間120分)
4回	インクルージョン教育について復習を行うこと。(標準学習時間120分)
5回	現代公教育の構成原理について復習を行うこと。岡山市教育委員会の教育振興基本計画について読み、岡山市の重点的な政策について予習すること。(標準学習時間120分)
6回	文部科学省・教育委員会の意義や役割について復習を行うこと。第7回の授業までに教育課程の編成権、学習指導要領の変遷について教科書の該当箇所を予習すること。(標準学習時間120分)
7回	学校をベースとしたカリキュラム開発・カリキュラムマネジメントについて復習を行うこと。(標準学習時間120分)
8回	学校経営の基本的な考え方および必要性について復習を行うこと。(標準学習時間120分)
9回	学校経営改革の動向(組織マネジメント、新しい職)について復習を行うこと。学校経営の近代化論・現代化論について教科書の該当箇所を予習すること。(標準学習時間120分)

10回	授業で扱った学校経営の諸理論をもとに学校の組織特性の理解、学校経営の在り方について復習を行うこと。また学校組織の一員としての自分の働き方について自身の考えを準備しておくこと。(標準学習時間120分)
11回	第10回に引き続き、学校経営の諸理論をもとに学校の組織特性の理解、学校経営の在り方について復習を行うこと。規制緩和・地方分権下の学校の変化について教科書の該当箇所を予習すること。(標準学習時間120分)
12回	学校に継続的・組織改善が要求される中、学校組織をどのように捉えて改善の方向性をどのように考えたらいいか、自分の考えをまとめること(復習)。学校と地域の連携が必要とされる背景について予習すること。(標準学習時間120分)
13回	今日求められる教師の専門性について教科書の該当箇所を予習すること。(標準学習時間120分)
14回	複数の学校評価資料を丁寧に読み比べることで、学校評価の目的やよりよい学校評価に求められるものについて事前に自身の考えをまとめておくこと。(標準学習時間120分)
15回	学校改善に資する学校評価の在り方について復習を行うこと。(標準学習時間120分)
16回	試験に備えて、1回から15回までの授業内を理解し整理しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	「経営」と聞くと企業のもの、経営者や管理職がするものといった、どこか遠い世界のイメージが強いかもしれない。しかし、学校には「学校経営」なるものが強く求められており、教師として学校組織で働く上で「経営」は不可欠である。近代の学校というシステムにおいて、なぜ「経営」が必要とされるようになったのか、「学校経営」とは何で、どのような考え方が求められるのか。本講義では、これらの問いを中心に据えながら、近代公教育の成立を含め、学校教育システムの基礎的事項を学ぶ。さらに、現在の学校教育が直面する多様な課題を多面的に検討する中で、今後求められる学校経営の在り方、学校改善の方策を考えていく。学位授与の方針Bに関連する科目である。
達成目標	近代公教育の原理原則を理解し、学校経営・教育行政に関する基礎的知識を習得する(A) 。わが国の教育改革の背景や課題を多角的に分析し、自分の考えを論理的に展開できる(A) 。学位授与の方針Bに関連する科目である。
キーワード	
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	課題提出(30%)、最終評価試験(70%)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。但し、最終評価試験において基準点を設け、得点が100点満点中60点未満の場合は不合格とする。
教科書	『教育の経営・制度』/田中智志・橋本美保[監修]浜田博文[編著]/一藝社/2014年/9784863590670
関連科目	
参考書	適宜紹介する。
連絡先	
授業の運営方針	
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	
合理的配慮が必要な学生への対応	岡山理科大学のガイドラインに基づき、合理的に配慮を提供する。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	授業は講義と討議を中心に進めるため、学生の積極的な参加を求める。

科目名	教育課程論（初等）（FEP01900）
英文科目名	Educational Curriculum Studies (Primary)
担当教員名	宮本浩治*（みやもとこうじ*）、尾島卓*（おじまたく*）
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション・・・講義の概要、目的、授業計画について説明する。 (尾島 卓*)
2回	戦後日本のカリキュラム（教育課程）について説明する。 (尾島 卓*)
3回	カリキュラムと学習指導要領について説明する。 (尾島 卓*)
4回	学習指導要領の「領域」について説明する。 (尾島 卓*)
5回	教科の指導と教科外活動の指導 について説明する。 (尾島 卓*)
6回	「総合的な学習の時間」の意義とその指導について説明する。 (尾島 卓*)
7回	学習指導要領の中の「道徳」の位置付けと意義，その指導について説明する。 (尾島 卓*)
8回	「教えること」と「学ぶこと」の統一について説明する。 (尾島 卓*)
9回	教育内容・教材と教科書(1) 教材配列から見えてくる教科構成としてのカリキュラム について説明する。 (尾島 卓*)
10回	教育内容・教材と教科書(2) 学びの履歴としてのカリキュラム開発 について説明する。 (尾島 卓*)
11回	特色あるカリキュラムの開発について説明する。 (尾島 卓*)
12回	カリキュラムマネジメントの実際について説明する。 (宮本 浩治*)
13回	学校経営目標とカリキュラム，カリキュラムを具現化する授業について説明する。 (宮本 浩治*)
14回	カリキュラム評価の視点について説明する。 (宮本 浩治*)
15回	まとめをする。 (宮本 浩治*)

回数	準備学習
1回	中学校学習指導要領の15～19頁、中学校学習指導要領解説編の10～11頁を読んでおくこと。
2回	中学校学習指導要領解説編の97～100頁を読んでおくこと。
3回	中学校学習指導要領解説編の100～106頁を読んでおくこと。
4回	中学校学習指導要領解説編の44～55頁を読んでおくこと。
5回	中学校学習指導要領解説編の60～66頁を読んでおくこと。

6回	中学校学習指導要領の116～117頁および中学校学習指導要領解説編の80～88頁を読んでおくこと。
7回	中学校学習指導要領の112～115頁および中学校学習指導要領解説編の23～28頁を読んでおくこと。
8回	7回配布の補助資料を読んでおくこと。
9回	第8回授業で配布する資料を読み、教科内容の系統性がいかに考えられているのかを考察しておくこと。
10回	習得と活用を意識するために、教科書の単元構成についてレポートを作成すること。
11回	第10回授業で配布する教育課程表をもとに、学校の特色を決定する要因を探ってくること。
12回	第11回授業で配布する資料を読み、カリキュラムマネジメントの視座をまとめておくこと。
13回	第12回授業で配布する資料を読み、学校教育目標の設定とカリキュラム開発の関係をまとめておくこと。
14回	文部科学省HPで今年度実施の「学力・学習状況調査」の中学校問題を見ておくこと。
15回	これまでの授業ノートを読み返すこと。

講義目的	1.戦後教育課程の変遷とその特質を理解する。 2.教育における指導と評価の基本原則を理解する。 3.カリキュラム(教育課程)と授業実践の双方向性を理解する。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-1にもっとも強く関与)
達成目標	教育課程編成の原理と意義および具体的な方法を理解する(A)
キーワード	「生きる力」 学習指導要領 義務教育学校
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	ポートフォリオ50%、小レポート20%、最終評価試験30%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。但し、最終評価試験において基準点を設け、得点が30点満点中、10点以下の場合は不合格とする。
教科書	『中学校学習指導要領』/文部科学省:『中学校学習指導要領解説 総則編』/文部科学省
関連科目	特別活動の理論と方法、教育の方法と技術
参考書	『教育方法学』/佐藤 学/岩波書店:『新しい時代の教育課程 第3版』/田中耕治等編/有斐閣アルマ
連絡先	2012princess2@okayama-u.ac.jp(尾島卓)
授業の運営方針	講義のはじめに予習の成果をはかる小テストを行います。解答の出来不出来にかかわらず、採点後は解答を見直しましょう。 教科書等に基づいて専門的な知識や考え方について講義を行います。板書の内容も含めてメモを取りながら講義を聴いて下さい。また、内容によって受講者同士で情報交換を行うこともあります、課題に即して積極的に対話しましょう。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	講義時間最初に行う確認テストの採点は各自で教科書等を使って行って下さい。 講義期間中に課す小レポートは配布された用紙を使用して作成することとします。用紙配布時に提出期限と提出先も知らせますので、中止して下さい。 最終試験の模範解答は最終試験終了時に配布します。教科書等と付き合わせて出題意図を確認すると、より学習が深まるでしょう。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	課題(準備学習で示す)については、次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。

科目名	初等国語科教育法 (FEP02000)
英文科目名	Teaching Japanese for Primary Education
担当教員名	小川孝司 (おがわたかし)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。本科目を学ぶ意義と目的について説明する。
2回	生きる力や思考力・判断力・表現力等の育成を踏まえ、国語科改訂の趣旨及び国語科の目標及び内容の構成等について説明する。
3回	実際の学習指導案に照らしながら、学習指導案作成の意義及び作成上の留意点等について説明する。
4回	実際の授業に照らしながら、本時学習指導案に記述される「学習過程」「学習活動」「指導上の留意点」などについて説明する。
5回	実際の授業に照らしながら、「主体的な学び」「対話的な学び」を中心に、求める学習者の姿や教師のかかわりについて説明する。
6回	実際の学習材(「話すこと・聞くこと」)の内容分析や指導法の開発といった教材研究の方法、それをもとに作成する学習指導案について説明する。
7回	実際の学習材(「書くこと」)の内容分析や指導法の開発といった教材研究の方法、それをもとに作成する学習指導案について説明する。
8回	実際の学習材(「読むこと・文学的文章」)の内容分析や指導方法の開発といった教材研究の方法、それをもとに作成する学習指導案について説明する。中間試験を実施する。試験終了後、出題内容について解説を行う。
9回	実際の学習材(「読むこと・説明的文章」)の内容分析や指導方法の開発といった教材研究の方法、それをもとに作成する学習指導案について説明する。
10回	実際の学習材(「伝統的な言語文化」)の内容分析や指導方法の開発といった教材研究の方法、それをもとに作成する学習指導案について説明する。
11回	実際の学習材(「言葉の特徴やきまり」)の内容分析や指導方法の開発といった教材研究の方法、それをもとに作成する学習指導案について説明する。
12回	実際の学習材(「毛筆書写」)の内容分析や指導方法の開発といった教材研究の方法、それをもとに作成する学習指導案について説明する。
13回	実際の授業に照らしながら、本時学習指導案に記述される「評価」について、その意義や記述するにあたっての留意点を説明する。
14回	実際の学習材(「読書教材」)の内容分析や指導方法といった教材研究の方法、読書指導の実際について説明する。
15回	第1学年教科書の始めに掲載されている学習材について、読み聞かせや挿絵をもとに話す指導、ひらがなを初めて書く指導等の方法を説明する。
16回	最終評価試験。試験後模範解答の提示と内容について解説を行う。

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、本授業の概要を確認しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	テキスト中の「国語科改訂の要点」「教科の目標」等を予習レポートにまとめておくこと。(標準学習時間60分)
3回	テキスト中の「第4指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」等を予習レポートにまとめておくこと。(標準学習時間45分)
4回	前回の講義で配付した本時学習指導案を読み、「学習の流れ」を予習レポートにおとめておくこと。(標準学習時間60分)
5回	前回の講義で配付した学習実践記録を「主体的な学び」「対話的な学び」の視点から予習レポートにまとめておくこと。(標準学習時間60分)
6回	前回の講義で配付した「話すこと・聞くこと」の学習材を読み、単元の学習の流れを予習レポートにまとめておくこと。(標準学習時間60分)
7回	前回の講義で配付した「書くこと」の学習材を読み、単元で育む価値目標や能力目標、単元の学習の流れを予習レポートにまとめておくこと。(標準学習時間60分)
8回	前回の講義で配付した「読むこと・文学的文章」の学習材を読み、内容分析や指導方法の開発といった教材研究の方法を、予習レポートにまとめておくこと。(標準学習時間60分)
9回	前回の講義で配付した「読むこと(説明的文章)」の学習材を読み、単元で育む価値目標や能力目標等を予習レポートにまとめておくこと。(標準学習時間90分)
10回	前回の講義で配付した「伝統的な言語文化」の学習材を読み、単元で育む能力目標や単元の学習の流れを予習レポートにまとめておくこと。(標準学習時間60分)
11回	前回の講義で配付した「言葉の特徴やきまり」の学習材を読み、単元目標、単元の学習の流れを予

	習レポートにまとめておくこと。(標準学習時間60分)
12回	前回の講義で配付した「毛筆書写」の学習材を検討し、単元で育む書写力や単元の学習の流れを予習レポートにまとめておく。(標準学習時間45分)
13回	前回の講義で配付した資料を読み、「評価」の意義や様々な方法について予習レポートにまとめておくこと。(標準学習時間45分)
14回	前回の講義で配付した「読書教材」を読み、単元で育む読書力や学習の流れを予習レポートにまとめておくこと。(標準学習時間60分)
15回	前回の講義で配付した第1学年入門期の学習材を読み、その特徴を予習レポートにまとめておくこと。(標準学習時間30分)
16回	第8回～第15回までの講義内容を整理し復習しておくこと。(標準学習時間90分)

講義目的	小学校国語科授業に必要な授業実践力を身に付ける。(この講義は初等教育学科の学位授与方針のAに強く関与する。)
達成目標	1 小学校学習指導要領国語編に示された小学校「国語」の目標や指導内容、指導計画作成上の配慮事項について説明できる。(A) 2 教材の特質を深く理解し、小学校「国語」の目標や内容に照らして、教材開発や授業設計、模擬授業をすることができる。(C)
キーワード	小学校「国語」の全体目標、小学校「国語」の学年別目標及び内容(指導事項) 教材研究 学習指導案 模擬授業
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	中間試験、最終評価試験などによって総合的に評価し、総計で60%以上を合格とする。予習レポート:(毎回提出)評価割合10%(達成目標1・2を確認)、授業時間内小レポート:(毎回提出)評価割合10%(達成目標1・2を確認)、中間試験:評価割合30%(達成目標1・2を確認)、最終評価試験:評価割合50%(達成目標1・2を確認)
教科書	小学校学習指導要領解説国語編/文部科学省/東洋館出版社/9784491034621、検定図書国語五銀河/光村図書/9784895286985
関連科目	初等国語科内容論を受講しておくことが望ましい。教材分析・開発演習A(国・社・家)と並行した履修が望ましい。
参考書	『資質・能力ベースの小学校国語科の授業と評価』/中村和弘編著/日本標準/2018 『初等国語科教育』/塚田泰彦、甲斐雄一郎、長田有紀編著/ミネルヴァ書房/2018
連絡先	A1号館 9F 小川研究室
授業の運営方針	・予習レポート及び毎時間の小レポートを、必ず期限内に提出すること ・後半はグループ活動により模擬授業を行う。グループの活動に積極的に参加すること。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク レポートをもとにグループでディスカッションを行う。 とに教材研究、指導案作成を行い、それをもとに模擬授業を行う。
課題に対するフィードバック	予習レポート及び授業時間内的小レポートは採点后、コメントを入れて返却する。最終試験は、試験終了時に模範解答を配付する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、正当な理由から、ディスカッションや教壇に立つことが困難と認められる場合は、代替の措置を検討するので、事前に相談すること。
実務経験のある教員	元公立小学校及び附属小学校教諭、(副)校長:学校現場における経験者がその経験を生かし、国語科授業の教材分析の方法、単元及び1単位時間の授業構想等について解説する。
その他(注意・備考)	実際に教壇に立ち授業をすることを目指し、強い目的意識をもって授業に臨むことが望ましい。

科目名	初等社会科教育法 (FEP02100)
英文科目名	Teaching Social Studies for Primary Education
担当教員名	紙田路子 (かみたみちこ)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション：社会科における3つの資質・能力「生きて働く知識・技能」「思考力・表現力・判断力」「学びに向かう力、人間性」について説明する。
2回	小学校社会科の目標・内容・方法の関連についてについて説明する。説明をもとにワークショップ形式で社会科授業指導案分析を行う。
3回	学習指導案、および実践記録の分析を通して「問題解決」型社会科の目標・内容・方法を理解する。また議論を通してそのよさや課題について考察する。
4回	学習指導案、および実践記録の分析を通して「理解」型社会科の目標・内容・方法を理解する。また議論を通してそのよさや課題について考察する。
5回	学習指導案、および実践記録の分析を通して「説明」型社会科の目標・内容・方法を理解する。また議論を通してそのよさや課題について考察する。
6回	学習指導案、および実践記録の分析を通して「価値判断・意思決定」型社会科の目標・内容・方法を理解する。また議論を通してそのよさや課題について考察する。
7回	中学年社会科における授業例（3年生の地域学習）の分析を通して地域素材の教材化の視点と方法を理解する。
8回	中学年社会科における授業例（4年生の地域学習）の分析を通して地域素材の教材化の視点と方法を理解する。
9回	高学年社会科における授業例（5年生の産業学習）の分析を通して社会システムの教材化の視点と方法を理解する。
10回	高学年社会科における授業例（6年生の歴史学習及び政治学習）の分析を通して、歴史や政治・法システムの教材化の視点と方法を理解する。
11回	模擬授業を行う（3人×30分）
12回	模擬授業を行う（3人×30分）
13回	模擬授業を行う（3人×30分）
14回	模擬授業の振り返りを行い、全体での模擬授業の準備をグループごとに行う。社会科授業における評価基準及び支援について理解する。
15回	模擬授業を行う(30分×2) 授業研究を行い授業の改善案を構築する。
16回	最終評価試験を行う。試験後模範解答の提示と内容についての解説を行う。

回数	準備学習
1回	初等社会科教育法のシラバスや平成29年度版学習指導要領に目を通し、学習の過程を把握しておくこと。(1.5時間)
2回	平成29年度版学習指導要領解説社会科編の「第1章 総説」および「第2章 社会科の目標及び内容」に目を通し、社会科の目標について整理しておくこと。(1.5時間)
3回	前回の講義で配布した「問題解決」型授業の授業計画書と実践例の資料に目を通し、よさや課題について分析し、まとめておくこと。(2時間) レポートとして提出すること
4回	前回の講義で配布した「理解」型授業の授業計画書と実践例の資料に目を通し、よさや課題について分析し、まとめておくこと。(2時間) レポートとして提出すること。
5回	前回の講義で配布した「説明」型授業の授業計画書と実践例の資料に目を通し、よさや課題について分析し、まとめておくこと。(2時間) レポートとして提出すること。
6回	前回の講義で配布した「価値判断・意思決定」型授業の授業計画書と実践例の資料に目を通し、よさや課題について分析し、まとめておくこと。(2時間) レポートとして提出すること。
7回	前回の講義で配布した小学校中学年の教材（第3学年単元「お店とわたしたちの生活」「昔の暮らしと今の暮らし」等）をもとに、授業案を作成すること。(2時間) レポートとして提出すること。
8回	前回の講義で配布した小学校中学年の教材（第4学年単元「水はどこから」「ごみの旅」等）をもとに、授業案を作成すること。(2時間) レポートとして提出すること。
9回	前回の講義で配布した小学校高学年の教材（第5学年単元「工業とわたしたちの生活」「日本の農業」等）をもとに授業案を作成すること。(2時間) レポートとして提出すること。
10回	前回の講義で配布した小学校高学年の教材（第6学年単元「3人の武将と天下統一」「わたしたちの暮らしと日本国憲法」等）をもとに授業案を作成すること。(2時間) レポートとして提出すること。
11回	これまで作成した授業案の中から模擬授業を行う授業を選び、講義内容をもとに修正し、模擬授業

	の準備をすること。(2時間)
12回	これまで作成した授業案の中から模擬授業を行う授業を選び、前回の模擬授業の評価をもとに修正し準備すること。(2時間)
13回	これまで作成した授業案の中から模擬授業を行う授業を選び、前回の模擬授業の評価をもとに修正し準備すること。(2時間)
14回	これまでの模擬授業の評価を基に自己の作成した授業案を修正すること。(1.5時間) レポートとして提出すること。
15回	第14回の講義で修正した自己の授業案の観点別評価表を作成しておくこと。(2時間) レポートとして提出すること。
16回	社会科授業設計のためのキーワードをもとにこれまでの総復習をしておくこと。(4時間)

講義目的	小学校社会科授業における授業実践力を身に着ける。(この講義は初等教育学科の学位授与方針のAに強く関与する)
達成目標	1. 学習指導要領に示された初等社会科の目標や内容、指導上の留意点について説明できる。(A) 2. 学習指導要領に示された資質・能力の3つの柱に基づく初等社会科の評価基準および評価方法について説明できる。(A) 3. 社会科の目標・内容に応じて教材開発や授業設計ができる。(C) 4. 具体的な授業を想定した授業設計を行い、模擬授業の実施とその振り返りを通して、PDCAの方法を身に着けることができる。(C)
キーワード	「生きて働く知識・技能」「思考力・表現力・判断力」「学びに向かう力、人間性」「問題解決」型社会科、「理解」型社会科、「説明」型社会科、「価値判断・意思決定」型社会科 目標、内容、方法の連関、評価基準、観点別評価、模擬授業、PDCA
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験40%(主に達成目標1・2を評価)、グループによる模擬授業30%(主に達成目標3・4を評価)、毎時間実施するミニレポート及び課題レポート30%(主に達成目標3を評価)により評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。ただし最終評価試験において基準点を設け、得点が100点中60点未満は不合格とする。
教科書	『小学校学習指導要領 解説 社会編』/文部科学省/東洋館出版社 その他、必要な資料等は講義の中で適宜配布する。
関連科目	初等社会科内容論を受講しておくことが望ましい。 教材開発・分析演習A(国・社・家)を受講しておくことが望ましい。
参考書	『社会科固有の授業論 30の提言』/岩田一彦/明治図書/2001年 『新社会科授業づくりハンドブック』/全国社会科教育学会編/明治図書/2015年 『社会科の授業診断 良い授業に潜む危うさ研究』/棚橋健治/明治図書/2007年
連絡先	A1号館 9F 紙田研究室
授業の運営方針	・毎時間のミニレポート及び課題レポートを必ず期限内に提出すること。 ・後半はグループ活動により授業を行う。遅刻・課題未提出等グループに迷惑をかけることが重なりと欠席扱いとすることがあるので十分注意すること。 ・講義資料は講義開始時に配布する。なお、特別な事情のない限り後日の配布には応じない
アクティブ・ラーニング	・ディスカッション：課題レポートをもとにグループでディスカッション、ワークショップを行う。 ・グループワーク：授業の後半にグループで単元計画を作成し、それをもとに模擬授業を行う。
課題に対するフィードバック	・課題レポート、およびミニレポートは添削・評価の後次時の授業時間に返却する。 ・模擬授業については、グループ間の相互評価の後、総括・評価を行う。 ・最終評価試験を60分行い、30分で模範解答の解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。
実務経験のある教員	元公立小学校教諭：学校現場における教育経験者が、その経験を生かして、社会科授業を単元計画の作成の方法、1時間の授業構成、教材分析の方法等について解説する。
その他(注意・備考)	・実際に授業に立つことを考え、高い目的意識をもって講義に臨むことが望ましい。 ・社会科は「社会を知る」教科である、という特性を持つ。日ごろから新聞やニュースに目を通し、社会に関心をもつことが望ましい。

科目名	算数科教育法 (FEP02200)
英文科目名	Teaching Arithmetic
担当教員名	黒崎東洋郎 (くろさきとよお)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義
授業内容	算数科では、学力の3要素にそくして「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「新たな学びに向かう力」の育成が重視されている。具体的には「算数の知識・技能」「数学的な見方考え方を働かせて、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力の育成」「新しい算数の学びに向かう関心・意欲・態度」を確実に身につけさせるための教育実践の方法を学ぶ必要がある。算数科では、とすれば、算数の指導内容を教え込み、後は繰り返し練習するような算数教育は、変化の激しい時代には適当でない。算数科教育法では、アクティブラーニングの視点に立って、具体物を用いた数学的活動を通して、数量や図形概念や原理を実感的に理解する授業、数学的活動を通して構成した自分の考えを、言語化し、記号化するアプローチを重視する授業、自分の考えを根拠を明確にして説明し、伝え合い、自分はもちろん他者や学級集団の数学的な考えを拡張させ、深化させる深い学びを構成する授業等を、模擬授業や模擬授業の「省察活動」を取り込んで、児童中心の新しい算数科教育法を確実に習得させるようにする。
準備学習	算数科は系統的、体系的に算数授業実践ができるように教科教育法を身につけさせる必要がある。4領域の中核となる教材を受講生に事前にアナウンスし、受講生は準備学習として、教材の位置付け、知識・技能だけでなく、その教材における「数学的な見方・考え方」を具体化するなど教材分析をする。さらには、教室での模擬授業を想定して、アクティブラーニングの視点に立って児童が主体的に、対話的に深い学びことのできる授業デザイン(学習指導案)を設計して、授業に持ち寄るものとする。
講義目的	数学的な見方考え方を道具として働かせて、外的及び内的な数学的活動を通して、数量や図形に関する知識・技能を習得させ、数学的に考えさせる資質能力を育み、新しい算数の学習に能動的に取り組む態度を育成するなど、算数科の実践的な指導法や指導力の基礎を確実に身につけさせる(DPに關与する項目:A・Bに關する習得)
達成目標	「数学的な見方考え方を働かせて、数学的活動を通して、数学的に考える(A)」という資質・能力を育むため、算数科を担当する上で最小限必要な実践的な指導法や指導力の基礎を身に付け、指導案作成や模擬授業ができる(DPに關与:A・B)。
キーワード	算数の主体的学び、数学的活動、数学的な見方・考え方を働かせる、数学的に考える、統合的・発展的思考、振り返り、批判的思考力、対話、深い学び
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	学習指導案及び模擬授業を踏まえた授業改善案(A・B)40%、模擬授業の実践的指導力(A・B)30%、教材分析・省察活動を反映した課題レポート(A・B)30%
教科書	学習指導要領解説算数科編、検定教科書「わくわく算数」啓林館
関連科目	算数科内容論、算数科教材研究・教材開発、教育実習、理数教育の方法と実践
参考書	金本、赤井、池野、黒崎著、「算数科、「深い学びを実現させる理論と実践」、東洋館、2017。志水、黒崎他、「小学校算数科の指導」、kenpakusya、2010。
連絡先	教育学部初等教育学科、A1号館906室、オフィスアワー、月曜日午前中、木曜日午後、TEL 086-256-8475
授業の運営方針	反転授業を中核にし、協働的な模擬授業案の作成、模擬授業、模擬授業の協働的な省察会、授業改善案作成等、より算数教育実践的指導力が身につく演習を多用する。
アクティブ・ラーニング	予習を通して、授業では、理論知に基づき、小グループによる協働的な授業設計、模擬授業、省察会、授業改善案の作成をアーギュメントさせ、フォークベタゴジーを共有する活動にする。
課題に対するフィードバック	重点的な模擬授業の設計、省察、改善案作成に当たっては、適時、指導のポイントを助言する。課題レポートについては、キーワードを基に、解答モデルを口頭で解説する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談ください。
実務経験のある教員	公立学校、岡山大学付属学校、教育委員会指導課の実務が経験があり、デマンドサイトのニーズに応じた算数科教育法の授業を展開します。
その他(注意・備考)	模擬授業についてのみ録画する。授業の省察をするための基礎資料とであり、教室外へのデータ持ち出しは禁止とします。

科目名	初等理科教育法(A) (FEP02300)
英文科目名	Teaching Science for Primary Education
担当教員名	山下浩之(やましたひろゆき)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	本講義のオリエンテーションを行うとともに、小学校での理科指導についての学習指導要領での目標・学習過程等を解説する。
2回	学習器具の取り扱い方、および安全面への配慮、試薬の調整について解説する。
3回	科学のそれぞれの事象や現象に対する児童の素朴な考え方と研究者の考え方との違いを議論し、科学的な見方・考え方の本質を捉えるようにする。
4回	事象・現象の理解を促進するためのイメージ図の書き方、アナロジー、メタファーについて事例を挙げながら解説する。
5回	理科学習における評価について解説する。評価の方法、評価基準、評価規準、および形成的評価について解説する。
6回	第1回目の模擬授業を行う。模擬授業の中の指導に関する問題点を指摘し、改善点を議論する。
7回	第2回目の模擬授業を行う。模擬授業の中の指導に関する問題点を指摘し、改善点を議論する。
8回	第3回目の模擬授業を行う。模擬授業の中の指導に関する問題点を指摘し、改善点を議論する。
9回	第4回目の模擬授業を行う。模擬授業の中の指導に関する問題点を指摘し、改善点を議論する。
10回	第5回目の模擬授業を行う。模擬授業の中の指導に関する問題点を指摘し、改善点を議論する。
11回	第6回目の模擬授業を行う。模擬授業の中の指導に関する問題点を指摘し、改善点を議論する。
12回	第7回目の模擬授業を行う。模擬授業の中の指導に関する問題点を指摘し、改善点を議論する。
13回	第8回目の模擬授業を行う。模擬授業の中の指導に関する問題点を指摘し、改善点を議論する。
14回	第9回目の模擬授業を行う。模擬授業の中の指導に関する問題点を指摘し、改善点を議論する。
15回	第10回目の模擬授業を行う。模擬授業の中の指導に関する問題点を指摘し、改善点を議論する。

回数	準備学習
1回	小学校学習指導要領理科編を各学年ごとにまとめ、目標と内容を十分に理解しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	安全は最も指導者が配慮すべき問題である。火気の取り扱い方法やアルコールの特性および保管法など十分に予習しておくこと。(標準学習時間60分)
3回	科学的な見方・考え方とはどのようなことを意味しているのかを自分なりにまとめ、議論に備えておくこと。(標準学習時間60分)
4回	科学でモデルは重要な位置を占めるが、モデルとは何かを議論を通して考え、児童の素朴な概念から科学に近づく過程を自分なりに考えておくこと。(標準学習時間60分)
5回	理科学習での評価にはどのような評価があり、どのような観点から評価を行うのか、1つの単元を例にとって自分なりに考えておくこと。(標準学習時間60分)
6回	模擬授業の準備を行うこと。安全面・評価法・教材の選定など必ず意味を持たせること。他のグループに対しては必ず改善案を提案すること。(標準学習時間56分)
7回	模擬授業の準備を行うこと。安全面・評価法・教材の選定など必ず意味を持たせること。他のグループに対しては必ず改善案を提案すること。(標準学習時間57分)
8回	模擬授業の準備を行うこと。安全面・評価法・教材の選定など必ず意味を持たせること。他のグループに対しては必ず改善案を提案すること。(標準学習時間58分)
9回	模擬授業の準備を行うこと。安全面・評価法・教材の選定など必ず意味を持たせること。他のグループに対しては必ず改善案を提案すること。(標準学習時間59分)
10回	模擬授業の準備を行うこと。安全面・評価法・教材の選定など必ず意味を持たせること。他のグループに対しては必ず改善案を提案すること。(標準学習時間60分)
11回	模擬授業の準備を行うこと。安全面・評価法・教材の選定など必ず意味を持たせること。他のグループに対しては必ず改善案を提案すること。(標準学習時間60分)
12回	模擬授業の準備を行うこと。安全面・評価法・教材の選定など必ず意味を持たせること。他のグループに対しては必ず改善案を提案すること。(標準学習時間60分)
13回	模擬授業の準備を行うこと。安全面・評価法・教材の選定など必ず意味を持たせること。他のグループに対しては必ず改善案を提案すること。(標準学習時間60分)
14回	模擬授業の準備を行うこと。安全面・評価法・教材の選定など必ず意味を持たせること。他のグループに対しては必ず改善案を提案すること。(標準学習時間60分)
15回	模擬授業を総括し、様々な事例と比較しながら、まとめておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	児童が目的意識を持って観察実験を行い、科学的に調べる能力や態度を育てるためには教師自身が十分な知識と技能を習得する必要がある。この授業では各学年の理科の目標や学習内容をどのよう
------	--

	な指導法でアプローチするかを検討し、さらに学習者の評価の方法も学ぶ。後半は模擬授業での相互評価を行いながら授業実践の力量を身につける。この目的は学位授与の方針BおよびDに関連する科目である。
達成目標	1) 児童が学習内容を十分に理解するためには、実際の授業でどのような目標設定を行い、どのような教材を設定し、どのような授業構成にし、どのような評価を行うか等、様々な点から理科学習を検討することができる。(B) 2) 様々な指導法をグループで検討した上で実際の授業を行い、改善を繰り返しながら「授業の作り方」を自分なりに行うことができる。(D)
キーワード	指導法の理解、指導の実践、模擬授業、相互評価
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	学習指導案30%、授業評価レポート30%、模擬授業40%の点数を合計し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	小学校学習指導要領解説理科編/文部科学省/大日本図書(2017)/MEXT1-1706
関連科目	初等理科教育法
参考書	高等学校で学ぶ生物基礎・化学基礎・物理基礎・地学基礎(出版社は問わない)
連絡先	山下研究室A1号館10F 1012 直通電話 086-256-9624 E-mail:yamashita ped.ous.ac.jp(はat sign) オフィスアワー 木曜日4・5時限
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・予習復習および補足を必要とする内容についてはMomo-campusに配信する。 ・実験時には安全面に十分に留意する。白衣・安全ゴーグル着用のこと。長髪は括ること。 ・授業の始めに出席をとるが、返答がない場合は遅刻あるいは欠席扱いにするので注意すること。 ・遅刻は15分までは認めるがそれ以降は欠席扱いにする。 ・全てのレポートを期限内に提出すること。期限を過ぎての提出は減点対象にする。 ・入室退室時および教室使用上のルールを厳守すること。注意については第1回目にアナウンスする。 ・最終評価試験は実施しないので、授業時間と授業時間外での活動が重要である。課題レポート等にコピーなどの剽窃がある場合は成績評価の対象としない場合もある。
アクティブ・ラーニング	<p>ディスカッション・プレゼンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導案等は自分自身で作成し、授業を行い、その結果や考察についてのオーラルプレゼンテーションを行う。 ・授業中のグループディスカッションを通してテーマを深めていく。さらにグループで意見を集約して発表する。 ・リフレクションノートにより相互評価、自己評価を行う。
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・予習復習課題は採点后、返却する。 ・課題についてはその内容を各自プレゼンテーションし、内容を学生全体で共有した上で相互評価する。 ・課題についての補足やフィードバックに関する情報はMomocampusで行う場合がある。
合理的配慮が必要な学生への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・講義中の録音・録画・撮影は個人で利用する場合に限り、許可する場合がありますので事前に相談すること。 ・障害に応じて補助器具(ICレコーダー、タブレット型端末の撮影、録画機能)の使用を認めるので、事前に相談すること。 ・配布資料や録画データなどは他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)や転用は禁止する。
実務経験のある教員	ア)元小学校勤務イ)学校現場の経験を活かして、今日的な教育的な課題(理科室の運営、安全に配慮した実験等)とその対策方法について講義する。
その他(注意・備考)	

科目名	初等理科教育法(B) (FEP02310)
英文科目名	Teaching Science for Primary Education
担当教員名	山下浩之(やましたひろゆき)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	本講義のオリエンテーションを行うとともに、小学校での理科指導についての学習指導要領での目標・学習過程等を解説する。
2回	学習器具の取り扱い方、および安全面への配慮、試薬の調整について解説する。
3回	科学のそれぞれの事象や現象に対する児童の素朴な考え方と研究者の考え方との違いを議論し、科学的な見方・考え方の本質を捉えるようにする。
4回	事象・現象の理解を促進するためのイメージ図の書き方、アナロジー、メタファーについて事例を挙げながら解説する。
5回	理科学習における評価について解説する。評価の方法、評価基準、評価規準、および形成的評価について解説する。
6回	第1回目の模擬授業を行う。模擬授業の中の指導に関する問題点を指摘し、改善点を議論する。
7回	第2回目の模擬授業を行う。模擬授業の中の指導に関する問題点を指摘し、改善点を議論する。
8回	第3回目の模擬授業を行う。模擬授業の中の指導に関する問題点を指摘し、改善点を議論する。
9回	第4回目の模擬授業を行う。模擬授業の中の指導に関する問題点を指摘し、改善点を議論する。
10回	第5回目の模擬授業を行う。模擬授業の中の指導に関する問題点を指摘し、改善点を議論する。
11回	第6回目の模擬授業を行う。模擬授業の中の指導に関する問題点を指摘し、改善点を議論する。
12回	第7回目の模擬授業を行う。模擬授業の中の指導に関する問題点を指摘し、改善点を議論する。
13回	第8回目の模擬授業を行う。模擬授業の中の指導に関する問題点を指摘し、改善点を議論する。
14回	第9回目の模擬授業を行う。模擬授業の中の指導に関する問題点を指摘し、改善点を議論する。
15回	第10回目の模擬授業を行う。模擬授業の中の指導に関する問題点を指摘し、改善点を議論する。

回数	準備学習
1回	小学校学習指導要領理科編を各学年ごとにまとめ、目標と内容を十分に理解しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	安全は最も指導者が配慮すべき問題である。火気の取り扱い方法やアルコールの特性および保管法など十分に予習しておくこと。(標準学習時間60分)
3回	科学的な見方・考え方とはどのようなことを意味しているのかを自分なりにまとめ、議論に備えておくこと。(標準学習時間60分)
4回	科学でモデルは重要な位置を占めるが、モデルとは何かを議論を通して考え、児童の素朴な概念から科学に近づく過程を自分なりに考えておくこと。(標準学習時間60分)
5回	理科学習での評価にはどのような評価があり、どのような観点から評価を行うのか、1つの単元を例にとって自分なりに考えておくこと。(標準学習時間60分)
6回	模擬授業の準備を行うこと。安全面・評価法・教材の選定など必ず意味を持たせること。他のグループに対しては必ず改善案を提案すること。(標準学習時間56分)
7回	模擬授業の準備を行うこと。安全面・評価法・教材の選定など必ず意味を持たせること。他のグループに対しては必ず改善案を提案すること。(標準学習時間57分)
8回	模擬授業の準備を行うこと。安全面・評価法・教材の選定など必ず意味を持たせること。他のグループに対しては必ず改善案を提案すること。(標準学習時間58分)
9回	模擬授業の準備を行うこと。安全面・評価法・教材の選定など必ず意味を持たせること。他のグループに対しては必ず改善案を提案すること。(標準学習時間59分)
10回	模擬授業の準備を行うこと。安全面・評価法・教材の選定など必ず意味を持たせること。他のグループに対しては必ず改善案を提案すること。(標準学習時間60分)
11回	模擬授業の準備を行うこと。安全面・評価法・教材の選定など必ず意味を持たせること。他のグループに対しては必ず改善案を提案すること。(標準学習時間60分)
12回	模擬授業の準備を行うこと。安全面・評価法・教材の選定など必ず意味を持たせること。他のグループに対しては必ず改善案を提案すること。(標準学習時間60分)
13回	模擬授業の準備を行うこと。安全面・評価法・教材の選定など必ず意味を持たせること。他のグループに対しては必ず改善案を提案すること。(標準学習時間60分)
14回	模擬授業の準備を行うこと。安全面・評価法・教材の選定など必ず意味を持たせること。他のグループに対しては必ず改善案を提案すること。(標準学習時間60分)
15回	模擬授業を総括し、様々な事例と比較しながら、まとめておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	児童が目的意識を持って観察実験を行い、科学的に調べる能力や態度を育てるためには教師自身が十分な知識と技能を習得する必要がある。この授業では各学年の理科の目標や学習内容をどのよう
------	--

	な指導法でアプローチするかを検討し、さらに学習者の評価の方法も学ぶ。後半は模擬授業での相互評価を行いながら授業実践の力量を身につける。この目的は学位授与の方針BおよびDに関連する科目である。
達成目標	1) 児童が学習内容を十分に理解するためには、実際の授業でどのような目標設定を行い、どのような教材を設定し、どのような授業構成にし、どのような評価を行うか等、様々な点から理科学習を検討することができる。(B) 2) 様々な指導法をグループで検討した上で実際の授業を行い、改善を繰り返しながら「授業の作り方」を自分なりに行うことができる。(D)
キーワード	指導法の理解、指導の実践、模擬授業、相互評価
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	学習指導案30%、授業評価レポート30%、模擬授業40%の点数を合計し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	小学校学習指導要領解説理科編/文部科学省/大日本図書(2017)/MEXT1-1706
関連科目	初等理科教育法
参考書	高等学校で学ぶ生物基礎・化学基礎・物理基礎・地学基礎(出版社は問わない)
連絡先	山下研究室A1号館10F 1012 直通電話 086-256-9624 E-mail:yamashita ped.ous.ac.jp(はat sign) オフィスアワー ー 木曜日4・5時限
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・予習復習および補足を必要とする内容についてはMomo-campusに配信する。 ・実験時には安全面に十分に留意する。白衣・安全ゴーグル着用のこと。長髪は括ること。 ・授業の始めに出席をとるが、返答がない場合は遅刻あるいは欠席扱いにするので注意すること。 ・遅刻は15分までは認めるがそれ以降は欠席扱いにする。 ・全てのレポートを期限内に提出すること。期限を過ぎての提出は減点対象にする。 ・入室退室時および教室使用上のルールを厳守すること。注意については第1回目にアナウンスする。 ・最終評価試験は実施しないので、授業時間と授業時間外での活動が重要である。課題レポート等にコピーなどの剽窃がある場合は成績評価の対象としない場合もある。
アクティブ・ラーニング	<p>ディスカッション・プレゼンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導案等は自分自身で作成し、授業を行い、その結果や考察についてのオーラルプレゼンテーションを行う。 ・授業中のグループディスカッションを通してテーマを深めていく。さらにグループで意見を集約して発表する。 ・リフレクションノートにより相互評価、自己評価を行う。
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・予習復習課題は採点后、返却する。 ・課題についてはその内容を各自プレゼンテーションし、内容を学生全体で共有した上で相互評価する。 ・課題についての補足やフィードバックに関する情報はMomocampusで行う場合がある。
合理的配慮が必要な学生への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・講義中の録音・録画・撮影は個人で利用する場合に限り、許可する場合がありますので事前に相談すること。 ・障害に応じて補助器具(ICレコーダー、タブレット型端末の撮影、録画機能)の使用を認めるので、事前に相談すること。 ・配布資料や録画データなどは他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)や転用は禁止する。
実務経験のある教員	ア)元小学校勤務イ)学校現場の経験を活かして、今日的な教育的な課題(理科室の運営方法、安全に配慮した実験等)とその対策方法について講義する。
その他(注意・備考)	

科目名	生活科教育法 (FEP02400)
英文科目名	Teaching Living Environment Studies
担当教員名	筒井愛知* (つついよしとも*)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	生活科という教科の誕生や、教科の成り立ち、他教科との関連などについて考える。
2回	現代社会におけるこどもの生活課題と生活科の役割について考える。
3回	単元と年間指導計画、年間指導計画と単元指導計画の関係について理解し、指導計画を立てるための手がかりについて考える。
4回	こどもの実態に応じた、生活科の目標の設定について考える。
5回	身近な素材を生かした生活科の授業づくりについて考える。
6回	学校探検、まち探検を題材に、生活科の授業を構成を考える。
7回	昔遊びを題材に、生活科の授業の構成を考える。
8回	学ぶことの喜びや自分の成長を感じられるような、生活科の授業を考える。
9回	生活科の評価について考える。
10回	学習指導案を作成し、模擬授業を行い、相互に評価する。
11回	学習指導案を作成し、模擬授業を行い、相互に評価する。
12回	学習指導案を作成し、模擬授業を行い、相互に評価する。
13回	学習指導案を作成し、模擬授業を行い、相互に評価する。
14回	学習指導案を作成し、模擬授業を行い、相互に評価する。
15回	生活科という教科について振り返る。

回数	準備学習
1回	生活科の歴史について簡単に調べておく(30分)
2回	現代社会のこどもの抱える問題について、自分なりにまとめておく(60分)
3回	学習指導要領を読み直しておく(90分)。
4回	どのようなタイプの学校があるのか、網羅的でなくてよいので調べておく(60分)。
5回	身近にある様々な素材を元に、どんな教材になるかを10~20個程度考えておく(60分)。
6回	探検の活動の持つ可能性について、探検の活動がどのような学習に発展するかを、考えておく(60分)。
7回	昔遊びをやってみる(60分)。
8回	自分が、どんな時に成長の喜びを感じることができたかを、思いだしておく(60分)。
9回	他教科の評価に関する内容につて、復習しておく(60分)。
10回	指導案を作成する(90分)
11回	指導案を作成する(90分)
12回	指導案を作成する(90分)
13回	指導案を作成する(90分)
14回	指導案を作成する(90分)
15回	14回の授業を振り返る(90分)

講義目的	生活科の誕生の背景と意義について知り、生活科の役割について検討する。 具体的な授業の構成ができるようになるために、年間指導計画や単元指導計画などを考えながら、単元の構成を創り上げる力を養う。 他教科との合科や、2年間を見通しての指導計画、幼稚園保育園こども園との連携、他学年との連携、地域や家庭との連携、総合学習との接続などを理解し、実践する力を養う。学位授与の方針Aに関わる科目である。
達成目標	(1)教科の位置付けを理解できる(A) (2)生活科の特性がわかり他教科との相違を説明できる(A) (3)学習指導要領に明記されている生活科の目標及び内容について理解できる(A) (4)生活科の授業(活動)について、具体的な展開方法を検討できる(A)
キーワード	生活、社会、理科、環境、遊び、コミュニケーション
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	レポート(50%)、授業で行う演習(30%)、授業中の活動(20%)を総合して評価する。
教科書	小学校学習指導要領解説生活編/文部科学省/日本文教出版
関連科目	生活科内容論 教材分析・開発演習B(算数、理科、生活)
参考書	適宜指定する

連絡先	ph6y-tti@j.asahi-net.or.jp 筒井愛知
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の始めに出席をとるが、返答がない場合は遅刻あるいは欠席扱いにするので注意すること。 ・遅刻は15分までは認めるがそれ以降は欠席扱いにする。 ・全てのレポートを期限内に提出すること。期限を過ぎての提出は減点の対象にする。 ・最終評価試験は実施しないので授業時間と授業時間外での活動が重要である。課題レポート等にコピーなどの剽窃がある場合は、成績評価の対象としない場合もある。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・毎回のレポート「質問」には次回の講義内で返答する。
合理的配慮が必要な学生への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・講義中の録音・録画・撮影は個人で利用する場合に限り、許可する場合がありますので事前に相談すること。 ・障害に応じて補助器具（ICレコーダー、タブレット型端末の撮影、録画機能）の使用を認めるので、事前に相談すること。 ・配布資料や録画データなどは他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）や転用は禁止する。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	受け身ではなく積極的に授業に参加する態度が望まれる。

科目名	初等音楽科教育法(B) (FEP02500)
英文科目名	Teaching Music for Primary Education
担当教員名	井本美穂 (いもとみほ)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして、小学校学習指導要領の変遷と新小学校学習指導要領(音楽)の解釈について説明する。
2回	年間指導計画の立て方、評価の観点と評価方法、音楽科学習指導案作成の仕方を説明する。
3回	歌唱指導法と歌唱教材研究について説明する。
4回	歌唱の学習指導案作成について説明する。
5回	低学年の歌唱指導の模擬授業と討議をとおして、効果的な指導法について説明する。
6回	中学年の歌唱指導の模擬授業と討議をとおして、効果的な指導法について説明する。
7回	高学年の歌唱指導の模擬授業と討議をとおして、効果的な指導法について説明する。
8回	鑑賞指導法と鑑賞教材研究について説明する。
9回	鑑賞の学習指導案作成について説明する。
10回	器楽指導法と器楽教材研究について説明する。
11回	器楽の学習指導案作成について説明する。
12回	器楽指導の模擬授業と討議をとおして、効果的な指導法について説明する。
13回	創作指導法と創作教材研究について説明する。
14回	創作の学習指導案作成について説明する。
15回	創作指導の模擬授業と討議をとおして、効果的な指導法について説明する。
16回	自己課題レポート提出

回数	準備学習
1回	事前に小学校学習指導要領解説(音楽編)の内容を読んでおくこと。(標準学習時間60分)
2回	小学校学習指導要領(音楽)における音楽科の領域ごとの目標を復習しておくこと。学習指導要領解説(音楽編)の「指導計画の作成と内容の取扱い」の部分を読んでおくこと。(標準学習時間80分)
3回	歌唱の目標および指導内容を復習し、自分の扱う教材を選定しておくこと。(標準学習時間100分)
4回	各自選定した教材に基づく指導案を書いておくこと。(標準学習時間120分)
5回	低学年の段階を考慮した歌唱指導の模擬授業に向けて、準備すること(標準学習時間120分)
6回	中学年の段階を考慮した歌唱指導の模擬授業に向けて、準備すること(標準学習時間120分)
7回	高学年の段階を考慮した歌唱指導の模擬授業に向けて、準備すること(標準学習時間120分)
8回	鑑賞の目標および指導内容を復習し、自分の扱う教材を選定しておくこと。(標準学習時間120分)
9回	各自選定した教材に基づく指導案を書いておくこと。(標準学習時間120分)
10回	器楽の目標および指導内容を復習し、自分の扱う教材を選定しておくこと。(標準学習時間120分)
11回	各自選定した教材に基づく指導案を書いておくこと。(標準学習時間120分)
12回	器楽指導の模擬授業に向けて、準備すること(標準学習時間120分)
13回	第12回の授業内容を復習し、移調に関する課題に取り組むこと。(標準学習時間120分)
14回	創作の目標および指導内容を復習し、自分の扱う教材を選定しておくこと。(標準学習時間120分)
15回	創作指導の模擬授業に向けて、準備すること(標準学習時間120分)
16回	これまでの学習を総括し、課題をみつけてレポートを作成すること(標準学習時間180分)

講義目的	小学校学習指導要領の学習および模擬授業を行うことによって、小学校音楽科授業に必要な知識と実践力を習得する。まず小学校学習指導要領の変遷を追い、新小学校学習指導要領(音楽)の位置づけを行う。次に新小学校学習指導要領(音楽)の目標、各領域(A表現、B鑑賞)の指導内容等を学ぶ。また、小学校学習指導要領に基づいた年間指導計画の立て方、評価の観点と方法、学習指導案作成の仕方を理解する。以上をふまえて、領域別の指導法を学び、領域別に小学校音楽科学習指導案を作成する。作成した学習指導案にそって、その一部分について模擬授業を行い、それをもとに討議することによって課題を明らかにし、授業計画の見直しと指導法の改善を検討する。初等教育学科の学位授与方針Aに最も強く関与する。
達成目標	小学校学習指導要領の変遷を理解し、新小学校学習指導要領(音楽)を関係づけることができる。 (C)

	新小学校学習指導要領（音楽）の改訂のポイントを押さえ、内容を十分に説明できる。（A） 領域別指導法等に関する知識および技能を獲得し、音楽科学習指導案を作成できる。（C） 作成した学習指導案に基づき、模擬授業ができる。（A） 模擬授業を振り返り、自分の課題をみつけることができる。（A）
キーワード	音楽科指導法、授業実践力、実技応用力
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	実践的指導力および歌唱・楽器演奏等の表現能力について、授業中のグループ実技発表および模擬授業の発表と討議等をもとに総合的に評価する（60%）（達成目標、を評価）。毎回の小レポートおよび最終レポート課題により、授業の理解度および自己分析力を評価する（40%）（達成目標、を評価）。総計60%以上を合格とする。
教科書	文部科学省 / 『小学校学習指導要領解説 音楽編』 / 教育芸術社 吉富功修編著 / 『小学校音楽科教育法 学力の構築をめざして』 / ふくろう出版
関連科目	初等音楽科内容論、ピアノ奏法I、ピアノ奏法II
参考書	授業内容に添って随時紹介する。授業で補助的に使用する教材は随時配付する。
連絡先	A 1号館 10F 井本研究室 オフィスアワー：月曜日3限、水曜日2限 Email: imoto@ped.ous.ac.jp Tel:086-256-9723
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> すべてのグループ活動を行い、すべてのレポートを期限内に提出すること。 授業では教科書を読む形では進めないで、次回の授業内容に関連する部分を事前に読んでおくこと。 グループ活動により授業を行うので、毎回出席して、真摯に授業に取り組むこと。遅刻してグループに迷惑をかけることが重なり欠席扱いとすることがあるので十分注意すること。 講義資料はWebを通じて配布する。
アクティブ・ラーニング	<p>ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、ライティング</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽授業に関わるトピックについてグループ討議を行い、グループで出た意見を全体で発表する。 グループで実技実践を行い、成果を全体で発表する。 グループで指導案を作成し、模擬授業を行う。 毎回授業の振り返りを記述し、提出する。 講義のまとめとして自己課題を検討し、レポートを提出する。
課題に対するフィードバック	提出課題については、講義中にコメントおよび模範解答を配布するなどしてフィードバックを行う。 最終レポートのフィードバックとして、Web上に模範解答のキーワードを掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障害学習支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・授業案作成や模擬授業実施など、この授業では発表が中心となる。授業の復習とともに、次回の事前準備をしっかりとって授業に臨むこと。

科目名	初等音楽科教育法(A) (FEP02510)
英文科目名	Teaching Music for Primary Education
担当教員名	井本美穂 (いもとみほ)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして、小学校学習指導要領の変遷と新小学校学習指導要領(音楽)の解釈について説明する。
2回	年間指導計画の立て方、評価の観点と評価方法、音楽科学習指導案作成の仕方を説明する。
3回	歌唱指導法と歌唱教材研究について説明する。
4回	歌唱の学習指導案作成について説明する。
5回	低学年の歌唱指導の模擬授業と討議をとおして、効果的な指導法について説明する。
6回	中学年の歌唱指導の模擬授業と討議をとおして、効果的な指導法について説明する。
7回	高学年の歌唱指導の模擬授業と討議をとおして、効果的な指導法について説明する。
8回	鑑賞指導法と鑑賞教材研究について説明する。
9回	鑑賞の学習指導案作成について説明する。
10回	器楽指導法と器楽教材研究について説明する。
11回	器楽の学習指導案作成について説明する。
12回	器楽指導の模擬授業と討議をとおして、効果的な指導法について説明する。
13回	創作指導法と創作教材研究について説明する。
14回	創作の学習指導案作成について説明する。
15回	創作指導の模擬授業と討議をとおして、効果的な指導法について説明する。
16回	自己課題レポート提出

回数	準備学習
1回	事前に小学校学習指導要領解説(音楽編)の内容を読んでおくこと。(標準学習時間60分)
2回	小学校学習指導要領(音楽)における音楽科の領域ごとの目標を復習しておくこと。学習指導要領解説(音楽編)の「指導計画の作成と内容の取扱い」の部分を読んでおくこと。(標準学習時間80分)
3回	歌唱の目標および指導内容を復習し、自分の扱う教材を選定しておくこと。(標準学習時間100分)
4回	各自選定した教材に基づく指導案を書いておくこと。(標準学習時間120分)
5回	低学年の段階を考慮した歌唱指導の模擬授業に向けて、準備すること(標準学習時間120分)
6回	中学年の段階を考慮した歌唱指導の模擬授業に向けて、準備すること(標準学習時間120分)
7回	高学年の段階を考慮した歌唱指導の模擬授業に向けて、準備すること(標準学習時間120分)
8回	鑑賞の目標および指導内容を復習し、自分の扱う教材を選定しておくこと。(標準学習時間120分)
9回	各自選定した教材に基づく指導案を書いておくこと。(標準学習時間120分)
10回	器楽の目標および指導内容を復習し、自分の扱う教材を選定しておくこと。(標準学習時間120分)
11回	各自選定した教材に基づく指導案を書いておくこと。(標準学習時間120分)
12回	器楽指導の模擬授業に向けて、準備すること(標準学習時間120分)
13回	第12回の授業内容を復習し、移調に関する課題に取り組むこと。(標準学習時間120分)
14回	創作の目標および指導内容を復習し、自分の扱う教材を選定しておくこと。(標準学習時間120分)
15回	創作指導の模擬授業に向けて、準備すること(標準学習時間120分)
16回	これまでの学習を総括し、課題をみつけてレポートを作成すること(標準学習時間180分)

講義目的	小学校学習指導要領の学習および模擬授業を行うことによって、小学校音楽科授業に必要な知識と実践力を習得する。まず小学校学習指導要領の変遷を追い、新小学校学習指導要領(音楽)の位置づけを行う。次に新小学校学習指導要領(音楽)の目標、各領域(A表現、B鑑賞)の指導内容等を学ぶ。また、小学校学習指導要領に基づいた年間指導計画の立て方、評価の観点と方法、学習指導案作成の仕方を理解する。以上をふまえて、領域別の指導法を学び、領域別に小学校音楽科学習指導案を作成する。作成した学習指導案にそって、その一部分について模擬授業を行い、それをもとに討議することによって課題を明らかにし、授業計画の見直しと指導法の改善を検討する。初等教育学科の学位授与方針Aに最も強く関与する。
達成目標	小学校学習指導要領の変遷を理解し、新小学校学習指導要領(音楽)を関係づけることができる。 (C)

	<p>新小学校学習指導要領（音楽）の改訂のポイントを押さえ、内容を十分に説明できる。（A）</p> <p>領域別指導法等に関する知識および技能を獲得し、音楽科学習指導案を作成できる。（C）</p> <p>作成した学習指導案に基づき、模擬授業ができる。（A）</p> <p>模擬授業を振り返り、自分の課題をみつけることができる。（A）</p>
キーワード	音楽科指導法、授業実践力、実技応用力
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	実践的指導力および歌唱・楽器演奏等の表現能力について、授業中のグループ実技発表および模擬授業の発表と討議等をもとに総合的に評価する（60%）（達成目標、を評価）。毎回の小レポートおよび最終レポート課題により、授業の理解度および自己分析力を評価する（40%）（達成目標、を評価）。総計60%以上を合格とする。
教科書	文部科学省 / 『小学校学習指導要領解説 音楽編』 / 教育芸術社 吉富功修編著 / 『小学校音楽科教育法 学力の構築をめざして』 / ふくろう出版
関連科目	初等音楽科内容論、ピアノ奏法I、ピアノ奏法II
参考書	授業内容に添って随時紹介する。授業で補助的に使用する教材は随時配付する。
連絡先	A 1号館 10F 井本研究室 オフィスアワー：月曜日3限、水曜日2限 Email: imoto@ped.ous.ac.jp Tel:086-256-9723
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> すべてのグループ活動を行い、すべてのレポートを期限内に提出すること。 授業では教科書を読む形では進めないで、次回の授業内容に関連する部分を事前に読んでおくこと。 グループ活動により授業を行うので、毎回出席して、真摯に授業に取り組むこと。遅刻してグループに迷惑をかけることが重なりと欠席扱いとすることがあるので十分注意すること。 講義資料はWebを通じて配布する。
アクティブ・ラーニング	<p>ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、ライティング</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽授業に関わるトピックについてグループ討議を行い、グループで出た意見を全体で発表する。 グループで実技実践を行い、成果を全体で発表する。 グループで指導案を作成し、模擬授業を行う。 毎回授業の振り返りを記述し、提出する。 講義のまとめとして自己課題を検討し、レポートを提出する。
課題に対するフィードバック	提出課題については、講義中にコメントおよび模範解答を配布するなどしてフィードバックを行う。最終レポートのフィードバックとして、Web上に模範解答のキーワードを掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障害学習支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・授業案作成や模擬授業実施など、この授業では発表が中心となる。授業の復習とともに、次回の事前準備をしっかりとって授業に臨むこと。

科目名	図画工作科教育法(A) (FEP02600)
英文科目名	Teaching Arts and Handicrafts for Primary Education
担当教員名	妻藤純子(さいとうじゅんこ)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション(講義の計画とその進め方についての説明)をする。 図画工作科における子どもの表現の今を説明し、現状から課題や教師像についての話し合いをする。
2回	A表現「造形遊び」の学習指導法について説明し、その後、実技を実施し、より理解を深めるようにする。
3回	A表現「絵や立体、工作に表す」の題材について説明し、指導法や準備、危機管理について説明し、その後、題材に応じた場の設定等について話し合い、より理解を深めるようにする。 実技：立体に表す＝粘土
4回	A表現「絵や立体、工作に表す」の「絵に表す(見て描く)」の指導の実際を説明し、その後、実技を実施し、より理解を深めるようにする。 実技：絵に表す＝見て描く
5回	A表現「絵や立体、工作に表す」の「絵に表す(想像して描く)」の指導の実際を説明し、その後、実技を実施し、より理解を深めるようにする。 実技：絵に表す＝想像して描く
6回	A表現「絵や立体、工作に表す」の「版に表す」の指導の実際を説明し、その後、実技を実施し、より理解を深めるようにする。 実技：版に表す＝木版画
7回	A表現「絵や立体、工作に表す」の紙を使った表現の指導の実際を説明し、その後、実技を実施し、より理解を深めるようにする。 実技：紙を使った工作
8回	A表現「絵や立体、工作に表す」の木を使った表現の指導の実際を説明し、その後、実技を実施し、より理解を深めるようにする。 実技：電動糸のこを使った木工作
9回	B鑑賞の指導の実際を説明し、その後、実技として目標に応じた鑑賞教材を選択・分析し、話し合いをする。 実技：美術鑑賞作品分析
10回	デジタル機器を使った表現の指導とその実際について説明し、その後、制作した粘土作品を用いて実技を実施し、より理解を深めるようにする。 実技：デジタルカメラを用いた表現
11回	諸外国の造形教育について説明し、今後の造形教育の動向について理解を深める。学習指導案作成におけるポイントや注意事項等について説明し、グループごとに学習指導案作成に向け、題材や授業展開についての話し合いをする。
12回	学習指導案作成に向け、個々に考えた授業展開について発表し、グループで話し合いをする。
13回	授業評価について説明する。 模擬授業の授業構成、指導の工夫等について話し合う。
14回	模擬授業を実施し、改善点等についての話し合いをする。
15回	模擬授業について振り返り、改善案を話し合う。 児童作品の評価について説明し、講義の総括をする。

回数	準備学習
1回	平成29年告示学習指導要領図画工作編の改訂の趣旨と教科目標、教科書第1章の1・2(p2~9)を読み、説明できるよう内容をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
2回	図画工作科における課題と教師像について復習すること。(標準学習時間30分) 教科書第3章「造形遊び」と第7章7・8・9を読んで内容をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
3回	造形遊びについて、目標と実技を照らし合わせながら、具体的指導法について復習すること。(標準学習時間30分) 教科書第2章8と第4章8を読んで内容をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
4回	「絵や立体、工作に表す」の具体的指導法について復習すること。(標準学習時間30分)

	教科書第2章4と第4章7を読んで内容をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
5回	「絵に表す(見て描く)」の具体的指導法について復習すること。 (標準学習時間30分) 教科書第2章6・7を読んで内容をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
6回	「絵に表す」の具体的指導法について復習すること。(標準学習時間30分) 教科書第7章5と6を読んで内容をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
7回	「版に表す」の具体的指導法について復習すること。(標準学習時間30分) 教科書第2章2・3を読んで内容をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
8回	紙をつかった工作題材の具体的指導法について復習すること。(標準学習時間30分) 教科書第4章9と第7章18・19を読んで内容をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
9回	木を使った工作題材の具体的指導法について復習すること。(標準学習時間30分) 教科書第1章6と第7章22～24を読んで内容をまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
10回	鑑賞の具体的指導法について復習すること。(標準学習時間30分) 教科書第4章11と第7章5・6を読んで内容をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
11回	デジタル機器を用いた題材の具体的指導法について復習すること。(標準学習時間30分) 教科書第6章を読んで内容をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
12回	グループで決定した題材について実施学年に照らし合わせながら、まとめること。(標準学習時間20分) 自分の考えが提案できるように、授業展開(本時案)を作成すること。(標準学習時間120分)
13回	グループで話し合った授業展開の見直しをすること。(標準学習時間20分) 本時案とその実践に必要な掲示物等を作成すること。 (標準学習時間90分)
14回	グループで話し合った授業展開の見直しをすること。(標準学習時間20分) 実践に必要な掲示物等を作成すること。 (標準学習時間90分)
15回	模擬授業を見直し、改善案を提案できるようにまとめ、指導案を作成(修正)する。(標準学習時間90分)

講義目的	教科書に挙げられている題材に基づき、実際に作品を制作することで、小学校学習指導要領図画工作編で述べられている目標や指導事項についての理解を深めるとともに、題材や効果的な指導法を分析する。そして、分析したことをもとに、学習指導案作成や模擬授業に取り組む。本講義を通して、図画工作科における指導内容の深い理解と効果的な指導法を身につけることを目的とする。初等教育学科の学位授与の方針(DP)のAに最も強く関与する。
達成目標	1) 小学校学習指導要領図画工作に述べられていることに照らしながら、児童の発達段階やそれに応じた指導法を具体的に発言や文章で説明することができる。(A) 2) 道具を正しく使い、多様な表現技法を用いながら作品の制作ができる。(C) 3) 実技を通して理解した指導内容や指導法をもとに、学習指導案を作成したり、模擬授業を行ったりすることができる。(A)
キーワード	実技、指導法、教材研究
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	達成目標2に関して、作品20%(作品制作を実施しないときは、講義後のミニレポートで20%)で評価する。 達成目標1、2、3に関して既習事項を生かした模擬授業(指導案含む)で評価する(30%) 達成目標1に関して課題レポートで評価する(50%) 総計で60%以上を合格とする。
教科書	やわらかな感性を育む図画工作科の指導と学び/村田利裕・新関伸也編著/ミネルヴァ書房 :平成29年告示小学校学習指導要領解説 図画工作編/文部科学省/日本文教出版
関連科目	図画工作科内容論 教材分析・開発演習C
参考書	小学校図画工作教科書(日本文教出版・開隆堂)
連絡先	A1号館9階妻藤研究室
授業の運営方針	・すべての実技において作品を完成させ、期限内に提出すること。 ・すべてのレポート提出は期限を守ること。 ・講義資料は講義開始時に配布する。特別な事情がない限り後日配布には応じない。
アクティブ・ラーニング	・ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション 講義課題についてグループ討議を行い、グループごとに意見発表をする。

課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・提出されたレポートは内容等についてコメントを入れて返却する。 ・作品については、コメントを入れて返却する。 ・レポートのフィードバックとして、模範解答に関わるキーワードについてプリントし、後日配布する。
合理的配慮が必要な学生への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。当別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員	<ul style="list-style-type: none"> ア) 元公立小学校・国立大学附属小学校勤務 イ) 学校現場の経験を活かして、現場の実態に応じた具体的かつ実践的な教科の指導法について講義する。
その他（注意・備考）	<ul style="list-style-type: none"> ・実技を行うので、必要な道具等は、各自準備し、必ず持参すること。友達との貸し借りはしないこと。また、大学からの貸し出しもしない。

科目名	図画工作科教育法(B) (FEP02610)
英文科目名	Teaching Arts and Handicrafts for Primary Education
担当教員名	妻藤純子(さいとうじゅんこ)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション(講義の計画とその進め方についての説明)をする。 図画工作科における子どもの表現の今を説明し、現状から課題や教師像についての話し合いをする。
2回	A表現「造形遊び」の学習指導法について説明し、その後、実技を実施し、より理解を深めるようにする。
3回	A表現「絵や立体、工作に表す」の題材について説明し、指導法や準備、危機管理について説明し、その後、題材に応じた場の設定等について話し合い、より理解を深めるようにする。 実技: 立体に表す = 粘土
4回	A表現「絵や立体、工作に表す」の「絵に表す(見て描く)」の指導の実際を説明し、その後、実技を実施し、より理解を深めるようにする。 実技: 絵に表す = 見て描く
5回	A表現「絵や立体、工作に表す」の「絵に表す(想像して描く)」の指導の実際を説明し、その後、実技を実施し、より理解を深めるようにする。 実技: 絵に表す = 想像して描く
6回	A表現「絵や立体、工作に表す」の「版に表す」の指導の実際を説明し、その後、実技を実施し、より理解を深めるようにする。 実技: 版に表す = 木版画
7回	A表現「絵や立体、工作に表す」の紙を使った表現の指導の実際を説明し、その後、実技を実施し、より理解を深めるようにする。 実技: 紙を使った工作
8回	A表現「絵や立体、工作に表す」の木を使った表現の指導の実際を説明し、その後、実技を実施し、より理解を深めるようにする。 実技: 電動糸のこを使った木工作
9回	B鑑賞の指導の実際を説明し、その後、実技として目標に応じた鑑賞教材を選択・分析し、話し合いをする。 実技: 美術鑑賞作品分析
10回	デジタル機器を使った表現の指導とその実際について説明し、その後、制作した粘土作品を用いて実技を実施し、より理解を深めるようにする。 実技: デジタルカメラを用いた表現
11回	諸外国の造形教育について説明し、今後の造形教育の動向について理解を深める。学習指導案作成におけるポイントや注意事項等について説明し、グループごとに学習指導案作成に向け、題材や授業展開についての話し合いをする。
12回	学習指導案作成に向け、個々に考えた授業展開について発表し、グループで話し合いをする。
13回	授業評価について説明する。 模擬授業の授業構成、指導の工夫等について話し合う。
14回	模擬授業を実施し、改善点等についての話し合いをする。
15回	模擬授業について振り返り、改善案を話し合う。 児童作品の評価について説明し、講義の総括をする。

回数	準備学習
1回	平成29年告示学習指導要領図画工作編の改訂の趣旨と教科目標、教科書第1章の1・2(p2~9)を読み、説明できるよう内容をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
2回	図画工作科における課題と教師像について復習すること。(標準学習時間30分) 教科書第3章「造形遊び」と第7章7・8・9を読んで内容をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
3回	造形遊びについて、目標と実技を照らし合わせながら、具体的指導法について復習すること。(標準学習時間30分) 教科書第2章8と第4章8を読んで内容をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
4回	「絵や立体、工作に表す」の具体的指導法について復習すること。(標準学習時間30分)

	教科書第2章4と第4章7を読んで内容をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
5回	「絵に表す(見て描く)」の具体的指導法について復習すること。 (標準学習時間30分) 教科書第2章6・7を読んで内容をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
6回	「絵に表す」の具体的指導法について復習すること。(標準学習時間30分) 教科書第7章5と6を読んで内容をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
7回	「版に表す」の具体的指導法について復習すること。(標準学習時間30分) 教科書第2章2・3を読んで内容をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
8回	紙をつかった工作題材の具体的指導法について復習すること。(標準学習時間30分) 教科書第4章9と第7章18・19を読んで内容をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
9回	木を使った工作題材の具体的指導法について復習すること。(標準学習時間30分) 教科書第1章6と第7章22～24を読んで内容をまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
10回	鑑賞の具体的指導法について復習すること。(標準学習時間30分) 教科書第4章11と第7章5・6を読んで内容をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
11回	デジタル機器を用いた題材の具体的指導法について復習すること。(標準学習時間30分) 教科書第6章を読んで内容をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
12回	グループで決定した題材について実施学年に照らし合わせながら、まとめること。(標準学習時間20分) 自分の考えが提案できるように、授業展開(本時案)を作成すること。(標準学習時間120分)
13回	グループで話し合った授業展開の見直しをすること。(標準学習時間20分) 本時案とその実践に必要な掲示物等を作成すること。 (標準学習時間90分)
14回	グループで話し合った授業展開の見直しをすること。(標準学習時間20分) 実践に必要な掲示物等を作成すること。 (標準学習時間90分)
15回	模擬授業を見直し、改善案を提案できるようにまとめ、指導案を作成(修正)する。(標準学習時間90分)

講義目的	教科書に挙げられている題材に基づき、実際に作品を制作することで、小学校学習指導要領図画工作編で述べられている目標や指導事項についての理解を深めるとともに、題材や効果的な指導法を分析する。そして、分析したことをもとに、学習指導案作成や模擬授業に取り組む。本講義を通して、図画工作科における指導内容の深い理解と効果的な指導法を身につけることを目的とする。初等教育学科の学位授与の方針(DP)のAに最も強く関与する。
達成目標	1) 小学校学習指導要領図画工作に述べられていることに照らしながら、児童の発達段階やそれに応じた指導法を具体的に発言や文章で説明することができる。(A) 2) 道具を正しく使い、多様な表現技法を用いながら作品の制作ができる。(C) 3) 実技を通して理解した指導内容や指導法をもとに、学習指導案を作成したり、模擬授業を行ったりすることができる。(A)
キーワード	実技、指導法、教材研究
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	達成目標2に関して、作品20%(作品制作を実施しないときは、講義後のミニレポートで20%)で評価する。 達成目標1、2、3に関して既習事項を生かした模擬授業(指導案含む)で評価する(30%) 達成目標1に関して課題レポートで評価する(50%) 総計で60%以上を合格とする。
教科書	やわらかな感性を育む図画工作科の指導と学び/村田利裕・新関伸也編著/ミネルヴァ書房 :平成29年告示小学校学習指導要領解説 図画工作編/文部科学省/日本文教出版
関連科目	図画工作科内容論 教材分析・開発演習C
参考書	小学校図画工作教科書(日本文教出版・開隆堂)
連絡先	A1号館9階妻藤研究室
授業の運営方針	・すべての実技において作品を完成させ、期限内に提出すること。 ・すべてのレポート提出は期限を守ること。 ・講義資料は講義開始時に配布する。特別な事情がない限り後日配布には応じない。
アクティブ・ラーニング	・ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション 講義課題についてグループ討議を行い、グループごとに意見発表をする。

課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・提出されたレポートは内容等についてコメントを入れて返却する。 ・作品については、コメントを入れて返却する。 ・レポートのフィードバックとして、模範解答に関わるキーワードについてプリントし、後日配布する。
合理的配慮が必要な学生への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。当別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員	<ul style="list-style-type: none"> ア) 元公立小学校・国立大学附属小学校勤務 イ) 学校現場の経験を活かして、現場の実態に応じた具体的かつ実践的な教科の指導法について講義する。
その他（注意・備考）	<ul style="list-style-type: none"> ・実技を行うので、必要な道具等は、各自準備し、必ず持参すること。友達との貸し借りはしないこと。また、大学からの貸し出しもしない。

科目名	初等家庭科教育法(B) (FEP02700)
英文科目名	Teaching Home Economics for Primary Education
担当教員名	原田省吾 (はらだしょうご)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして本授業の目的と方法、授業計画を説明する。続いて家庭科が成立するまでの経緯について説明する。
2回	今日一般的にみられる学習指導要領に基づいた家庭科の授業構成の現状と課題について説明する。
3回	今日一般的にみられる学習指導要領に基づいた家庭科授業構成原理のもたらししているものについて説明する。
4回	家庭科授業構成の基盤となっている家庭生活認識育成の論理について説明する。
5回	昭和22年度版学習指導要領「実生活で直面する具体的問題の解決」と授業構成について説明する。
6回	昭和31年度版学習指導要領「家庭生活の科学的認識」と授業構成について説明する。
7回	昭和33年～平成元年学習指導要領「実践的な学習による衣食住の技能習得」と授業構成について説明する。
8回	探求としての家庭科の理念について説明する。
9回	探求としての家庭科授業構成について説明する。
10回	平成29年版学習指導要領に示された家庭科の性格と今後の課題について説明する。
11回	グループで共同立案した学習指導案をもとに模擬授業を行い、それについて研究協議をする。(第1、2グループ)
12回	グループで共同立案した学習指導案をもとに模擬授業を行い、それについて研究協議をする。(第3、4グループ)
13回	グループで共同立案した学習指導案をもとに模擬授業を行い、それについて研究協議をする。(第5、6グループ)
14回	グループで共同立案した学習指導案をもとに模擬授業を行い、それについて研究協議をする。(第7、8グループ)
15回	グループで共同立案した学習指導案をもとに模擬授業を行い、それについて研究協議をする。(第9、10グループ)
16回	1回～15回までの総括を行い、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	事前：シラバスを確認し、本授業の全体像を把握しておくこと。 事後：家庭科の歴史についてまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
2回	事前：テキストpp. 9～25を読んでおくこと。 事後：授業プリントを見て復習しておくこと。 (標準学習時間60分)
3回	事前：テキストpp.25～32を読んでおくこと。 事後：授業プリントを見て復習しておくこと。 (標準学習時間60分)
4回	事前：テキストpp.32～39を読んでおくこと。 事後：授業プリントを見て復習しておくこと。 (標準学習時間60分)
5回	事前：テキストpp.39～55を読んでおくこと。 事後：授業プリントを見て復習しておくこと。 (標準学習時間60分)
6回	事前：テキストpp.56～60を読んでおくこと。 事後：授業プリントを見て復習しておくこと。 (標準学習時間60分)
7回	事前：テキストpp.61～73を読んでおくこと。 事後：授業プリントを見て復習しておくこと。 (標準学習時間60分)
8回	事前：テキストpp.75～92を読んでおくこと。 事後：授業プリントを見て復習しておくこと。 (標準学習時間60分)
9回	事前：テキストpp.120～126を読んでおくこと。 事後：授業プリントを見て復習しておくこと。 (標準学習時間60分)

10回	事前：小学校学習指導要領解説家庭編に目を通しておくこと。 事後：授業プリントを見て復習しておくこと。 (標準学習時間60分)
11回	事前：第1回～第11回の授業内容を踏まえ、指導演・教材を準備すること。 事後：指導演に対する評価コメントをグループのメンバーで共有しておくこと。(標準学習時間120分)
12回	事前：第1回～第11回の授業内容を踏まえ、指導演・教材を準備すること。 事後：指導演に対する評価コメントをグループのメンバーで共有しておくこと。(標準学習時間120分)
13回	事前：第1回～第11回の授業内容を踏まえ、指導演・教材を準備すること。 事後：指導演に対する評価コメントをグループのメンバーで共有しておくこと。(標準学習時間120分)
14回	事前：第1回～第11回の授業内容を踏まえ、指導演・教材を準備すること。 事後：指導演に対する評価コメントをグループのメンバーで共有しておくこと。(標準学習時間120分)
15回	事前：第1回～第11回の授業内容を踏まえ、指導演・教材を準備すること。 事後：指導演に対する評価コメントをグループのメンバーで共有しておくこと。(標準学習時間120分)
16回	事前：第1回～第15回までの授業の内容を復習しておくこと。 事後：家庭科の本質と授業構成原理について復習しておくこと。 (標準学習時間120分)

講義目的	小学校学習指導要領に示された家庭科の目標・内容・方法・評価とそれに基づいた授業構成の検討を通して、子どもにとってより意義があり、客観的に根拠づけられた家庭科授業構成について理解する。それに基づいた小学校家庭科の授業を立案し教材・教具を工夫できる能力を身に付ける。初等教育学学位授与の方針(DP)のAと深く関連している。
達成目標	1) 我が国の家庭科授業構成原理と、その原理が子どもにどのような帰結をもたらすかを説明できる(A) 2) 家庭科の本質と独自性を説明できる(A) 3) 家庭科の本質を達成できる家庭科の授業を構成し、教材や教具を工夫することができる(A、C)
キーワード	授業構成 家政生活認識育成 家庭科の本質 探求としての家庭科
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	毎回授業終了時に行う確認テスト：評価割合20%(達成目標1、2を評価) 提出課題、模擬授業：評価割合30%(達成目標1、2、3を評価) 最終評価試験：評価割合50%(達成目標1、2、3を評価) 以上により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	家庭科授業構成研究/佐藤園/自費出版：わたしたちの家庭科5・6/文部科学省検定済教科書/開隆堂：小学校学習指導要領(平成29年告示)解説家庭編/文部科学省/東洋館出版社
関連科目	・初等家庭科内容論 ・教材分析・開発演習A
参考書	必要に応じて適宜紹介する。
連絡先	A1号館 9F 原田研究室 オフィスアワー：木曜3時限、金曜3時限 メールアドレス：harada@ped.ous.ac.jp 電話番号：086-256-9842
授業の運営方針	・講義資料は講義開始時に配付する。再配付を希望する場合は次回の講義終了時まで申し出ること。それ以降の配付はしない。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション ・グループで立案した指導演をもとに模擬授業を行い、その内容についてディスカッションをし相互評価する。
課題に対するフィードバック	・確認テストについては終了時に模範解答を示しフィードバックを行う。 ・提出課題にはコメントを付して返却しフィードバックを行う。 ・最終評価試験については終了後に模範解答と解説を配付する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。当別の理由がある場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	元公立中学校教諭・元教育委員会指導主事：学校現場における教育経験者が、その経験を生かして小学校家庭科の指導に必要な基礎的事項及び技能について解説・指導する。
その他(注意・備考)	

科目名	初等家庭科教育法(A) (FEP02710)
英文科目名	Teaching Home Economics for Primary Education
担当教員名	原田省吾 (はらだしょうご)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして本授業の目的と方法、授業計画を説明する。続いて家庭科が成立するまでの経緯について説明する。
2回	今日一般的にみられる学習指導要領に基づいた家庭科の授業構成の現状と課題について説明する。
3回	今日一般的にみられる学習指導要領に基づいた家庭科授業構成原理のもたらししているものについて説明する。
4回	家庭科授業構成の基盤となっている家庭生活認識育成の論理について説明する。
5回	昭和22年度版学習指導要領「実生活で直面する具体的問題の解決」と授業構成について説明する。
6回	昭和31年度版学習指導要領「家庭生活の科学的認識」と授業構成について説明する。
7回	昭和33年～平成元年学習指導要領「実践的な学習による衣食住の技能習得」と授業構成について説明する。
8回	探求としての家庭科の理念について説明する。
9回	探求としての家庭科授業構成について説明する。
10回	平成29年版学習指導要領に示された家庭科の性格と今後の課題について説明する。
11回	グループで共同立案した学習指導案をもとに模擬授業を行い、それについて研究協議をする。(第1、2グループ)
12回	グループで共同立案した学習指導案をもとに模擬授業を行い、それについて研究協議をする。(第3、4グループ)
13回	グループで共同立案した学習指導案をもとに模擬授業を行い、それについて研究協議をする。(第5、6グループ)
14回	グループで共同立案した学習指導案をもとに模擬授業を行い、それについて研究協議をする。(第7、8グループ)
15回	グループで共同立案した学習指導案をもとに模擬授業を行い、それについて研究協議をする。(第9、10グループ)
16回	1回～15回までの総括を行い、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	事前：シラバスを確認し、本授業の全体像を把握しておくこと。 事後：家庭科の歴史についてまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
2回	事前：テキストpp. 9～25を読んでおくこと。 事後：授業プリントを見て復習しておくこと。 (標準学習時間60分)
3回	事前：テキストpp.25～32を読んでおくこと。 事後：授業プリントを見て復習しておくこと。 (標準学習時間60分)
4回	事前：テキストpp.32～39を読んでおくこと。 事後：授業プリントを見て復習しておくこと。 (標準学習時間60分)
5回	事前：テキストpp.39～55を読んでおくこと。 事後：授業プリントを見て復習しておくこと。 (標準学習時間60分)
6回	事前：テキストpp.56～60を読んでおくこと。 事後：授業プリントを見て復習しておくこと。 (標準学習時間60分)
7回	事前：テキストpp.61～73を読んでおくこと。 事後：授業プリントを見て復習しておくこと。 (標準学習時間60分)
8回	事前：テキストpp.75～92を読んでおくこと。 事後：授業プリントを見て復習しておくこと。 (標準学習時間60分)
9回	事前：テキストpp.120～126を読んでおくこと。 事後：授業プリントを見て復習しておくこと。 (標準学習時間60分)

10回	事前：小学校学習指導要領解説家庭編に目を通しておくこと。 事後：授業プリントを見て復習しておくこと。 (標準学習時間60分)
11回	事前：第1回～第11回の授業内容を踏まえ、指導演・教材を準備すること。 事後：指導演に対する評価コメントをグループのメンバーで共有しておくこと。(標準学習時間120分)
12回	事前：第1回～第11回の授業内容を踏まえ、指導演・教材を準備すること。 事後：指導演に対する評価コメントをグループのメンバーで共有しておくこと。(標準学習時間120分)
13回	事前：第1回～第11回の授業内容を踏まえ、指導演・教材を準備すること。 事後：指導演に対する評価コメントをグループのメンバーで共有しておくこと。(標準学習時間120分)
14回	事前：第1回～第11回の授業内容を踏まえ、指導演・教材を準備すること。 事後：指導演に対する評価コメントをグループのメンバーで共有しておくこと。(標準学習時間120分)
15回	事前：第1回～第11回の授業内容を踏まえ、指導演・教材を準備すること。 事後：指導演に対する評価コメントをグループのメンバーで共有しておくこと。(標準学習時間120分)
16回	事前：第1回～第15回までの授業の内容を復習しておくこと。 事後：家庭科の本質と授業構成原理について復習しておくこと。 (標準学習時間120分)

講義目的	小学校学習指導要領に示された家庭科の目標・内容・方法・評価とそれに基づいた授業構成の検討を通して、子どもにとってより意義があり、客観的に根拠づけられた家庭科授業構成について理解する。それに基づいた小学校家庭科の授業を立案し教材・教具を工夫できる能力を身に付ける。初等教育学学位授与の方針(DP)のAと深く関連している。
達成目標	1) 我が国の家庭科授業構成原理と、その原理が子どもにどのような帰結をもたらすかを説明できる(A) 2) 家庭科の本質と独自性を説明できる(A) 3) 家庭科の本質を達成できる家庭科の授業を構成し、教材や教具を工夫することができる(A、C)
キーワード	授業構成 家政生活認識育成 家庭科の本質 探求としての家庭科
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	毎回授業終了時に行う確認テスト：評価割合20%(達成目標1、2を評価) 提出課題、模擬授業：評価割合30%(達成目標1、2、3を評価) 最終評価試験：評価割合50%(達成目標1、2、3を評価) 以上により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	家庭科授業構成研究/佐藤園/自費出版：わたしたちの家庭科5・6/文部科学省検定済教科書/開隆堂：小学校学習指導要領(平成29年告示)解説家庭編/文部科学省/東洋館出版社
関連科目	・初等家庭科内容論 ・教材分析・開発演習A
参考書	必要に応じて適宜紹介する。
連絡先	A1号館 9F 原田研究室 オフィスアワー：木曜3時限、金曜3時限 メールアドレス：harada@ped.ous.ac.jp 電話番号：086-256-9842
授業の運営方針	・講義資料は講義開始時に配付する。再配付を希望する場合は回目の講義終了時まで申し出ること。それ以降の配付はしない。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション ・グループで立案した指導演をもとに模擬授業を行い、その内容についてディスカッションをし相互評価する。
課題に対するフィードバック	・確認テストについては終了時に模範解答を示しフィードバックを行う。 ・提出課題にはコメントを付して返却しフィードバックを行う。 ・最終評価試験については終了後に模範解答と解説を配付する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。当別の理由がある場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	元公立中学校教諭・元教育委員会指導主事：学校現場における教育経験者が、その経験を生かして小学校家庭科の指導に必要な基礎的事項及び技能について解説・指導する。
その他(注意・備考)	

科目名	初等体育科教育法 (FEP02800)
英文科目名	Teaching Physical Education for Primary Education
担当教員名	笹山健作 (ささやまけんさく)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業概要に関するオリエンテーション。授業の概要とその進め方について説明する。体育科の特徴について説明する。
2回	体育科の学習指導要領の変遷について説明する。
3回	体育科の学習指導要領の内容について説明する。
4回	体育科のカリキュラムと指導計画作成について説明する。
5回	体育科の学習形態と学習評価, 授業評価について説明する。
6回	体育科の指導方略と指導技術について説明する。
7回	体育科の教材・教具 (情報機器の活用を含む) と教材研究 (体づくり運動, 器械運動, 陸上運動) について説明する。
8回	体育科の教材・教具 (情報機器の活用を含む) と教材研究 (ボール運動, 表現運動, 水泳) について説明する。
9回	体育科の指導案作成の考え方と指導案作成について説明する。
10回	体育科の指導案作成 (体づくり運動) と模擬授業の意義・方法について説明する。
11回	体育科の指導案を作成する (器械運動・ボール運動)。
12回	模擬授業と討議 体づくり運動について説明する。
13回	学習指導要領における体育科の保健領域と指導の基本的な考え方について説明する。
14回	3・4年生における保健領域の内容 (1) 毎日の生活と健康, 育ちゆく体とわたしについて説明する。
15回	5・6年生における保健領域の内容 (2) 心の健康, けがの防止, 病気の予防について説明する。
16回	最終評価試験とその解説を行う。

回数	準備学習
1回	シラバスを確認しておくこと。『小学校学習指導要領解説体育編』の目次と第1章総説について確認しておくこと。(標準学習時間180分)
2回	『小学校学習指導要領解説体育編』を読んで体育科のカリキュラム構成について確認しておくこと。(標準学習時間180分)
3回	『小学校学習指導要領解説体育編』の体育科における目標について確認しておくこと。(標準学習時間180分)
4回	『小学校学習指導要領解説体育編』を読んで各学年における体育科の目標とカリキュラム構成について確認しておくこと。(標準学習時間180分)
5回	配布資料を読んで体育科の学習形態と学習評価, 授業評価について確認しておくこと。(標準学習時間180分)
6回	配布資料を読んで, 体育科の指導方略と指導技術について確認しておくこと。(標準学習時間180分)
7回	配布資料を読んで体育科の教材・教具について確認しておくこと。(標準学習時間180分)
8回	配布資料を読んで体育科の教材・教具について確認しておくこと。(標準学習時間180分)
9回	配布資料を読んで指導案作成の考え方について確認しておくこと。(標準学習時間180分)
10回	配布資料を読んで体づくり運動の行い方について理解しておくこと。(標準学習時間180分)
11回	配布資料を読んで器械運動・ボール運動の指導案を作成すること。(標準学習時間180分)
12回	配布資料を読んで, 体づくり運動の行い方についてまとめておくこと。(標準学習時間180分)
13回	『小学校学習指導要領解説体育編』の保健領域の部分を読んでおくこと。(標準学習時間180分)
14回	『小学校学習指導要領解説体育編』の保健領域3・4年生の部分を読んでおくこと。(標準学習時間180分)
15回	『小学校学習指導要領解説体育編』の保健領域5・6年生の部分を読んでおくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	小学校体育科の学習指導要領の目標や内容, カリキュラム等について理解することを目的とする。また, 体育科の指導方略, 授業評価, 教材・教具等について理解し, 様々な学習指導理論を踏まえた上で指導計画及び学習指導案を作成できるようにすることを目的とする。初等教育学科学位授与の方針Aと深く関連する科目である。
達成目標	1) 学習指導要領における小学校体育科の目標と内容について説明できる (A・C)。2) 体育科の学習形態と学習評価, 授業評価, 指導方略, 教材・教具について説明できる (A・C)。3) 体育科の指導計画及び学習指導案を作成できる (A・C)。

キーワード	小学校, 体育, 保健, 学習指導要領, 学習形態, 学習評価, 授業評価, 指導方略, 指導案, 教材・教具
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	小テスト30%(達成目標1,2を評価), 学習指導計画案の課題20%(達成目標3を評価), 最終試験50%(達成目標1,2,3を評価)によって総合的に評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	小学校学習指導要領解説 体育編 平成29年7月/文部科学省/東洋館出版社/978-4491034676
関連科目	初等体育科内容論
参考書	新版 体育科教育学入門/高橋健夫他/大修館書店/978-4469267013
連絡先	研究室A1号館10階1007室/直通電話086-256-9525/E-mail:sasayama@ped.ous.ac.jp/オフィスアワー:水曜木曜の昼休み
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・教師(社会人)として学ぶということを強く意識すること。 ・出席は授業中の小テストによって確認する。
アクティブ・ラーニング	<p>ディスカッション, グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この講義ではアクティブラーニングの一環として, 体育科教育に関するグループワーク, グループディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストのフィードバックは, テスト終了時に模範解答を示し, 次回の講義時に点数を示す。 ・学習指導計画案の課題についてのフィードバックはコメントを付けた上で返却する。 ・最終評価試験のフィードバックについては, 模範解答を提示し解説する。
合理的配慮が必要な学生への対応	<p>本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。</p>
実務経験のある教員	<p>元公立中学校教諭、学校現場における教育経験を踏まえ、体育科授業の教材分析の方法、教材作成の方法等について解説する。</p>
その他(注意・備考)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義中の論音/録画/撮影は原則認めない。特別な理由がある場合、事前に相談すること。

科目名	道徳教育の理論と方法（初等）（FEP02900）
英文科目名	Theory and Approach of Moral Education (Primary)
担当教員名	小林万里子*（こばやしまりこ*）
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション 道徳の教科化に至る流れを中心に、現代日本の道徳教育の動向について概説する。
2回	道徳の意味について、個人的側面、社会的側面から概説する。
3回	認知発達理論を中心に、道徳性の発達理論について概説する。
4回	明治期からの日本の道徳教育の歴史について概説する。
5回	学習指導要領に示された道徳教育の目標と内容について概説する。
6回	学習指導要領に示された道徳科の目標について概説する。 各教科等における道徳教育について、具体的に考える。
7回	学校における道徳教育を計画的・組織的に展開するための指導計画と推進体制について概説する。
8回	学級経営と道徳教育の関連について考える。
9回	一般的な道徳科授業の構成について概説する。
10回	一般的な道徳科の指導方法について概説する。
11回	道徳授業論について概説する。
12回	各教科等を横断する道徳教育カリキュラムについて概説する。
13回	児童理解の重要性をふまえて、道徳科における評価について概説する。
14回	道徳科授業の学習指導案を作成する。
15回	作成した学習指導案について相互評価し、改善する。
16回	1回～15回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	自分が小・中学校の時の「道徳の時間」について思い出しておくこと。 道徳が教科化されたことの意味について整理しておくこと。（標準学習時間60分）
2回	学校における道徳教育の意義について、自分の考えを整理し、まとめておくこと。（標準学習時間60分）
3回	小学校低・中・高学年のそれぞれで、実際の学習指導に際してどのような配慮が必要かについて、具体的に考えておくこと。（標準学習時間60分）
4回	教育課程上の位置づけ、教育内容、教育方法（教材）などの柱を立てて、日本の道徳教育の歴史について整理し、まとめておくこと。（標準学習時間90分）
5回	自分が育てたい子ども像やつくりたい学級像を明確にし、それとの関連で道徳の内容をとらえておくこと。（標準学習時間60分）
6回	自分の子ども像や学級像をふまえながら、各教科での道徳教育について具体的に考えておくこと。（標準学習時間60分）
7回	自分の出身校などのホームページを閲覧し、どのような道徳教育が展開されているかを調べ、その特徴を整理しておくこと。（標準学習時間60分）
8回	第5～8回授業をふまえて、自分が学級経営する際に重点を置きたいことやその具体的な方法について考え、まとめること。（標準学習時間90分）
9回	『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』第4章第2節1・2を読んでおくこと。自分が取り組んでみたい道徳授業の展開について考えておくこと。（標準学習時間60分）
10回	『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』第4章第2節3を読んでおくこと。自分が取り組んでみたい道徳授業の指導方法について考えておくこと。（標準学習時間60分）
11回	それぞれの道徳授業論の特質を整理しておくこと。（標準学習時間60分）
12回	学校や地域の課題を踏まえた道徳教育カリキュラムの具体について、インターネットなどを利用して調べ、自分の考えをまとめること。（標準学習時間60分）
13回	道徳科の評価の特質と留意点について整理しておくこと。（標準学習時間60分）
14回	主たる教材（資料）分析をおこなっておくこと。1時間の学習として無理なく展開できるか確認しておくこと。（標準学習時間90分）
15回	授業を受ける子どもの目線で学習指導案を見直し、スムーズな学習展開になっているかを確認しておくこと。（標準学習時間60分）
16回	1回～15回までの内容をよく理解し整理しておくこと。（標準学習時間180分）

講義目的	学習指導要領についての正しい知識と理解を形成し、今日の社会や子どもたちの諸課題をふまえて、それらに対応しうる道徳教育と道徳科の授業づくりに必要な基礎的力量を身につける。
------	--

達成目標	(1) 道徳教育の基礎理論についての知識を有している。(B, D) (2) 小学校の教育課程における道徳の位置づけと道徳教育の目標・内容を理解している。(A, B) (3) 道徳教育の計画の意義を理解している。(B) (4) 道徳科の指導過程や指導方法に関する基本的事項を理解し、学習指導構想に生かすことができる。(A, C) (5) 学級担任として道徳教育に取り組む意欲を高め、具体的な計画を構想することができる。(B)
キーワード	道徳科(特別の教科 道徳), 道徳教育, 自己の生き方, 学級経営
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験(60%)、提出課題(40%)により総合的に評価する。
教科書	小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 / 文部科学省 / 廣済堂あかつき / 9784908255359
関連科目	教職論, 教育学原論
参考書	四訂 道徳教育を学ぶ人のために / 小寺正一・藤永芳純 / 世界思想社 / 9784790716884 : 道徳教育の方法 / 堺正之 / 放送大学教育振興会 / 9784595315329 : 「特別の教科 道徳」が担うグローバル化時代の道徳教育 / 渡邊満ほか / 北大路書房 / 9784762829222
連絡先	C1号館6階 教務課
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・グループやペアでの活動に積極的に取り組み、考えを広げて深めるようにすること。 ・必要に応じてプリントを配布する。 ・準備学習の詳細については授業時間内に指示する。 ・最終評価試験での不正行為に対しては厳格に対処する。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク：各自が作成した学級経営構想や学習指導案について小グループで比較検討し、ブラッシュアップを図る。
課題に対するフィードバック	最終評価試験のフィードバックとして、試験終了後、教育学部9F掲示板に模範解答や解説を掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	本講義は「集中講義」として実施する。

科目名	特別活動の理論と方法（初等）（FEP03000）
英文科目名	Theory and Approach of Special Activities (Primary)
担当教員名	尾島卓*（おじまたく*）
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	特別活動実践の多様性について：ガイダンスにかえて
2回	学校教育課程の構造と特別活動の役割1：学習指導要領を中心に
3回	学校教育課程の構造と特別活動の役割2：戦後教育実践の成果を中心に
4回	特別活動の目標と内容1：学級活動の目標
5回	特別活動の目標と内容2：学級活動の内容
6回	特別活動の目標と内容3：児童会活動の目標
7回	特別活動の目標と内容4：児童会活動の内容
8回	特別活動の目標と内容5：クラブ活動の目標を中心に
9回	特別活動の目標と内容6：クラブ活動の内容を中心に
10回	特別活動の目標と内容7：学校行事の目標
11回	特別活動の目標と内容7：学校行事の内容
12回	特別活動の歴史的変遷1：戦後の教科外学習活動を中心に
13回	特別活動の歴史的変遷2：新学習指導要領を中心に
14回	現代の発達課題と特別活動の今日的意義1：人間関係の現状を中心に
15回	現代の発達課題と特別活動の今日的意義2：人間関係の現状を中心に

回数	準備学習
1回	以下の観点から被教育体験を想起しておくこと。 義務教育段階の学校生活のうち最も心に残っている教科学習以外の体験 （標準学習時間60分、以下同じ）
2回	1時間目に配布した資料を読むこと。
3回	教科書12～15頁を事前に読んでおくこと。
4回	教科書24～28ページを事前に読んでおくこと。
5回	教科書34～37ページを事前に読んでおくこと。
6回	教科書78～83ページを事前に読んでおくこと。
7回	第6回配布資料を事前に読んでおくこと。
8回	教科書84～88ページを事前に読んでおくこと。
9回	第8回配付資料を事前に読んでおくこと。
10回	教科書90～97ページを事前に読んでおくこと。
11回	第10回に配布する資料を事前に読んでおくこと
12回	第6回配布資料を事前に読んでおくこと。
13回	インターネットを活用し、平成29年小学校学習指導要領における「特別活動」の章を読んでおくこと。
14回	第13回授業時に配布する資料を事前に読んでおくこと。
15回	第14回授業時に配布する資料を事前に読んでおくこと。

講義目的	本講では、特別活動についての基礎的知識を習得し、学校教育の中でどのように展開するのか、どのような意義を持ち、どのような課題があるのか、児童にどのような力を備えさせるべきかを学習する。特に、特別活動の内容の中で、その中核的な役割を果たしている「学級活動」を具体的に指導できる学級担任としての実践的力量を習得することに留意する。
達成目標	（1）特別活動の意義と役割、目標を理解する(A)。 （2）特別活動の内容と特質を理解する(A)。 （3）学級担任としての学級づくり（学級経営）の視点から、児童の発達特性や社会文化の変化について理解する(A)。 （4）特別活動の具体的な活動を理解する(A)

キーワード	特別活動 話し合い活動 学級集団
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	合格基準は60点とする。配点は、講義出席50%、講義中に課す小レポート20%および最終レポート30%の割合で評価する
教科書	文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター（著）『楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)』文溪堂、2014年
関連科目	教育の方法と技術
参考書	船越勝・宮本誠貴他『共同グループを育てる 今こそ集団づくり』クリエイツかもがわ、2002年（2200円）。 篠崎純子・溝部清彦『子どもとの対話に強くなる がちゃがちゃクラスをガラッと変える』高文研、2006年（1300円） 湯浅恭正『困っている子と集団づくり』クリエイツかもがわ、2008年（1905円）
連絡先	2012princess2@okayama-u.ac.jp（尾島卓）
授業の運営方針	本講義では、教科書以外にもビデオ等の視聴覚教材を活用する。これらの教材を活用することを通して、授業以外の領域・場面で発揮される教師の指導についてイメージを形成し、学力形成や人格形成における基礎集団の重要性について理解を深めていく。
アクティブ・ラーニング	本講義では、小学校の学級で行うことのできるゲームを教材としている。ゲームそれ自身の習得だけでなく、活動が象徴している教育場面をグループワークの中で理解してほしい。
課題に対するフィードバック	本講義では、学級における世論形成のメディアである学級通信を実際に作成する。受講生の作成した通信の改善点は実際に学校現場で作られた実物を参照することで行う。これ以外的小レポートは講義内容の習得度合いを尺度として採点を行う。また最終試験にあたるレポートでは、講義で獲得した知識の活用を観点として採点を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。必ずご記入してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	教育の方法と技術（初等）（FEP03100）
英文科目名	Educational Approach and Techniques (Primary)
担当教員名	森敏昭（もりとしあき）
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	学校教育の目標と教育方法について説明する。
2回	学習理論と教育方法について説明する。
3回	知識習得を支援する教育方法について説明する。
4回	思考力を育成する教育方法について説明する。
5回	表現力を育成する教育方法について説明する。
6回	学習意欲を高める教育方法について説明する。
7回	自己形成を支援する教育方法について説明する。
8回	発達段階に応じた教育方法について説明する。
9回	学習理論と教育方法の類型について説明する。
10回	総合学習の教育方法について説明する。
11回	協同的な学びの教育方法について説明する。
12回	アクティブ・ラーニングの教育方法について説明する。
13回	教育評価の方法と技術について説明する。
14回	情報教育とICTの活用について説明する。
15回	21世紀型学力と教育方法について説明する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、授業計画の概要を把握しておくこと。（標準学習時間60分）
2回	授業の前に、学校教育の目標と教育方法について説明・質疑応答ができるように復習し、参考書等により、学習理論と教育方法について予習しておくこと。（標準学習時間120分）
3回	授業の前に、学習理論と教育方法について説明・質疑応答ができるように復習し、参考書などにより、知識習得を支援する教育方法に関し予習しておくこと。（標準学習時間120分）
4回	授業の前に、知識習得を支援する教育方法について説明・質疑応答ができるように復習し、参考書などにより、思考力を育成する教育方法に関し予習しておくこと。（標準学習時間120分）
5回	授業の前に、思考力を育成する教育方法について説明・質疑応答ができるように復習し、参考書などにより、表現力を育成する教育方法に関し予習しておくこと。（標準学習時間120分）
6回	授業の前に、表現力を育成する教育方法について説明・質疑応答ができるように復習し、参考書などにより、学習意欲を高める教育方法に関し予習しておくこと。（標準学習時間120分）
7回	授業の前に、学習意欲を高める教育方法について説明・質疑応答ができるように復習し、参考書などにより、自己形成を支援する教育方法に関し予習しておくこと。（標準学習時間120分）
8回	授業の前に、自己形成を支援する教育方法について説明・質疑応答ができるように復習し、参考書などにより、発達段階に応じた教育方法に関し予習しておくこと。（標準学習時間120分）
9回	授業の前に、発達段階に応じた教育方法について説明・質疑応答ができるように復習し、参考書などにより、学習理論と教育方法の類型に関し予習しておくこと。（標準学習時間120分）
10回	授業の前に、学習理論と教育方法の類型について説明・質疑応答ができるように復習し、参考書などにより、総合学習の教育方法に関し予習しておくこと。（標準学習時間120分）
11回	授業の前に、総合学習の教育方法について説明・質疑応答ができるように復習し、参考書などにより、協同的な学びの教育方法に関し予習しておくこと。（標準学習時間120分）
12回	授業の前に、協同的な学びの教育方法について説明・質疑応答ができるように復習し、参考書などにより、アクティブ・ラーニングの教育方法に関し予習しておくこと。（標準学習時間120分）
13回	授業の前に、アクティブ・ラーニングの教育方法について説明・質疑応答ができるように復習し、参考書などにより、教育評価の方法と技術に関し予習しておくこと。（標準学習時間120分）
14回	授業の前に、教育評価の方法と技術について説明・質疑応答ができるように復習し、参考書などにより、情報教育とICTの活用に関し予習しておくこと。（標準学習時間120分）
15回	授業の前に、情報教育とICTの活用について説明・質疑応答ができるように復習し、参考書などにより、21世紀型学力と教育方法に関し予習しておくこと。（標準学習時間120分）
16回	1回から15回までの内容を理解し整理しておくこと。（標準学習時間180分）

講義目的	学力を育成するための教育方法を正しく深く理解し、学校教育での学習指導に主体的・創造的に取り組む資質を養うことを目的とする。そのために、教育心理学の最新の知見を学校での教科学習の教育方法と関係づけて講義する。「学位授与の方針」のC（外国語活動の指導やICTを活用した教材開発など、現代の教育実践に必要な知識・技能を身に付け発揮できる）に最も強く関連する科
------	--

	目である。
達成目標	小学校教育において豊かな学力を育成するための教育方法について具体的に説明できる(A)。各教科の学習指導に共通する「知識・理解力」「思考・判断力」「技能・表現力」「関心・意欲・態度」を育成するための効果的な教育方法について具体的に説明できる(B・C)。
キーワード	学習指導法 ICT活用 教育評価
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	提出課題30%、最終評価試験70%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。達成目標の に関しては最終試験で評価する。
教科書	使用しない。
関連科目	教育心理学
参考書	よくわかる学校教育心理学 / 森 敏昭ほか / ミネルヴァ書房 / ISBN978-4-623-05642-2
連絡先	A1号館 9F 森研究室
授業の運営方針	深い学びを促すために、毎回の授業の終わりに振り返りの時間を設け、学習内容についての理解の 深化を図る。
アクティブ・ラーニング	ライティング。毎回の授業の終わりに振り返りの時間を設け、学習内容についての小レポートを課 す。
課題に対するフィードバック	各回の小レポートに対するフィードバックは次回の授業で行い、最終試験のフィードバックとして 、模範答案の提示と解説を掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障害学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	試験は最終評価試験期間中に行い、試験形態は筆記による。深い学びを促すために、各回の授業の 終わりに学習内容についての質問を用紙に書いて提出させ、その質問に対する回答のための時間を 次回の授業の最初に設ける。

科目名	生徒・進路指導論(初等)(FEP03200)
英文科目名	Student/Career Guidance and Counseling (Primary)
担当教員名	松岡律(まつおかただし)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション・・・生徒指導とは何かについて解説する。
2回	教育課程としての生徒・進路指導・・・組織づくり、計画の共有について解説する。
3回	問題と指導・・・生活指導としての生徒指導について解説する。
4回	児童・生徒理解の方法(1)・・・児童期の心の特性について解説する。
5回	児童・生徒理解の方法(2)・・・保護者とのコミュニケーションについて解説する。
6回	児童・生徒理解の方法(3)・・・教師のカウンセリングマインドとアセスメントについて解説する。
7回	教育相談との有機的連携・・・治療的、予防的対応について解説する。
8回	学級集団に対する生徒指導・・・個別指導とのバランスについて解説する。
9回	初等段階における進路指導・・・中等段階との差異について解説する。
10回	学校-地域連携の構築と進路指導・・・“勤労観”や“職業観”の育成について解説する。
11回	関係諸機関との連携・・・生徒指導、進路指導の両面における支援について解説する。
12回	指導の実例とポイント(1)・・・小4男児の例について解説する。
13回	指導の実例とポイント(2)・・・小6女児の例について解説する。
14回	指導の実例とポイント(3)・・・中学・高校の例について解説する。
15回	キャリア教育と生徒指導・・・人生の先輩としての教師に求められるものについて解説する。

回数	準備学習
1回	小学校における生徒・進路指導とは何か、考えておくこと。(標準学習時間60分)
2回	学習指導と生徒指導の関係性について、考えを整理しておくこと。(標準学習時間60分)
3回	生活指導と生徒指導との関係性をよく理解しておくこと。(標準学習時間60分)
4回	子どもの感受性と表現力と人間関係について調べておくこと。(標準学習時間60分)
5回	保護者との協調・トラブルについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
6回	カウンセリングと心理的アセスメントについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
7回	問題行動の予防について考えておくこと。(標準学習時間60分)
8回	集団指導と個別指導の特徴について調べておくこと。(標準学習時間60分)
9回	キャリア教育について調べておくこと。(標準学習時間60分)
10回	街探検や職場見学の実態について調べておくこと。(標準学習時間60分)
11回	どのような機関があるのか調べておくこと。(標準学習時間60分)
12回	学級不適應について調べておくこと。(標準学習時間60分)
13回	高学年女子にありがちな問題について調べておくこと。(標準学習時間60分)
14回	小学校卒業後の変化について、自身の経験をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
15回	教師と社会との関係性について考えておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	学校には、勉学を教えるだけでなく、子どもの人格発達や将来のキャリア形成に向けた支援を行う社会化機関としての役割がある。「ゆとり」導入以降の混乱の中、「学力向上」という目先の課題に目を奪われがちになるが、児童の将来を考えた時、勉学以外の側面のサポートはもはや必須である。本講義では、子どもが暮らす環境(空間)としての学級を維持していく上で、子どもをどう理解すればいいのか。また、子どもの自己実現に向けたサポートの在り方など、家庭や地域との連携をも視野に入れて理解していくことが目的である。 初等教育学科の学位授与方針Bに深く関与。
達成目標	小学校における生徒指導と進路指導の意味について、中等教育段階とは違う観点から明確に認識できること。(B) それに基づき現代の教育課題に対する自らの見解を理論的に述べるができること。(B)
キーワード	生徒指導, 進路指導, キャリア教育
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	毎回の小レポート(到達目標を確認。計50%)、最終課題(到達目標を確認。50%)で総合評価し、60%以上を合格とする。
教科書	使用しない
関連科目	教育社会学
参考書	「生徒指導提要」文部科学省
連絡先	A1号館9F 904研究室
授業の運営方針	講義形式で、適宜指名・発問しながら行う。

アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	LMSやMylogの掲示板機能を用いて、模範解答例を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	教育相談の理論と方法（初等）（FEP03300）
英文科目名	Theory and Approach of Educational Counseling (Primary)
担当教員名	原範幸*（はらのりゆき*）
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義のねらいや全体的な内容を説明する。グループ学習をするための班編成をする。
2回	各自が予習してきた「生徒指導提要」における生徒指導の定義について話し合いをする。「日本版包括的生徒指導」について説明する。生徒指導と教育相談の異同、学校における教育相談の特質について説明する。
3回	各自が予習してきた「ピア・サポート」について話し合いをする。ピア・サポート活動を実際に体験し、その体験について話し合いをする。
4回	各自が予習してきた「教育相談の体制づくり」について話し合いをする。「教育相談の体制づくり」「教育相談の進め方」について説明する。
5回	各自が予習してきた「SEL」について話し合いを行う。SELを実際に体験し、その体験について話し合いを行う。新しい班を編成する。
6回	各自が予習してきた「ポジティブ心理学」について話し合う。「ポジティブ心理学」のワークを体験し、それについて話し合う。
7回	各自が予習してきた「レジリエンス教育」について話し合いをする。「レジリエンス教育」のワークを体験し、それについて話し合いをする。
8回	「レジリエンス教育」のワークを体験し、それについて話し合いをする。
9回	各自が予習してきた「定期教育相談」について話し合いを行うようにする。「定期教育相談」の演習をする。
10回	各自が予習してきた「不登校」について話し合いをする。不登校の事例についてグループで話し合いをする。新しい班を編成する。
11回	ポジティブ行動支援についての説明を聞くようにする。行動チャートを作ってみる。
12回	構成的グループエンカウンター演習をする。
13回	SC・SSW・専門機関等との連携について説明し、創作事例を用いた演習をする。
14回	ポジティブ心理学の演習をする。
15回	講義で新たに学んだこと、成長したことを語り合うようにする。
16回	1回～15回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。解答の解説をする。

回数	準備学習
1回	「生徒指導提要」p1～p3の「1 生徒指導の意義 2 生徒指導の課題」 p92～p94「1 生徒指導と教育相談 2 学校における教育相談の特質」 p105～p109「(2)問題を未然に防ぐ教育相談の進め方 コラム「育てる教育相談という考え方」(3)教育相談の新たな展開」を読んでおくこと。 (標準学習時間 30分)
2回	「生徒指導の定義」(生徒指導提要)、「日本版包括的生徒指導」について説明できるように復習すること。次時間に学習する「ピア・サポート」について配布資料などを使って予習しておくこと。 (標準学習時間 30分)
3回	第4回目授業までに、『生徒指導提要』第5章第2節、第3節を読んでおくこと。(標準学習時間 30分)
4回	「教育相談の体制づくり」「教育相談の進め方」について自分のことばで説明できるようにする。次時間に学習するSEL(社会性と情動の学習)について配布資料などを使って予習しておくこと。 (標準学習時間 30分)
5回	「ポジティブ心理学」について、配布資料などを参考にして予習しておくこと。(標準学習時間 30分)
6回	「ポジティブ心理学」について、説明できるようにしておくこと。「レジリエンス教育」について、配布資料などを使って予習しておくこと。(標準学習時間 30分)
7回	「レジリエンス教育」について説明できるように復習をすること。(標準学習時間 30分)
8回	定期教育相談について、配布資料などを参考にして予習しておくこと。(標準学習時間 30分)
9回	生徒指導提要第12節1, 2を読んで不登校の予習しておくこと。(標準学習時間 30分)
10回	ポジティブ行動支援について、配布資料などを参考にして予習しておくこと。(標準学習時間 30分)
11回	配布資料などを参考にして、構成的グループエンカウンター演習の予習しておくこと。(標準学習時間 30分)

1 2 回	「生徒指導提要」第5章第4節を読んで、専門機関との連携について予習しておくこと。(標準学習時間 30分)
1 3 回	専門機関との連携について復習しておくこと。(標準学習時間 30分)
1 4 回	ポジティブ心理学の復習をすること。(標準学習時間 30分)
1 5 回	講義のまとめをしておくこと。(標準学習時間 30分)

講義目的	本授業は、教育相談に関する基礎知識を修得し、教師として適切に教育相談を実践できる基礎を培うことを目標とする。特に開発的な教育相談について実際に指導できるようになることを目指す。学位授与の方針Bに関連する科目である。
達成目標	教育相談の定義、教育相談と生徒指導の関係について理解できる(B)。 教育相談の理論と方法を理解し、教育相談を実施できる(B)。 ピア・サポート、SEL(社会性と情動の学習)などの開発的教育相談を理解し、実施できる(B)。 レジリエンス教育について理解し、実践できる(B)。
キーワード	生徒指導、カウンセリング、学校教育相談、心理教育、ピア・サポート、ポジティブ心理学、レジリエンス教育
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験(70%)、シャトルカード(30%)により総合的に評価する。
教科書	文部科学省/生徒指導提要/教育図書/9784877302740
関連科目	カウンセリング
参考書	足立啓美・鈴木水季/子どもの「逆境に負けない心」を育てる本/法研/978-4865131581:栗原慎二(編著)/マルチレベルアプローチ/ほんの森出版/978-4866141053:小泉令三・山田洋平(著)/社会性と情動の学習の進め方 中学校編/ミネルヴァ書房/978-4623061457:大野精一/学校教育相談理論化の試み/ほんの森出版/4-938874024: 栗原慎二(編著)/PBIS実践マニュアル&実践集/ほんの森出版:菱田準子/すぐ始められるピア・サポート/ほんの森出版/4-938874369 など
連絡先	教務課(C1号館6階)
授業の運営方針	毎回、授業後に「授業で学んだこと」「授業への参加態度」などをシャトルカードに書いて提出する。これを出席や参加態度の評価に使う。講義は4人グループを基本にし、協議やグループワークを行うので、教職を目指すものとして誠実な態度で受講すること。講義資料は前時の終わりか、当日の最初に配布するので、欠席する場合は友達に取ってもらうように頼んでおく。
アクティブ・ラーニング	ペアやグループでの協議(協同学習の考え方を取り入れた講義) グループワーク(ピア・サポート、レジリエンス等) ミニ・コミュニケーション(毎回講義の最初) 毎回協議やグループワークがある。
課題に対するフィードバック	最終評価試験のフィードバックは、試験後に授業内で行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	元岡山県教育センター教育相談部指導主事 教育相談に関する研修を企画、運営し、講師も務める。元岡山県公立中学校校長 学校経営の視点から、教師に必要な教育相談の知識・技能について体験的に学び講義にする。
その他(注意・備考)	

科目名	教育現場観察実習（初等）（FEP03400）
英文科目名	Observation Training for Elementary Schools
担当教員名	山下浩之（やましたひろゆき），森敏昭（もりとしあき），小川孝司（おがわたかし），黒崎東洋郎（くろさきとよお），松岡律（まつおかただし），紙田路子（かみたみちこ），井本美穂（いもとみほ），笹山健作（ささやまけんさく），妻藤純子（さいとうじゅんこ），原田省吾（はらだしょうご）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	オリエンテーション・・・実習目的理解のための演習 (全教員)
2回	事前演習(1)・・・観察視点の明確化 (全教員)
3回	観察実習(施設観察・授業観察・活動観察) (全教員)
4回	観察実習(施設観察・授業観察・活動観察) (全教員)
5回	観察実習(施設観察・授業観察・活動観察) (全教員)
6回	観察実習の振り返り演習(1) (全教員)
7回	事前演習(2)・・・観察視点の明確化(児童の発達段階に着目する) (全教員)
8回	観察実習(2)(施設観察・授業観察・活動観察) (全教員)
9回	観察実習(2)(施設観察・授業観察・活動観察) (全教員)
10回	観察実習の振り返り演習(2) (全教員)
11回	事前演習(3)・・・参加テーマの設定、確認 (全教員)
12回	参加実習(学級経営・授業補助・学級活動) (全教員)
13回	参加実習(学級経営・授業補助・学級活動) (全教員)
14回	参加実習(学級経営・授業補助・学級活動) (全教員)
15回	まとめを行う。 (全教員)

回数	準備学習
1回	シラバスを読んで講義予定を理解しておくこと。(標準学習時間60分)

2回	観察対象についてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
3回	学校の一日のスケジュールについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
4回	前回の実習を踏まえて次回の課題を整理しておくこと。(標準学習時間60分)
5回	前回の実習を踏まえて次回の課題を整理しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	予期した観察イメージと現場の一致・ずれを明確に表現できるようにしておくこと。(標準学習時間60分)
7回	学校教育と児童の発達団との関係について調べ、考えておくこと。(標準学習時間60分)
8回	発達の観点から、児童の年齢的特徴を丁寧に観察できるよう準備すること。(標準学習時間60分)
9回	発達の観点から、児童の年齢的特徴を丁寧に観察できるよう準備すること。 (標準学習時間60分)
10回	年齢に応じた発達の進行・特徴について観察したことを明確に表現できるようにしておくこと。(標準学習時間60分)
11回	参加実習における自身の目標を考えておくこと。(標準学習時間60分)
12回	半日参加におけるスケジュール(特に授業)をよく理解しておくこと。(標準学習時間60分)
13回	半日参加におけるスケジュール(特に授業)をよく理解しておくこと。(標準学習時間60分)
14回	半日参加におけるスケジュール(特に授業)をよく理解しておくこと。(標準学習時間60分)
15回	これまでの実習から得た知見をよく整理しておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	教職に向けた学習を開始するにあたり、小・中学校の教育現場をあらためて観察し、これまでの学習者の視点から教師(指導者)の視点への、視点の転換及び教職への動機づけを主たる目的としている。(初等教育学科のディプロマポリシーBに最も強く関与する)
達成目標	1) 教員の職務および学校運営について客観的に理解できる。初等教育学科学位授与方針(DP)のAに最も強く関与する。
キーワード	教職 学校 実習
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	達成目標1について、事前演習における小レポート(30%)、振り返り演習のレポート(協力校への礼状を含む)(70%)により評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない
関連科目	教職論
参考書	ウルター・ディック、「はじめてのインストラクショナルデザイン」、ペアソン、エツケーション、2004.
連絡先	A1号館 各担当教員の研究室
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや意見をもって講義に臨むこと。 各実習協力校の教育方針や規則に従うこと。 レポート、実習日誌、礼状等の提出期限を厳守すること。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループ討議を行い、グループごとに意見発表をする。
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> 提出されたレポート、実習日誌について、描かれた内容についてコメントを入れて返却する。 礼状については、内容、誤字脱字、読みやすさ等について添削し、返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	<p>小川孝志 紙田路子 妻藤純子 原田省吾 山下浩之</p> <p>ア) 元公立小学校・中学校・国立大学附属学校勤務 教育委員会勤務</p> <p>イ) 学校現場の経験を活かして、学校、教師の仕事等現場の実際について具体的かつ実践的に講義する。</p>
その他(注意・備考)	実習協力校の事情により、実習内容の変更の生ずる場合がある。 実習時の時間・服装・態度等に細心の注意を払うこと。(問題のある者は実習に参加させない=単位を取得できない)

科目名	小学校教育実習事前・事後指導【月5集中】(FEP03500)	
英文科目名	Pre and Post Guidance for Elementary School Teaching Practice	
担当教員名	山下浩之(やましたひろゆき), 森敏昭(もりとしあき), 小川孝司(おがわたかし), 黒崎東洋郎(くろさきとよお), 松岡律(まつおかただし), 紙田路子(かみたみちこ), 井本美穂(いもとみほ), 笹山健作(ささやまけんさく), 妻藤純子(さいとうじゅんこ), 原田省吾(はらだしょうご)	
対象学年	3年	
単位数	1.0	
授業形態	実験実習	
授業内容	事前指導は3年次春学期に行い、秋学期に行われる「教育実習」を効果的かつ実りあるものにするために行うものである。内容は、小学校教育実習に必要な学習指導案作成や実習日誌の作成要領、各教科等の模擬授業等である。また、人間力を育成するための基礎的・基本的な学級経営の在り方を、遊び、給食指導、係活動や清掃指導、朝の会や帰りの会の事例を通して具体的に指導する。事後指導は、3年次秋学期の「教育実習」の後に、「授業について」「学級経営」等についての成果や自己課題を情報交換し、小学校教員になることへの自覚を高める。	
準備学習	「実習の手引」を熟読し、教育実習の意義や目的、4週間の実習の概要等について、自分の考えを整理しておくこと。また、今までに学修した各教科等の内容論や教育法の授業内容を振り返るとともに、各指導教員の指示に従い学習指導案を作成したり、その模擬授業の準備を行うこと。	
講義目的	教育実習の事前指導と事後指導とからなる講義である。事前指導では、教育実習に必要な心構えをもつとともに、学習指導案の作成や生徒指導について理解を深めることを目標とする。事後指導は、教育実習を通して学んだことを振り返り、小学校教員になることの自覚を高めることを目標とする。(本講義は、学位授与方針のA・B・Cに強く関与する。)	
達成目標	小学校教諭に必要な教科及び生徒指導等の内容を習得し、指導することができる。(A) 小学校教育の意義や役割を理解し、使命感をもって教職に携わることができる。(B) 外国語活動の指導やICTを活用した教材開発など、現代の教育実践に必要な知識・技能の基礎を身に付けることができる。(C)	
キーワード	実践的指導力 教育に対する使命感 現代の教育実践に必要な知識・技能	
試験実施	実施しない	
成績評価(合格基準60点)	事前指導における各担当者ごとのレポート50%、事後指導におけるレポート50%を合計して評価する。総計60%以上を合格とする。	
教科書	なし	
関連科目	各教科の内容論 各教科の教育法 教育実習・教職実践演習	
参考書	小学校学習指導要領解説(国語、社会、算数、理科)	
連絡先	各講義担当者	
授業の運営方針	課題レポートを期限内に必ず提出すること。	学習
	指導案の作成や模擬授業等をグループ活動で行う。積極的に参加すること。	
アクティブ・ラーニング	ディスカッション：課題レポートやテーマをもとにグループでディスカッション、ワークショップを行う。	グループワーク
	グループワーク：学習指導案、模擬授業等を行う。	
課題に対するフィードバック	課題レポート等は評価・添削後、次時の授業時間に返却する。	模擬
	授業は、グループ間の相互評価、省察を行う。	
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。	
実務経験のある教員	元公立小学校、附属小学校教諭：学校現場における教育経験者が、その経験を生かして国語、社会、算数、図工の教材分析や模擬授業及び生徒指導について説明・指導する。	
その他(注意・備考)	・事前指導では、実際に教育実習において学習指導案や単元計画の作成、実地授業及び生徒指導を行うことを念頭に置き、目的意識をもって講義に臨むことが望ましい。 ・事後指導では、教育実習を振り返り使命感を自覚したり、残された大学生活での課題を明確に持つことが望ましい。	

科目名	小学校教育実習 (FEP03600)
英文科目名	Elementary School Teaching Practice I
担当教員名	山下浩之(やましたひろゆき), 森敏昭(もりとしあき), 小川孝司(おがわたかし), 黒崎東洋郎(くろさきとよお), 松岡律(まつおかただし), 紙田路子(かみたみちこ), 井本美穂(いもとみほ), 笹山健作(ささやまけんさく), 妻藤純子(さいとうじゅんこ), 原田省吾(はらだしょうご)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	実験実習
授業内容	教育実習は、実習校において行われる。各教科の授業や特別活動の観察、研究協議を中心に行う。また、指導教員の授業をもとに指導案を作成したり、初めての实地授業や当番活動を実践したりすることにより、指導に必要な基本的なことを理解し修得する。観察や実践したことは適宜記録し、実習日誌に記録として整理し記述する。
準備学習	「教育実習の手引」を熟読し、「教育実習の内容と方法」「実習日誌のねらいと書き方」「教育実習上の注意」を確認しておくこと。また、大学で履修した各教科の内容論や教育法、実習事前指導での授業内容を振り返ったり、指導教員の指示に従い、学習指導案や補助教材の作成等の事前準備に取り組むとともに、自らの実践についての考察等を実習日誌等に記述すること。
講義目的	小学校の教職を目指す学生が、実際の学校現場において教育活動に参加することを通して、学習者から指導者へと視点を転換し、指導に必要な基礎を学ぶことを目的とする。(本講義は、初等教育学科の学位授与方針のA・B・Cに強く関与する。)
達成目標	实地授業や学級経営に取り組み、指導に必要な基礎を理解・習得する。(A) 小学校教育の意義や役割を理解し、使命感をもって実習に取り組むことができる(B)。 外国語活動やICTを活用した教材開発など、現代の教育実践に必要な知識・技能を身に付けることができる。(C)。
キーワード	学習者から指導者への視座の転換 観察・参加 学習指導案 当番活動、協働的な活動、教師間の連携
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	教育実習校側の資料、実習生の取組状況(実習日誌等)及び実習生が作成した報告書に基づき、教育実習担当教員の協議により評価する。総計60%以上を合格とする。
教科書	実習校で使用する教科書
関連科目	各教科の内容論及び教育法 教育実習事前・事後指導
参考書	実習校で使用する参考書 各教科等の小学校学習指導要領解説
連絡先	担当の教育学部指導教員
授業の運営方針	実習校でのきまりや約束を守り、社会人としてのマナーを踏まえた言動を徹底すること。指導教員の指示に従い、学習指導案、実習日誌等の提出期限を守ること。
アクティブ・ラーニング	主体的に教育実習に取り組み、現場教師との対話、児童との対話に進んで取り組む。
課題に対するフィードバック	实地授業や当番活動の取組子やその記録に対して、指導教員が添削及び口頭等により指導する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	現職の公立小学校教諭が教科指導及び生徒指導について、学校・学級の実態に応じて指導する。
その他(注意・備考)	・「教育実習の課題」を明確にもち、教育実習に取り組む。 ・教育実習に臨むに当たっては、配当される学年の教科書に目を通したり、既習の漢字を把握しておくことが望ましい。

科目名	小学校教育実習 (FEP03700)
英文科目名	Elementary School Teaching Practice II
担当教員名	山下浩之(やましたひろゆき), 森敏昭(もりとしあき), 小川孝司(おがわたかし), 黒崎東洋郎(くろさきとよお), 松岡律(まつおかただし), 紙田路子(かみたみちこ), 井本美穂(いもとみほ), 笹山健作(ささやまけんさく), 妻藤純子(さいとうじゅんこ), 原田省吾(はらだしょうご)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	実験実習
授業内容	教育実習は、小学校教育実習に引き続き、ねらいに沿った当番活動や各教科等の本質に根ざした実地指導を实践し、その成果を反省・考察して学級経営のあり方やよりよい授業づくりを探る。実習の最終段階では教生経営に取り組み、学級担任としての業務の全体を経験する。これらの経験は、「教育実習のまとめ」に整理し教育実習を通じた教育実践力の形成を工夫し総括する。
準備学習	実践した当番活動や各教科等の実地授業について、その成果や考察を実習日誌に記述し、次への実践に生かすこと。また、指導教員等の指示に従い、学習指導案を工夫し、補助教材、学級の実態に合った当番活動の実施方法の改善等を具体的に作成すること。
講義目的	小学校教育実習における学びをさらに深め、実践的指導力の基礎を培うことを目的とする。(本講義は、初等教育学科学位授与方針のA・B・Cに強く関与する。)
達成目標	実地授業や学級経営に取り組み、学習指導力及び生徒指導力の向上を図る。(A) 小学校教育の意義や役割を理解し、使命感をもって実習に取り組むことができる。(B) 外国語活動やICTを活用した教材開発など、現代の教育実践に必要な知識・技能を身に付け、実践的な指導力を発揮して取り組むことができる。(C)
キーワード	学習指導力 生徒指導力 実践的指導力 使命感 教師力
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	教育実習校側の資料、実習生の取組状況(実習日誌)及び実習生が作成した報告書に基づき、教育実習担当教員の協議により評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	実習校で使用する教科書
関連科目	教育実習 各教科等の内容論及び教育法 教育実習事前・事後指導 教職実践演習
参考書	実習校で使用する参考書 各教科等の小学校学習指導要領解説
連絡先	担当の教育学部指導教員
授業の運営方針	実習校でのきまりや約束を守り、社会人としてのマナーを踏まえた言動を徹底すること。指導教員の指示に従い、学習指導案、実習日誌等の提出期限を守ること。及び生徒指導について省察し、実践的指導力の向上を図ること。 実地授業
アクティブ・ラーニング	学校現場の授業改善、学級経営の課題に主体的、協働的に取り組む。
課題に対するフィードバック	実地授業や当番活動の取り組みやその記録に対して、指導教員が添削及び口頭等により指導する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	現職の公立小学校教諭が教科指導及び生徒指導について、学校・学級の実態に応じて指導する。
その他(注意・備考)	・自らの「教育実習の課題」や学級の実態に照らして、実地授業や生徒指導を工夫して実践し、指導力・教師力の向上を図るよう努力する。

科目名	教職実践演習（小学校）（FEP03800）
英文科目名	Practical Seminar for Teaching Profession (Primary)
担当教員名	原田省吾（はらだしょうご）、山中芳和（やまなかよしかず）、森敏昭（もりとしあき）、小川孝司（おがわたかし）、黒崎東洋郎（くろさきとよお）、松岡律（まつおかただし）、山下浩之（やましひろゆき）、紙田路子（かみたみちこ）、井本美穂（いもとみほ）、笹山健作（ささやまけんさく）、妻藤純子（さいとうじゅんこ）
対象学年	4年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	教職の意義や教員の役割・使命、職務内容等についての理解を深める。 (山中 芳和)
2回	学習指導と評価についての理解を深める。 (森 敏昭)
3回	社会性、対人関係能力、問題行動等についての理解を深める。 (松岡 律)
4回	国語科教育の観点から、グループワーク・ディスカッション・模擬授業等を通じて、国語科における学習指導の基本的事項について理解を深める。 (小川 孝司)
5回	算数科教育の観点から、グループワーク・ディスカッション・模擬授業等を通じて、算数科における学習指導の基本的事項について理解を深める。 (黒崎 東洋郎)
6回	社会科教育の観点から、グループワーク・ディスカッション・模擬授業等を通じて、社会科における学習指導の基本的事項について理解を深める。 (紙田 路子)
7回	理科教育の観点から、グループワーク・ディスカッション・模擬授業等を通じて、理科における学習指導の基本的事項について理解を深める。 (山下 浩之)
8回	音楽科教育の観点から、グループワーク・ディスカッション・模擬授業等を通じて、音楽科における学習指導の基本的事項について理解を深める。 (井本 美穂)
9回	図画工作科教育の観点から、グループワーク・ディスカッション・模擬授業等を通じて、図画工作科における学習指導の基本的事項について理解を深める。 (妻藤 純子)
10回	家庭科教育の観点から、グループワーク・ディスカッション・模擬授業等を通じて、家庭科における学習指導の基本的事項について理解を深める。 (原田 省吾)
11回	体育科教育の観点から、グループワーク・ディスカッション・模擬授業等を通じて、体育科における学習指導の基本的事項について理解を深める。 (笹山 健作)
12回	学級経営と開かれた関係づくりについて、事例分析を通して検討する。 (紙田 路子,妻藤 純子,小川 孝司,黒崎 東洋郎,山下 浩之)
13回	保護者や地域との連携について、事例分析を通して検討する。 (紙田 路子,妻藤 純子,小川 孝司,黒崎 東洋郎,山下 浩之)
14回	児童の社会性を育む学級経営について、学級経営案の作成やディスカッションを通して理解を深める。 (紙田 路子,妻藤 純子,小川 孝司,黒崎 東洋郎,山下 浩之)

15回	これまでの講義の学習のまとめとして、自己評価レポートを作成する。 (森 敏昭,松岡 律,山中 芳和)
-----	---

回数	準備学習
1回	教職の意義や教員の役割・使命、職務内容等についての書かれた文献を探し読んでおくこと。(標準学習時間120分)
2回	学習指導と評価について書かれた文献を探し読んでおくこと。(標準学習時間120分)
3回	社会性、対人関係能力、問題行動等について書かれた文献を探し読んでおくこと。(標準学習時間120分)
4回	指定する国語科の教材研究をしておくこと。(標準学習時間120分)
5回	指定する算数科の教材研究をしておくこと。(標準学習時間120分)
6回	指定する社会科の教材研究をしておくこと。(標準学習時間120分)
7回	指定する理科の教材研究をしておくこと。(標準学習時間120分)
8回	指定する音楽科の教材研究をしておくこと。(標準学習時間120分)
9回	指定する図画工作科の教材研究をしておくこと。(標準学習時間120分)
10回	指定する家庭科の教材研究をしておくこと。(標準学習時間120分)
11回	指定する体育科の教材研究をしておくこと。(標準学習時間120分)
12回	学級経営と開かれた関係づくりについて調べたり教育実習における経験を想起したりして自分の考えをまとめておくこと。(標準学習時間120分)
13回	保護者や地域との連携について調べたり教育実習における経験を想起したりして自分の考えをまとめておくこと。(標準学習時間120分)
14回	児童の社会性の育成をめざした学級経営案を作成しておくこと。(標準学習時間120分)
15回	自己評価レポートを作成するにあたり、どのようなレポートにするか下書きをしておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	教職課程、介護等体験、教育実習を通して身に付けた理論知と実践知を融合させ、教員採用当初から学校現場の一線で役立つ教員としての資質能力を形成しているかどうかを確認する。また、教育実習記録等を事例研究として取り上げてグループワークを行い、教育現場で起こり得る事例について最適な指導の在り方を検討し、「学習指導力」「生徒指導力」「コーディネート力」「マネジメント力」「ファシリテーション力」等の実践的指導力の基礎が形成されていることを確認する。初等教育学科の学位授与の方針(DP)のCと深く関連している。
達成目標	教職や教科に関する基本的事項を身に付け、発達段階に応じた授業の構成や教材・教具の工夫ができる。(A) 教師としての使命感や責任感を持ち、理論と実践とを結びつけながら自己の課題を解決することができる。(B) 現代の教育活動に取り組むために必要な知識・技能を身につけ、それらを学級経営や授業実践に応用することができる。(C) 教育現場で生じているさまざまな現代的諸課題について、これまで習得した知見をもとに、その適切な対応を考え説明することができる。(D)
キーワード	理論知、実践知、学習指導力、生徒指導力、コーディネート力、マネジメント力、ファシリテーション力、使命感、責任感、現代的諸課題
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	1) 授業におけるレポート課題: 評価割合30%(到達目標 ~ を確認) 2) 模擬授業やロールプレイ等の活動: 評価割合20%(到達目標 ~ を確認) 3) 最終課題: 評価割合50%(到達目標 ~ を確認) 以上1) ~ 3) により総合的に評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	教科に関する科目、教職に関する科目、教育実践に関する科目、グローバル教育課題に関する科目、体験・探究活動に関する科目等
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	山中研究室(A1号館9階、yamanaka@ped.ous.ac.jp)、森研究室(A1号館9階、mori@ped.ous.ac.jp)、妻藤研究室(A1号館9階、saito@ped.ous.ac.jp)、松岡研究室(A1号館9階、matsuoka@ped.ous.ac.jp)、小川研究室(A1号館9階、ogawa@ped.ous.ac.jp)、黒崎研究室(A1号館9階、kurosaki@ped.ous.ac.jp)、紙田研究室(A1号館9階、kamita@ped.ous.ac.jp)、原田研究室(A1号館9階、harada@ped.ous.ac.jp)、井本研究室(A1号館10階、imoto@ped.ous.ac.jp)、笹山研究室(A1号館10階、sasayama@ped.ous.ac.jp)、山下研究室(A1号館10階、yamashita@ped.ous.ac.jp)
授業の運営方針	それぞれの授業において履修カルテを活用し、これまでの学修を多角的に分析して省察する。・1~3回、15回は全体に対して講義を行う。・4~11回はグループ毎に分かれ、教科内容を中心にこれまでの学修を振り返り、グループワーク、ディスカッション、模擬授業等を行う。・12~14回はグループ毎に分かれ、指定されたテーマをについて事例分析やグループワーク、ディスカッション等を行う。
アクティブ・ラーニング	課題解決学習、ディスカッション、グループワーク教育実習記録等より事例を取り上げ、アクティブ・ラーニングを通して教育現場で起こり得る事例について最適な指導の在り方を検討する。

課題に対するフィードバック	講義中や課題返却時にコメントや評価をしてフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	ア) 元国公立小学校教諭、元公立中学校教諭、元教育委員会指導主事 イ) 各学校現場の経験を活かして、現場に則した授業内容や指導方法について講義する。
その他(注意・備考)	特記なし。

科目名	教育学演習（教育史）（FEP03900）
英文科目名	Pedagogical Seminar (History of Education)
担当教員名	山中芳和（やまなかよしかず）
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	教育学における教育史研究の意義と方法について説明する。
2回	教育史研究の領域と基礎文献について説明する。
3回	教育史の諸問題について概説する。
4回	個別テーマの検討（1）儒学の教育思想と日本における展開について分析する。
5回	個別テーマの検討（2）貝原益軒の和俗童子訓の内容を検討する。
6回	個別テーマの検討（3）貝原益軒の教育論の近世的意義について考察する。
7回	個別テーマの検討（4）国学の教育思想と近世的展開について説明し、討議する。
8回	個別テーマの検討（5）近世日本の子ども像について説明し、討議する。
9回	個別テーマの検討（6）幕末における教育近代化への胎動について説明し、討議する。
10回	個別テーマの検討（7）欧米教育の受容と近代学校の成立について説明し、討議する。
11回	個別テーマの検討（8）欧米の新教育運動と大正期の教育改革について説明し、討議する。
12回	個別テーマの検討（9）教育実践記録を歴史的視点から分析考察する。
13回	個別テーマの検討（10）戦後民主教育の思想について説明するとともに、討議する。
14回	個別テーマの検討（11）戦後民主主義教育における教育内容の改革と学習指導要領の歴史的変遷について説明するとともに、その特質について討議する。
15回	日本の教育の歴史的特質についてこれまでの内容を踏まえて討議する。
16回	各自が選択したテーマについて調査した結果をもとに発表会を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスによって本授業の概要を確認しておくこと。（準備学習時間30分）
2回	すでに履修した教育学原論の講義の中で取り上げた教育の歴史的内容を復習しておくこと。（標準学習時間30分）
3回	すでに履修した教育学原論の講義の中で取り上げた教育の歴史的内容を復習するとともに、その際使用したテキストの関連部分を復習しておくこと。（標準学習時間45分）
4回	日本の近世という時代の特徴について考えておくこと。（標準学習時間30分）
5回	江戸時代の代表的な儒学者についてその概要を調べておくこと。（標準学習時間45分）
6回	江戸時代の代表的な儒学者の中で、貝原益軒の特徴を考えておくこと。（標準学習時間45分）
7回	国学という学問の特質と、儒学との違いについて考えておくこと。（標準学習時間45分）
8回	子どもという存在の特質について考えておくこと。（標準学習時間30分）
9回	幕末という時代の特徴について考えておくこと。（標準学習時間30分）
10回	明治初期の教育近代化へ向けての動きに関心を持っておくこと。（準備学習時間30分）
11回	明治の末から大正にかけての教育の歴史に関心をもっておくこと。（標準学習時間30分）
12回	教育実践を記録することの意義について考えておくとともに、その分析への関心をもっておくこと。（準備学習時間45分）
13回	戦後の教育の特質を戦前との比較の視点から考える事への関心を持っておくこと。（標準学習時間45分）
14回	学習指導要領の基本的な特徴について復習しておくこと。（標準学習時間45分）
15回	これまでの授業内容を復習し、日本の教育の歴史的特質についてあらかじめ考えておくこと。（標準学習時間45分）
16回	これまでの授業の各回の内容をまとめておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	本授業は「学位授与の方針」のBにもっとも強く関連する。 <ul style="list-style-type: none"> ・教育による人間形成の様相を歴史的に考察し、その特質を理解する。 ・教育の歴史的研究に必要な史料の分析方法を修得する。 ・教育の歴史に関する問題意識を深め、これからの教育のありかたを考える姿勢を培う。
達成目標	「学位授与の方針」のBに関連する次の内容を目的とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・人類の歴史とともにある教育の営みは、時代や地域の違いに応じて多様に展開して

	<p>きたことを説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する思想や制度、実践の歴史的展開とそれに伴う諸問題を具体的に説明できる。 ・教育のあり方を歴史的視点を踏まえて説明できる。
キーワード	教育学、教育史、資料の分析、
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎回の演習内容のまとめと最終回での発表内容をもとに総合的に評価する。合格基準は60点とする。
教科書	適宜、参考資料を配布する。
関連科目	教職論、教育学原論、教育史
参考書	『子どもの教育の歴史』（名古屋大学出版会）
連絡先	A1号館901研究室
授業の運営方針	この授業は演習科目であるので、授業の中では随時アクティブラーニングの方法を取り入れていく。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、調査活動 この授業は演習科目であるので授業に際しては、文献調査や、グループワークを随時取り入れる。
課題に対するフィードバック	授業終了後にコメントを提出し、次回の授業の中でその中のいくつかを共有することにより、全体の理解を深める。
合理的配慮が必要な学生への対応	配慮が必要な学生については随時その実情に応じて対応を考え実施する。
実務経験のある教員	国公立学校の教員及び管理職経験を講義の中で生かしていく。
その他（注意・備考）	この科目は演習科目であるので共同討議や意見交換を重視するため、積極的な取り組みが求められる。

科目名	教育学演習（教育社会学）（FEP04000）
英文科目名	Pedagogical Seminar (Sociology of Education)
担当教員名	松岡律（まつおかただし）
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	イントロダクション：人間の行為と意味について理解する。
2回	正常と異常・社会的禁忌について理解する。
3回	社会的ラベリングと予言の自己成就について理解する。
4回	様々な社会的規範について理解する。
5回	社会的正義と権力について理解する。
6回	共同体と国家について理解する。
7回	国民国家とグローバル化・移民について理解する。
8回	社会と教育の関係について理解する。
9回	グループ学習1：テーマに応じた文献を渉猟・講読する。
10回	グループ学習2：講読ならびにグループワークを通じて理解を深化する。
11回	グループ学習3：理解・解釈・成果を発表・共有する。
12回	教育社会学の研究スタイルおよび動向を理解する。
13回	個人研究(1) 各自の研究関心を明確化する。
14回	個人研究(2) 進捗状況と課題をまとめる。
15回	個人研究(3) 各自の成果を発表・共有する。

回数	準備学習
1回	教科書第1～2章を熟読すること。(標準学習時間60分)
2回	教科書第3～4章を熟読すること。(標準学習時間60分)
3回	教科書第5章を熟読すること。(標準学習時間60分)
4回	教科書第7～8章を熟読すること。(標準学習時間60分)
5回	教科書第10～11章を熟読すること。(標準学習時間60分)
6回	教科書第12～13章を熟読すること。(標準学習時間60分)
7回	教科書第14～15章を熟読すること。(標準学習時間60分)
8回	指定文献を熟読すること。(標準学習時間60分)
9回	何をテーマにするか熟慮しておくこと。(標準学習時間60分)
10回	文献の解釈を明確にし、書き起こしておくこと。(標準学習時間60分)
11回	プレゼンテーションの準備をしておくこと。(標準学習時間60分)
12回	指定された文献を熟読しておくこと。(標準学習時間60分)
13回	指定以外の文献も読んでおくこと。(標準学習時間60分)
14回	複数の文献を組み合わせて論を構成すること。(標準学習時間60分)
15回	何が明らかになったか、2000字以上でまとめておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	本演習の目的は、教育およびそれを取り巻く現代社会の様々な状況について、社会学的視点から分析的に理解・判断できるようになる力を身につけることにある。 この力は今後の学修のみならず、日常生活や実社会を生き抜く力の基礎となるものである。 (初等教育学科の学位授与方針B・Cに最も強く関与する)
達成目標	専門的文献を読解する力の基礎を身につけること。(B) 自己を相対化する視点を身につけること。(B) データの読み方の基礎を身につけること。(C)
キーワード	社会学、教育、人間
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	中間レポート30%（到達目標を確認）、最終レポート70%到達目標を確認により評価し、計60%以上を合格とする。
教科書	『社会学のエッセンス -- 世の中のしくみを見ぬく 新版』 / 有斐閣アルマ / 友枝 敏雄ほか / ISBN 978-4-641-12338-0
関連科目	教育社会学
参考書	適宜紹介する。
連絡先	A1号館904研究室
授業の運営方針	前半は教科書の輪読形式で進行する。 後半は各自の関心に基づいて渉猟した文献についての発表を行う。
アクティブ・ラーニング	質問、ディスカッション

ゲ	発表内容を深く理解できているかを確認するため、質疑応答およびディスカッションを毎回行う。
課題に対するフィードバック	各発表について、授業中その場で指摘を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	教育学演習（教育心理学）（FEP04100）
英文科目名	Pedagogical Seminar (Educational Psychology)
担当教員名	森敏昭（もりとしあき）
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	教育心理学の論説論文および研究論文を読む際の留意点について説明する。
2回	論説論文講読演習（1）：教育心理学に関する論説論文を読んで発表・議論する。
3回	論説論文講読演習（2）：教育心理学に関する論説論文を読んで発表・議論する。
4回	論説論文講読演習（3）：教育心理学に関する論説論文を読んで発表・議論する。
5回	論説論文講読演習（4）：教育心理学に関する論説論文を読んで発表・議論する。
6回	論説論文講読演習（5）：教育心理学に関する論説論文を読んで発表・議論する。
7回	論説論文講読演習（6）：教育心理学に関する論説論文を読んで発表・議論する。
8回	論説論文講読演習（7）：教育心理学に関する論説論文を読んで発表・議論する。
9回	研究論文講読演習（1）：教育心理学に関する研究論文を読んで発表・議論する。
10回	研究論文講読演習（2）：教育心理学に関する研究論文を読んで発表・議論する。
11回	研究論文講読演習（3）：教育心理学に関する研究論文を読んで発表・議論する。
12回	研究論文講読演習（4）：教育心理学に関する研究論文を読んで発表・議論する。
13回	研究論文講読演習（5）：教育心理学に関する研究論文を読んで発表・議論する。
14回	研究論文講読演習（6）：教育心理学に関する研究論文を読んで発表・議論する。
15回	研究論文講読演習（7）：教育心理学に関する研究論文を読んで発表・議論する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、授業計画の概要を把握しておくこと。（標準学習時間60分）
2回	『認知心理学者新しい学びを語る』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
3回	『認知心理学者新しい学びを語る』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
4回	『認知心理学者新しい学びを語る』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
5回	『認知心理学者新しい学びを語る』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
6回	『認知心理学者新しい学びを語る』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
7回	『認知心理学者新しい学びを語る』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
8回	『認知心理学者新しい学びを語る』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
9回	授業の前に、『教育心理学研究』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理・復習しておくこと。（標準学習時間120分）
10回	授業の前に、『教育心理学研究』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
11回	授業の前に、『教育心理学研究』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
12回	授業の前に、『教育心理学研究』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
13回	授業の前に、『教育心理学研究』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
14回	授業の前に、『教育心理学研究』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
15回	授業の前に、『教育心理学研究』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
16回	1回から15回までの内容を理解し整理しておくこと。（標準学習時間180分）

講義目的	教育心理学に関係する論説論文および研究論文の内容を正しく理解し、発表・議論を通して卒業論文の作成に不可欠な批判的思考力・創造的思考力を育成する。「学位授与の方針」のB（小学校教育の意義と役割を理解し、教職に関わることへの強い使命感を身につけている）に強く関連する科目である。
------	---

達成目標	教育心理学に関する論説論文の内容を具体的に説明できる（D）。教育心理学に関する論説論文の内容について批判的に議論することができる（B）。教育心理学に関する研究論文の内容について批判的に議論することができる（B）。
キーワード	教育心理学の論説論文 教育心理学の研究論文
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	提出課題30%、最終評価試験70%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。達成目標の に関しては授業での発表・議論の内容、 に関しては最終評価試験で評価する。
教科書	使用しない。
関連科目	教育心理学
参考書	日本教育心理学会の機関誌である『教育心理学研究』
連絡先	A 1号館 9F 森研究室
授業の運営方針	教育心理学の論説論文および研究論文の内容について発表・議論することを通して「主体的・対話 的で深い学び」がなされることを目指している。
アクティブ・ラーニング	ライティング、プレゼンテーション。教育心理学の論説論文および研究論文の発表・議論を通して 、教育心理学の理論と研究方法についての「主体的・対話的で深い学び」がなされることを目指し ている。
課題に対するフィードバック	最終試験のフィードバックとして、模範答案の提示と解説の掲示をする。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障害学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	試験は最終評価試験期間中に行い、試験形態は筆記による。

科目名	教材分析・開発演習A（国語・社会・家庭）（FEP04200）
英文科目名	Analysis and Development of Teaching Materials A (Japanese, Social Studies, Home Economics)
担当教員名	小川孝司（おがわたかし）、紙田路子（かみたみちこ）、原田省吾（はらだしょうご）
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	授業記録を読み、授業を成立させるに必要な教材研究や教材開発、学習指導案作成の重要性について説明する。（小川孝司） （全教員）
2回	実際の文学的文章をもとに、学習材の内容分析の方法、身に付けさせたい内容的価値及び言葉の力について説明する。（小川孝司） （全教員）
3回	前時の教材分析等をもとに、文学的文章を読むための、教師の指導方法的研究及び1単位時間の学習の流れについて説明する。（小川孝司） （全教員）
4回	実際の説明的文章をもとに、学習材の内容分析の方法、身に付けさせたい内容的価値及び言葉の力について説明する。（小川孝司） （全教員）
5回	前時の教材分析等をもとに、説明的文章を読むための、教師の指導方法的研究及び1単位時間の学習の流れについて説明する。（小川孝司） （全教員）
6回	社会科において育成すべき資質・能力をもとに教育内容を構成する「単元マネジメント」の意義を理解し、社会科の教材分析について見通しを持つ。（紙田路子） （全教員）
7回	「単元マネジメント」の観点をもとに、社会科授業の指導案（単元計画）の構成（目標・教材観・指導観・単元計画）について分析し、評価する。（紙田路子） （全教員）
8回	「単元マネジメント」の観点を生かし、歴史単元「武士の始まり」を題材に単元計画を作る。（演習）（紙田路子） （全教員）
9回	グループで社会科授業の指導案（単元計画）を作成し、「単元マネジメント」の観点からチェックする。（紙田路子） （全教員）
10回	社会科授業の指導案（単元計画）を発表し、「単元マネジメント」の観点から互いに評価し、意見を交換する。（紙田路子） （全教員）
11回	家庭科において育成すべき能力について説明し、本質をふまえた家庭科授業づくりに向けた授業改善の視点について考察する。（原田省吾） （全教員）
12回	家庭科における実験・実習を用いた授業実践例の分析を通して、その意義を理解するとともに、授業づくりや題材選定の方法を習得する。（原田省吾） （全教員）
13回	家庭科における主体的・対話的に深く学ぶ授業実践例の分析を通して、家庭科における深い学びについて考察する。（原田省吾） （全教員）
14回	小学校家庭科の授業づくりにおいて重視すべき点について説明する。それをふまえて「ごはん」と

	そ汁」を題材とした指導計画・学習指導案をグループ単位で作成する。(原田省吾) (全教員)
15回	グループで作成した「ごはんのみそ汁」の指導計画・学習指導案を発表する。家庭科の授業づくりのポイントに照らして相互評価し、意見を交換する。(原田省吾) (全教員)
16回	最終評価試験を行う。試験後模範解答の提示と内容についての解説を行う。 (全教員)

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、本授業の概要を確認しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	前回の講義で配付した文学的文章について、クライマックスや工夫された表現・仕掛けについてまとめておくこと。(標準学習時間60分)
3回	前時に使用した文学的文章に関係する指導内容を教科書「小学校学習指導要領解説国語編」を読みまとめておくこと。(標準学習時間60分)
4回	前回の講義で配付した説明的文章について、「筆者の伝えたいこと」「文章全体の構成」「表現や仕掛けの工夫」等についてまとめておくこと。(標準学習時間60分)
5回	前時に使用した説明的文章に関係する指導内容を教科書「小学校学習指導要領解説国語編」を読みまとめておくこと。(標準学習時間60分)
6回	中央教育審議会答申の「第4章学習指導要領等の枠組みの改善と『社会に開かれた学習過程』」を読み、単元開発の基本的な方針について理解しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	前回の講義で配布した「社会科授業指導案」を読み、内容構成、および「知識の構造」について把握し、まとめておくこと。(標準学習時間120分)
8回	前回の講義で配布した単元開発に関わる資料(教科書教材)を読み、知識の構造図を作成しておくこと。(標準学習時間120分)
9回	単元開発に必要な資料を収集しておくこと。(標準学習時間90分)
10回	発表の準備・分担・練習を進めておくこと。(標準学習時間120分)
11回	予習:「小学校学習指導要領解説家庭編」第2章第1節を読んで内容を把握しておくこと。 復習:「家庭科の本質」について整理しておくこと。(標準学習時間60分)
12回	予習:「小学校学習指導要領解説家庭編」に示されている実験・実習の事例を把握しておくこと。 復習:実験・実習を用いた授業の意義をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
13回	予習:「小学校学習指導要領解説家庭編」第3章の1の(1)を読んで内容を把握しておくこと。 復習:家庭科における深い学びについてまとめておくこと。(標準学習時間60分)
14回	予習:「小学校学習指導要領解説家庭編」の「食生活」の部分を読んで内容を把握しておくこと。 復習:「ごはんのみそ汁」を題材とした指導計画・学習指導案を作成すること。(標準学習時間120分)
15回	予習:グループで作成した「ごはんのみそ汁」を題材とした指導計画・学習指導案を共有しておくこと 復習:意見交換した内容を整理しておくこと。(標準学習時間90分)
16回	各教科における教材観・指導官・単元計画の作成のポイントと方法について復習しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	国語科、社会科、家庭科の教育内容を理解し、実際の学習材に即しながら、「学習材」の内容等の分析的研究や、「教師」の指導の的方法的研究等に取り組む。また、その研究を学習指導案にまとめるといったグループによる検討や共同作業が中心となる。こうした講義を通して、教材開発及び学習指導案作成の方法を実践的に身に付けることを目的とする。(この講義は初等教育学科の学位授与方針のA・B・Cに強く関与する)
達成目標	教科内容についてよく理解し、目標に応じて教材の分析・再構成ができる。(A) 課題設定・情報収集・情報の分析、吟味、再構成という学習過程にそった単元計画を作成することができる。(C) 教材開発、および単元開発を通して単元マネジメントの意義や役割について理解できる。(B)
キーワード	教材開発、単元計画、カリキュラム・マネジメント、開かれた教育課程、主体的・対話的な深い学び(アクティブラーニング)
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	定期試験60%(主に達成目標1・3を評価)、レポート40%(主に達成目標2を評価)により評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。ただし最終評価試験において基準点を設け、得点が100点中60点未満は不合格とする。
教科書	小学校学習指導要領社会科編/文部科学省/東洋館出版社/平成29年告示 小学校学習指導要領国語科編/文部科学省/東洋館出版社/平成29年告示

	小学校学習指導要領家庭科編/文部科学省/東洋館出版社/平成29年告示 わたしたちの家庭科5・6/文部科学省検定済教科書/開隆堂
関連科目	初等国語科内容論、初等国語科教育法、初等社会科内容論、初等社会科教育法、初等家庭科内容論、初等家庭科教育法
参考書	「新社会科づくりハンドブック」 ・能力ベースの小学校国語科の授業と評価」
連絡先	A 1号館 9 F 紙田研究室 A 1号館 9 F 小川研究室 A 1号館 9 F 原田研究室
授業の運営方針	・毎時間のミニレポート及び課題レポートを必ず期限内に提出すること。 ・模擬授業や単元計画作成、学習指導案作成等グループ活動を行う。遅刻・課題未提出等グループに迷惑をかけることが重なりと欠席扱いにすることがあるので十分注意すること。 ・講義資料は講義開始時に配布する。なお特別な事情のない限り後日の配布には応じない。
アクティブ・ラーニング	・ディスカッション：課題レポートやテーマをもとにグループでディスカッション、ワークショップ等を行う。 ・グループワーク：模擬授業、単元計画作成、学習指導案作成等を行う。
課題に対するフィードバック	・課題レポート、およびミニレポートは添削・評価の後、次時の授業時間に返却する。 ・模擬授業については、グループ間の相互評価の後、総括・評価を行う。 ・最終評価試験の後、模範解答を配布・解説する。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。 ・講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。当別の理由がある場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	元公立小学校・中学校教諭：学校現場における教育経験者が、その経験を生かして、国語科、社会科、家庭科の教材分析・開発の手法について解説・指導する。
その他（注意・備考）	・小学校国語科、社会科、家庭科の教科用図書（教科書）に目を通し、教材の概要について把握しておくことが望ましい。 ・実際に教育実習や教育現場において、学習指導案及び単元計画を作成することを念頭に置き、目的意識をもって講義に臨むことが望ましい。 ・指導計画は受講状況により変更することがある。・試験は最終評価試験中に行う。・講義中の録音、録画、撮影は原則認めない。当別の理由がある場合は事前に相談すること。

科目名	教材分析・開発演習B（理科・算数・生活）（FEP04300）
英文科目名	Analysis and Development of Teaching Materials B (Science, Maths, Living Environment Studies)
担当教員名	山下浩之（やましたひろゆき）、黒崎東洋郎（くろさきとよお）、筒井愛知*（つついよしとも*）
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	算数科で育成すべき「数学的に考える」資質・能力について、教材分析・教材開発する際には、「数学的な見方・考え方を働かせる」「数学的活動」の観点から具体的に分析することを、低学年の「数」の領域を事例に解説する。 （黒崎 東洋郎）
2回	AIの進展に対応する資質・能力を育成するため、「知識・技能」「数学的な思考力・判断力・表現力」「学びに向かい態度」の観点から、事例を挙げてマトリックス法による教材分析の方法を解説する。 （黒崎 東洋郎）
3回	点、線、面の図形の構成要素に基づく基本的図形及び三角形、四角形、円などの基本的な図形の面積に関する教材分析・教材開発を事例を挙げて解説する。 （黒崎 東洋郎）
4回	変化と関係、教材の意義、伴って変わる2つの数量に着目し、その関係を探究する関数教材の分析法や関数を活用する教材開発の視点を解説する。 （黒崎 東洋郎）
5回	データの分類整理、データ活用の教材を、統計的な見方・考え方の育成の視点から系統的・体系的視点に立って解説する。 （黒崎 東洋郎）
6回	学習指導要領の理科の目標を分析し、理科における教材分析・教材開発の意義を解説する。また、理科におけるアクティブラーニングについて議論を行う。 （山下 浩之）
7回	生物・地学領域の指導を対象として目標分析を行うとともに、教材の準備に関する手法および授業の各段階での評価の方法について解説する。 （山下 浩之）
8回	物理・化学領域の指導を対象として目標分析を行うとともに、教材の準備に関する手法および授業の各段階での評価の方法について解説する。 （山下 浩之）
9回	生物・地学領域での学習指導案作成と模擬授業を行う。授業後、各段階での評価を検討し、改善点等を討議したうえでプレゼンテーションを行う。 （山下 浩之）
10回	物理・化学領域での学習指導案作成と模擬授業を行う。授業後、各段階での評価を検討し、改善点等を討議したうえでプレゼンテーションを行う。 （山下 浩之）
11回	生活科の目的や内容について学習指導要領に基づいて解説するとともに、身の周りの人や社会や自然に対する視点について議論する。 （山下 浩之）
12回	身近な人や社会との関わりについて、学生自身の体験を踏まえながら、教材を開発するための手法について解説する。 （筒井 愛知*）
13回	身近な自然との関わりについて、学生自身の体験を踏まえながら、教材を開発するための手法について解説する。

	(筒井 愛知*)
14回	学習指導案の作成と模擬授業を行い、その後改善点などを討議する。
	(筒井 愛知*)
15回	学習指導案の作成と模擬授業を行い、その後改善点などを討議する。
	(筒井 愛知*)

回数	準備学習
1回	算数科で目指す「資質・能力」とは何かを調べ、算数科の目標や知識・理解だけでなく、数学的な見方・考え方を育成する観点から教材分析・開発する意義を事前に調べてくること。(標準学習時間120分)
2回	「せめて計算力だけは」と言われる。AIの発達で、単に計算できれば幼児大ではない、算数科で本当に育成すべき計算力とは何かを考えてくること。(標準学習時間120分)
3回	三角形、四角形、円を指導する意義や意味指導、及び、これらの基本的な図形の面積の求積指導の概要を事前に調べてくること。(標準学習時間120分)。
4回	算数科で比例関係を取り上げる意義や「関数の見方・考え方」をはぐくむために系統的に取り上げられている教材を事前に調べてくること。(標準学習時間120分)
5回	算数科で統計的な見方・考え方を育成する意義、データの分類整理がどのような教材で指導されているかを事前に調べてくること。2時間。(標準学習時間120分)
6回	理科の目標および各学年の目標分析を行った上で、教材分析の意義を文献等で調べ予習しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	教材分析の意義について議論したことを整理し復習しておくこと。生物・地学領域での目標分析を行った上で、実際の教材開発のアイデアを提案できるように予習すること。(標準学習時間60分)
8回	前回の教材開発について整理し、問題点と改善点を明らかにしておくこと。物理・化学領域での目標分析を行った上で、教材開発のアイデアを提案できるように予習すること。(標準学習時間60分)
9回	前回の教材開発について整理し、問題点と改善点を明何しておくこと。各自学習指導案を作成し、目標および各段階での評価を考えレポートすること。(標準学習時間60分)
10回	前回の目標や評価を整理し復習しておくこと。各自の学習指導案にそって模擬授業を行い、目標および各段階での評価を考えレポートすること。(標準学習時間60分)
11回	自分が小学生の時の生活科について、内容や印象に残っていること等を振り返りまとめておくこと。(標準学習時間60分)
12回	自分自身のこれまでの人や社会との関わりの歴史について振り返ってまとめておくこと。(標準学習時間60分)
13回	自分自身のこれまでの自然との関わりの歴史について振り返ってまとめておくこと。(標準学習時間60分)
14回	各自学習指導案を作成すること。(標準学習時間60分)
15回	各自学習指導案を作成すること。(標準学習時間60分)

講義目的	算数科・理科・生活科固有のはぐくむべき資質能力と教材を分析し、新たな教材開発の意義や目的を理解することで授業づくりの概要を学ぶ科目である。この授業の目的は教育学部学位授与(DP)のBおよびCと深く関連している。
達成目標	(算数科)1)数学的資質・能力に関心を持って教材分析、教材開発ができる。(B、C) (理科)2)科学の原理を理解し目標と内容に適した教材理解や開発ができる。(B) (理科)最近の理科学習の問題点を議論し、改善へのアイデアを提案できる。(C) (生活科)3)生活科の目標にあった教材開発ができる。(B)
キーワード	(算数科)数学的見方・考え方、数学的に考える、数と計算の教材分析・教材開発 (理科)自然事象の原理、教材理解、授業評価 (生活科)社会、自然、遊びと学び
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	(算数科)数量や図形の多角的な教材分析ができたか、独創的な教材開発を提案できたかどうかの2面について2種類の提出レポート(各50%)で評価する。 (理科)目標や内容の理解および授業評価の2点から評価する。(提出課題60%、プレゼンテーション40%で達成目標を評価し、総計で60%以上を合格とする。特にプレゼンテーションでは論理性と表現力を評価する。) (生活科)生活科の目標を理解して教材開発ができていないか(提出課題40%、教材開発40%、授業評価20%)
教科書	算数教科書(H31年度用啓林館)、小学校学習指導要領解説 算数編(2017,文科省) 小学校学習指導要領解説理科編/文部科学省/大日本図書.2017

	小学校学習指導要領解説生活編 / 文部科学省 / 日本文教出版
関連科目	初等算数内容論、初等算数科教育法 初等理科内容論 初等理科教育法 初等生活科内容論、初等生活科教育法
参考書	適宜紹介する。
連絡先	算数科 A1号館 906室(黒崎)研究室 . オフィスアワー月曜日1,2限 . 理科 A1号館 1012(山下)研究室 (直通電話086-256-9624 e-mail : yamashita ped.ous.ac.jp はat sign オフィスアワー木曜日4・5限) 生活科 ph6y-tti@j.asahi-net.or.jp 筒井愛知
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・実験時は安全面に十分に留意する . 白衣・安全ゴーグル着用 , 長髪は括ること . (理科) ・授業の始めに出席をとるが , 返答がない場合は遅刻あるいは欠席扱いにするので注意すること . (理科・算数科・生活科) ・遅刻は15分までは認めるがそれ以降は欠席扱いにする . (理科・算数科・生活科) ・全てのレポートを期限内に提出すること . 期限を過ぎての提出は減点の対象にする . (理科・算数科・生活科) ・入室退室時および教室使用上のルールを厳守すること (理科) ・最終評価試験は実施しないので授業時間と授業時間外での活動が重要である . 課題レポート等にコピーなどの剽窃がある場合は , 成績評価の対象としない場合もある . (理科・算数・生活科)
アクティブ・ラーニング	<p>ワークショップ , ディスカッション , プレゼンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働的なワークショップ , 授業中のグループディスカッションを通してテーマを深めていく . さらにグループで意見を集約してプレゼンテーションを行う . ・リフレクションノートにより相互評価、自己評価を行う .
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・予習復習課題は採点后 , 返却する . 算数科においては , 返却時にポイントを教師解説する . ・課題についてはその内容を各自プレゼンテーションし , 内容を学生全体で共有した上で相互評価する . ・課題についての補足やフィードバックに関する情報はMomocampusで行う場合がある .
合理的配慮が必要な学生への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください . ・講義中の録音・録画・撮影は個人で利用する場合に限り , 許可する場合がありますので事前に相談すること . ・障害に応じて補助器具 (ICレコーダー、タブレット型端末の撮影、録画機能) の使用を認めるので、事前に相談すること . ・配布資料や録画データなどは他者への再配布 (ネットへのアップロードを含む) や転用は禁止する .
実務経験のある教員	ア) 元小学校・高等学校勤務イ) 学校現場の経験を活かして、今日的な教育的な課題 (算数科・理科・生活科) とその対策方法について講義する。
その他 (注意・備考)	

科目名	教材分析・開発演習B（理科・算数・生活）（FEP04310）
英文科目名	Analysis and Development of Teaching Materials B (Science, Maths, Living Environment Studies)
担当教員名	山下浩之（やましたひろゆき）、黒崎東洋郎（くろさきとよお）、筒井愛知*（つついよしとも*）
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	算数科で育成すべき「数学的に考える」資質・能力について、教材分析・教材開発する際には、「数学的な見方・考え方を働かせる」「数学的活動」の観点から具体的に分析することを、低学年の「数」の領域を事例に解説する。 （黒崎 東洋郎）
2回	AIの進展に対応する資質・能力を育成するため、「知識・技能」「数学的な思考力・判断力・表現力」「学びに向かい態度」の観点から、事例を挙げてマトリックス法による教材分析の方法を解説する。 （黒崎 東洋郎）
3回	点、線、面の図形の構成要素に基づく基本的図形及び三角形、四角形、円などの基本的な図形の面積に関する教材分析・教材開発を事例を挙げて解説する。 （黒崎 東洋郎）
4回	変化と関係、教材の意義、伴って変わる2つの数量に着目し、その関係を探究する関数教材の分析法や関数を活用する教材開発の視点を解説する。 （黒崎 東洋郎）
5回	データの分類整理、データ活用の教材を、統計的な見方・考え方の育成の視点から系統的・体系的視点に立って解説する。 （黒崎 東洋郎）
6回	学習指導要領の理科の目標を分析し、理科における教材分析・教材開発の意義を解説する。また、理科におけるアクティブラーニングについて議論を行う。 （山下 浩之）
7回	生物・地学領域の指導を対象として目標分析を行うとともに、教材の準備に関する手法および授業の各段階での評価の方法について解説する。 （山下 浩之）
8回	物理・化学領域の指導を対象として目標分析を行うとともに、教材の準備に関する手法および授業の各段階での評価の方法について解説する。 （山下 浩之）
9回	生物・地学領域での学習指導案作成と模擬授業を行う。授業後、各段階での評価を検討し、改善点等を討議したうえでプレゼンテーションを行う。 （山下 浩之）
10回	物理・化学領域での学習指導案作成と模擬授業を行う。授業後、各段階での評価を検討し、改善点等を討議したうえでプレゼンテーションを行う。 （山下 浩之）
11回	生活科の目的や内容について学習指導要領に基づいて解説するとともに、身の周りの人や社会や自然に対する視点について議論する。 （筒井 愛知*）
12回	身近な人や社会との関わりについて、学生自身の体験を踏まえながら、教材を開発するための手法について解説する。 （筒井 愛知*）
13回	身近な自然との関わりについて、学生自身の体験を踏まえながら、教材を開発するための手法について解説する。

	(筒井 愛知*)
14回	学習指導案の作成と模擬授業を行い、その後改善点などを討議する。
	(筒井 愛知*)
15回	学習指導案の作成と模擬授業を行い、その後改善点などを討議する。
	(筒井 愛知*)

回数	準備学習
1回	算数科で目指す「資質・能力」とは何かを調べ、算数科の目標や知識・理解だけでなく、数学的な見方・考え方を育成する観点から教材分析・開発する意義を事前に調べてくること。(標準学習時間120分)
2回	「せめて計算力だけは」と言われる。AIの発達で、単に計算できれば幼児大ではない、算数科で本当に育成すべき計算力とは何かを考えてくること。(標準学習時間120分)
3回	三角形、四角形、円を指導する意義や意味指導、及び、これらの基本的な図形の面積の求積指導の概要を事前に調べてくること。(標準学習時間120分)。
4回	算数科で比例関係を取り上げる意義や「関数の見方・考え方」をはぐくむために系統的に取り上げられている教材を事前に調べてくること。(標準学習時間120分)
5回	算数科で統計的な見方・考え方を育成する意義、データの分類整理がどのような教材で指導されているかを事前に調べてくること。2時間。(標準学習時間120分)
6回	理科の目標および各学年の目標分析を行った上で、教材分析の意義を文献等で調べ予習しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	教材分析の意義について議論したことを整理し復習しておくこと。生物・地学領域での目標分析を行った上で、実際の教材開発のアイデアを提案できるように予習すること。(標準学習時間60分)
8回	前回の教材開発について整理し、問題点と改善点を明らかにしておくこと。物理・化学領域での目標分析を行った上で、教材開発のアイデアを提案できるように予習すること。(標準学習時間60分)
9回	前回の教材開発について整理し、問題点と改善点を明何しておくこと。各自学習指導案を作成し、目標および各段階での評価を考えレポートすること。(標準学習時間60分)
10回	前回の目標や評価を整理し復習しておくこと。各自の学習指導案にそって模擬授業を行い、目標および各段階での評価を考えレポートすること。(標準学習時間60分)
11回	自分が小学生の時の生活科について、内容や印象に残っていること等を振り返りまとめておくこと。(標準学習時間60分)
12回	自分自身のこれまでの人や社会との関わりの歴史について振り返ってまとめておくこと。(標準学習時間60分)
13回	自分自身のこれまでの自然との関わりの歴史について振り返ってまとめておくこと。(標準学習時間60分)
14回	各自学習指導案を作成すること。(標準学習時間60分)
15回	各自学習指導案を作成すること。(標準学習時間60分)

講義目的	算数科・理科・生活科固有のはぐくむべき資質能力と教材を分析し、新たな教材開発の意義や目的を理解することで授業づくりの概要を学ぶ科目である。この授業の目的は教育学部学位授与(DP)のBおよびCと深く関連している。
達成目標	(算数科)1)数学的資質・能力に関心を持って教材分析、教材開発ができる。(B、C) (理科)2)科学の原理を理解し目標と内容に適した教材理解や開発ができる。(B) 最近の理科学習の問題点を議論し、改善へのアイデアを提案できる。(C) (生活科)3)生活科の目標にあった教材開発ができる。(B)
キーワード	(算数科)数学的見方・考え方、数学的に考える、数と計算の教材分析・教材開発 (理科)自然事象の原理、教材理解、授業評価 (生活科)社会、自然、遊びと学び
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	(算数科)数量や図形の多角的な教材分析ができたか、独創的な教材開発を提案できたかどうかの2面について2種類の提出レポート(各50%)で評価する。 (理科)目標や内容の理解および授業評価の2点から評価する。(提出課題60%、プレゼンテーション40%で達成目標を評価し、総計で60%以上を合格とする。特にプレゼンテーションでは論理性と表現力を評価する。) (生活科)生活科の目標を理解して教材開発ができていないか(提出課題40%、教材開発40%、授業評価20%)
教科書	算数教科書(H31年度用啓林館)、小学校学習指導要領解説 算数編(文科省) 小学校学習指導要領解説理科編/文部科学省/大日本図書.2017 小学校学習指導要領解説生活編/文部科学省/日本文教出版

関連科目	初等算数内容論、初等算数科教育法 初等理科内容論 初等理科教育法 初等生活科内容論、初等生活科教育法
参考書	適宜紹介する。
連絡先	算数科 A1号館 906室(黒崎)研究室・オフィスアワー月曜日1,2限 理科 A1号館 1012(山下)研究室(直通電話086-256-9624) e-mail:yamashita ped.ous.ac.jp はat sign オフィスアワー木曜日4・5限) 生活科 ph6y-tti@j.asahi-net.or.jp 筒井愛知
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・実験時は安全面に十分に留意する。白衣・安全ゴーグル着用，長髪は括ること。(理科) ・授業の始めに出席をとるが，返答がない場合は遅刻あるいは欠席扱いにするので注意すること。(理科・算数科・生活科) ・遅刻は15分までは認めるがそれ以降は欠席扱いにする。(理科・算数科・生活科) ・全てのレポートを期限内に提出すること。期限を過ぎての提出は減点の対象にする。(理科・算数科・生活科) ・入室退室時および教室使用上のルールを厳守すること(理科) ・最終評価試験は実施しないので授業時間と授業時間外での活動が重要である。課題レポート等にコピーなどの剽窃がある場合は、成績評価の対象としない場合もある。(理科・算数・生活科)
アクティブ・ラーニング	<p>ワークショップ，ディスカッション，プレゼンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働的なワークショップ，授業中のグループディスカッションを通してテーマを深めていく。さらにグループで意見を集約してプレゼンテーションを行う。 ・リフレクションノートにより相互評価、自己評価を行う。
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・予習復習課題は採点后，返却する。算数科においては，返却時にポイントを教師解説する。 ・課題についてはその内容を各自プレゼンテーションし，内容を学生全体で共有した上で相互評価する。 ・課題についての補足やフィードバックに関する情報はMomocampusで行う場合がある。
合理的配慮が必要な学生への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・講義中の録音・録画・撮影は個人で利用する場合に限り，許可する場合がありますので事前に相談すること。 ・障害に応じて補助器具（ICレコーダー、タブレット型端末の撮影、録画機能）の使用を認めるので、事前に相談すること。 ・配布資料や録画データなどは他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）や転用は禁止する。
実務経験のある教員	ア)元小学校・高等学校勤務イ)学校現場の経験を活かして、今日的な教育的な課題（算数科・理科・生活科）とその対策方法について講義する。
その他(注意・備考)	

科目名	教材分析・開発演習C（音楽・図工・体育）（FEP04400）
英文科目名	Analysis and Development of Teaching Materials C (Music, Arts and Crafts, Physical Education)
担当教員名	妻藤純子（さいとうじゅんこ）, 井本美穂（いもとみほ）, 笹山健作（ささやまけんさく）
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	教材づくりの基本的視点について解説する。 (笹山 健作)
2回	鬼遊びの教材づくりについて解説する。(1) (笹山 健作)
3回	鬼遊びの教材づくりについて解説する。(2) (笹山 健作)
4回	ボールゲームの教材づくりについて解説する。(1) (笹山 健作)
5回	ボールゲームの教材づくりについて解説する。(2) (笹山 健作)
6回	音楽科において育成すべき資質・能力をふまえた教材分析・開発の方法について説明する。 (井本 美穂)
7回	低学年を対象とした音楽授業についての単元計画および教材分析の方法について説明する。 (井本 美穂)
8回	中学年を対象とした音楽授業についての単元計画および教材分析の方法について説明する。 (井本 美穂)
9回	高学年を対象とした音楽授業についての単元計画および教材分析の方法について説明する。 (井本 美穂)
10回	各題材にもとづく教材の有効な活用方法および授業づくりについて説明する。 (井本 美穂)
11回	低学年の教科書題材をもとに、単元計画、児童作品から見える指導の意図と作品の見方（評価）について説明する。 (妻藤 純子)
12回	中学年の教科書題材をもとに、単元計画、児童作品から見える指導の意図と作品の見方（評価）について説明する。 (妻藤 純子)
13回	高学年の教科書題材をもとに、単元計画、児童作品から見える指導の意図と作品の見方（評価）について説明する。 (妻藤 純子)
14回	授業の導入と具体的支援を中心として授業づくりについて説明する。 (妻藤 純子)
15回	鑑賞用教材を用いて美術鑑賞の授業づくりについて説明する。 (妻藤 純子)

回数	準備学習
1回	『小学校学習指導要領解説 体育編』に示されているゲームとボール運動の部分を読んでおくこと。(60分)

2回	鬼遊びの教材分析・開発をグループまたは個人で行うこと。(90分)
3回	鬼遊びの教材分析・開発をグループまたは個人で行うこと。(90分)
4回	ボールゲームの教材分析・開発をグループまたは個人で行うこと。(90分)
5回	ボールゲームの教材分析・開発をグループまたは個人で行うこと。(90分)
6回	『小学校学習指導要領解説 音楽編』を読み、各学年の目標および内容を把握しておくこと。(60分)
7回	低学年の音楽教材に関する配付資料を読み、目標に基づく教材活用の方法について考えておくこと。(90分)
8回	中学年の音楽教材に関する配付資料を読み、目標に基づく教材活用の方法について考えておくこと。(90分)
9回	高学年の音楽教材に関する配付資料を読み、目標に基づく教材活用の方法について考えておくこと。(90分)
10回	これまでの教材研究をもとに、各自授業の導入方法を考えてくること。(120分)
11回	配布資料(低学年教科書題材について)を読み、低学年児童の作品から見える児童の発達段階やそれに応じた必要な指導事項についてまとめておくこと。(90分)
12回	配布資料(中学年教科書題材について)を読み、中学年児童の作品から見える児童の発達段階やそれに応じた必要な指導事項についてまとめておくこと。(90分)
13回	配布資料(高学年教科書題材について)を読み、高学年児童の作品から見える児童の発達段階やそれに応じた必要な指導事項についてまとめておくこと。(90分)
14回	題材(事前に指示)について、その目標や指導事項をもとに、15分間の導入と必要な掲示物を考えておくこと。(120分)
15回	配布資料(鑑賞教材について)を読み、授業展開を考えておくこと。(120分)

講義目的	音楽科、図画工作科、体育科の教育内容を理解し、実際の学習材に即しながら、学習材の内容等の分析的研究や教師の指導の的方法的研究等に取り組む。グループによる検討や共同作業が中心となる。本講義を通して、教材開発や単元計画の作成方法等を実践的に身につけることを目的とする。初等教育学科学位授与の方針Aと深く関連する科目である。
達成目標	1) 教科内容についてよく理解し、目標に応じて教材の分析、再構成ができる。(A) 2) 学習過程に沿った単元計画を作成することができる。(C) 3) 教材開発、及び単元開発を通して、カリキュラム・マネジメントの意義や役割について理解することができる。(D)
キーワード	教材開発、単元計画、カリキュラム・マネジメント、アクティブラーニング
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	提出課題40%(達成目標1,2,3を評価)、教材開発40%(達成目標1,2,3を評価)、授業についての議論20%(達成目標1,2,3を評価)により評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	小学校学習指導要領解説 体育編 平成29年7月/文部科学省/東洋館出版社/978-4491034676 小学校学習指導要領解説 音楽編 平成29年7月/文部科学省/東洋館出版社/978-4491034652
関連科目	音楽科内容論、音楽科教育法、図画工作科内容論、図画工作科教育法、体育科内容論、体育科教育法
参考書	随時紹介し、必要に応じて資料を講義中に配布する。
連絡先	A1号館9階妻藤研究室 saito@ped.ous.ac.jp A1号館10階井本研究室 imoto@ped.ous.ac.jp A1号館10階笹山研究室sasayama@ped.ous.ac.jp
授業の運営方針	・教育現場において必要な実践力を身に付けるため、目的意識をもって講義に臨むことが望ましい。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク ・この講義ではアクティブラーニングの一環として、グループワーク、グループディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	・提出課題については、講義中に模範解答を配布するか、または、解説によるフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	妻藤純子ア) 公立小学校、国立大学附属小学校勤務 イ) 学校現場の経験を活かして、具体的かつ実践的な教育法について講義する。
その他(注意・備考)	・講義中の論音/録画/撮影は原則認めない。特別な理由がある場合、事前に相談すること。

科目名	教材分析・開発演習C（音楽・図工・体育）（FEP04410）
英文科目名	Analysis and Development of Teaching Materials C (Music, Arts and Crafts, Physical Education)
担当教員名	妻藤純子（さいとうじゅんこ）, 井本美穂（いもとみほ）, 笹山健作（ささやまけんさく）
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	教材づくりの基本的視点について解説する。 (笹山 健作)
2回	鬼遊びの教材づくりについて解説する。(1) (笹山 健作)
3回	鬼遊びの教材づくりについて解説する。(2) (笹山 健作)
4回	ボールゲームの教材づくりについて解説する。(1) (笹山 健作)
5回	ボールゲームの教材づくりについて解説する。(2) (笹山 健作)
6回	音楽科において育成すべき資質・能力をふまえた教材分析・開発の方法について説明する。 (井本 美穂)
7回	低学年を対象とした音楽授業についての単元計画および教材分析の方法について説明する。 (井本 美穂)
8回	中学年を対象とした音楽授業についての単元計画および教材分析の方法について説明する。 (井本 美穂)
9回	高学年を対象とした音楽授業についての単元計画および教材分析の方法について説明する。 (井本 美穂)
10回	各題材にもとづく教材の有効な活用方法および授業づくりについて説明する。 (井本 美穂)
11回	低学年の教科書題材をもとに、単元計画、児童作品から見える指導の意図と作品の見方（評価）について説明する。 (妻藤 純子)
12回	中学年の教科書題材をもとに、単元計画、児童作品から見える指導の意図と作品の見方（評価）について説明する。 (妻藤 純子)
13回	高学年の教科書題材をもとに、単元計画、児童作品から見える指導の意図と作品の見方（評価）について説明する。 (妻藤 純子)
14回	授業の導入と具体的支援を中心として授業づくりについて説明する。 (妻藤 純子)
15回	鑑賞用教材を用いて美術鑑賞の授業づくりについて説明する。 (妻藤 純子)

回数	準備学習
1回	『小学校学習指導要領解説 体育編』に示されているゲームとボール運動の部分を読んでおくこと。 (60分)

2回	鬼遊びの教材分析・開発をグループまたは個人で行うこと。(90分)
3回	鬼遊びの教材分析・開発をグループまたは個人で行うこと。(90分)
4回	ボールゲームの教材分析・開発をグループまたは個人で行うこと。(90分)
5回	ボールゲームの教材分析・開発をグループまたは個人で行うこと。(90分)
6回	『小学校学習指導要領解説 音楽編』を読み、各学年の目標および内容を把握しておくこと。(60分)
7回	低学年の音楽教材に関する配付資料を読み、目標に基づく教材活用の方法について考えておくこと。(90分)
8回	中学年の音楽教材に関する配付資料を読み、目標に基づく教材活用の方法について考えておくこと。(90分)
9回	高学年の音楽教材に関する配付資料を読み、目標に基づく教材活用の方法について考えておくこと。(90分)
10回	これまでの教材研究をもとに、各自授業の導入方法を考えてくること。(120分)
11回	配布資料(低学年教科書題材について)を読み、低学年児童の作品から見える児童の発達段階やそれに応じた必要な指導事項についてまとめておくこと。(90分)
12回	配布資料(中学年教科書題材について)を読み、中学年児童の作品から見える児童の発達段階やそれに応じた必要な指導事項についてまとめておくこと。(90分)
13回	配布資料(高学年教科書題材について)を読み、高学年児童の作品から見える児童の発達段階やそれに応じた必要な指導事項についてまとめておくこと。(90分)
14回	題材(事前に指示)について、その目標や指導事項をもとに、15分間の導入と必要な掲示物を考えておくこと。(120分)
15回	配布資料(鑑賞教材について)を読み、授業展開を考えておくこと。(120分)

講義目的	音楽科、図画工作科、体育科の教育内容を理解し、実際の学習材に即しながら、学習材の内容等の分析的研究や教師の指導の的方法的研究等に取り組む。グループによる検討や共同作業が中心となる。本講義を通して、教材開発や単元計画の作成方法等を実践的に身につけることを目的とする。初等教育学科学位授与の方針Aと深く関連する科目である。
達成目標	1) 教科内容についてよく理解し、目標に応じて教材の分析、再構成ができる。(A) 2) 学習過程に沿った単元計画を作成することができる。(C) 3) 教材開発、及び単元開発を通して、カリキュラム・マネジメントの意義や役割について理解することができる。(D)
キーワード	教材開発、単元計画、カリキュラム・マネジメント、アクティブラーニング
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	提出課題40%(達成目標1,2,3を評価)、教材開発40%(達成目標1,2,3を評価)、授業についての議論20%(達成目標1,2,3を評価)により評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	小学校学習指導要領解説 体育編 平成29年7月/文部科学省/東洋館出版社/978-4491034676 小学校学習指導要領解説 音楽編 平成29年7月/文部科学省/東洋館出版社/978-4491034652
関連科目	音楽科内容論、音楽科教育法、図画工作科内容論、図画工作科教育法、体育科内容論、体育科教育法
参考書	随時紹介し、必要に応じて資料を講義中に配布する。
連絡先	A1号館9階妻藤研究室 saito@ped.ous.ac.jp A1号館10階井本研究室 imoto@ped.ous.ac.jp A1号館10階笹山研究室sasayama@ped.ous.ac.jp
授業の運営方針	・教育現場において必要な実践力を身に付けるため、目的意識をもって講義に臨むことが望ましい。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション, グループワーク ・この講義ではアクティブラーニングの一環として, グループワーク, グループディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	・提出課題については、講義中に模範解答を配布するか、または、解説によるフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	妻藤純子ア) 公立小学校、国立大学附属小学校勤務 イ) 学校現場の経験を活かして、具体的かつ実践的な教育法について講義する。
その他(注意・備考)	・講義中の論音/録画/撮影は原則認めない。特別な理由がある場合、事前に相談すること。

科目名	情報リテラシー (FEP04500)
英文科目名	Information Literacy
担当教員名	松岡律 (まつおかただし), 大熊一正 (おおくまかずまさ)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	オリエンテーション 岡山理科大学におけるICT機器の使い方および授業の進め方を説明する。 (全教員)
2回	Microsoft Wordの操作 (自己紹介新聞) (1) Microsoft Wordを利用した自己紹介新聞の作り方の概要を説明する。 (全教員)
3回	Microsoft Wordの操作 (自己紹介新聞) (2) Microsoft Wordにおいて書式と罫線の使い方を説明する。 (全教員)
4回	Microsoft Wordの操作 (自己紹介新聞) (3) Microsoft Wordにおいてオブジェクトを利用する操作について説明する。 (課題提出1) (全教員)
5回	Microsoft Excelの操作 (1) 表計算の基本的な操作方法を説明し、その発展利用としての課題作成について説明する。 (課題提出2) (全教員)
6回	Microsoft Excelの操作 (2) グラフ・オブジェクトの操作方法を説明し、その発展利用としての課題作成について説明する。 (課題提出3) (全教員)
7回	WordとExcelの連携 データ・オブジェクトの共有方法について説明し、その発展利用としての課題作成について説明する。 (課題提出4) (全教員)
8回	インターネットの基礎 (1) インターネットの歴史とメールの仕組みについて説明する。 (全教員)
9回	インターネットの基礎 (2) Web情報検索の基礎的な知識について説明する。 (全教員)
10回	情報モラル ネット社会のルールとメディア・リテラシーについて説明する。 (全教員)
11回	最終課題課題作成 (1) 最終課題として、学修教材を作ることの意義とその方法について説明する。 (全教員)
12回	最終課題作成 (2) 教材の視覚的レイアウトについて説明する。 (全教員)
13回	最終課題作成 (3)

	教材作成におけるキャプション利用と画像の加工方法について説明する。 (全教員)
14回	最終課題作成(4) 作成した教材をメディア・リテラシー的観点から再考する。 (全教員)
15回	最終課題作成(5) 作成した教材のプレゼンテーション方法とその評価方法を説明する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	キーボードやマウスの使い方など、Windowsの基本的操作を理解しておくこと。 USBメモリー等、必要なものを準備しておくこと。 (標準学習時間30分)
2回	Microsoft Wordの基本的操作を確認しておくこと。 自己紹介の内容を考えておくこと。 (標準学習時間30分)
3回	書式設定と罫線の利用方法を確認しておくこと。 (標準学習時間30分)
4回	文字列とオブジェクトの位置関係および調整方法について理解しておくこと。 (標準学習時間30分)
5回	Microsoft Excelの基本操作を確認しておくこと。 (標準学習時間30分)
6回	グラフの作成法およびアレンジ方法について確認しておくこと。 (標準学習時間30分)
7回	アプリ間でのデータのやり取りについて、確認しておくこと。 (標準学習時間30分)
8回	インターネットの歴史について調べておくこと。 (標準学習時間30分)
9回	効率的なweb検索について確認しておくこと。 (標準学習時間30分)
10回	著作権について調べておくこと。 (標準学習時間30分)
11回	小中学校の授業で配る想定教材プリントについて構想を練っておくこと。 (標準学習時間30分)
12回	見やすいプリントに必要な条件について考えておくこと。 (標準学習時間30分)
13回	画像処理ソフトを使った画像の加工に挑戦しておくこと。 (標準学習時間30分)
14回	教材プリントに投影されている作者の意図、特徴について考察しておくこと。 (標準学習時間30分)
15回	教材のポイントをまとめておくこと。 (標準学習時間30分)

講義目的	コンピューター操作に習熟するために、ワード、エクセル等のアプリケーションを駆使して様々な課題作成を行い、グラフィカルな教材を効果的に作成する基本的技法を身につけると同時に、インターネットの歴史、電子メールやweb情報検索の基礎、および情報モラル、メディア・リテラシー等に関する知識の習得を通じ、情報のトータルな理解を目指す。 (初等教育学科学位授与の方針Cにもっとも強く関与)
達成目標	(1) コンピューターやOSの基本的仕組みを説明できる。(C) (2) ワープロ、表計算ソフトの基本的な操作ができる。(C) (3) ネットワークの基本的知識や情報モラルを身につける。(C) (4) 1~3の知識・技能を用いて効果的な教材等を作成できる。(C)
キーワード	情報モラル, Microsoft Office
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	課題提出1~4:計50%(達成目標(1)~(3)の達成度を評価)、 最終課題(50%)(達成目標(1)~(4)の達成度を評価)、 により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	なし

関連科目	ICT活用教育
参考書	できるWord 2016 Windows 10/8.1/7対応/田中 亘/インプレス/9784844339205 できるExcel 2016 Windows 10/8.1/7対応/小館 由典/インプレス/9784844339199
連絡先	松岡研究室(A1号館9階) 大熊研究室(C9号館4階)
授業の運営方針	基本的に実習形式をとる。 受講者それぞれのスキルと関心に基づいた質問およびそれに対する教員サイドからの応答によって進行していくため、受講者の意欲的な参加が大前提となる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	模範解答例について、授業の都度提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	配布資料は、適宜授業中に配布する。また、必要に応じて課題に対するフィードバックを行う。

科目名	I C T活用教育（FEP04600）
英文科目名	Education Utilizing ICT
担当教員名	高原周一（たかはらしゅういち）、津田秀哲*（つだひでのり*）、坂本南美（さかもとなみ）、榊原道夫（さかきはらみちお）
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	I C T活用教育の概要について説明する。 ICTとは何かについて利用面と技術面を重点に学修する。また、教育への応用の有用性と問題点について講義する。課題を与え講義終了前20分程度で調べた内容と講義の内容より解答を作成し提出させる。 （榊原 道夫）
2回	HTML、JavaScript、IPアドレス、Webブラウザ、パッドとPCのOSなどインターネットについて全般的、基本的な事項を重点に講義する。課題を与え講義終了前20分程度で調べた内容と講義の内容より解答を作成し提出させる。 （榊原 道夫）
3回	インターネット上のコンテンツ利用における注意点特に著作権について講義する。また教育に利用できる教材の紹介する。課題を与え講義終了前20分程度で調べた内容と講義の内容より解答を作成し提出させる。 （榊原 道夫）
4回	教育の情報化について解説し、教育現場で必要とされているICT 活用能力について解説する。新学習指導要領実施に向けた自治体間でのICT 環境整備の格差とその問題点について解説する。 （津田 秀哲*）
5回	教育現場でのICT活用実践事例を紹介しながら、効果的な活用方法について解説する。書画カメラ等を使った効果的な教材提示とそうでない例を挙げながら解説する。 （津田 秀哲*）
6回	学校現場におけるセキュリティ管理と情報モラル教育の進め方について解説する。 ・学級担任が扱う個人情報の種類と情報の扱いの留意点について解説する。 ・デジタルデータ管理の留意点について解説する。 ・情報モラル教材の体験を行い、その活用方法などについて解説する。 （榊原 道夫）
7回	授業で活用できる既存のデジタル教材について紹介する。 デジタル教科書の歴史、新学習指導要領実施とタブレット端末、デジタル教科書の可能性について解説する。 教育現場でのデジタル教科書の活用事例を紹介し、効果的な活用方法を解説する。 （津田 秀哲*）
8回	電子黒板（タッチディスプレイ型、プロジェクター型）、デジタル教科書を実際に操作する。学校現場における表計算ソフトの活用事例を紹介し、その実用性について説明する。 （坂本 南美）
9回	評価のためのI C T活用事例を紹介する。 表計算ソフトを用いた成績処理の実習を行い、効率的で充実した評価に向けたI C Tの活用について検討する。 （津田 秀哲*）
10回	次期学習指導要領でのプログラミング教育の位置づけについて説明する。プログラミング的思考とは何かを概説する。小・中学校で導入されているプログラミング教育の現状を紹介する。スクラッチ等のプログラミングツールの使用方法を説明し、実際に簡単なプログラムを作ってみる。 （高原 周一）
11回	前回到引き続き、スクラッチ等のプログラミングツールを用いて簡単なプログラムを作ってみる。 （高原 周一）

1 2 回	プログラミングを完了させる。グループで作品を見せ合い、さらにはグループ内で評価の高い作品を全体で共有する。 授業でのICT活用事例について紹介する。 ・動画の活用，リアルタイムの映像のスクリーンへの投影 ・電子黒板とタブレットの連動 (高原 周一)
1 3 回	オンライン学習ツールのアプリを紹介し、授業中だけでなく、学習者が家庭学習として活用できる活動をワークショップ形式で理解する。 (坂本 南美)
1 4 回	プレゼンテーションソフトを用いた授業について紹介し、実践的に授業で扱える教材を作成する。 (坂本 南美)
1 5 回	学生がプレゼンテーションソフトを用いた活動を発表し合い、リフレクションをもとにディスカッションを行う。 (坂本 南美)

回数	準備学習
1 回	ICT、ICT利用、ICT利用と教育などのキーワードよりインターネット上の記述内容について調べておくこと。また、図書館等で関連する図書を調べておくこと。 (標準学習時間60分)
2 回	HTML、JavaScript、IPアドレス、Webブラウザ、パッドとPCのOSなどを調べておくこと。 (標準学習時間60分)
3 回	著作権について全般的に調べておくこと。特にGNUライセンスを詳しく調べておくこと。 (標準学習時間60分)
4 回	自分の出身県や教採受験を考えている自治体のICT環境整備状況を調べ、他の自治体と比べ課題点を整理しておくこと。 (標準学習時間120分)
5 回	1時間の授業を想定し、どの場面で書画カメラを使うと効果的な学習指導ができるか授業の略案を作成すること。 (標準学習時間120分)
6 回	学校現場におけるセキュリティ管理と情報モラル教育について図書館等で調べておくこと。 (標準学習時間120分)
7 回	自分が使用しているスマホ等のアプリで学習に活用できるアプリを5つ以上調べておくこと。 (標準学習時間60分)
8 回	書画カメラやデジタル教科書の特徴、効果的な活用方法について復習しておくこと。(標準学習時間60分)
9 回	Excelの操作方法を復習し、よく用いられる関数について調べておくこと。 (標準学習時間60分)
1 0 回	次期学習指導要領でのプログラミング教育の位置づけ、および「プログラミング的思考」とは何かについて調べておくこと。 (標準学習時間60分)
1 1 回	プログラミングツールのより高度な使い方を調べ、自分の作ったプログラムを改良できるか考えておくこと。 (標準学習時間120分)
1 2 回	小・中学校で導入されているプログラミング教育の実例について調べておくこと。 電子黒板とタブレットを連動させて行われている授業の実例を調べておくこと。 (標準学習時間60分)
1 3 回	オンラインで学習できるアプリについて調べ、その特徴と効果について議論できるように準備をしておくこと。 (標準学習時間60分)
1 4 回	学習用アプリを用いた授業について具体的な活動を復習すること。 パワーポイントの使用方法について復習しておくこと。 (標準学習時間120分)
1 5 回	プレゼンテーションソフトを用いた授業教材を発表できるように準備をしておくこと。 (標準学習時間120分)

講義目的	本授業では、ICT技術の急速な進展と社会への波及効果を見据えながら、教育現場で教員がICTを活用する能力及び児童、生徒がICTを様々な学習の場面で活用できるように指導できる能力を養う。
------	--

	この講義は初等教育学科の学位授与の方針Cに最も強く関与する。
達成目標	(1) ICT活用教育の意義、学習指導要領における扱い、教育現場での普及状況について説明できる。(B, D) (2) ICT活用教育を進める上で必要となるセキュリティ管理、情報モラル教育の進め方について説明できる。(C, D) (3) 児童・生徒のICT活用学習を指導する際の注意点を説明できる。(A, C) (4) ICT活用教育で使われる代表的なデジタル教材および機器を活用できる。(A, C) (5) 教育評価にICTを活用できる。(C) (6) 初歩的なICT活用教材(プログラミング含む)を作成することができる。(C)
キーワード	ICT活用教育、セキュリティ管理、情報モラル教育、デジタル教材・機器、プログラミング教育、ICT活用事例
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	個人に提出させるレポート50%(到達目標1~3を確認)、教材等の成果物50%(到達目標4~6を確認)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	なし
関連科目	情報リテラシー
参考書	
連絡先	高原周一 A1号館3階319 E-Mail: takahara[アットマーク]ped.ous.ac.jp 坂本南美 A1号館10階1008 E-Mail: sakamoto[アットマーク]ped.ous.ac.jp
授業の運営方針	・講義資料は教室で紙媒体で配布するが、必要に応じてweb上にもアップロードする。 ・講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション、実験・実習 グループ内で作品をプレゼンテーションし批評し合うという形のアクティブラーニングを実施する。表計算ソフトを使った課題作成やプログラミング等の実習を行う。
課題に対するフィードバック	レポートについては授業の中でコメントすることによりフィードバックを行う。教材等の成果物に対しては優秀な作品を全体に紹介したり、改善すべき点を指摘することによりフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	津田秀哲：26年間中学校、高等学校で教諭としての経験、12年間高等学校、特別支援学校の管理職としての経験を踏まえ、現場の状況や課題などを種々の場面で扱っていく。 坂本南美：元公立中学校勤務。学校現場の経験を活かして、現場に則した授業内容や指導方法について講義する。
その他(注意・備考)	

科目名	特別支援教育論 (FEP04700)
英文科目名	Special Needs Education
担当教員名	吉利宗久* (よしとしむねひさ*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション。講義の進め方を説明する。特別支援教育の歴史と基本的仕組みを解説する。
2回	特別支援学校の制度とその現状を特別支援学校の目的等を中心に解説する。
3回	特別支援学校の制度とその現状を特別支援学校への就学手続き等を中心に解説する。
4回	通常の学校における特別支援教育の制度と現状を特別支援学級の視点から解説する。
5回	通常の学校における特別支援教育の制度と現状を通級による指導の視点から解説する。
6回	視覚障害者教育の実態と基礎について解説する。
7回	聴覚障害者教育の実態と基礎について解説する。
8回	知的障害者教育の実態と基礎について解説する。
9回	肢体不自由者教育の実態と基礎について解説する。
10回	病弱者教育の実態と基礎について解説する。
11回	言語障害者教育の実態と基礎について解説する。
12回	自閉症・情緒障害者教育の実態と基礎について解説する。
13回	発達障害者教育の実態と基礎について解説する。
14回	特別支援教育をめぐる新たな動向 (インクルーシブ教育を中心に) について解説する。
15回	特別支援教育をめぐる新たな動向 (個別の教育支援計画を中心に) について解説する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	授業内容の確認と復習 第2回目授業までに参考書などにより、特別支援教育の基礎に関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
2回	特別支援教育の歴史や新しい動向を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第3回授業までに参考書などにより、特別支援学校への就学に関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
3回	特別支援学校の目的や種別を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第4回授業までに参考書などにより、特別支援学級に関し予習を行うこと。(標準学習時間180分)
4回	特別支援学級の概要を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第5回授業までに参考書などにより、通級による指導に関し予習を行うこと。(標準学習時間180分)
5回	通級による指導の概要を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第6回授業までに参考書などにより、視覚障害教育に関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
6回	視覚障害教育の内容を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第7回授業までに参考書などにより、聴覚障害教育に関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
7回	聴覚障害教育の内容を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第8回授業までに参考書などにより、知的障害教育に関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
8回	知的障害教育の内容を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第9回授業までに参考書などにより、肢体不自由教育に関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
9回	肢体不自由教育の内容を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第10回授業までに参考書などにより、病弱者教育に関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
10回	病弱者教育の内容を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第11回授業までに参考書などにより、言語障害教育に関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
11回	言語障害教育の内容を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第12回授業までに参考書などにより、自閉症・情緒障害教育に関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
12回	自閉症・情緒障害教育の内容を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第13回授業までに参考書などにより、発達障害教育に関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
13回	発達障害教育の内容を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第14回授業までに参考書などにより、インクルーシブ教育の動向に関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
14回	インクルーシブ教育の動向を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第15回授業までに参考書などにより、個別の教育支援計画に関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
15回	個別の教育支援計画の概要を簡潔に説明できるように復習を行うこと これまでの講義を振り返りながら、障害者問題に関する情報収集を心がけること。(標準学習時間120分)
16回	試験に備えて、1回から15回までの内容を理解し整理しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	特別支援教育に関する基礎的な理論の理解を意図し、歴史的な変遷、法制度の内容、障害種別に基づく指導法の原則について教授する。 初等教育学科の学位授与の方針Dに最も強く関連する科目である。
------	---

達成目標	特別支援教育の基礎を理解するとともに、障害のある子どもに関する支援の動向を把握する。(B , C , D)
キーワード	特別支援教育、インクルーシブ教育
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	小レポート(50%)、最終評価試験(50%)により評価する。
教科書	『新しい特別支援教育のかたち インクル-シブ教育の実現に向けて』/ 吉利宗久他/ 培風館 2016年11月 ISBN: 9784563052492
関連科目	障害関係諸科目
参考書	適宜紹介する。
連絡先	yositosi@okayama-u.ac.jp
授業の運営方針	特別支援教育の基本的な内容を扱う。
アクティブ・ラーニング	ディスカッションや演習の時間も設定する。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーなどを通じて得られた質問には、次回講義においてとりあげる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。適宜相談を受け付ける。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	外国語活動の指導法 (FEP04800)
英文科目名	Teaching Methods for Foreign Languages Activities
担当教員名	坂本南美 (さかもとなみ)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	外国語活動・外国語科の目的と目標を理解する (1) 小学校, 中学校, 高等学校の外国語教育の目標 (2) 小学校, 中学校, 高等学校の外国語教育の接続 (3) 世界の中の日本とグローバル人材育成 グローバル化に対応した英語教育改革実施計画
2回	外国語活動・外国語科の授業構成とカリキュラムを考察する (1) 外国語の授業の構成: 外国語教育の環境的要因と学習者の要因 (2) ティームティーチング (3) 担任教師の役割とALTの役割 (4) 外国語授業デザイン (中期的・長期的な目標設定の重要性)
3回	学習指導要領を理解する (1) 学習指導要領 (小学校外国語活動・外国語科・中学校外国語科・高等学校外国語(英語)科)の特徴 (2) コミュニケーション能力の素地とは何か (3) 聞くこと, 読むこと, 話すこと, 書くこと (4) 評価について
4回	小学校外国語活動・外国語科の授業におけるミクロな要素 を考察する (1) クラスルームイングリッシュ (2) ビジュアル教材の活用, ICTの活用, 歌・チャンツの指導
5回	小学校外国語活動・外国語科の授業におけるミクロな要素 を考察する (1) パターンプラクティスの指導, 絵本や紙芝居の活用, クイズの活用 (2) 目的に応じたゲームの活用, ロールプレイの実践
6回	小学校外国語活動・外国語科の授業におけるミクロな要素 を考察する (1) 帯学習の活用, プロジェクト活動, 国際理解活動, 自己表現活動
7回	ミクロな活動作りの実践とバックワードデザインによる授業づくりについて理解する (1) 活動作りの3つのポイント (2) バックワードデザインによる授業実践
8回	教案を中心に模擬授業を準備する
9回	教材開発を中心に模擬授業を準備する
10回	外国語活動・外国語科の指導: ティームティーチングによる授業について議論する (1) 学生による模擬授業及び全体によるリフレクション及びディスカッション
11回	外国語活動・外国語科の指導: ICTを用いた授業について議論する (1) 学生による模擬授業及び全体によるリフレクション及びディスカッション
12回	外国語活動・外国語科の指導: 活動に焦点をあてた授業について議論する (1) 学生による模擬授業及び全体によるリフレクション及びディスカッション
13回	児童の学習意欲を高める授業デザイン・英語絵本の活用を考察する (1) 絵本の効果 (2) 絵本による授業実践
14回	学びの共同体となる活動及び授業実践からの学びを理解する (1) 事例研究及びディスカッション
15回	ポートフォリオ作成による学びの振り返りを実施する
16回	1回~15回の総括を説明し, 最終評価試験の実施する

回数	準備学習
1回	小学校外国語活動・外国語科について国の取り組みについて説明できるように復習すること 第2回授業までに, 小学校, 中学校での英語教育の目的について, 自分の言葉で説明できるように準備をしておくこと (標準時間120分)
2回	小学校外国語活動・外国語科の目的と指導目標について説明できるように復習すること 第3回授業までに, 小学校教材の特徴を簡潔に説明できるように準備をしておくこと (標準時間120分)
3回	小学校学習指導要領の外国語活動・外国語科の特徴についてそれぞれ復習すること

	第4回授業までに、英語で授業を行うための工夫とその理由を考えておくこと(標準時間120分)
4回	ビジュアル教材の利点とICTを活用した教材の利点について、それぞれ説明できるように復習すること 第5回授業までに、小学校外国語授業で取り組めるゲーム活動を選び、その特徴を説明できるように準備しておくこと(120分)
5回	目的に応じた活動デザインについて、授業の流れを説明できるように復習すること 第6回授業までに、小学校で取り組みやすい自己表現活動の例を調べ、その内容を説明できるように準備しておくこと(120分)
6回	帯学習の利点を説明できるように復習すること 第7回授業までに、小学校外国語授業での活動作りのポイントについて、意見を述べられるように準備を行うこと(120分)
7回	第6回までの授業を振り返っておくこと 第8回授業までに、バックワードデザインによる授業作りの復習を行うこと(120分)
8回	自分の模擬授業の学習の目的を説明できるように復習しておくこと 第9回授業までに、模擬授業に取り入れる活動をバックワードデザインで準備すること(120分)
9回	発表のリフレクションをまとめること 第10回授業までに、担当者は模擬授業の発表準備を行うこと(120分)
10回	発表のリフレクションをまとめること 第11回授業までに、担当者は模擬授業の発表準備を行うこと(120分)
11回	発表のリフレクションをまとめること 第12回授業までに、担当者は模擬授業の発表準備を行うこと(120分)
12回	活動に焦点をあてた発表のリフレクションをまとめること 第13回授業までに、授業で絵本を用いるときの留意点留意点を調べて説明できるように準備しておくこと(120分)
13回	学習意欲を高める要素についてリフレクションをまとめること 第14回授業までに、これまで学んだ授業を構成する要素について復習しておくこと(120分)
14回	事例研究からの学びをまとめ、授業のリフレクションを仕上げる 第15回授業までに、第1回から14回の中で作成した活動指導案、宿題プリント、発表時の画像、講義の記録などの資料をまとめておく(120分)
15回	ポートフォリオを完成し、第1回～15回までの学びを振り返り、系統立てて説明できるように理解を深めておくこと(120分)
16回	第1回～15回までに内容を理解し、復習しておくこと(180分)

講義目的	次期学習指導要領を見据えながら、現在の小学校での行われている外国語活動・外国語科の授業を理解するために、基本的な知識や授業実践について体得することを目的とする。 外国語活動・外国語科の授業をデザインするための実践的知識と指導技術について理解する。それらの学びを基にして、発表者が教師となり、その他の受講生が全員生徒となり、模擬授業を行う力を身に付ける。また、ディスカッションやポートフォリオによる振り返りを通して、自律して学び続ける教師の礎を習得する。 初等教育学科学位授与の方針(DP)のAともっとも深く関連している。
達成目標	1)小学校外国語活動を担当する教員に必要とされる基本的な知識について具体的に説明できる(A, B) 2)教育現場での実践的な外国語活動指導法を分類できる(A, D) 3)理論の学びを児童に即した外国語活動のカリキュラム作成及び授業デザインに関連づけられる(A, C) 4)実際の模擬授業を通して、学んだ教育法を実践的な力に応用できる(A, C)
キーワード	英語教育, 学習指導要領, 4技能5領域, 授業デザイン, 模擬授業, グローバル人材育成, アクティブ・ラーニング, コミュニケーション能力, 学習支援
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	・定期試験による評価50%(達成目標1), 2), 3)を確認), 模擬授業による評価25%(達成目標3), 4)を確認), レポートによる評価25%(達成目標1), 2), 3)を確認)により評価し、統計が60%以上を合格とする。
教科書	We Can! 1・2 新学習指導要領対応小学校外国語活動教材 / 東京書籍 / 978-4-487-25873-4・978-4-487-25874-1 Let's Try! 1・2 新学習指導要領対応小学校外国語活動教材 / 東京書籍 / 978-4-487-25870-3・978-4-487-25871-0 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編 / 文部科学省 / 978-4491034607
関連科目	英語科教育法 / 英語科教育法
参考書	「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法 / 酒井 英樹 他(著) / 大修館書店 / 978-4-46

	9-24622-3
連絡先	A1号館 10階 坂本研究室 直通電話：086-256-9844 E-mail: sakamoto ped.ous.ac.jp (@) オフィスアワー：火曜日 2・3限
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・課題は期限を守って提出すること。 ・ディスカッションやペアワークの場面では、特に積極的に参加することが求められる。 ・課題レポート等にコピーペイトなどの剽窃がある場合は、成績評価の対象としない場合もあるので、絶対に行わないようにすること。 ・プレゼンテーションや模擬授業の場面では、作成した教材、配布したハンドアウト、発表に対する準備やプロセスも評価の対象とする。
アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアワーク・グループワーク・ディスカッション・プレゼンテーション・模擬授業を行う。 ・模擬授業では、各自が授業デザインを行った教案に基づいて授業発表し、その発表の自己評価・相互評価を行う。 ・現在教育現場で取り組まれている言語活動を体験し、その特徴についてグループで意見を集約して発表する。
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・課題は採点后、返却する。 ・発表及び模擬授業に対するフィードバックは、発表後のディスカッション・教員によるコメント ・ルーブリックによる相互評価・教員評価で行う。 ・最終評価試験の模範解答の解説は講義内に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は事前に相談してください。
実務経験のある教員	<ul style="list-style-type: none"> ア) 元公立中学校勤務 イ) 学校現場の経験を活かして、現場に則した授業内容や指導方法について講義する。
その他(注意・備考)	講義では模擬授業をはじめ、グループ活動、ペアワーク、プレゼンテーションなどに取り組んでいく。それらを通して互いに学び合う姿勢で臨むこと。

科目名	理数教育の方法と実践 (FEP04900)
英文科目名	Methods and Practice for Maths/Science Education
担当教員名	黒崎東洋郎 (くろさきとよお), 藤井浩樹* (ふじいひろき*)
対象学年	4年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション(授業概要の解説)。 (全教員)
2回	理数教育の視座に基づくESD教育の目的と意義を解説する。 (全教員)
3回	ESD教育にかかる基礎的・基本的な理科教育の実践方法を解説する。 (全教員)
4回	ESD教育にかかる特徴的な「総合的な学習時間」の取り組みの事例について解説する。 (全教員)
5回	ESD教育にかかる模擬授業とPDCAサイクルに基づき、JJ法により協働的に省察する。 (全教員)
6回	理数教育に必要な基本的な「測定の考え」と「単位」の仕組みを解説する。 (全教員)
7回	理数教育で基礎となる割合の教材分析、模擬授業の設計をする。 (全教員)
8回	割合の模擬授業を実践し、PDCAサイクルに基づき、KJ法により協働的に省察する。 (全教員)
9回	事象の変化や関係を捉える力を育てる教材分析、模擬授業の設計をする。 (全教員)
10回	変化と関係の模擬授業の実践し、PDCAサイクルに基づき、KJ法により協働的に省察する。 (全教員)
11回	不確定な事象のデータ処理する統計的問題解決の仕方を解説する。 (全教員)
12回	データ活用の模擬授業を実践し、PDCAサイクルに基づき、KJ法により協働的に省察する。 (全教員)
13回	地球にまつわる理数教材の開発について解説し、協働に擬授業案を作成する。 (全教員)
14回	第14回：模擬授業を実践し、PDCAサイクルに基づき、KJ法により協働的に省察する。 (全教員)
15回	授業を振り返り、理数教育の本質的気付きを協議し、模擬授業の改善案を作成する。 (全教員)
16回	理数教育に向けた自己教育実践ビジョンのプレゼンをさせる。 (全教員)

回数	準備学習
1回	なぜ、理数教育の充実が叫ばれているのかを、中央教育審議階答申、新聞、サイエンス等の雑誌から調べる。(90分)
2回	ESD教育とは、どんな教育のことか、小学生にも分かり易く説明できるように400字程度にまとめて

	くる。90分
3回	理科教育でESD教育実践するための事例方法について、教育雑誌、インターネット等で調べてくる。90分
4回	総合的な時間を活用して実践可能なESD教育の事例と方法について、教育雑誌、インターネット等で調べてくる。90分
5回	チュートリアルなグループになって、ESD教育実践の模擬授業案を作成する。90分
6回	身の回りにある「量」とそれを測定する色々な単位を、小さい単位から大きい単位までこれからの時代に必要な単位を調べてくる。
7回	倍と割合（歩合、百分率、比）は日常生活で、どんな場面で活用されているかを調べてくる。例、血液の量体重の2/25 90分
8回	90%縮小のコピーを、さらに、80%縮小すると、初めの何%に縮小したのかを分かる模擬授業案を作成する。
9回	少子高齢化、地球温暖化、海面上昇など、持続可能な社会を切り拓くための「変化」の事象を見つけて、授業設計に必要なデータを収集してくる。90分
10回	チュートリアルなグループになって、「変化」に関する実践的な模擬授業案を作成してくる。90分
11回	統計の代表値には、どんなものがあるかを調べてくる、その意味（統計概念）も調べてくる。90分
12回	統計グラフにはどんなものがあるかを調べ、その特徴を生かしたグラフの読み取り授業モデルを作成してくる。90分。
13回	失われていく地球環境について調べ、その変化の様子を数値的に調べてくる。90分
14回	気温と二酸化炭素、海面上昇、北極の氷の溶解、二酸化炭素の排出等の課題について、実践的に解決する理数の授業モデルを設計する。
15回	理科教育と算数教育とを相互に関連付けて教育実践する最適な教材を開発・リサーチしてくる。90分。
16回	理数教育に向けた自己教育実践ビジョンのプレゼンを用意する。90分

講義目的	持続可能な社会を構築する資質能力を育成するため、教科横断的な視点から理数教材を分析し、PDCAサイクルによって模擬授業、省察を通して、汎用性のある理数教育の実践的な指導力を身につけさせる。
達成目標	理数教育の充実させる学際的な観点から、理科と算数のにまたがる戦略的な課題を発見し、操作、実験等を通じた問題解決型の模擬授業を行い、PDCAサイクルによって省察し、数理的な見方・考え方を育成するうえで有効な実践的指導方法を検討する力を身につけることができる。(A・B)
キーワード	ESD教育、クロスカリキュラム、教科横断、教材開発、アクションリサーチ、教材開発
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	ESD教育の教育実践課題のレポート（A・B）40%、理数教育の教科横断に関する課題レポート（A・B）40%、模擬授業改善案・プレゼン資料（B）20%で評価する。
教科書	適時、必要に応じて資料を配付する。
関連科目	算数科内容論、理科内容論、生活科内容論、算数科教育法、理科教育法
参考書	五島 敦子、関口 知子、『未来をつくる教育ESD 持続可能な多文化社会をめざして』 明石書店、2010年
連絡先	藤井浩樹（岡山大学教育学研究科、TEL086-251-7637、黒崎東洋郎、A1号館906室、オフィスアワー月曜日午前中、火曜日午前中、TEL256-8475
授業の運営方針	反転授業を中核として、先進的なESD教育課題、理数を教科横断する課題を発見し、解決する実践的な理数教育の理論と方法を協働的にアクションリサーチする。
アクティブ・ラーニング	理科教育と数学教育を専門とする複数教員で授業する。一方的な講義ではなく、チュートリアルなグループに分かれて理数教育の充実に関わるリサーチクエッションを協働的発見し、コンテンツ分析、模擬授業を多角的な視点から対話的に検討し、より実践的、活動的な学びにする。
課題に対するフィードバック	課題レポートについては、解答のポイントを概説する。教材分析、模擬授業に対しては、教材分析力、授業力の深化・発展に資する視点から指導助言する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	黒崎は、岡大附属小、教育委員会など、学校現場等の経験を有する。 藤井、黒崎とも、アフリカ、中南米でESDの観点から理数教育に関する国際支援の経験を有する。
その他（注意・備考）	

科目名	ピアノ奏法 (A) (FEP05000)
英文科目名	Piano Lesson I
担当教員名	井本美穂 (いもとみほ), 津上崇* (つがみたかし*), 早川純平* (はやかわじゅんぺい*), 矢木裕子* (やぎひろこ*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	小学校における音楽活動の内容を説明する。演奏に必要な知識と技術に関する各自の習得状況を確認する。 (全教員)
2回	「うみ」「かたつむり」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
3回	「日のまる」「ひらいたひらいた」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
4回	「かくれんぼ」「春がきた」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
5回	「虫のこえ」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
6回	「タヤケコヤケ」「うさぎ」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
7回	歌唱実技中間試験を実施し、各自の到達度と課題を確認する。ピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
8回	「茶摘み」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
9回	「春の小川」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
10回	「ふじ山」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
11回	「さくらさくら」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
12回	「とんび」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
13回	歌唱実技期末試験を実施する。ピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
14回	ピアノ実技試験(発表会形式)に向けて、ピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
15回	ピアノ実技試験(発表会形式)の実施及び、まとめと解説をする。 (全教員)

回数	準備学習
1回	これまでのピアノ学習経験や、興味をもっている音楽について考えておくこと。(標準学習時間60分)
2回	レッスン内容を復習し、第3回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	レッスン内容を復習し、第4回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)

4回	レッスン内容を復習し、第5回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	レッスン内容を復習し、第6回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	レッスン内容を復習し、第7回までに課題を練習しておくこと。歌唱試験に備え、これまでの歌唱曲を復習すること。(標準学習時間120分)
7回	歌唱実技試験の内容を復習し、自分の改善点を確認すること。第8回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	レッスン内容を復習し、第9回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
9回	レッスン内容を復習し、第10回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
10回	レッスン内容を復習し、第11回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
11回	レッスン内容を復習し、第12回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
12回	レッスン内容を復習し、第14回までに課題を練習しておくこと。歌唱試験に備え、これまでの歌唱曲を復習すること。(標準学習時間120分)
13回	歌唱実技試験の内容を復習すること。レッスン内容を復習し、ピアノ実技試験に備えて練習すること。(標準学習時間180分)
14回	ピアノ実技試験に備えて練習すること。(標準学習時間180分)
15回	ピアノ実技試験およびこれまでのレッスンを振り返り、自分の課題を確認すること。(標準学習時間60分)

講義目的	小学校教員に求められる、歌唱とピアノ演奏の基礎技術および表現方法を修得することを目的とする。歌唱については、小学校の歌唱共通教材を用いて、楽曲の理解の仕方と歌唱方法を学習する。ピアノ演奏については、少人数グループによる指導を受け、基本的な鍵盤楽器奏法を修得する。各自の経験やスキルに応じたピアノ曲を学び、演奏技術の向上を図る。期の終わりにはピアノ実技試験を実施し、到達状況を把握するとともに、人前で演奏する力をつける。初等教育学科の学位授与方針Aに最も強く関与する。
達成目標	楽譜に示されている情報を読み取り、ピアノ演奏で表現することができる。 (C) 小学校で扱われる歌唱教材について、歌詞の内容を把握し、歌で表現することができる。(A) 音楽授業において必要とされる模範演奏の準備として、人前でピアノ演奏を発表することができる。(A)
キーワード	歌唱、ピアノ演奏
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	歌唱実技中間試験(20%) (達成目標 を評価)、歌唱実技期末試験(20%) (達成目標 を評価)、ピアノ実技試験(40%) (達成目標 を評価)、毎回の授業で出された課題の達成度(20%) (達成目標 を評価)によって総合的に評価する。総計60%以上を合格とする。
教科書	『保育士・幼稚園教諭・小学校教諭養成のためのピアノテキスト 楽典・身体表現教材付』/全国大学音楽教育学会九州地区学会編著/カワイ出版(初等音楽科内容論の教科書と同じ) その他、個人のレベルに合わせた教材を使用する。
関連科目	ピアノ奏法、ピアノ奏法
参考書	適宜紹介する。
連絡先	A1号館 10F 井本研究室 オフィスアワー:月曜日3限、水曜日3限 Email: imoto@ped.ous.ac.jp Tel:086-256-9723
授業の運営方針	・グループレッスンにより授業を行うので、毎回出席して、真摯に授業に取り組むこと。 ・実技科目のため、各自の授業外での練習が大変重要である。しっかり準備してレッスンを受けること。 ・演奏発表会に向けて、計画的に準備し人前で発表できるようにすること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション ・グループで実技実践を行い、成果を全体で発表する。
課題に対するフィードバック	提出課題については、講義中にコメントおよび模範解答を配布するなどしてフィードバックを行う。演習課題については、レッスンのなかでフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障害学習支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	課外学習(個人練習)に励むこと。

科目名	ピアノ奏法 (B) (FEP05010)
英文科目名	Piano Lesson I
担当教員名	井本美穂 (いもとみほ), 津上崇* (つがみたかし*), 早川純平* (はやかわじゅんぺい*), 矢木裕子* (やぎひろこ*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	小学校における音楽活動の内容を説明する。演奏に必要な知識と技術に関する各自の習得状況を確認する。 (全教員)
2回	「うみ」「かたつむり」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
3回	「日のまる」「ひらいたひらいた」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
4回	「かくれんぼ」「春がきた」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
5回	「虫のこえ」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
6回	「夕やけこやけ」「うさぎ」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
7回	歌唱実技中間試験を実施し、各自の到達度と課題を確認する。ピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
8回	「茶摘み」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
9回	「春の小川」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
10回	「ふじ山」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
11回	「さくらさくら」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
12回	「とんび」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
13回	歌唱実技期末試験を実施する。ピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
14回	ピアノ実技試験(発表会形式)に向けて、ピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
15回	ピアノ実技試験(発表会形式)の実施及び、まとめと解説をする。 (全教員)

回数	準備学習
1回	これまでのピアノ学習経験や、興味をもっている音楽について考えておくこと。(標準学習時間60分)
2回	レッスン内容を復習し、第3回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	レッスン内容を復習し、第4回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)

4回	レッスン内容を復習し、第5回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	レッスン内容を復習し、第6回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	レッスン内容を復習し、第7回までに課題を練習しておくこと。歌唱試験に備え、これまでの歌唱曲を復習すること。(標準学習時間120分)
7回	歌唱実技試験の内容を復習し、自分の改善点を確認すること。第8回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	レッスン内容を復習し、第9回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
9回	レッスン内容を復習し、第10回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
10回	レッスン内容を復習し、第11回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
11回	レッスン内容を復習し、第12回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
12回	レッスン内容を復習し、第14回までに課題を練習しておくこと。歌唱試験に備え、これまでの歌唱曲を復習すること。(標準学習時間120分)
13回	歌唱実技試験の内容を復習すること。レッスン内容を復習し、ピアノ実技試験に備えて練習すること。(標準学習時間180分)
14回	ピアノ実技試験に備えて練習すること。(標準学習時間180分)
15回	ピアノ実技試験およびこれまでのレッスンを振り返り、自分の課題を確認すること。(標準学習時間60分)

講義目的	小学校教員に求められる、歌唱とピアノ演奏の基礎技術および表現方法を修得することを目的とする。歌唱については、小学校の歌唱共通教材を用いて、楽曲の理解の仕方と歌唱方法を学習する。ピアノ演奏については、少人数グループによる指導を受け、基本的な鍵盤楽器奏法を修得する。各自の経験やスキルに応じたピアノ曲を学び、演奏技術の向上を図る。期の終わりにはピアノ実技試験を実施し、到達状況を把握するとともに、人前で演奏する力をつける。初等教育学科の学位授与方針Aに最も強く関与する。
達成目標	楽譜に示されている情報を読み取り、ピアノ演奏で表現することができる。 (C) 小学校で扱われる歌唱教材について、歌詞の内容を把握し、歌で表現することができる。(A) 音楽授業において必要とされる模範演奏の準備として、人前でピアノ演奏を発表することができる。(A)
キーワード	歌唱、ピアノ演奏
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	歌唱実技中間試験(20%) (達成目標 を評価)、歌唱実技期末試験(20%) (達成目標 を評価)、ピアノ実技試験(40%) (達成目標 を評価)、毎回の授業で出された課題の達成度(20%) (達成目標 を評価)によって総合的に評価する。総計60%以上を合格とする。
教科書	『保育士・幼稚園教諭・小学校教諭養成のためのピアノテキスト 楽典・身体表現教材付』/全国大学音楽教育学会九州地区学会編著/カワイ出版(初等音楽科内容論の教科書と同じ) その他、個人のレベルに合わせた教材を使用する。
関連科目	ピアノ奏法、ピアノ奏法
参考書	適宜紹介する。
連絡先	A1号館 10F 井本研究室 オフィスアワー:月曜日3限、水曜日3限 Email: imoto@ped.ous.ac.jp Tel:086-256-9723
授業の運営方針	・グループレッスンにより授業を行うので、毎回出席して、真摯に授業に取り組むこと。 ・実技科目のため、各自の授業外での練習が大変重要である。しっかり準備してレッスンを受けること。 ・演奏発表会に向けて、計画的に準備し人前で発表できるようにすること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション ・グループで実技実践を行い、成果を全体で発表する。
課題に対するフィードバック	提出課題については、講義中にコメントおよび模範解答を配布するなどしてフィードバックを行う。演習課題については、レッスンのなかでフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障害学習支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	課外学習(個人練習)に励むこと。

科目名	ピアノ奏法 (A) (FEP05100)
英文科目名	Piano Lesson II
担当教員名	井本美穂 (いもとみほ), 津上崇* (つがみたかし*), 早川純平* (はやかわじゅんぺい*), 矢木裕子* (やぎひろこ*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	「まきばの朝」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
2回	「もみじ」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
3回	「もみじ」の二部合唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
4回	「こいのぼり」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
5回	「子守り歌」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
6回	「スキーの歌」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
7回	歌唱実技中間試験を実施し、各自の到達度と課題を確認する。ピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
8回	「冬げしき」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
9回	「越天楽今様」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
10回	「おぼろ月夜」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
11回	「ふるさと」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
12回	「われは海の子」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
13回	歌唱実技期末試験を実施し、各自の到達度と課題を確認する。ピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
14回	弾き歌い実技試験(発表会形式)へ向けて、ピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
15回	弾き歌い実技試験(発表会形式)を実施し、まとめと解説をする。 (全教員)

回数	準備学習
1回	これまでのピアノレッスンで学習した曲のなかから1曲弾けるようにしておくこと。 レッスン内容を復習し、第2回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間90分)
2回	レッスン内容を復習し、第3回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	レッスン内容を復習し、第4回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	レッスン内容を復習し、第5回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)

5回	レッスン内容を復習し、第6回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	レッスン内容を復習し、第7回までに課題を練習しておくこと。歌唱試験に備え、これまでの歌唱曲を復習すること。(標準学習時間120分)
7回	歌唱実技試験の内容を復習し、自分の改善点を確認すること。第8回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	レッスン内容を復習し、第9回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
9回	レッスン内容を復習し、第10回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
10回	レッスン内容を復習し、第11回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
11回	レッスン内容を復習し、第12回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
12回	レッスン内容を復習し、第14回までに課題を練習しておくこと。歌唱試験に備え、これまでの歌唱曲を復習すること。(標準学習時間120分)
13回	歌唱実技試験の内容を復習すること。レッスン内容を復習し、弾き歌い実技試験に備えて練習すること。(標準学習時間150分)
14回	レッスン内容を復習し、弾き歌い実技試験に備えて練習すること。(標準学習時間150分)
15回	弾き歌い実技試験およびこれまでのレッスンを振り返り、自分の課題を確認すること。(標準学習時間80分)

講義目的	小学校教員に必要とされる、歌唱およびピアノ演奏の技術を高めることを目的とする。歌唱については、小学校高学年の歌唱共通教材を用いて合唱するなど、より多様な歌唱方法を学ぶ。ピアノ演奏については、少人数グループによる指導を受け、弾き歌いを中心とした演奏法を学習する。各自の経験やスキルに応じた弾き歌いおよびピアノ曲を学び、演奏技術のさらなる向上を図る。期の終わりには弾き歌い実技試験を実施し、到達状況を把握するとともに、人前で演奏する力をつける。初等教育学科の学位授与方針Aに最も強く関与する。
達成目標	強弱やフレーズを工夫して、ピアノ演奏で表現することができる。 (A) 歌詞の内容にふさわしい表現を工夫してうたうことができる。 (A) 小学校で扱われる歌唱教材について、ピアノ伴奏を行いながら歌うことができる。(A)
キーワード	弾き歌い、歌唱、ピアノ演奏
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	歌唱実技中間試験(20%) (達成目標 を評価)、歌唱実技期末試験(20%) (達成目標 を評価)、弾き歌い実技試験(40%) (達成目標 、 を評価)、毎回の授業で出された課題の到達度(20%) (達成目標 、 を評価)によって総合的に評価する。総計60%以上を合格とする。
教科書	小学校歌唱共通教材、および各自の進度に応じた教材を授業で配付する。
関連科目	ピアノ奏法I、ピアノ奏法
参考書	『保育士・幼稚園教諭・小学校教諭養成のためのピアノテキスト 楽典・身体表現教材付』/全国大学音楽教育学会九州地区学会編著/カワイ出版(初等音楽科内容論の教科書と同じ)。その他、適宜紹介する。
連絡先	A1号館 10F 井本研究室 オフィスアワー:月曜日3限、水曜日3限 Email: imoto@ped.ous.ac.jp Tel:086-256-9723
授業の運営方針	・グループレッスンにより授業を行うので、毎回出席して、真摯に授業に取り組むこと。 ・実技科目のため、各自の授業外での練習が大変重要である。しっかり準備してレッスンを受けること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション ・グループで実技実践を行い、成果を全体で発表する。
課題に対するフィードバック	提出課題については、講義中にコメントおよび模範解答を配布するなどしてフィードバックを行う。演習課題については、レッスンのなかでフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障害学習支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	・課外学習(個人練習)に励むこと。

科目名	ピアノ奏法 (B) (FEP05110)
英文科目名	Piano Lesson II
担当教員名	井本美穂 (いもとみほ), 津上崇* (つがみたかし*), 早川純平* (はやかわじゅんぺい*), 矢木裕子* (やぎひろこ*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	「まきばの朝」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
2回	「もみじ」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
3回	「もみじ」の二部合唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
4回	「こいのぼり」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
5回	「子守り歌」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
6回	「スキーの歌」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
7回	歌唱実技中間試験を実施し、各自の到達度と課題を確認する。ピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
8回	「冬げしき」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
9回	「越天楽今様」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
10回	「おぼろ月夜」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
11回	「ふるさと」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
12回	「われは海の子」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
13回	歌唱実技期末試験を実施し、各自の到達度と課題を確認する。ピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
14回	弾き歌い実技試験(発表会形式)へ向けて、ピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
15回	弾き歌い実技試験(発表会形式)を実施し、まとめと解説をする。 (全教員)

回数	準備学習
1回	これまでのピアノレッスンで学習した曲のなかから1曲弾けるようにしておくこと。 レッスン内容を復習し、第2回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間90分)
2回	レッスン内容を復習し、第3回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	レッスン内容を復習し、第4回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	レッスン内容を復習し、第5回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)

5回	レッスン内容を復習し、第6回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	レッスン内容を復習し、第7回までに課題を練習しておくこと。歌唱試験に備え、これまでの歌唱曲を復習すること。(標準学習時間120分)
7回	歌唱実技試験の内容を復習し、自分の改善点を確認すること。第8回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	レッスン内容を復習し、第9回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
9回	レッスン内容を復習し、第10回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
10回	レッスン内容を復習し、第11回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
11回	レッスン内容を復習し、第12回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
12回	レッスン内容を復習し、第14回までに課題を練習しておくこと。歌唱試験に備え、これまでの歌唱曲を復習すること。(標準学習時間120分)
13回	歌唱実技試験の内容を復習すること。レッスン内容を復習し、弾き歌い実技試験に備えて練習すること。(標準学習時間150分)
14回	レッスン内容を復習し、弾き歌い実技試験に備えて練習すること。(標準学習時間150分)
15回	弾き歌い実技試験およびこれまでのレッスンを振り返り、自分の課題を確認すること。(標準学習時間80分)

講義目的	小学校教員に必要とされる、歌唱およびピアノ演奏の技術を高めることを目的とする。歌唱については、小学校高学年の歌唱共通教材を用いて合唱するなど、より多様な歌唱方法を学ぶ。ピアノ演奏については、少人数グループによる指導を受け、弾き歌いを中心とした演奏法を学習する。各自の経験やスキルに応じた弾き歌いおよびピアノ曲を学び、演奏技術のさらなる向上を図る。期の終わりには弾き歌い実技試験を実施し、到達状況を把握するとともに、人前で演奏する力をつける。初等教育学科の学位授与方針Aに最も強く関与する。
達成目標	強弱やフレーズを工夫して、ピアノ演奏で表現することができる。 (A) 歌詞の内容にふさわしい表現を工夫してうたうことができる。 (A) 小学校で扱われる歌唱教材について、ピアノ伴奏を行いながら歌うことができる。(A)
キーワード	弾き歌い、歌唱、ピアノ演奏
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	歌唱実技中間試験(20%) (達成目標 を評価)、歌唱実技期末試験(20%) (達成目標 を評価)、弾き歌い実技試験(40%) (達成目標 、 を評価)、毎回の授業で出された課題の到達度(20%) (達成目標 、 を評価)によって総合的に評価する。総計60%以上を合格とする。
教科書	小学校歌唱共通教材、および各自の進度に応じた教材を授業で配付する。
関連科目	ピアノ奏法I、ピアノ奏法
参考書	『保育士・幼稚園教諭・小学校教諭養成のためのピアノテキスト 楽典・身体表現教材付』/全国大学音楽教育学会九州地区学会編著/カワイ出版(初等音楽科内容論の教科書と同じ)。その他、適宜紹介する。
連絡先	A1号館 10F 井本研究室 オフィスアワー:月曜日3限、水曜日3限 Email: imoto@ped.ous.ac.jp Tel:086-256-9723
授業の運営方針	・グループレッスンにより授業を行うので、毎回出席して、真摯に授業に取り組むこと。 ・実技科目のため、各自の授業外での練習が大変重要である。しっかり準備してレッスンを受けること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション ・グループで実技実践を行い、成果を全体で発表する。
課題に対するフィードバック	提出課題については、講義中にコメントおよび模範解答を配布するなどしてフィードバックを行う。演習課題については、レッスンのなかでフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障害学習支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	・課外学習(個人練習)に励むこと。

科目名	ピアノ奏法 (FEP05200)
英文科目名	Piano Lesson III
担当教員名	井本美穂 (いもとみほ), 津上崇* (つがみたかし*), 早川純平* (はやかわじゅんぺい*), 矢木裕子* (やぎひろこ*)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	オリエンテーション、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
2回	調性と音階の復習、歌唱およびピアノ演奏技術(独奏・連弾)を指導する。 (全教員)
3回	音程と和音の復習、歌唱およびピアノ演奏技術(独奏・連弾)を指導する。 (全教員)
4回	コードネームの基本復習、歌唱およびピアノ演奏技術(独奏・連弾)を指導する。 (全教員)
5回	コードネーム(長調と短調)、歌唱およびピアノ演奏技術(独奏・連弾)を指導する。 (全教員)
6回	連弾発表会を実施し、各自の到達度と課題を確認する。ピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
7回	小学校教材の弾き歌い、合奏発表会の曲選定およびピアノ演奏技術(弾き歌い・合奏)を指導する。 (全教員)
8回	季節の歌の歌唱、およびピアノ演奏技術(弾き歌い・合奏)を指導する。 (全教員)
9回	行事の歌の歌唱、およびピアノ演奏技術を(弾き歌い・合奏)指導する。(全教員) (全教員)
10回	共通教材の歌唱、およびピアノ演奏技術を(弾き歌い・合奏)指導する。 (全教員)
11回	小学校歌唱教材の歌唱、およびピアノ演奏技術を(弾き歌い・合奏)指導する。 (全教員)
12回	自由なジャンルの歌唱、およびピアノ演奏技術(弾き歌い・合奏)を指導する。 (全教員)
13回	弾き歌い実技試験を実施し、各自の到達度と課題を確認する。演奏技術(歌唱・合奏)を指導する。 (全教員)
14回	ピアノ・合奏実技試験(発表会形式)へ向けて、演奏技術(歌唱・合奏)を指導する。 (全教員)
15回	ピアノ・合奏実技試験(発表会形式)の実施、およびまとめと解説をする。 (全教員)

回数	準備学習
1回	これまでのピアノレッスンで学習した曲のなかから1曲弾けるようにしておくこと。(標準学習時間100分)
2回	レッスン内容を復習し、第3回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)

3回	レッスン内容を復習し、第4回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	レッスン内容を復習し、第5回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	レッスン内容を復習し、連弾発表会に備えてペアの相手と一緒にしっかり練習すること。(標準学習時間150分)
6回	連弾発表会の内容を復習し、自分の改善点を確認すること。第7回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間100分)
7回	レッスン内容を復習し、第8回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	レッスン内容を復習し、第9回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
9回	レッスン内容を復習し、第10回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
10回	レッスン内容を復習し、第11回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
11回	レッスン内容を復習し、第12回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
12回	レッスン内容を復習し、第13回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
13回	レッスン内容を復習し、第14回までに課題を練習しておくこと。歌唱試験に備え、これまでの歌唱曲を復習すること。(標準学習時間150分)
14回	レッスン内容を復習し、ピアノ・合奏実技試験に備えて練習すること。(標準学習時間150分)
15回	ピアノ・合奏実技試験およびこれまでのレッスンを振り返り、自分の課題を確認すること。(標準学習時間90分)

講義目的	小学校教育において必要とされる、うたとピアノ演奏および合奏の技術をさらに高めることを目的とする。うたについては、幅広いジャンルの楽曲を用いて、様々な歌唱技術を学ぶ。ピアノ演奏については、個人指導を受け、弾き歌いを中心とした鍵盤楽器奏法を学習する。また、コード伴奏および伴奏の編曲方法を習得する。個人の演奏能力に応じた弾き歌いおよびピアノ曲を学び、より実践的な演奏技術の獲得を目指す。さらに連弾や器楽合奏をとおして、テンポ感や音量のバランス、息の合わせ方といった、合奏の方法を学ぶ。連弾発表会およびピアノ・合奏発表会を実施し、到達状況を把握するとともに、人前で演奏する力をつける。初等教育学科の学位授与方針項目Aに強く関与する。
達成目標	曲に合う速さやニュアンスを工夫して、ピアノ演奏で表現することができる。 (A) 発声・発音・息つき・リズム・音程に気をつけて、表情豊かにうたうことができる。(A) 自分でコード伴奏をつけて演奏することができる。 (C) 連弾や合奏で、人と息を合わせて一緒に演奏することができる。(C)
キーワード	弾き歌い、歌唱、ピアノ演奏、合奏
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	連弾実技試験(20%)(達成目標を評価)、弾き歌い実技試験(20%)(達成目標を評価)、ピアノ・合奏実技試験(40%)(達成目標、を評価)、毎回の授業で出された課題の到達度(20%)(達成目標、を評価)によって総合的に評価する。総計60%以上を合格とする。
教科書	・小学校歌唱共通教材 ・その他、各自の進度に応じた教材を用いる。
関連科目	ピアノ奏法Ⅰ、Ⅱ
参考書	適宜紹介する。
連絡先	A1号館 10F 井本研究室
授業の運営方針	・グループレッスンにより授業を行うので、毎回出席して、真摯に授業に取り組むこと。遅刻してグループに迷惑をかけることが重なり欠席扱いとすることがあるので十分注意すること。 ・実技科目のため、各自の授業外での練習が大変重要となる。しっかり準備してレッスンを受けること。 ・演奏発表会に向けて、計画的に準備し人前で発表できるようにすること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション ・グループで実技実践を行い、成果を全体で発表する。
課題に対するフィードバック	提出課題については、講義中にコメントおよび模範解答を配布するなどしてフィードバックを行う。演習課題については、レッスンのなかでフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障害学習支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	・課外学習(個人練習)に励むこと。

科目名	現代教育課題論 (FEP05300)
英文科目名	Educational Issues in Modern Society
担当教員名	松岡律 (まつおかただし), 奥西有理 (おくにしゆり), 森敏昭 (もりとしあき), 小川孝司 (おがわたかし), 黒崎東洋郎 (くろさきとよお)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	現代社会における学習の意義について説明する (森 敏昭)
2回	21世紀型学力の育成について説明する (森 敏昭)
3回	学習指導と評価のあり方について説明する (森 敏昭)
4回	教師の成長課題を解説する (黒崎 東洋郎)
5回	国際標準の学力の課題を解説する (黒崎 東洋郎)
6回	小学校教科の統合・分化と小中一貫教育の課題を解説する (黒崎 東洋郎)
7回	読むことの授業の実際を視聴し、確かな学力の定着に必要な、「主体的な学び」「対話的な学び」の方法及び重要性などについて説明する (小川 孝司)
8回	今日のいじめの特徴やいじめ発生の要因、学級のタイプといじめの関係などをもとに、いじめ問題との向き合い方について説明する (小川 孝司)
9回	読むことの授業の実際を再度視聴し、授業を通して子ども達が自信をもち仲間と共に成長する学級・学校づくりについて説明する (小川 孝司)
10回	非行の発生原因について理論的に解説する 1 (松岡 律)
11回	非行の発生原因について理論的に解説する 2 (松岡 律)
12回	非行防止のために有効な方策について解説する (松岡 律)
13回	学校における外国人児童・生徒について、経済のグローバル化等の観点からその背景を解説する (奥西 有理)
14回	外国人児童・生徒が抱える課題について、日本語教育および母語教育の観点から解説する。 (奥西 有理)
15回	外国人児童・生徒の文化的背景について、異文化感受性の観点から説明し、多様性を活かせる教師力について解説する。 (奥西 有理)

回数	準備学習
1回	参考書等により、現代社会における学習の意義について予習し、自分自身の考えを発表できるようにする。

	に準備しておくこと。(標準学習時間120分)
2回	参考書等により、21世紀型学力の育成について予習し、自分自身の考えを発表できるように準備しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	参考書等により、学習指導と評価のあり方について予習し、自分自身の考えを発表できるように準備しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	何故、教師は学び続ける必要があるのか。成長する教師は、どのような専門性(教職力)を自己成長させることが大切かを3つ考えてくる(標準学習時間60分)
5回	小学校教育ではぐくむべき資質・能力とは何か、各種アセスメントによる日本の子どもたちの学力の現状を調べてくる(標準学習時間60分)
6回	生活科、総合的学習、小学校英語科の産まれた背景、及び、小中一貫教育の視点に立つ教科指導がなぜ重要視されるのか、背景を調べてくる。(標準学習時間60分)
7回	視聴する文学的文章の学習材を通読するとともに、別途配付の資料をもとに、今日求められている授業の姿について自分の考えをまとめておくこと。(標準学習時間60分)
8回	別途配付の資料をもとに、文部科学省によるいじめの定義の変遷や学校の取り組みなどについて、基本的な考えをまとめておくこと。(標準学習時間60分)
9回	第4回講義で配付した学習記録をもとに、子ども一人一人の居場所が確保され、人間的な成長を育む学級集団、授業のあり方について自分の考えをまとめておくこと。(標準学習時間60分)
10回	現代における児童・生徒の非行の実態について調べてくる。(標準学習時間60分)
11回	非行・犯罪に走る人とそうでない人の違いは何か、考えて来る。(標準学習時間60分)
12回	非行傾向のある児童・生徒とどう接すればいいのか、考えて来る。(標準学習時間60分)
13回	日本の各自治体における外国人の人口構成と国籍割合について、公的な統計資料を基に調べ、発表できるように準備しておくこと。(標準学習時間60分)
14回	日本で学ぶ外国人児童・生徒にとって、日本語教育と母語教育がどのような意味を持つかについて、与えられた具体的ケースについて考えてくること。(標準学習時間60分)
15回	配布された異文化感受性発達モデルに基づき、与えられた具体的ケースについて記述的説明を考えてくること。(標準学習時間90分)。

講義目的	現代の教育をめぐる様々な課題について、学校運営、教育心理学、教育社会学、教科教育、異文化間教育の立場から複数のトピックスを取り上げ、各課題の背景・現状・展望について学び、これからの教育の在り方について考えることを目標とする。(初等教育学科の学位授与方針B・D、中等教育学科の学位授与方針：国語E、英語Bに最も強く関与する)
達成目標	教育に関連する諸問題の様態を理解すること。(B,E,B) 社会的な「現実」への多面的なアプローチの可能性を理解し、複眼的思考を持てるようになること。(B D,E,B)
キーワード	教育 現代社会
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	各担当者ごとの小レポート点(達成目標を確認。20点×5)を合計して評価する。総計60%以上を合格とする。
教科書	必要に応じて資料を配付する。
関連科目	現代教育課題研究
参考書	
連絡先	A1号館9階(黒崎) kurosaki@ped.ous.ac.jp A1号館10階(奥西) okunishi@ped.ous.ac.jp A1号館9階(小川) ogawa@ped.ous.ac.jp A1号館9階(松岡) matsuka@ped.ous.ac.jp A1号館9階(森) mori@ped.ous.ac.jp
授業の運営方針	1教員あたり3回ずつ講義形式で実施し、3回目には課題を提出する。 課題の提出が単位取得の条件となる。
アクティブ・ラーニング	新聞報道等で学校教育に関する課題に主体的に興味・関心を持ち、その背景、問題解決への取り組みのための課題をアギュメントする。
課題に対するフィードバック	LMS、掲示板等により、模範的解答のポイントを提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	現代教育課題研究 (FEP05400)
英文科目名	Research on Educational Issues in Contemporary Society
担当教員名	松岡律 (まつおかただし), 奥西有理 (おくにしゆり), 森敏昭 (もりとしあき), 小川孝司 (おがわたかし), 黒崎東洋郎 (くろさきとよお)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	少子・高齢・格差社会について問題を提起する グループワークを通じて取り組む課題を選定 (松岡) (松岡 律)
2回	諸問題の改善策について討議する ディスカッション (松岡) (松岡 律)
3回	今後の社会と教育のあり方について検討する 意見発表 (松岡) (松岡 律)
4回	21世紀型学力について問題を提起する: グループワークを通じて取り組む課題を選定する (森) (森 敏昭)
5回	21世紀型学力を育成するための教育方法について討議する (森) (森 敏昭)
6回	21世紀型教育についての意見発表をする (森) (森 敏昭)
7回	読むことの授業の実際を視聴し、児童の集中して学習に取り組み、学び合う姿から、それを支える学習意欲について課題をもち、調べる計画を立てる。(小川孝司) (小川 孝司)
8回	学習意欲について調べたことをグループで情報交換し、レポートをより深めるための視点をとらえる。(小川孝司) (小川 孝司)
9回	完成した「研究レポート」をグループで情報交換したり、代表の「研究レポート」について議論することを通して、「学習意欲」に関する知見を深める。(小川孝司) (小川 孝司)
10回	世界の学校文化や教育的価値観について考えるワークショップを実施する。(奥西) (奥西 有理)
11回	日本の学校における外国人児童・生徒との異文化葛藤に関して、具体的事例を基に考える。ディスカッションおよび全体での意見共有を行う。(奥西) (奥西 有理)
12回	教師が外国人を含む児童・生徒の持つ異文化性に気づき、多様性を豊かさとして活かす方法について考える。ディスカッションおよび全体での意見共有を行う。(奥西) (奥西 有理)
13回	理数教育の本質と教科横断的なキーコンピテンシーについて検討する(黒崎) (黒崎 東洋郎)
14回	学習の本質とアクティブラーニングを実現する授業改善の方策について検討する(黒崎) (黒崎 東洋郎)
15回	コルトハーヘンの「ALACTモデルによる教師の学び」とそのマスターキーを握る「省察」の在り方について検討する(黒崎) (黒崎 東洋郎)

回数	準備学習
1回	少子化・高齢化、および格差の進行について調べておくこと。(標準学習時間90分)
2回	各国の少子化、高齢化対策および経済政策について調べておくこと。(標準学習時間90分)
3回	諸問題の改善に対して教育がどのように貢献できるか、1200字の文章にまとめて提出できるように準備しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	21世紀型学力について調べておくこと。(標準学習時間90分)
5回	21世紀型学力を育成するための教育方法について調べておくこと。(標準学習時間90分)
6回	21世紀型教育について、自分の考えを1200字の文章にまとめて提出できるように準備しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	小学校国語教育の現状について調べておくこと。(標準学習時間60分)
8回	関心をもったテーマについて、その実態や学習意欲の向上に向けた取り組み等を調べ、まとめておくこと(標準学習時間90分)
9回	より深めるための視点をもとに調べたこと見直し、「研究レポート(1200字)」を仕上げしておくこと。(標準学習時間90分)
10回	海外の国どこか1つを選び、学校生活の様子やその国で重要視されている価値観について調べておくこと。(標準学習時間90分)
11回	配布された異文化葛藤事例について、原因を分析し解決案を考えておくこと。(標準学習時間90分)
12回	日本文化と外国人児童・生徒の異文化葛藤に関して、1200字の文章にまとめて提出できるように準備しておくこと。(標準学習時間90分)
13回	PISA報告(2015)の結果及び数学リテラシー・科学リテラシーの定義を調べ、理数教育の最重要課題を1つに絞って授業で提案すること(標準学習時間90分)
14回	論点整理(中央教育審議会答申、2015)の3つの柱、アクティブラーニングの定義を調べ、自分なりに学校現場の課現状と課題を簡潔に整理しておくこと(標準学習時間90分)
15回	コルトハーヘンの主張する「ALACT」モデルとその理論を読み、教員の成長の喫緊の課題を明らかにする。(標準学習時間90分)

講義目的	「現代教育課題論」を踏まえ、学校運営、教育心理学、教育社会学、教科教育、異文化間教育のそれぞれの領域の課題について、グループワークやディスカッション等を組み合わせ、アクティブラーニングスタイルで、理解を深めることを目標とする。5グループに分かれてテーマを設定し、調査・検討・発表を行う。(初等教育学科の学位授与方針B・D、中等教育学科の学位授与方針：国語E、英語Bに最も強く関与する)
達成目標	教育に関連する諸問題について各自が客観的視点をもってアプローチできること。(B、E、B、A・C・E) 文献等の資料に基づきつつ諸課題の解決策等について考えを深め、それを客観的記述として文章化できるようになること。(B D、E、B、A・B)
キーワード	現代社会 教育
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	各担当者ごとの提出課題点(20点×5)を合計して評価する。
教科書	使用しない
関連科目	現代教育課題論
参考書	適宜紹介する
連絡先	A1号館9階(黒崎) A1号館10階(奥西) A1号館9階(小川) A1号館9階(松岡) A1号館9階(森)
授業の運営方針	1教員が3回ずつ担当する。 途中でグループワークやプレゼンを行う。 3回目には課題を提出する。(課題提出が単位取得の条件となる。)
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション 各課題ごとにグループでディスカッションを行い、グループごとに発表する。
課題に対するフィードバック	LMS、掲示板等で模範的解答例を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	黒崎：学校現場、教育委員会の経験あり
その他(注意・備考)	

科目名	E S D理論と実践 (FEP05500)
英文科目名	Theory and Practice of ESD
担当教員名	岡本弥彦 (おかもとやすひこ)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	E S D創設の経緯や意義について解説する。
2回	持続可能な社会づくりに関わる問題を抽出・選択し、それらの特性について考察する。
3回	E S Dの視点に立った学習指導で重視する能力や態度について考察する。
4回	持続可能な社会づくりに関わる課題を見いだす視点について解説する。
5回	E S Dの視点に立った学習指導を進める上での留意事項について解説する。
6回	E S Dの視点に立った学習指導の枠組みについて解説し、その実践例を紹介する。
7回	総合的な学習の時間とE S Dの関連について解説する。
8回	探究的な学習とE S Dの関連について解説する。
9回	学社連携におけるE S Dの意義や内容について解説する。
10回	E S Dにおける多様な主体の協働 (マルチ・ステークホルダー) について解説する。
11回	教科等の指導計画をE S D化する演習を行う。 <その1 ; 教材の選定 >
12回	教科等の指導計画をE S D化する演習を行う。 <その2 ; 教材の分析 >
13回	教科等の指導計画をE S D化する演習を行う。 <その3 ; 指導計画の作成 >
14回	E S D化された指導計画を発表・共有し、改善点等について考察する。
15回	試験 (ペーパーテスト) を実施し、授業の達成目標を自己評価する。

回数	準備学習
1回	【予習】E S Dとは何かについて、インターネットや文献等から調べておくこと (標準学習時間60分)。 【復習】E S D創設の経緯と意義を理解し、E S Dの概要を説明できるようにしておくこと (標準学習時間120分)。
2回	【予習】持続可能な社会につながる全世界的な問題のうち、教材として取り上げてみたいものについて調べておくこと (標準学習時間60分)。 【復習】持続可能な社会づくりに関わる問題の特性を説明できるようにしておくこと (標準学習時間90分)。
3回	【予習】学習指導要領で重視されている「生きる力」を構成する資質・能力について復習し、口頭で説明できるようにしておくこと (標準学習時間60分)。 【復習】E S Dで重視する能力や態度について説明できるようにしておくこと (標準学習時間120分)。
4回	【予習】「システム」から連想されることや意味することをインターネットや文献等から調べて整理しておくこと (標準学習時間60分)。 【復習】持続可能な社会づくりの視点を理解し、活用できるようにしておくこと (標準学習時間120分)。
5回	【予習】「地域の魅力を発見しよう」の学習を展開する場合の指導方法を考え、まとめておくこと (標準学習時間90分)。 【復習】E S Dを進める上での留意事項を理解し、具体例を考えることができるようにしておくこと (標準学習時間90分)。
6回	【予習】これまでの学習内容 (能力・態度、構成概念) を再確認して理解しておくこと (標準学習時間90分)。 【復習】E S Dの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組みを理解し、説明できるようにしておくこと (標準学習時間90分)。
7回	【予習】各自の小・中・高等学校での「総合的な学習の時間」の内容を思い出して整理しておくこと (標準学習時間90分)。 【復習】総合的な学習の時間の趣旨を理解し、E S Dとの関連が説明できるようにしておくこと (標準学習時間90分)。
8回	【予習】各自の「総合的な学習の時間」を探究的なものにするための構想を描いておくこと (標準学習時間90分)。 【復習】探究的な学習の過程を理解し、授業計画を構想できるようにしておくこと (標準学習時間90分)。
9回	【予習】自身が受けてきた学校教育の中で、実社会とのつながりを意識した経験を整理しておくこと (標準学習時間90分)。 【復習】E S Dの視点から、学校教育と社会教育の共通点・相違点、相互関連性を整理しておくこと (標準学習時間90分)。

10回	【予習】学校教育を充実する上で活用できそうな、学校外の教育資源の例を考えて整理しておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】多様な主体の協働の重要性や有効性を理解し、具体例を考えることができるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
11回	【予習】これまでの学習内容を再確認して理解しておくとともに、配付物を整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】選定した教材について、各自の専門教科の側面から分析しておくこと（標準学習時間60分）。
12回	【予習】選定した教材について、E S Dの視点に基づいて分析しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】E S Dの視点に基づいた教材の分析を完成させておくこと（標準学習時間60分）。
13回	【予習】E S Dの視点に基づいた指導計画を立案しておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】E S D化された指導計画を完成させておくこと（標準学習時間90分）。
14回	【予習】各自が作成した指導計画について、指定された時間で発表できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】各自が作成した指導計画を評価しておくこと（標準学習時間90分）。
15回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】解説を踏まえながら試験の結果を振り返り、達成目標を自己評価しておくこと（標準学習時間60分）。

講義目的	ユネスコが主導し全世界的な取組になっているE S D（持続可能な開発のための教育）について、その理論や教育方法等に関する講義、実践事例の紹介、授業設計の演習等を通して、E S Dの目的や内容についての理解を深めるとともに、E S Dの指導過程を構想・展開するための考え方や方法を習得する。学位授与の方針Dに関連する科目である。
達成目標	持続可能な社会づくりに関する現状と課題について理解を深め、E S Dの理論と実践の必要性を説明することができる（D）。 小・中・高等学校等におけるE S D実践の目標・内容・方法等について理解し説明することができる（D）。 E S Dの効果的な教材や指導方法、教科等の連携、学社連携等について、事例に基づきながら理解し説明することができる（D）。 E S Dの授業が設計・実践できる力の基礎を身に付け、指導計画を立案・作成することができる（D）。
キーワード	E S D, 持続可能な開発のための教育, 環境・経済・社会・文化, 問題解決学習, 総合的な学習の時間
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・提出物60%（達成目標 ），第15回の授業で実施する試験40%（達成目標 ）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	・使用しない。授業中に資料を配付する。
関連科目	・各教科の指導法を履修し（履修中を含む）、学習指導案が作成できるようになっていることが望ましい。
参考書	・授業中に適宜紹介する。
連絡先	・D 2号館4F 岡本研究室 086-256-9717 okamotoy@zool.ous.ac.jp ・オフィスアワーは、mylogで確認すること（学期で異なる）。
授業の運営方針	・初回の授業は、必ず出席すること。やむを得ない理由で欠席する場合は、事前に連絡・相談すること。 ・毎回の授業でワークシート（本時の目標、本時の課題に対する自身の考えや他者との協議結果、本時の振り返りや自己評価等を記述する欄から構成）を配付し、学生の主体的、協働的な授業が展開されるよう配慮する。欠席した場合は、次時で配付するので、申し出ること。 ・教育実習、介護等体験、教育現場観察実習等で欠席する場合は、事前に「欠席届」を提出すること。 ・第15回の授業で実施する試験は、自筆のワークシート・ノート（コピーは不可）、配付資料の持ち込みを可能とするが、不正行為に対しては厳格に対処する。
アクティブ・ラーニング	・小集団でのワークショップ、全体での発表・協議など
課題に対するフィードバック	・課題（【予習】で示した内容）については、次時の授業において討論や発表等を通して深化させる。 ・授業中に作成したワークシートは、授業後に回収して内容を確認し、次時に返却する。 ・第15回の授業で実施する試験では、そのフィードバックとして正答例や要点を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。 ・講義中の録音、録画、撮影は個人で利用する場合に限り許可する。他者への再配布は禁止する。
実務経験のある教員	ア) 元公立高等学校教諭。 イ) 環境省・文部科学省の環境教育やE S Dに係わる委員や、学校現場での教育経験を活かし、ES

	Dの理論と実践について講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	シティズンシップ教育 (FEP05600)
英文科目名	Citizenship Education
担当教員名	桑原敏典* (くわばらとしのり*)
対象学年	4年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	シティズンシップ教育の概念の理解
2回	シティズンシップ教育成立の背景
3回	シティズンシップ教育の広がり
4回	現在のシティズンシップ教育の目標
5回	英国のシティズンシップ教育
6回	英国のシティズンシップ教育の実際
7回	米国のシティズンシップ教育
8回	米国のシティズンシップ教育の実際
9回	日本のシティズンシップ教育の展開
10回	シティズンシップ教育と社会科
11回	シティズンシップ教育と総合的な学習
12回	シティズンシップ教育の小学校における展開
13回	シティズンシップ教育の中学校における展開
14回	シティズンシップ教育の評価
15回	シティズンシップ教育の今後の課題
16回	最終試験

回数	準備学習
1回	【予習】配布資料のシティズンシップ教育の特質に関する該当ページを読んで、まとめておくこと(標準学習時間90分)。
2回	【予習】配布資料のシティズンシップ教育授業の原理に関する該当ページを読んで、まとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
3回	【予習】配布資料のシティズンシップ教育授業の課題に関する該当ページを読んで、まとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
4回	【予習】配布資料のシティズンシップ教育授業の学習指導に関する該当ページを読んで、まとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
5回	【予習】配布資料の学習指導案の作成に関する該当ページを読んで、まとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
6回	【予習】配布資料のシティズンシップ教育授業の指導法に関する該当ページを読んで、まとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
7回	【予習】配布資料のシティズンシップ教育授業の指導法に関する該当ページを読み直して、まとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
8回	【予習】配布資料のシティズンシップ教育の内容構成に関する該当ページを読んで、まとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
9回	【予習】配布資料のシティズンシップ教育授業の内容構成に関する該当ページを読み直して、まとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
10回	【予習】配布資料のシティズンシップ教育授業における発問に関する該当ページを読んで、まとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
11回	【予習】配布資料のシティズンシップ教育授業における資料活用に関する該当ページを読んで、まとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
12回	【予習】配布資料のシティズンシップ教育授業の目標設定に関する該当ページを読んで、まとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。

13回	【予習】配布資料のシティズンシップ教育授業の内容選択に関する該当ページを読んで、まとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
14回	【予習】配布資料のシティズンシップ教育の授業づくりに関する該当ページを読んで、まとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
15回	【予習】配布資料のシティズンシップ教育の授業づくりに関する該当ページを読み直して、まとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】今回のノートを振り返り、学習内容を確認して、説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。

講義目的	シティズンシップ教育を担当する教員として必要な知識・技能を習得する。(教職関連科目の教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与)
達成目標	・シティズンシップ教育の目的・内容・方法について理解する(A)。 ・シティズンシップ教育の実践例の分析を通して、それを実践するために必要な基本的知識と技能を身につける(A)。
キーワード	社会科, 公民科, シティズンシップ教育
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	毎時間の課題(20%;達成目標 ~ の評価)と最終評価試験(80%;達成目標 ~ の評価)で評価し, 100点満点中60点以上を合格とする。
教科書	・中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編/文部科学省/東洋館出版社(最新版) ・ 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 公民編/文部科学省/(最新版)
関連科目	特になし
参考書	バーナード・クリック『シティズンシップ教育論』法政大学出版局、2011年。
連絡先	kuwabara@okayama-u.ac.jp
授業の運営方針	教師になる強い意欲を持っている方の受講を求めます。課題等に真剣に取り組んでください。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション等を行います。
課題に対するフィードバック	課題については, 次時の授業での解説等を通して深化させる。提出された課題等に対するコメントを示す。最終評価試験のフィードバックとして解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので, 配慮が必要な場合は, 事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	国際理解教育概論 (FEP05700)
英文科目名	Introduction to Understanding International Education
担当教員名	奥西有理 (おくにしゆり)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション：授業の目的と概要、学習の進め方、成績評価について説明する。
2回	文化とは？民族・人種とは？ホスト言語・移民言語、第一言語・第二言語・外国語、バイリンガル・モノリンガル・セミリンガルについて説明する。
3回	アメリカの社会：人種のるつぼと民族のサラダボール、自由・主張・独立・交渉・競争について説明する。
4回	アメリカの教育：機会の平等と結果の平等、アファーマティブ・アクション、クリティカル・シンキングについて説明する。
5回	アメリカの国際理解教育：公民権運動、アメリカ平和部隊、異文化コミュニケーション論の発展、学校教育における多文化教育について説明する。
6回	オーストラリアの社会：イギリス系移民と先住民、アジア系移民、白豪主義と多文化主義について説明する。
7回	オーストラリアの教育：言語教育政策の推移(NPL / ALLP / NALSAS)、先住民の母語教育、エスニック・スクール、英語リテラシー教育、アボリジニ語と英語のバイリンガル教育について説明する。
8回	オーストラリアの国際理解教育：言語教育を通じた他文化理解、LOTE教育について説明する。
9回	マレーシアの社会：民族・文化共生の課題、プミプトラ政策の経緯と効果、民族融和政策と国民統合、多元的アイデンティティの獲得について説明する。
10回	マレーシアの教育：ポスト・プミプトラ政策時代のグローバル人材育成と英語の位置づけ、学校教育(授業)における使用言語について説明する。
11回	マレーシアの国際理解教育：早期英語教育と国語教育の重視、多様な言語力と多文化理解能力の育成、グローバル化社会の人材育成と英語教育について説明する。
12回	アメリカ・オーストラリア・マレーシアの社会、言語政策、教育についてまとめ、意見を交換する。
13回	アメリカ・オーストラリア・マレーシアの社会、言語政策、教育の日本との異同について考え、意見を交換する。
14回	日本社会における多民族・多言語・多文化共生の課題：英語学習と習得が促進される社会的環境について考え、意見を交換する。
15回	日本における国際理解教育の課題と展望について考え、意見を交換する。
16回	これまでの授業内容のおさらいをする。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでおくこと。第2回授業までに、言語と文化に関して配布資料を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
2回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第3回授業までに、アメリカの社会に関して配布資料を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
3回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第4回授業までに、アメリカの教育に関して配布資料を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
4回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第5回授業までに、アメリカの国際理解教育に関して配布資料を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
5回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第6回授業までに、オーストラリアの社会に関して配布資料を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
6回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第7回授業までに、オーストラリアの教育に関して配布資料を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
7回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第8回授業までに、オーストラリアの国際理解教育に関して配布資料を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
8回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第9回授業までに、マレーシアの社会に関して配布資料を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
9回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第10回授業までに、マレーシアの教育に関して配布資料を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
10回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第11回授業までに、マレーシアの国際理解教育に関して配布資料を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
11回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第12回授業までに、授業で取り上げた各国の言語政策に関して自分の意見をまとめておくこと。(標準学習時間120分)

1 2 回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第13回授業までに、授業で取り上げた各国の言語政策と教育に関して自分の意見をまとめておくこと。(標準学習時間120分)
1 3 回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第14回授業までに、日本における多民族・多文化共生の問題と英語教育の課題に関して自分の意見を英文でA4用紙半頁以内にまとめておくこと。(標準学習時間120分)
1 4 回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第15回授業までに、日本における国際理解教育に関して自分の意見を英文でA4用紙半頁以内にまとめておくこと。(標準学習時間120分)
1 5 回	これまでの授業内容の重要項目に関して自分の意見を英文でA4用紙1頁以内にまとめておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	英語圏であるアメリカおよびオーストラリア、および英語を教育上の主要言語として用いているマレーシアを取り上げ、これらの国の文化・社会について、学校教育および国際理解教育という観点から学ぶ。これらの国の社会にける民族・文化・言語にまつわる問題に対し、どのような取り組みが行われてきたのかについて理解を深める。中等教育学科英語教育コースの学位授与の方針(DP)のAと強く関連している。
達成目標	(1)アメリカ、オーストラリア、マレーシアの社会を特徴づける基本概念について説明することができる。(A) (2)これらの国の学校教育の特徴や国際理解教育の特徴について説明することができる。(A) (3)日本社会について比較の視点を持って振り返り、民族・言語・文化の問題や学校教育の問題について説明することができる。(A)
キーワード	言語、文化、アメリカ、オーストラリア、マレーシア、国際理解教育
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	小テスト20%(到達目標(1)を確認)、レポート課題40%(到達目標(1)(2)を確認)、期末テスト40%(到達目標(2)(3)を確認)で評価する。 総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。関連論文や学術記事等、ハンドアウト等の資料を適宜配布する。
関連科目	異文化理解、英語科内容論C
参考書	オーストラリアの言語教育政策 多文化主義における「多様性」と「統一性」の揺らぎと共存 / 青木麻衣子著 / 東信堂 / 978-4887138803、アメリカ多文化教育の再構築 文化多元主義から多文化主義へ / 松尾知明著 / 明石書店 / 978-4750325545、英語化するアジア トランスナショナルな高等教育モデルとその波及 / 吉野耕作著 / 名古屋大 / 学出版会 / 978-4815807795、沈黙の言葉 文化・行動・思考 / エドワード T.ホール著 / 南雲堂 / 978-4523260202
連絡先	研究室 A1号館10階 奥西研究室 Email okunishi@ped.ous.ac.jp 直通電話 086-256-9634 オフィスアワー 月曜日3時限
授業の運営方針	・授業中行うグループディスカッションやペアワークには、積極的に参加すること。 ・課題はmomocampusで提出する。使い方に精通しておくこと。
アクティブ・ラーニング	この講義では、アクティブラーニングの一形態である、グループディスカッション、プレゼンテーション、ペアワークを行う。授業の中で英語での意見交換を活発に行えるよう、配布資料の内容について自分自身の考えを形成すべく予習の段階から意識しておくこと。
課題に対するフィードバック	・予習復習課題は採点し、コメントとともに返却する。 ・小テストはその場で採点し、解説する。 ・最終評価試験については、個別の答案に対してコメントを付した評価を研究室にて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	大阪大学工学研究科留学生相談部、神戸大学留学生課、姫路市国際交流協会での海外交流および留学生相談の実務経験を活かし、実践的な国際理解教育の講義を行う。
その他(注意・備考)	無断欠席は認めない。体調不良等でやむなく授業を欠席する場合は、メールにて事前連絡を行うこと。

科目名	国際比較教育論 (FEP05800)
英文科目名	International Comparative Education
担当教員名	三輪千明* (みわちあき*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	科目紹介、比較教育学、国際教育学について説明する。
2回	比較教育研究の発展と分析視点について説明する。
3回	比較教育研究の方法と意義について説明する。
4回	子育て文化の比較 (1) 自己主張と自己抑制の日英米比較について説明する。
5回	子育て文化の比較 (2) 躰と教育の日英比較について説明する。
6回	子育て文化の比較 (3) 日本人の対人関係と子育ての特徴について説明する。
7回	子育て文化の比較 (4) ディスカッションを実施する。
8回	教育制度の比較 (1) 新自由主義の教育改革について説明する。
9回	教育制度の比較 (2) 学校選択制と教育の民営化について説明する。
10回	教育制度の比較 (3) 諸外国の動向について説明する。
11回	教育制度の比較 (4) ディスカッションを実施する。
12回	教育開発の比較 (1) 途上国の教育開発の現状について説明する。
13回	教育開発の比較 (2) 日本の教育開発と国家の発展について説明する。
14回	教育開発の比較 (3) 教育の量的拡大・質的改善と国際教育協力について説明する。
15回	教育開発の比較 (4) ディスカッションを実施する。
16回	まとめを行い、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、授業計画の概要を把握し、比較教育研究の発展及び分析視点に関し予習すること (標準学習時間80分)
2回	比較教育研究の発展や分析視点を説明できるよう復習し、次回の授業までに比較教育研究の方法について予習すること (標準学習時間120分)
3回	比較教育研究の方法について、長所・短所を踏まえて説明できるよう復習し、次回の授業までに教科書の該当部分を読み、子育て文化の比較に関する事前質問に答えること (標準学習時間80分)
4回	子育て文化の国際比較の事例を通して、比較国際教育研究の分析視点を具体的に説明できるよう復習し、次回の授業までに教科書の該当部分を読み、子育て文化の国際比較に関する事前質問に答えること (標準学習時間120分)
5回	子育て文化の国際比較の事例を通して、比較国際教育研究の方法を具体的に説明できるよう復習し、次回の授業までに教科書の該当部分を読み、子育て文化の国際比較に関する事前質問に答えること (標準学習時間120分)
6回	子育ての国際比較の事例を通して、比較国際教育研究の意義を説明できるよう復習し、次回の授業までに子育て文化の国際比較に関するディスカッションに向けた準備を行うこと (標準学習時間120分)
7回	ディスカッションの結果を踏まえ、子育て文化の国際比較を通して日本の子育て文化の特徴を説明し、意見を述べられるよう復習し、次回の授業までに参考書などにより、新自由主義とは何かについて予習すること (標準学習時間120分)
8回	教育制度の国際比較の事例を通して、比較国際教育研究の分析視点を具体的に説明できるように復習し、次回の授業までに参考書などにより、学校選択制とは何かについて予習すること (標準学習時間80分)
9回	教育制度の国際比較の事例を通して、比較国際教育研究の方法を具体的に説明できるよう復習し、次回の授業までに参考書などにより、新自由主義の教育政策を進める国を選び、その状況を調べてみる (標準学習時間120分)
10回	教育制度の国際比較の事例を通して、比較国際教育研究の意義を説明できるよう復習し、次回の授業までに教育制度の国際比較に関するディスカッションに向けた準備を行うこと (標準学習時間120分)
11回	ディスカッションの結果を踏まえ、教育制度の国際比較を通じた新自由主義の教育改革の長所と短所を説明し、意見を述べることができるよう復習し、次回の授業までに、配布資料を読み、戦後日本の農村地域における貧困と教育の関係を考えてくること (標準学習時間120分)
12回	教育開発の国際比較の事例を通して、比較国際教育研究の分析視点を具体的に説明できるように復習し、次回の授業までに参考書などにより、日本の教育発展と国家開発の関係を考えてくること (標準学習時間120分)
13回	教育開発の国際比較の事例を通して、比較国際教育研究の方法を具体的に説明できるよう復習し、次回の授業までに参考書などにより、国際教育協力の具体例について調べてみる (標準学習時間120分)

	間80分)
14回	教育開発の国際比較の事例を通して、比較国際教育研究の意義を説明できるよう復習し、次回の授業までに教育開発の国際比較に関するディスカッションに向けた準備を行うこと(標準学習時間120分)
15回	ディスカッションの結果を踏まえ、教育開発の国際比較を通してみた途上国の教育開発の課題を説明し、国際協力の可能性について自らの意見を述べるができるよう復習すること(標準学習時間80分)
16回	これまでの授業内容を復習し、理解を深めておくこと(標準学習時間180分)

講義目的	教育の制度や実践には、世界のどの国にも適用可能な普遍的モデルというものには存在せず、国や地域、時代のニーズに即して、現状における最善を求めて試行錯誤が重ねられる。本科目では、日本とは異なる先進国や途上国における多様な子育ての文化や教育制度、教育開発を学ぶことを通じて、国際的な視点から教育の意義やそのあり方を考え、かつ、日本の教育制度や実践についても複眼的視点からとらえられるようになることを目的とする。学位授与の方針Dに関連する科目である。
達成目標	比較教育研究の分析視点や方法、意義を説明できる(D) 比較教育研究の文献を読んで内容を理解し、論題について自らの考えをまとめ、意見交換を行うことができる(D) 諸外国との比較を通して、複眼的・批判的視点から日本の教育のあり方を再考することができる(D)
キーワード	比較教育研究 国際教育協力 学校選択制 子育て文化
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	上述の三つの達成目標それぞれに関する課題提出(30%)と、三つの達成目標に関する最終評価試験(70%)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。ただし、最終評価試験において基準点を設け、60点未満の場合は不合格とする。
教科書	イギリスのいい子、日本のいい子 自己主張とがまんの教育学 / 佐藤淑子 / 中央公論新社 / 978-4121015785
関連科目	
参考書	比較教育研究 - 何をどう比較するか / マーク・ブレイ他編・杉村美紀他訳 / 上智大学出版 / 978-4324085967 : 途上国世界の教育と開発 / 小松太郎編 / 上智大学出版 / 978-4324101155 : その他は授業の中で適宜紹介する。
連絡先	
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義資料は講義開始時に配布する。 ・ 提出課題は期限内に提出すること。 ・ 最終評価試験の形態は筆記試験とする。
アクティブ・ラーニング	・ 本講義ではアクティブラーニングの一環としてグループディスカッションを行い、グループごとに意見を発表する。
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提出課題についてはコメントをつけて返却し、フィードバックを行う。 ・ 最終評価試験のフィードバックとして、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・ 講義中の録音 / 録画 / 撮影は個人で利用する場合に限り許可する場合があるので、事前に相談すること。「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供するので、ご相談ください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	現代社会と地域と子ども (FEP05900)
英文科目名	Contemporary Society, Community, and Children
担当教員名	筒井愛知* (つついよしとも*)
対象学年	4年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「こども」と「地域」とは ~家庭や地域社会の現状~
2回	「現代社会」の変遷と子育て (1)戦後の経済成長からバブル期の社会変化と子どもの生活
3回	「現代社会」の変遷と子育て (2)平成の30年間の社会変化と子どもの生活
4回	「現代社会」の変遷と子育て (3)学校教育の変化と子どもの生活
5回	子どもを取り巻く社会教育 (1)様々な社会教育施設
6回	子どもを取り巻く社会教育 (2)NPOや民間の主催する社会教育
7回	子どもを取り巻く社会教育 (3)学童保育、フリースクール、こども食堂
8回	自分の地域での子どもの置かれている状況を知る
9回	地域社会とこどもの関わり (1)子ども会、少年団
10回	地域社会とこどもの関わり (2)「地域」の隙間を埋めるIT社会
11回	地域社会の子育て環境 (1)地域協同の組織化
12回	地域社会の子育て環境 (2)主体的な学びを産み出す地域社会
13回	学校と地域を結ぶ教師の課題 (1)子どもと学校、教師と地域社会
14回	学校と地域を結ぶ教師の課題 (2)学校文化と家庭・地域社会を結ぶ教師の役割
15回	まとめ

回数	準備学習
1回	過去三年の新聞記事の中で、こどもに関する記事やコラムを三件探す(60分)
2回	「戦後」と「バブル期」の時代を理解するために、当時の新聞が週刊誌かテレビか映画を見る(90分)
3回	「平成」をまとめた本を読む(90分)
4回	学習指導要領の変化の歴史を調べておく(90分)
5回	自分が育った地域の「社会教育施設」を調べる(60分)
6回	子供と関わるNPOにどのようなものがあるか調べる(60分)
7回	学童保育に通っていた友人を探して話を聞く(60分)
8回	こどもと貧困に関する新聞記事を探して読む(60分)
9回	自分がこどものころの「こどもの会活動」の行事を思い出す(60分)
10回	自分がこどものころから接してきたゲーム機や情報機器を思い出して年代ごとに整理しておく(60分)
11回	自分の育った地域の子供会・青年団・婦人会などの現状を調べておく(60分)
12回	自分の育った地域で学校と家庭以外に子供が関わることのできる機会にどのようなものがあるかを調べる(60分)
13回	学校の授業の一環として行われる、地域での学習活動の事例を調べる(60分)
14回	自分と社会のつながり(趣味やボランティアなど)を再確認する(30分)

講義目的	子どもの育ちと地域社会の関わりについて、その意味と可能性を考察する。背景となる地域社会の変動や社会変革について理解し、子どもの置かれる環境が子どもの育ちに及ぼす影響について学び、これからの社会における、子どもと地域との関わりについてその可能性を探る。
達成目標	現代社会が子どもの育ちにとってどのような課題を持っているのかを認識し、教師としてどのように立ち向かうかを考える視点を持つことが目標である。そのために、現代社会についてより幅広い視野で見渡すことができるようになるとともに、子どもの置かれている状況を把握したり子育て支援の必要性についての認識を深めることを目標とする。
キーワード	現代社会、地域社会、社会教育
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	レポート(50%)、授業で行う演習(30%)、授業中の活動(20%)を総合して評価する。
教科書	使用しない
関連科目	
参考書	適宜指定する
連絡先	ph6y-tti@j.asahi-net.or.jp 筒井愛知
授業の運営方針	・授業の始めに出席をとるが、返答がない場合は遅刻あるいは欠席扱いにするので注意すること。 ・遅刻は15分までは認めるがそれ以降は欠席扱いにする。 ・全てのレポートを期限内に提出すること。期限を過ぎての提出は減点の対象にする。 ・最終評価試験は実施しないので授業時間と授

	業時間外での活動が重要である。課題レポート等にコピーなどの剽窃がある場合は、成績評価の対象としない場合もある。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション、プレゼンテーション・協働的なワークショップ、授業中のグループディスカッションを通してテーマを深めていく。
課題に対するフィードバック	・毎回のレポート「質問」には次回の講義内で返答する。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。・講義中の録音・録画・撮影は個人で利用する場合に限り、許可する場合がありますので事前に相談すること。・障害に応じて補助器具（ICレコーダー、タブレット型端末の撮影、録画機能）の使用を認めるので、事前に相談すること。・配布資料や録画データなどは他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）や転用は禁止する。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	受け身ではなく積極的に授業に参加する態度が望まれる。

科目名	多文化コミュニケーション活動 (FEP06000)
英文科目名	Activities for Cross-cultural Communication
担当教員名	奥西有理 (おくにしゆり)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	実験実習
授業内容	国際ボランティアの出身国の文化理解のために、他文化を読み解く視点 (ホフステードの5次元モデル、文化の世界地図等) について学習する。地域社会における外国人との共生と英語教育をつなぐ視点についても学ぶ。その上で、海外から招聘した4名の外国人ボランティアメンバーと協働し、地域の児童・生徒の多文化理解教育に役立つ英語コミュニケーション活動を企画し、実施する。
準備学習	毎回の授業で設定されたテーマや課題については、グループ・メンバーや国際ボランティアと話し合い (国際ボランティアが来日する前はメールやSkypeなどICTで連絡)、次の授業までにアイデアや解決策をプレゼンテーションできるように準備しておくこと。プレゼンテーションのために配布資料を受講者全員分用意し、ポイントを明確に提示できるようにすること。(標準学習時間120分)
講義目的	本実習は、異なる文化を背景にもつ人々との協働により、グローバルな社会で必要とされる多文化コミュニケーション能力を身に付けることを目的とする。地域の児童や生徒を対象とした国際教育プログラムを外国人学生とともに企画・実施することを通して、地域社会の異文化理解向上に貢献する。中等教育学科英語教育コースの学位授与の方針(DP)のDと強く関連している。
達成目標	1) 教育的視点を組み入れた国際理解教育プログラムの立案および実施ができる。(D,E) 2) 活動全体を通してローカル社会とグローバル化社会を繋げる視点を獲得している。(D,E) 3) 活動全体を振り返り、クリティカルな視点で国際理解教育の在り方について考察することができる。(D,E)
キーワード	国際理解教育、英語活動、異文化理解、異文化間コラボレーション
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	レポート課題50% (到達目標(2)(3)を確認)、国際教育活動に関するポートフォリオ50% (到達目標(1)を確認) で評価する。 総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。適宜必要な資料を配布します。
関連科目	国際理解教育概論、異文化理解、英語科内容論C
参考書	特になし。適宜必要な資料を配布します。
連絡先	研究室 A1号館10階 奥西研究室 Email okunishi@ped.ous.ac.jp 直通電話 086-256-9634 オフィスアワー 月曜日3時限
授業の運営方針	授業中行うグループディスカッションやペアワークには、積極的に参加すること。
アクティブ・ラーニング	この講義では、アクティブラーニングの一形態である、グループディスカッション、プレゼンテーション、ペアワークを行う。授業の中で英語での意見交換を活発に行えるよう、配布資料の内容について自分自身の考えを形成すべく予習の段階から意識しておくこと。
課題に対するフィードバック	課題は採点し、コメントとともに返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供いたしますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	大阪大学工学研究科留学生相談部、神戸大学留学生課、姫路市国際交流協会での海外交流および留学生相談の実務経験を活かし、実践的な国際教育交流の実践を推進する。
その他 (注意・備考)	毎回の実習授業には必ず出席し、ディスカッションおよび国際教育活動の企画・運営には主体的・積極的な関わりが持てるよう努力すること。

科目名	探究ゼミ (FEP06100)
英文科目名	Seminar for Inquiry-based Study I
担当教員名	松岡律(まつおかただし), 山下浩之(やましたひろゆき), 井本美穂(いもとみほ)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	イントロダクション 授業の進め方、課題の立て方について解説する。 (全教員)
2回	世の中に対して問いを立てる(1) 探究作業の進め方について解説する。 (全教員)
3回	世の中に対して問いを立てる(2) 班内意見交換を通じて観点を広げる。 (全教員)
4回	世の中に対して問いを立てる(3) 班内プレゼンテーションを行う。 (全教員)
5回	班代表プレゼンテーション(1) を実施する。 (全教員)
6回	自分自身を問う(1) 探究作業について再考する。 (全教員)
7回	自分自身を問う(2) 班内意見交換を通じて視点を広げる。 (全教員)
8回	自分自身を問う(3) 班内プレゼンテーションを実施する。 (全教員)
9回	班代表プレゼンテーション(2) を実施する。 (全教員)
10回	大学生としてどう生きるか(1) 探究作業を行う。 (全教員)
11回	大学生としてどう生きるか(2) 意見交換、課題設定を問い直す。 (全教員)
12回	大学生としてどう生きるか(3) プラン&アクション1を行う。 (全教員)
13回	大学生としてどう生きるか(4) プラン&アクション2を行う。 (全教員)
14回	大学生としてどう生きるか(5) 成果の整理を行う。 (全教員)
15回	全体まとめ プレゼンテーションを実施する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	日常生活における不思議について考えておくこと。(標準学習時間:60分)
2回	新聞等を読んで、自分が分からないことをまとめておくこと。(標準学習時間:60分)
3回	第2回を踏まえて、自分の意見を他者に伝える準備をしておくこと。(標準学習時間:60分)
4回	第3回を踏まえ、自分の考えを説得的に表現できるよう準備をしておくこと。(標準学習時間:60分)
5回	他者の意見を正確に記述するための準備をしておくこと。(標準学習時間:60分)
6回	自己認識、自己概念、Iとmeなどについて調べておくこと。(標準学習時間:60分)

7回	他者と意見を交換し合うための準備しておくこと。(標準学習時間:60分)
8回	自分の考えを説得的に表現できるよう準備しておくこと。(標準学習時間:60分)
9回	他者の意見を正確に記述するための準備しておくこと。(標準学習時間:60分)
10回	小・中・高と違う大学の特徴について考えおくこと。(標準学習時間:60分)
11回	どの課題を選ぶか、考えておくこと。(標準学習時間:60分)
12回	課題を踏まえ次に何をするか考えておくこと。(標準学習時間:60分)
13回	引き続き、成果に結びつけるための方途を考えておくこと。(標準学習時間:60分)
14回	成果として挙げられるものを、理由も含めて考えておくこと。(標準学習時間:60分)
15回	全体の場でどのようにプレゼンテーションするか、準備しておくこと。(標準学習時間:60分)

講義目的	“大学生としてどう生きるか？”を年間テーマとして、前半は科目履修の考え方やレポートの書き方等の大学生活への導入を行う。後半は、5～6名のグループに分かれ、学修への姿勢や人間関係、そして理想的な教育のあり方など、主に大学4年間のすごし方をめぐり学生たちが様々な課題を自主的に取り上げ、検討し討論し合う活動が中心となる。活動の成果は学生個人がプレゼンテーションならびにレポートにまとめて提出する。
達成目標	大学生としての自分自身の立場、将来目標を明確に把握する。(A/C) この先何をなすべきかを他者に分かりやすく説明できるほど明確に理解し、それを文章やプレゼンテーションとして表現できるようになること(B)。
キーワード	探究 大学生 表現力
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	課題ごとのレポート50%(達成目標を確認)、プレゼンテーションと最終レポート50%(達成目標を確認)により成績評価し、総計60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。
関連科目	探究ゼミ
参考書	適宜紹介する。
連絡先	imoto@ped.ous.ac.jp(井本) matsuoka@ped.ous.ac.jp(松岡) yamashita@ped.ous.ac.jp(山下)
授業の運営方針	グループワークを多用します。そのため、受講者の積極的な姿勢が重要です。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション 課題についてグループごとにディスカッションし、発表します。 個人発表も併せて行います。
課題に対するフィードバック	授業最終回に提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	山下は、元小学校現場教員。
その他(注意・備考)	探究ノートを毎回持参すること。

科目名	探究ゼミ (FEP06200)
英文科目名	Seminar for Inquiry-based Study II
担当教員名	笹山健作(ささやまけんさく), 妻藤純子(さいとうじゅんこ), 原田省吾(はらだしょうご)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	イントロダクション - 探究テーマを考える。 (全教員)
2回	プランニング(1) - 1st プロジェクトを構想する。 (全教員)
3回	プランニング(2) - 1st プロジェクトを決定する。 (全教員)
4回	プランニング(3) - プロジェクト発表(班代表) + 意見交換をする。 (全教員)
5回	プランニング(4) - プロジェクトを準備する。 (全教員)
6回	1st プロジェクト実行(1) - 実際の取り組みをする。 (全教員)
7回	1st プロジェクト実行(2) - 実際の取り組みをする。 (全教員)
8回	リフレクション(1) - 1st プロジェクトの振り返りをする。 (全教員)
9回	2nd プロジェクトを構想する。 (全教員)
10回	プランニング(5) - 2ndプロジェクトの内容を検討する。 (全教員)
11回	プランニング(6) - プロジェクトの内容を決定する。 (全教員)
12回	2nd プロジェクト実行(1) - 実際の取り組みをする。 (全教員)
13回	2nd プロジェクト実行(2) - 実際の取り組みをする。 (全教員)
14回	リフレクション(2) - 2nd プロジェクトの振り返り(クラス内プレゼンならびに選抜)をする。 (全教員)
15回	リフレクション(3) - 学年全体で選抜チームによるプレゼンをする。 (全教員)

回数	準備学習
1回	「探究ゼミ」の成果と今後の課題について整理しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	グループ討論の準備(アイデア準備)をしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	第2回の議論を踏まえ、課題を整理しておくこと。(標準学習時間60分)
4回	10分程度のプレゼンテーション準備をしておくこと。(標準学習時間60分)
5回	決定したプロジェクト実現に必要な手順についてよく整理しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	個々の役割分担等について整理しておくこと。(標準学習時間60分)

7回	プロジェクトの円滑な進行に必要な条件を確認しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	各班でプレゼンテーションの準備しておくこと。(標準学習時間90分)
9回	地域と関わる活動について考えておくこと。(標準学習時間60分)
10回	前回の議論に基づき各自プランを練っておくこと。(標準学習時間60分)
11回	前回の議論から、プランを整理しておくこと。(標準学習時間60分)
12回	各自の役割を明確にしておくこと。(標準学習時間60分)
13回	地域との関わりを明確にしておくこと。(標準学習時間60分)
14回	1st プロジェクトと同様にプレゼン準備をしておくこと。(標準学習時間60分)
15回	1年間の振り返りを探究ノートにきちんとまとめること。(標準学習時間60分)

講義目的	「学びを深める」を年間テーマに、仲間や地域の人々との関わりの中で、マネジメント力・コーディネート力・ファシリテーション力の獲得を目指す。グループ単位で社会貢献活動等の企画を立案・実行し、その成果をプレゼンテーション等を通じて他者に情報発信する中で、自分と異なる意見を理解し尊重し、調和することの大切さを学ぶ。また活動の成果を報告会で互いに発表し合うことを通じて、プレゼンテーション力の向上も図る。教員はテーマの指示および討論の助言を行う。活動の成果は学生個人が毎回記録し、最終的にレポートにまとめる。(初等教育学科学位授与の方針Dにもっとも強く関与する)
達成目標	1) 「探究ゼミ」で培った仲間とのコラボレーション力を基に、学外の地域と人々との関わりの中で課題を発見し、取り組み、解決し、その成果を効果的に発表するスキルを身につけることができる(A・B・C・D・E)。 2) 他者の発表を自らと比較しながらそれぞれの長所を見出し、深く理解できる(A・B・C・D・E)。
キーワード	探究、課題発見、課題解決、リフレクション、PDCAサイクル
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	探究ゼミノート50%(達成目標1,2を評価)、課題ごとのプレゼンテーションと最終レポート50%(達成目標1,2を評価)により成績評価し、総計60%以上を合格とする。
教科書	なし
関連科目	探究ゼミ
参考書	
連絡先	原田研究室: harada@ped.ous.ac.jp 妻藤研究室: saito@ped.ous.ac.jp 笹山研究室: sasayama@ped.ous.ac.jp
授業の運営方針	積極的に参加すること。
アクティブ・ラーニング	主体的に探究すべき課題を見付け、協働的に取り組む。
課題に対するフィードバック	提出課題へのフィードバックは次回の講義中に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	・講義中の論音/録画/撮影は原則認めない。特別な理由がある場合、事前に相談すること。

科目名	探究ゼミ (FEP06300)
英文科目名	Seminar for Inquiry-based Study III
担当教員名	森敏昭(もりとしあき), 小川孝司(おがわたかし), 紙田路子(かみたみちこ)
対象学年	3年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	イントロダクション - 探究ゼミ の目的を理解する (全教員)
2回	プランニング(1) - 各自の進路目標を宣言する。 (全教員)
3回	プランニング(2) - キャリアアドバイザーの講話から学ぶ。 (全教員)
4回	プランニング(3) - ゲストティーチャーからの学びを整理する。 (全教員)
5回	プランニング(4) - これからの大学での学びを考える。(ゼミ) (全教員)
6回	グループワーク(1) - 希望進路ごとに情報交換する。 (全教員)
7回	グループワーク(2) - 課題と対策を明確化する。 (全教員)
8回	プレゼンテーション - 互いの進路目標と対策を発表する。 (全教員)
9回	大学での学びのゴールを定める。 (全教員)
10回	ゼミ研究(1) 様々な研究を知る。 (全教員)
11回	ゼミ研究(2) 様々な研究を知る。 (全教員)
12回	ゼミ研究(3) 様々な研究を知る。 (全教員)
13回	ゼミ研究(4) 研究テーマを決定する。 (全教員)
14回	今後の学びと卒業後のキャリアの関連について検討する。 (全教員)
15回	最後の1年の過ごし方を定める。 (全教員)

回数	準備学習
1回	自分の進路について考えを整理しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	発表の準備をしておくこと。(標準学習時間30分)
3回	改めて自己課題を整理しておくこと。(標準学習時間30分)
4回	2分程度のプレゼンテーション準備をしておくこと。(標準学習時間60分)
5回	残り2年間でどんな学びを深めたいか考えておくこと。(標準学習時間30分)
6回	志望する業界について情報収集しておくこと。(標準学習時間60分)

7回	目標達成のためにどうすればいいか考えておくこと。(標準学習時間30分)
8回	各自プレゼンテーションの準備をしておくこと。(標準学習時間90分)
9回	卒業に向けた研究について考えておくこと。(標準学習時間60分)
10回	卒業に向けた研究について考えておくこと。(標準学習時間60分)
11回	卒業に向けた研究について考えておくこと。(標準学習時間60分)
12回	卒業に向けた研究について考えておくこと。(標準学習時間60分)
13回	希望の研究テーマを確定しておくこと。
14回	大学での学びと実社会との関係について考えておくこと。(標準学習時間60分)
15回	1年間の振り返りを探究ノートにきちんとまとめること。(標準学習時間60分)

講義目的	「キャリア形成」を年間テーマにして、個々の学生が教員採用や就職、進学など、進路決定に向けた行動を探究することを目標とする。具体的には、教職への適性を考え、教員として教育現場で実践できるだけの基礎力を培うためにすべきことや、教員以外で希望する業界で可能性を生かすために必要なことはなにかといった課題を設定して、調査・報告などの活動を行うことによって進路への意識を高める。また、外部講師を招き、社会人としての持続可能な社会貢献等についても議論し理解を深める。 (初等教育学科学位授与の方針にもっとも強く関与する)
達成目標	1. 大学2年間の学びを通して自己の成長やアイデンティティの変容を理解することができる(A)。 2. ゲストティーチャーの講話や未来像についての仲間との対話を通して、卒業後の自己の進路を具体的に考えることができる(B)。 3. 自己の研究における興味や関心に気づき、卒業研究のテーマを設計することができる(C)。
キーワード	・キャリア形成 ・卒業研究 ・アイデンティティの確立
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	探究ゼミノート50%、課題ごとのプレゼンテーションと最終レポート50%により成績評価し、総計60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。
関連科目	探究ゼミ , 探究ゼミ , 探究活動
参考書	指定しない。
連絡先	A1号館9F 森敏昭, 小川孝司, 紙田路子
授業の運営方針	・毎時間のミニレポート及び課題レポートを必ず期限内に提出すること。 ・グループ活動が中心となる。遅刻・課題未提出等グループに迷惑をかけることが重なれば欠席扱いとすることがあるので十分注意すること。
アクティブ・ラーニング	・ディスカッション：課題テーマについてグループでディスカッション、ワークショップを行う。 ・グループワーク：キャリア、研究をテーマにプレゼンテーション作成・発表を行う。
課題に対するフィードバック	・課題レポート、ミニレポートは添削・評価の後、次時の授業時間に返却する。 ・プレゼンテーション等グループ発表については、学生間の相互評価の後フィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。 ・講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。当別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員	元公立小学校教諭：学校現場における教育経験者が、教職の意義ややりがいについて語るとともに、ベテラン教員にいたるまでのキャリアについて必要なアドバイスをすることができる。
その他(注意・備考)	・大学卒業の後の、理想とする将来像を自分なりに構築して講義に臨むこと。

科目名	探究活動 (FEP06400)
英文科目名	Investigation Activities I
担当教員名	山下浩之(やましたひろゆき), 紙田路子(かみたみちこ)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして講義の目的と概略を説明するとともに、観察の視点の持ち方や事象へのアプローチの方法を、事例を基にして説明する。 (全教員)
2回	標本作製の目的や手順を十分に理解した上で、本キャンパス内の木本植物で葉の標本作製を行う。 (全教員)
3回	十分に乾燥させた標本を冊子にし、葉の特徴や標準和名・学名等を記載した後、フィールドに出て実際の植物の外観を観察する。 (全教員)
4回	キャンパス内で観察される木本植物を選択し、その植物についての解説をグループごとにプレゼンテーション方式で行う。 (全教員)
5回	地域調査、およびフィールドワークの意味を理解し、追求するテーマを設定する。調査活動についての計画の立案をする。(場所、データ収集の観点、準備物等) (全教員)
6回	計画をもとにフィールドワークを行う。 (全教員)
7回	グループごとにフィールドワークの結果を地図にまとめ、発表する。(ワークショップ形式) (全教員)
8回	フィールドワークと実地調査を振り返り探究活動の意義について話し合う。最終評価試験を行う。試験後模範解答の提示と内容についての解説を行う。 (全教員)

回数	準備学習
1回	第2回までに両担当の講義概略を確認しておくこと。(60分)
2回	第2回の準備物として水彩画用の平筆または大筆、木工用ボンド、新聞紙1枚が必要。植物図鑑でキャンパス内の植物が大まかに同定できるようにしておくこと。(60分)
3回	第4回のプレゼンテーションに備えて、最低5本のTEDを視聴し、学習した点を記録すること。(60分)
4回	木本植物をあらかじめ決定しておき、第4回のプレゼンテーションの準備を十分にすること。(60分)
5回	フィールドワークの観点を設定できるように、岡山理科大学構内、および周辺の地図を概観しておくこと。(60分)
6回	第1回フィールドワークの目的やコース、収集すべき情報をグループで確認しておくこと。(60分)
7回	フィールドメモをもとに、フィールドノーツを作成すること。(100分)
8回	フィールドワークや実地調査の意義や手法、分析について復習しておくこと。(120分)

講義目的	教師に求められる実践的指導力は、科学的、客観的態度で物事の本質を追究し続ける力が基盤となっている。この授業では課題に気づき、考え、理解し、発信する学習サイクルを重視し、そのために必要な探究する力と言葉の力を培うための基礎能力をアクティブラーニングによって養うことを目標とする。(この講義は初等教育学科の学位授与方針のE・C・Dに強く関与する)
達成目標	環境に恵まれた本学周辺エリアの自然・文化・歴史等について理解を深め、グループ単位でテーマを設定することができる。(E) 観察や見学、調査・討論などの他者と協同して問題を解決するための活動の方法や思考法を身につけることができる。(C)

	グループ単位でプレゼンテーションを行い，成果を共有するとともに批判的な視点から議論することができる。(D)
キーワード	探究する力・言葉の力
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験50%(主に達成目標1・2を評価)，プレゼンテーション40%(主に達成目標2・3を評価)，レポート10%(主に達成目標1を評価)により評価し，総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。
関連科目	探究活動 A、探究活動 B、探究活動 C
参考書	適宜紹介する。
連絡先	A1号館 9F 紙田研究室、10F 山下研究室
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・課題レポートを必ず期限内に提出すること。 ・グループ活動が中心となる。そのため遅刻や課題未提出，必要な材料・道具を忘れること等グループに迷惑をかけることが重なれば欠席扱いとすることがあるので十分注意すること。 ・講義資料は講義開始時に配布する。なお特別な事情のない限り後日の配布には応じない。
アクティブ・ラーニング	<p>実験・実習：野外観察やフィールドワークを行う。</p> <p>グループワーク：地図やプレゼンテーションの作成，発表を行う。</p>
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・課題レポート，およびミニレポートは添削・評価の後，次時の授業時間に返却する。 ・最終試験評価試験を35分を行い，10分で模範解答の解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供するので，配慮が必要な場合は，事前に相談すること。 ・講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。当別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員	<ul style="list-style-type: none"> ・元公立小学校教諭：学校現場における教育経験者が，その経験を生かして自然観察やフィールドワーク等，課題の探究の手法や留意点等について解説・指導する。
その他(注意・備考)	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動 は主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)の意義と基本的な方法を習得するための講義である。自ら進んで参加する姿勢をもって講義に臨むこと。 ・指導計画は受講状況により変更することがある。 ・講義中の録音，録画，撮影は原則認めない。特別な理由がある場合は事前に相談すること。

科目名	探究活動 A (FEP06500)
英文科目名	Investigation Activities IIA
担当教員名	山下浩之(やましたひろゆき)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	オリエンテーションおよび野外活動における一般的な注意および解説を行う。実態調査を綿密に行い、安全面への意識を高めた上で日程やグルーピングを行う。
2回	旭川の地質・地形・気象・水質・動植物について解説し、それらがカヌー実習に及ぼす影響と、カヌーによって始めて体感できる内容を理解する。
3回	カヌーの名称や特性、操縦法の基本を解説するとともに野外活動における危険性とその回避方法について理解する。
4回	現地の実習場所で地理・地形・水量・危険区域・危険生物等をグループごとに把握する。
5回	現地の実習場所で、現地での危険をどのように回避すればいいかをグループごとに議論する。
6回	現地の実習場所で、危険項目の洗い出しと回避方法をグループごとに発表し、議論する。
7回	現地実習場所で、全員の健康状態を把握した後、ライフジャケットの使用法、浮かび方、安全姿勢等を学ぶ。
8回	現地実習場所で、パドルの操作方法と前進および後退・回転方法を身につける。
9回	現地実習場所で、カヌーの乗降りおよび沈した場合のレスキュー方法を身につける。
10回	旭川周辺の動植物について解説し、実際に同定ができるようにする。生息環境から、生息条件を推測できるようにする。
11回	旭川と百間川の歴史を追いながら、川とどのようなつきあい方を行い、どのように変え、どのように利用したかを実際の遺跡を見学しながら考察する。
12回	現地でのカヌー実習および探究活動をグループごとに、それぞれのテーマでまとめる。
13回	現地でのカヌー実習および探究活動をグループごとに、修正し、発表に備える。
14回	全グループを半分に分け、前半の発表会を行う。質疑応答を行い、それぞれのテーマについて議論する。
15回	全グループを半分に分け、後半の発表会を行う。質疑応答を行い、それぞれのテーマについて議論する。

回数	準備学習
1回	旭川の上流から下流までの流路を地形図で確認しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	旭川の流域の地質・地形について、地質図等で確認しておくこと。(標準学習時間60分)
3回	カヌーの名称や特性について、十分に予習して多くこと。(標準学習時間60分)
4回	旭川の危険生物について、十分に調べておくこと。(標準学習時間45分)
5回	危険回避の方法について十分に予習しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	現地下見を行う観点を自分なりに整理しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	ライフジャケットの使用法、スローボトルでの救助法などを予習しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	パドルの操作方法について十分に予習しておくこと。(標準学習時間60分)
9回	カヌー実習時の緊急事態を想定し、どのような救急方法を行うか、また、レスキューをどのように行ったらいいかを十分に検討しておくこと。(標準学習時間60分)
10回	旭川の周辺にどのような生物が生息しているかをそれぞれの分類グループに分けておくこと。(標準学習時間60分)
11回	旭川のこれまでの歴史をたどりながら、利用法や災害時の状況および対策を調べておくこと。(標準学習時間60分)
12回	自分なりのテーマを設定し、グループでの発表に備えること。(標準学習時間60分)
13回	発表の分担を決め、分担部分については十分に準備を行っておくこと。(標準学習時間60分)
14回	プレゼンテーションに向けてのリハーサルを行い、改善および修正を行うこと。(60分)
15回	グループごとの発表に積極的に意見ができるようにしておくとともに、自分たちのグループの発表全体の総括を行う(標準学習時間60分)

講義目的	本講義は自然探究活動を中心とした体験重視の授業である。主な目的はカヌーの技能や危険回避等のテクニックを身につけることはもちろんのこと、将来フィールドでの指導者として必要な資質や能力の育成を図るものである。初等教育学科の学位授与DPの方針BおよびCに関連する科目である。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・野外での自然探究活動における注意点を理解し、危険性を回避する方法を学ぶことができる。(B) ・水上でのツールとなるライフジャケット使用法やカヌー操縦の基礎を習得することができる。(B)

	<ul style="list-style-type: none"> ・野外での自然観察を通して抱いた疑問を解決するためのアプローチの仕方，調べ方を習得することができる．(B) ・調べたことがらをまとめ，テーマをもって論理性的のあるプレゼンテーションを行うことができる．(C)
キーワード	カヌー・危険回避・フィールド学習・自然探究・協力性・指導法・旭川・百間川・発表法
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	<ul style="list-style-type: none"> ・カヌーの基本的な操作法が身につけていること(チェック法20%) ・下見の方法や観点を身につけて実習を行っていること(主にレポート20%) ・安全面の確保を十分に行った上で実習していること(チェック法20%) ・発表方法を習得していること(チェック法20%) ・グループの中で活発な議論を行っていること(主にレポート20%) これらの合計100%のうち60%以上を合格とする．
教科書	適宜配布する．
関連科目	探究活動（山下担当分）
参考書	シリーズ『岡山学』3～6，旭川を科学する Part 1～4．(吉備人出版) 「カヌー&カヤック入門(辰野 勇著)山と溪谷社
連絡先	山下研究室A1号館10F1012 直通電話 086-256-9624 E-mail:yamashita ped.ous.ac.jp(はat sign) オフィスアワー 木曜日4・5時限
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は安全第一で行うので心がけること． ・予習復習および補足を必要とする内容についてはMomo-campusに配信する． ・授業の始めに出席をとるが，返答がない場合は遅刻あるいは欠席扱いにするので注意すること． ・遅刻は15分までは認めるがそれ以降は欠席扱いにする． ・全てのレポートを期限内に提出すること．期限を過ぎての提出は減点対象にする． ・関係者全員に挨拶をすること． ・最終評価試験は実施しないので，授業時間と授業時間外での活動が重要である．課題レポート等にコピーなどの剽窃がある場合は成績評価の対象としない場合もある．
アクティブ・ラーニング	ディスカッション・プレゼンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・基本的にはまず自分自身でデータをとり，その結果や考察についてのオーラルプレゼンテーションを行う． ・授業中のグループディスカッションを通してテーマを深めていく．さらにグループで意見を集約して発表する． ・リフレクションノートにより相互評価、自己評価を行う．
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・予習復習課題は採点后，返却する． ・課題についてはその内容を各自プレゼンテーションし，内容を学生全体で共有した上で相互評価する． ・課題についての補足やフィードバックに関する情報はMomocampusで行う場合がある．
合理的配慮が必要な学生への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので，配慮が必要な場合は，事前に相談してください． ・講義中の録音・録画・撮影は個人で利用する場合に限り，許可する場合がありますので事前に相談すること． ・障害に応じて補助器具（ICレコーダー、タブレット型端末の撮影、録画機能）の使用を認めるので，事前に相談すること． ・配布資料や録画データなどは他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）や転用は禁止する．
実務経験のある教員	ア)元小学校勤務イ)学校現場の経験を活かして、今日的な教育的な課題（フィールドでの学習の問題点）と教育的効果について講義する。
その他（注意・備考）	本授業はアクティブラーニングによって本講義目標達成を目指す．本授業は受講者の安全と体験の質確保のために今年度から抽選により40名の履修制限を行うこととする．また，この授業は集中で行われるため，主に土曜日日曜日に行われることも考慮すること．日程については後日教育学部掲示板9F10F等に掲示する．受講決定後5日以後のキャンセルは認めないので注意すること．指導計画は受講状況により変更することがある．

科目名	探究活動 B (FEP06600)
英文科目名	Investigation Activities IIB
担当教員名	紙田路子 (かみたみちこ)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして講義の目的と概略を説明するとともに、学校教育現場で必要とされる課題の設定、情報の収集、科学的・客観的態度に基づく情報の分析・吟味、情報の再構成という情報活用能力の構成要素について理解する。
2回	科学的・客観的態度に基づく情報分析の手法(「問題をどうたてるか 原因を考え問題を整理する」「理論と経験とをつなぐー具体的証拠を集める」)について理解する。
3回	博物館、フィールドワーク、社会的調査、文献検索等、課題解決のための情報コンテンツの特質と情報収集の方法について理解する。
4回	情報の構成の仕方(プレゼンテーション・新聞等)について理解する。(ワークショップ形式)
5回	瀬戸内の博物館や吉備の歴史、文化環境に恵まれた岡山の地域性の概要の理解をもとに、グループで探求する課題の設定と課題追求のための計画の立案を指導する。
6回	第1回 調査活動を行う。(岡山シティミュージアム・岡山県立博物館等)
7回	第1回 調査活動のまとめを行う。(情報の整理、分析、再構成、さらに調べるべき課題の設定など)
8回	第2回 調査活動を行う。(造山古墳、吉備津神社、岡山城、吉備国分寺等)
9回	第2回 調査活動のまとめをする。(情報の整理、分析、再構成、さらに調べるべき課題の設定など)
10回	これまでの調査活動を振り返り、テーマにそった新聞の構成(レイアウト、見出し、リード文、記事)方法についての説明を受け、グループごとに新聞作成を行う。
11回	グループごとに発表を行い、情報の構成、内容、レイアウト等の観点をもとに意見交換を行う。(ワークショップ形式)
12回	社会調査についての計画を立てる。
13回	アンケートを作成し、実施するための準備をする。
14回	アンケート結果を分析し、調査結果をプレゼンテーションで発表するための準備・練習を行う。
15回	社会調査の結果についてプレゼンテーションを行う。
16回	最終評価試験を行う。試験後模範解答の提示と内容についての解説を行う。

回数	準備学習
1回	探究活動 Bのシラバスや教科書に目を通し、学習の過程を把握しておくこと。(1時間)
2回	高根正昭著「方法の創造学」に目を通し、問題解決の方法論について整理しておくこと。(2時間)
3回	課題解決のコンテンツとしての岡山市周辺の博物館や資料館等の情報を集めておくこと。(1時間)
4回	身近な新聞記事やドキュメンタリー映像に目を通し、効果的な情報の伝え方について考えておくこと。(1時間)
5回	岡山市の歴史・自然・文化について課題設定を行い、探求活動のテーマを設定しておくこと。(2時間)
6回	設定したテーマに基づき、管内の展示物、資料等についての情報を収集しておくこと。(1.5時間)
7回	調査活動で取得した情報(資料やインタビューの内容、写真、スケッチなど)を追究するテーマごとに整理すること。(1.5時間)
8回	調査活動を行う博物館、資料館についての詳細な情報を収集しておくこと。(歴史、特徴など)(1.5時間)
9回	調査活動で取得した情報(資料やインタビューの内容、写真、スケッチなど)を追究するテーマごとに整理すること。(1.5時間)
10回	第2回講義の情報分析の手法に基づき、これまでに収集した情報を整理しておくこと。作業の内容・分担をグループで相談して決めておくこと(2時間)
11回	グループで発表の準備練習を進めておくこと。(2時間)
12回	岡山理科大学の学生について調べてみたいテーマについて設定しておくこと。(1時間)
13回	岡山理科大学の学生を対象にアンケートを実施し、観点にそって整理しておくこと。(2時間)
14回	アンケート結果から明らかになったことを考察しておくこと。(2時間)
15回	プレゼンテーションの準備・練習をしておくこと。(2時間)
16回	新聞作成の方法(情報収集・記事の書き方・見出し・リード・レイアウト)や社会調査に関わる概念(原因と結果の考察、命題と仮説、記述と説明、独立変数と従属変数等)について復習し説明が

	できるようにしておくこと。(2.5時間)
講義目的	瀬戸内や吉備の歴史、文化環境に恵まれた岡山の地域性を生かし、仮説の設定、情報収集、検証、立論という計画をたて、見学や観察、調査活動などのアクティブラーニングを実施することを通して、探究に必要な観察力、課題の設定、情報の収集、科学的・客観的態度に基づく情報の分析・吟味、情報の再構成という情報活用能力を身に着けることを目的とする。(この講義は教育学部の学位授与方針のD・Eに強く関与する。)
達成目標	1. 社会研究の方法を理解し、探究活動に生かすことができる。(D・E) 2. 1の方法論に基づき、自らが設定したテーマについて仮説を設定し、検証し、理論を導き出すことができる。(E) 3. 研究の成果をプレゼンテーション等で効果的に伝えることができる。(D)
キーワード	情報活用能力、情報コンテンツの活用、原因と結果の論理、命題と仮説、記述と説明、独立変数と従属変数、検証、概念、作業定義、統制された変数
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	新聞20%(主に達成目標1・2を評価)、発表40%(主に達成目標2・3を評価)、最終評価試験40%(主に達成目標3を評価)により評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。ただし最終評価試験において基準点を設け、得点が100点中60点未満は不合格とする。
教科書	『創造の方法学』/高根正昭/講談社現代新書
関連科目	探究活動を受講しておくことが望ましい。
参考書	適宜紹介する。
連絡先	A1号館 9F 紙田研究室
授業の運営方針	・毎時間のミニレポート及び課題レポートを必ず期限内に提出すること。 ・グループ活動による授業を行う。遅刻・課題未提出等、グループに迷惑をかけることが重なりと欠席扱いとすることがあるので十分注意すること。 ・講義資料は講義開始時に配布する。なお、特別な事情のない限り後日の配布には応じない
アクティブ・ラーニング	・課題解決学習：グループで課題を設定し、資料調査、フィールドワーク等の情報収集を行い解決していく。 ・グループワーク：古代吉備に関わる新聞作成、アンケート調査等の社会調査をグループで行う。
課題に対するフィードバック	・課題レポート、およびミニレポートは添削・評価の後、次時の授業時間に返却する。 ・ポスターセッション、プレゼンテーションによる発表については、相互評価の後、総括・評価を行う。 ・最終評価試験を60分行い、30分で模範解答の解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・講義中の録音・録画・撮影は原則認めない。当別の理由がある場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	元公立小学校教諭：学校現場における教育経験者がその経験を生かして、社会的事象の探究方法について解説、実践指導する。
その他(注意・備考)	・本講義は調査活動を主体におく。そのため、課外においても自主的に自ら設定したテーマにそって情報を集めておくことが望ましい。・日ごろから新聞やニュースに目を通し、岡山の自然や歴史、文化に関心をもつことが望ましい。・指導内容は受講状況に応じて変更する場合がある。・講義中の録音、録画、撮影は原則認めない。当別の理由がある場合は事前に相談すること。・試験は定期試験中に行う。

科目名	探究活動 C (FEP06700)
英文科目名	Investigation Activities IIC
担当教員名	山口隆久(やまぐちたかひさ), 栗山晃一*(くりやまこういち*), 山根栗実*(やまねくりみ*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。講義の進めを説明する。社会の成り立ちと活動について説明する。 (全教員)
2回	表町商店街で「まちゼミ表町商店街」を実施。表町エリアの課題解決を、大学ではなく表町商店街で行っていく。 (全教員)
3回	表町商店街で「まちゼミ表町商店街」を実施。表町エリアの課題解決を、大学ではなく表町商店街で行っていく。 (全教員)
4回	表町商店街で「まちゼミ表町商店街」を実施。表町エリアの課題解決を、大学ではなく表町商店街で行っていく。 (全教員)
5回	表町商店街で「まちゼミ表町商店街」を実施。表町エリアの課題解決を、大学ではなく表町商店街で行っていく。 (全教員)
6回	表町商店街で「まちゼミ表町商店街」を実施。表町エリアの課題解決を、大学ではなく表町商店街で行っていく。 (全教員)
7回	表町商店街で「まちゼミ表町商店街」を実施。表町エリアの課題解決を、大学ではなく表町商店街で行っていく。 (全教員)
8回	中間発表(表町商店街内) (全教員)
9回	表町商店街で「まちゼミ表町商店街」を実施。表町エリアの課題解決を、大学ではなく表町商店街で行っていく。 (全教員)
10回	表町商店街で「まちゼミ表町商店街」を実施。表町エリアの課題解決を、大学ではなく表町商店街で行っていく。 (全教員)
11回	表町商店街で「まちゼミ表町商店街」を実施。表町エリアの課題解決を、大学ではなく表町商店街で行っていく。 (全教員)
12回	表町商店街で「まちゼミ表町商店街」を実施。表町エリアの課題解決を、大学ではなく表町商店街で行っていく。 (全教員)
13回	表町商店街で「まちゼミ表町商店街」を実施。表町エリアの課題解決を、大学ではなく表町商店街で行っていく。 (全教員)
14回	表町商店街で「まちゼミ表町商店街」を実施。表町エリアの課題解決を、大学ではなく表町商店街で行っていく。

	(全教員)
15回	最終発表会、及びビジネスフィールドワークの総括
	(全教員)

回数	準備学習
1回	企業で働くことのイメージを抱いて、株式会社について予習しておくこと(標準学習時間90分)
2回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
3回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
4回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
5回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
6回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
7回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
8回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
9回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
10回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
11回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
12回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
13回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
14回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
15回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)

講義目的	探究活動により修得した、科学的、客観的態度で物事の本質を追求し続ける基礎的能力を、具体的なフィールド活動を通して向上させることを講義目的とする。実社会では、営利を目的とした活動から非営利活動に至るまで様々機能を持った組織体が社会を構成している。個々の組織体(企業、NGO・NPO、自治体、各種団体等)がどのような活動を通して社会に貢献しているかを事前調査、フィールド調査、調査結果の分析を通して社会の仕組みや活動について理解を深める。今年度は、岡山県で一番規模の大きな商店街、表町商店街連盟のご協力を得て、「まちゼミ表町」を実施する。
達成目標	企業活動や非営利団体の活動の一端を、文献調査と実地調査により、実態と課題について分析を行う。これらを通して企業の現場に触れる機会を持つとともに、活動後の発表や提言を行うことによって、探究に必要な観察力、実践力、分析力を培うことを達成目標とする。
キーワード	PBL(問題発見 解決型学習(Problem-Based Learning))、地域ブランド、フィールドワーク、企業、自治体、プレゼンテーション
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	ビジネスフィールドワーク全体(テーマと対象組織体の設定方法、全体計画の策定、事前調査、実地調査、報告書のまとめ、報告会の発表)を通じた取り組み方。全体計画の策定30%、フィールド調査の成果30%、報告書の策定と発表(プレゼンテーション)40%
教科書	都度、プリントを配布する。
関連科目	探求活動
参考書	適宜、指示する。
連絡先	経営学部経営学科 山口研究室(A1号館7階) t-yama@mgt.ous.ac.jp
授業の運営方針	この授業では集中講義で3日間(各1時限目~5時限目)行うため、一日でも休むと5時限欠席となるため、注意すること。また、グループワーク形式で進めていくので授業は必ず出席するよう努めること。やむを得ず遅刻・欠席する場合は担当教員に連絡すること。
アクティブ・ラーニング	本授業ではグループワークによる演習を多用した授業となり、ここではチームワークやライティングなど受講生の能動的な活動が求められる。
課題に対するフィードバック	授業の振り返りでの質問や疑問点は、授業の中で取り上げてゆく。また、レポートは授業の中でコメントを付しながらフィードバックしてゆく。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	銀行にて金融業務、企画立案業務に20年以上携わってきた経験がある教員(山口隆久)が、その実務経験、及びマネジメント分野での博士学位取得の両方を活かして、具体的な戦略課題や立案の視点を理論的に講義し、戦略策定の能力の向上等を指導する。
その他(注意・備考)	講義は、フィールドワーク形式で、大学ではなく、表町商店街内で行います。 基本的にはグループワーク中心の集中講義です。 今年度週講義日は、10/19(土)、11/2(土)、11/30(土)の各1時限目~5時限目を予定しております。

科目名	現代人の科学 (再) (FEP06800)
英文科目名	Science Literacy I
担当教員名	高原周一(たかはらしゅういち)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	この講義の概要を説明する。原子論について説明する。気体や結晶などを例に、原子論的な捉え方の有用性を解説する。
2回	様々な物質の電気伝導性、自由電子について説明する。物質の電気伝導性と磁性の関係を整理する。
3回	電気回路についての様々な現象を自由電子のイメージで理解できることを示す。原子の世界を支配する静電気力について説明する。
4回	静電気力を使った技術(コピー機など)を紹介する。イオンおよびイオンを題材とした物質の循環について説明する。
5回	イオンに関連して酸とアルカリについて復習する。人体を構成している物質について説明する。DNAの生体内での役割について説明する。生体内での物質の代謝について説明する。
6回	核反応および放射線について概説する。原子力発電を題材に科学と社会の関係について考える。原子力発電について、受講生間で意見交換する。
7回	前回到引き続き、原子力発電について受講生間で意見交換する。多面的なデータに基づいて判断することの重要性を説明する。科学的な見方・考え方についての話題提供(疑似科学など)、受講生間で意見交換する。
8回	到達度確認テストを実施する。到達度確認テストの答え合わせをし、この授業の全体について振り返る。科学を学び続けるためのアドバイスをを行う。

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでおくこと。高校までに学習してきた原子について復習しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	前回配布された資料等を読んで、原子論について復習し、web上で出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間60分)
3回	前回配布された資料等を読んで、物質の電気伝導性と磁性について復習し、web上で出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間60分)
4回	前回配布された資料等を読んで、電気回路と静電気力について復習し、web上で出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間60分)
5回	前回配布された資料等を読んで、イオン、物質の循環について復習し、web上で出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間60分)
6回	前回配布された資料等を読んで、酸・アルカリ、人体を構成している物質とその代謝について復習し、web上で出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間60分)
7回	前回配布された資料等を読んで、核反応、放射線、原子力発電のしくみについて復習し、web上で出題された問題を解いておくこと。原子力発電のメリット・デメリットについて自ら調べ、自分なりの意見をまとめておく。(標準学習時間180分)
8回	この授業全体について復習をしておくこと。web上で出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学技術に関心を持ち、ある程度のリテラシー(教養)を身に付けておくことが望ましい。「現代人の科学」は、様々な分野のトピックスを題材にし、科学技術への関心およびリテラシーの向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。「現代人の科学A」では、科学技術に関する様々なトピックスを総合的に取り上げる。具体的には、演示実験を交えて原子論、物質循環、DNAといった科学の基本概念の普遍性を概説するとともに、科学と社会の関係、科学的な見方・考え方についても論じる。なお、この科目では科学についての基礎知識の修得を前提とせず、わかりやすい説明に徹する。 (初等教育学科の学位授与方針Eに最も強く関与)
達成目標	1. 授業で扱った科学の重要概念(原子論、物質循環、DNA)について説明できる。(A, C, E) 2. 科学と社会の関係や科学的な見方・考え方について自分の意見を持ち、それを他者に説明できる。(A, C, E) 3. 講義に積極的に参加し、講義の中で関心をもった内容を具体的に説明したり、疑問に思ったことを質問できる。(A, C, E)
キーワード	科学リテラシー、原子論、物質循環、DNA、科学と社会の関係、科学的な見方・考え方

試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	レポート60%（毎回の授業後に提出するレポートおよびweb上の課題、到達目標1～3を確認）、授業中の発言5%（到達目標3を確認）、および到達度確認テスト35%（到達目標1・2を確認）によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	特になし
関連科目	他の科学技術教育科目
参考書	授業中に指示する。
連絡先	高原周一（教育学部初等教育学科、A1号館3階319、e-mail：takahara[アトマーク]ped.ous.ac.jp）
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・本クラスは教育学部の専門科目「現代人の科学」と同時開講で、文系学生の受講を念頭に置いた内容である。 ・「現代人の科学」との合計の受講希望者が100名を超える場合は、「現代人の科学」の受講生（教育学部生）および経営学部生の受講を優先し、それ以外の学部の学生に対して受講を制限する可能性がある。 ・講義資料は講義中に配布するとともに、web上からpdfファイルを取得できるようにする。 ・講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。
アクティブ・ラーニング	<p>ディスカッション、質問</p> <p>この講義では演示実験の結果について実験前に予想を聞き、その予想の理由を討論し、演示実験で正解を確かめるという形でアクティブ・ラーニングを行う。</p>
課題に対するフィードバック	web上で出題した課題は自動採点され結果がフィードバックされる。毎回の授業の最後に提出してもらったレポートに書かれた意見・質問については、次の講義で紹介し、質問については回答するという形でフィードバックを行う。到達度確認テストについては、テスト終了後に正答を発表することでフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	現代人の科学 (FEP07000)
英文科目名	Science Literacy III
担当教員名	高原周一(たかはらしゅういち), 吉村功*(よしむらたくみ*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション 講義の進め方やレポート課題について説明する。身近な自然の観察方法や観点について説明する。 (全教員)
2回	里山と忘れられる植物文化 戦前まで山里に暮らす人々が利用して知っていた植物の知識や動物との絡みについて観察を交えて説明する。 (全教員)
3回	地面から学ぶ 化石のでき方や地層を観察することにより、また、何の変哲もない石ころからその地域の太古の歴史を探る。 (全教員)
4回	発光生物はなぜ光る ホタルやウミホタルだけでなく様々な生物の発光現象をとおして生物が発光する意味について考える。ホタルの人工発光やウミホタルの発光を観察する。 (全教員)
5回	身近な動植物のもつ毒や危険 校庭周辺や家庭の周りにある毒物や危険物を観察をしながら知る。 (全教員)
6回	自然を感じる仕組みの進化 動物がもつ視覚、聴覚、嗅覚の進化を仕組みの観察をとおして知識を深める。 (全教員)
7回	身の回りの放射線を見る 放射線の基礎知識を知り、身近な物質がもつ放射線を観察することから放射線との関係のあり方を考える。 (全教員)
8回	ドングリの科学 様々なドングリを観察したり、簡単な実験をして日本人がどのようにドングリを利用してきたかを探る。 到達度確認テストを行う。 (全教員)

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでおくこと。(標準学習時間30分)
2回	紙や布、葉草について知っていることを思い出すこと。インターネット等でこれらについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
3回	化石や生物の進化について知っていることがあればまとめておくこと。インターネット等でこれらについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
4回	どんな生物が発光するか調べておくこと。(標準学習時間60分)
5回	身近に危険物や毒物がないか調べておくこと。(標準学習時間60分)
6回	魚の耳や昆虫の眼などについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
7回	自然の中で放射線を出すものがあるか調べておくこと。(標準学習時間60分)
8回	ドングリを校内で3種以上みつけておくこと。これまでの内容を復習しておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学技術に関心をもち、ある程度のリテラ
------	--

	<p>シー（教養）を身に付けておくことが望ましい。日常生活や社会には科学があふれており、科学を理解することで適切な判断が下せることも多い。また、新しい現象を既知の事実や原理を踏まえて分析的・総合的に考察するといった科学的な思考は、変化の激しいこれからの社会を生きていく上で益々重要になってくる。</p> <p>「現代人の科学」は、様々な分野のトピックスを題材にし、科学技術リテラシー（科学の方法論も含む）の向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。</p> <p>「現代人の科学C」では、主に生物・地学分野の幾つかのトピックスを取り上げる。このクラスでは主に自然の何気ない事象や物質から自然の成り立ちや仕組みを読み解く力を身につける。なお、この科目では科学についての基礎知識の修得を前提とせず、わかりやすい説明に徹する。</p> <p>（初等教育学科の学位授与方針Eに最も強く関与）</p>
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本授業で扱った主要な事項（自然を感じる仕組み、自然から得られる恵みの物質、危険物）について説明できる。（A, C, E） 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。（A, C, E） 3. 科学を学ぶ意義、科学と社会との関係について自分の意見を持ち、それを記述できる。（A, C, E）
キーワード	自然を感じる仕組み、自然から得られる恵みの物質、危険物
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	レポート80%（到達目標1～3を確認）、および到達度確認テスト20%（到達目標1・3を確認）によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	なし
関連科目	特になし
参考書	なし
連絡先	科学ボランティアセンター（B4号館1階）もしくは 高原周一（教育学部初等教育学科、A1号館3階319、e-mail: takahara[アトマーク]ped.ous.ac.jp）
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ D2号館3階理科実験室（収容定員50名）を使用して実験・観察を行う。 ・ 本科目は教育学部の専門科目「現代人の科学」と同時開講である。「現代人の科学」との合計の受講希望者が収容定員の50名を超える場合はガイダンス参加者から受講生を選抜することがあるので、必ずガイダンスに出席すること。その際、「現代人の科学」の受講生を優先する。その次に、内容が専門と異なる学科の学生の受講を優先する。 ・ 講義資料は講義中に配布する。 ・ 講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	毎回の授業の最後に提出してもらったレポートに書かれた意見・質問については、次の講義で紹介し、質問については回答するという形でフィードバックを行う。到達度確認テストについては、テスト終了後に正答を発表することでフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	科学・工作ボランティア入門 (FEP07100)
英文科目名	Introduction to Volunteer Activities for Science and Technology
担当教員名	高原周一 (たかはらしゅういち), 吉村功* (よしむらたくみ*), 森田明義* (もりたあきよし*), 武田芳紀* (たけだよしのり*), 高見寿* (たかみひさし*), 糸山嘉彦* (いとやまよしひこ*), 春日二郎* (かすがじろう*), 滝澤昇 (たきざわのぼる), 山口一裕 (やまぐちかずひろ), 米田稔 (よねだみのる), クルモフバレリー (くるもふばれりー)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	ガイダンス (1) 科学ボランティア活動の意義と現状、本学の科学ボランティアリーダー養成事業について概説する。本講義の進め方について説明する。有用なウェブサイトを紹介する。 (高原 周一)
2回	ガイダンス (2) 講義担当教員および補助学生が自己紹介するとともに、簡単な実験を披露する。本学の科学ボランティアリーダー資格認定制度と学外で活動するための手続き・注意点を説明する。 (全教員)
3回	発表会準備 (1) 発表会の進行について説明する。班分けを行い、班内で自己紹介を行う。発表内容について検討する。 (全教員)
4回	発表会準備 (2) 科学イベントで実施できる教材を紹介するとともに、科学イベントの効果的な進め方について説明する。発表会の内容を決定する。 (全教員)
5回	発表会準備 (3) 科学イベントにおける安全対策について講習する。必要な器具をそろえて実験・工作を試行してみる。 (全教員)
6回	発表会準備 (4) 発表会企画書および配布資料の書き方について説明する。実験・工作の改良・追加を試みる。 (全教員)
7回	発表会準備 (5) 発表会の詳細について説明する。実験の原理を班で共有する。発表会での進行、プレゼンテーションについて検討する。準備の進行状況を教員に報告し、指導を受ける。 (全教員)
8回	発表会準備 (6) 発表会での進行、プレゼンテーションについて確定する。プレゼンテーションに必要なフリップ等を作成する。 (全教員)
9回	発表会準備 (7) 予行演習の準備を行う。 (全教員)
10回	発表会準備 (8) 各班が教員の前で発表内容をひと通り説明し、指導を受ける (予行演習)。それをもとに発表内容を再検討する。 (全教員)
11回	発表会準備 (9) 予行演習の続きを行う。発表会の準備を行う。企画書・発表会配布資料について教員がコメントするので、それを参考に修正を検討する。

	(全教員)
12回	発表会準備(10) 発表会の準備を完了させる。発表会で同時に発表する班はお互いの内容を紹介し合う。
	(全教員)
13回	発表会(1) 発表会で発表する。他班の発表を聞いて相互評価を行う。
	(全教員)
14回	発表会(2) 前回に引き続き、発表会で発表する。他班の発表を聞いて相互評価を行う。
	(全教員)
15回	振り返り 各班の教員評価および学生の相互評価結果を発表する。この授業での活動について振り返りを行う。この授業に対する改善意見を出し合う。今後予定されている科学ボランティア活動について紹介し、参加を促す。発表会の片づけを行う。
	(全教員)

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでおくこと。キャンパスライフの「科学ボランティア活動」のページを読んでおくこと。本学の科学ボランティアセンターのホームページを閲覧しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	紹介したウェブサイトを開覧しておくこと。科学ボランティア活動に関係するサイトを検索し、閲覧しておくこと。科学ボランティアセンターおよび本学図書館等で科学ボランティア活動に役立つような本を探すこと。(標準学習時間120分)
3回	本やインターネットで発表会に使えるような実験内容を調べる。科学ボランティアセンターのホームページでボランティア情報を閲覧し、参加したい企画があれば申し込むこと。(標準学習時間120分)
4回	発表会の内容についての各人の提案をレポートにまとめること。(標準学習時間120分)
5回	実験に必要な器具を調達すること。類似の実験について本やインターネットで調べること。(標準学習時間120分)
6回	実験の改良・追加について考えておくこと。そのために必要な器具を調達すること。実験内容に関連する情報・原理について本やインターネットで調べること。(標準学習時間120分)
7回	引き続き、実験内容に関連する情報・原理について本やインターネットで調べる。実験内容と小中高の理科のカリキュラムとの関係について調べる。こと。(標準学習時間120分)
8回	各人が分担した作業(物品の確保、シナリオ・フリップの作成など)を行うこと。(標準学習時間60分)
9回	企画書・発表会配布資料を作成すること。各人が分担した作業を行うこと。(標準学習時間60分)
10回	企画書・発表会配布資料を作成すること。各人が分担した作業を行うこと。(標準学習時間60分)
11回	企画書・発表会配布資料の改訂版を作成すること。必要な班は時間外に集まって準備を行うこと。(標準学習時間60分)
12回	発表会に向けて準備する。必要な班は時間外に集まって準備を行うこと。(標準学習時間60分)
13回	発表会に向けて各自が担当内容を再確認すること。必要な班は時間外に集まって準備を行うこと。(標準学習時間60分)
14回	発表会に向けて各自が担当内容を再確認すること。必要な班は時間外に集まって準備を行うこと。(標準学習時間60分)
15回	この授業での活動について、自分なりに総括しておくこと。発表会で配られた解説書を読んでおくこと。この授業に対する改善意見を考えてくること。(標準学習時間60分)

講義目的	市民と青少年の科学・技術への関心・理解を深めるために、全国各地で科学イベントが開催されている。本講義は、このような活動を推進する人材である「科学ボランティアリーダー」の養成を目指し、地域で活躍するために必要な資質・能力の基礎を培うことを目的とする。まず、教員による講習を行った後、グループごとに自分たちで選んだ楽しい実験・工作を準備し、学園内公開の発表会で発表する。これらを通じて、受講生自身が科学・技術をおおいに楽しみながら、科学・技術全般に対する関心を深め、科学ボランティア活動を行うための基礎的な力を身につけるとともに、地域での科学ボランティア活動に参加する意欲を育むことを目的とする。同時に、社会人として必要となる思考力・判断力・表現力等の汎用的な能力の向上も目指す。 (初等教育学科の学位授与方針Eに最も強く関与)
達成目標	1. 実験の企画立案、情報の収集、実験原理の理解、材料の確保、実験手法の改善を行い、自分た

	<p>ちで決めた実験を確実に安全に実行できる。(A, C, E)</p> <p>2. 自分たちのグループの活動・発表の総括と他のグループの発表の優れた点を記述できる。(E)</p> <p>3. グループメンバーと協力し、自らの責任を積極的に果たすことができる。(E)</p> <p>4. 自らが感じている科学ボランティア活動の魅力を記述することができる。(E)</p> <p>5. 発表会において、伝えたいことと参加者の知識・関心等を踏まえて、効果的でわかりやすい発表を行い、参加者を満足させることができる。(E)</p>
キーワード	楽しい実験・工作、科学・工作教室、科学ボランティア活動
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	レポートの内容70%(到達目標1~4を確認)、発表会の内容30%(受講生相互の評価も加味、到達目標1、5を確認)によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	科学ボランティア実践指導、科学ボランティア活動
参考書	「ものづくりハンドブック 1~7」たのしい授業編集委員会/編・仮説社 他 授業中に紹介する。
連絡先	教育学部初等教育学科 高原周一 (A1号館3階、e-mail: takahara[アットマーク]ped.ous.ac.jp TEL: 086-256-9607) もしくは科学ボランティアセンター (B4号館1階、TEL: 086-256-9570)
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・このクラスは主に土曜日の午後に講義を行う。具体的な日程は教務の掲示板に張り出すので確認すること。 ・受講希望者が60名を超える場合は初回の講義の参加者から受講生を選抜することができるので、初回の講義には必ず出席すること。 ・発表会の材料費は受講生の自己負担とする。 ・講義資料は講義中に配布する。 ・講義中および発表会の録音/録画/撮影は自由であるが、他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)は禁止する。
アクティブ・ラーニング	課題解決学習、ディスカッション、プレゼンテーション、実験・実習、グループワーク 実験内容の決定から準備・実施、実験手法の改善のための試行錯誤、グループ内での討論、発表会でのプレゼンテーションによりアクティブ・ラーニングを行う。
課題に対するフィードバック	毎回の授業の最後に提出してもらったレポートに書かれた意見・質問については、次の講義で紹介し、質問については回答するという形でフィードバックを行う。発表会での相互評価結果はWeb上でフィードバックされる。発表会での教員の評価はその場でフィードバックされる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	吉村功(元中学校教員)、森田明義(元小学校教員) 小学校・中学校の教員としての経験を生かして、科学ボランティア活動に適した教材の紹介および発表方法の指導を行う。
その他(注意・備考)	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は科学ボランティアリーダー資格認定の必修科目である。科学ボランティアリーダー資格認定制度については、科学ボランティアセンターのホームページ(http://ridai-svc.org/)に説明がある。 ・「科学ボランティアリーダー養成科目」は以下の順番で受講することを推奨する。「科学・工作ボランティア入門」「科学ボランティア実践指導」「科学ボランティア実践指導」「科学ボランティア活動」

科目名	科学・工作ボランティア入門【火3金3】(FEP07110)
英文科目名	Introduction to Volunteer Activities for Science and Technology
担当教員名	高原周一(たかはらしゅういち), 吉村功*(よしむらたくみ*), 森田明義*(もりたあきよし*), 武田芳紀*(たけだよしのり*), 重松利信(しげまつとしのぶ), 糸山嘉彦*(いとやまよしひこ*), 滝澤昇(たきざわのぼる), 山口一裕(やまぐちかずひろ)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	ガイダンス(1) 科学ボランティア活動の意義と現状、本学の科学ボランティアリーダー養成事業について概説する。本講義の進め方について説明する。有用なウェブサイトを紹介する。 (高原 周一)
2回	ガイダンス(2) 講義担当教員および補助学生が自己紹介するとともに、簡単な実験を披露する。本学の科学ボランティアリーダー資格認定制度と学外で活動するための手続き・注意点を説明する。 (全教員)
3回	発表会準備(1) 発表会の進行について説明する。班分けを行い、班内で自己紹介を行う。発表内容について検討する。 (全教員)
4回	発表会準備(2) 科学イベントで実施できる教材を紹介するとともに、科学イベントの効果的な進め方について説明する。発表会の内容を決定する。 (全教員)
5回	発表会準備(3) 科学イベントにおける安全対策について講習する。必要な器具をそろえて実験・工作を試行してみる。 (全教員)
6回	発表会準備(4) 発表会企画書および配布資料の書き方について説明する。実験・工作の改良・追加を試みる。 (全教員)
7回	発表会準備(5) 発表会の詳細について説明する。実験の原理を班で共有する。発表会での進行、プレゼンテーションについて検討する。準備の進行状況を教員に報告し、指導を受ける。 (全教員)
8回	発表会準備(6) 発表会での進行、プレゼンテーションについて確定する。プレゼンテーションに必要なフリップ等を作成する。 (全教員)
9回	発表会準備(7) 予行演習の準備を行う。 (全教員)
10回	発表会準備(8) 各班が教員の前で発表内容をひと通り説明し、指導を受ける(予行演習)。それをもとに発表内容を再検討する。 (全教員)
11回	発表会準備(9) 予行演習の続きを行う。発表会の準備を行う。企画書・発表会配布資料について教員がコメントするので、それを参考に修正を検討する。

	(全教員)
1 2 回	発表会準備(10) 発表会の準備を完了させる。発表会で同時に発表する班はお互いの内容を紹介し合う。
	(全教員)
1 3 回	発表会(1) 発表会で発表する。他班の発表を聞いて相互評価を行う。
	(全教員)
1 4 回	発表会(2) 前回に引き続き、発表会で発表する。他班の発表を聞いて相互評価を行う。
	(全教員)
1 5 回	振り返り 各班の教員評価および学生の相互評価結果を発表する。この授業での活動について振り返りを行う。この授業に対する改善意見を出し合う。今後予定されている科学ボランティア活動について紹介し、参加を促す。発表会の片づけを行う。
	(全教員)

回数	準備学習
1 回	シラバスを読んでおくこと。キャンパスライフの「科学ボランティア活動」のページを読んでおくこと。本学の科学ボランティアセンターのホームページを閲覧しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	紹介したウェブサイトを開覧しておくこと。科学ボランティア活動に関係するサイトを検索し、閲覧しておくこと。科学ボランティアセンターおよび本学図書館等で科学ボランティア活動に役立つような本を探すこと。(標準学習時間120分)
3 回	本やインターネットで発表会に使えるような実験内容を調べる。科学ボランティアセンターのホームページでボランティア情報を閲覧し、参加したい企画があれば申し込むこと。(標準学習時間120分)
4 回	発表会の内容についての各人の提案をレポートにまとめること。(標準学習時間120分)
5 回	実験に必要な器具を調達すること。類似の実験について本やインターネットで調べること。(標準学習時間120分)
6 回	実験の改良・追加について考えておくこと。そのために必要な器具を調達すること。実験内容に関連する情報・原理について本やインターネットで調べること。(標準学習時間120分)
7 回	引き続き、実験内容に関連する情報・原理について本やインターネットで調べる。実験内容と小中高の理科のカリキュラムとの関係について調べる。こと。(標準学習時間120分)
8 回	各人が分担した作業(物品の確保、シナリオ・フリップの作成など)を行うこと。(標準学習時間60分)
9 回	企画書・発表会配布資料を作成すること。各人が分担した作業を行うこと。(標準学習時間60分)
1 0 回	企画書・発表会配布資料を作成すること。各人が分担した作業を行うこと。(標準学習時間60分)
1 1 回	企画書・発表会配布資料の改訂版を作成すること。必要な班は時間外に集まって準備を行うこと。(標準学習時間60分)
1 2 回	発表会に向けて準備する。必要な班は時間外に集まって準備を行うこと。(標準学習時間60分)
1 3 回	発表会に向けて各自が担当内容を再確認すること。必要な班は時間外に集まって準備を行うこと。(標準学習時間60分)
1 4 回	発表会に向けて各自が担当内容を再確認すること。必要な班は時間外に集まって準備を行うこと。(標準学習時間60分)
1 5 回	この授業での活動について、自分なりに総括しておくこと。発表会で配られた解説書を読んでおくこと。この授業に対する改善意見を考えてくること。(標準学習時間60分)

講義目的	市民と青少年の科学・技術への関心・理解を深めるために、全国各地で科学イベントが開催されている。本講義は、このような活動を推進する人材である「科学ボランティアリーダー」の養成を目指し、地域で活躍するために必要な資質・能力の基礎を培うことを目的とする。まず、教員による講習を行った後、グループごとに自分たちで選んだ楽しい実験・工作を準備し、学園内公開の発表会で発表する。これらを通じて、受講生自身が科学・技術をおおいに楽しみながら、科学・技術全般に対する関心を深め、科学ボランティア活動を行うための基礎的な力を身につけるとともに、地域での科学ボランティア活動に参加する意欲を育むことを目的とする。同時に、社会人として必要となる思考力・判断力・表現力等の汎用的な能力の向上も目指す。 (初等教育学科の学位授与方針Eに最も強く関与)
達成目標	1. 実験の企画立案、情報の収集、実験原理の理解、材料の確保、実験手法の改善を行い、自分たちで決めた実験を確実に安全に実行できる。(A, C, E)

	2. 自分たちのグループの活動・発表の総括と他のグループの発表の優れた点を記述できる。(E) 3. グループメンバーと協力し、自らの責任を積極的に果たすことができる。(E) 4. 自らが感じている科学ボランティア活動の魅力を記述することができる。(E) 5. 発表会において、伝えたいことと参加者の知識・関心等を踏まえて、効果的でわかりやすい発表を行い、参加者を満足させることができる。(E)
キーワード	楽しい実験・工作、科学・工作教室、科学ボランティア活動
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	レポートの内容70%(到達目標1~4を確認)、発表会の内容30%(受講生相互の評価も加味、到達目標1、5を確認)によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	科学ボランティア実践指導、科学ボランティア活動
参考書	「ものづくりハンドブック 1~7」たのしい授業編集委員会/編・仮説社 他 授業中に紹介する。
連絡先	教育学部初等教育学科 高原周一 (A1号館3階、e-mail: takahara[アットマーク]ped.ous.ac.jp TEL: 086-256-9607) もしくは科学ボランティアセンター (B4号館1階、TEL: 086-256-9570)
授業の運営方針	・受講希望者が60名を超える場合は初回の講義の参加者から受講生を選抜することができるので、初回の講義には必ず出席すること。 ・発表会の材料費は受講生の自己負担とする。 ・講義資料は講義中に配布する。 ・講義中および発表会の録音/録画/撮影は自由であるが、他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)は禁止する。
アクティブ・ラーニング	課題解決学習、ディスカッション、プレゼンテーション、実験・実習、グループワーク 実験内容の決定から準備・実施、実験手法の改善のための試行錯誤、グループ内での討論、発表会でのプレゼンテーションによりアクティブ・ラーニングを行う。
課題に対するフィードバック	毎回の授業の最後に提出してもらったレポートに書かれた意見・質問については、次の講義で紹介し、質問については回答するという形でフィードバックを行う。発表会での相互評価結果はWeb上でフィードバックされる。発表会での教員の評価はその場でフィードバックされる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	吉村功(元中学校教員)、森田明義(元小学校教員) 小学校・中学校の教員としての経験を生かして、科学ボランティア活動に適した教材の紹介および発表方法の指導を行う。
その他(注意・備考)	・本科目は科学ボランティアリーダー資格認定の必修科目である。科学ボランティアリーダー資格認定制度については、科学ボランティアセンターのホームページ(http://ridai-svc.org/)に説明がある。 ・「科学ボランティアリーダー養成科目」は以下の順番で受講することを推奨する。「科学・工作ボランティア入門」「科学ボランティア実践指導」「科学ボランティア実践指導」「科学ボランティア活動」

科目名	科学ボランティア実践指導 (FEP07200)
英文科目名	Practical Course for Science Educational Volunteer Activities I
担当教員名	山口一裕(やまぐちかずひろ),吉村功*(よしむらたくみ*),森田明義*(もりたあきよし*),武田芳紀*(たけだよしのり*),高見寿*(たかみひさし*),春日二郎*(かすがじろう*),滝澤昇(たきざわのぼる),高原周一(たかはらしゅういち)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	ガイダンス(講義内容と進め方の説明)理科大学認定資格:科学ボランティアリーダーとは? 出展可能な科学イベント(科学博物館など)の紹介をする。 (全教員)
2回	チームおよび指導教員を決定する。 (全教員)
3回	科学イベント準備(1) チーム毎に他のメンバーに書籍紹介を行う。出展内容を決定する。毎回活動レポートを作成する。 (全教員)
4回	科学イベント準備(2) 実験器具およびプレゼンテーションなどの準備を行う。毎回活動レポートを作成する。 (全教員)
5回	科学イベント準備(3) 発表会予行演習を行う。毎回活動レポートを作成する。 (全教員)
6回	科学イベント準備(4) 発表会予行演習を行う。毎回活動レポートを作成する。 (全教員)
7回	科学イベント準備(5) 発表会準備をほぼ完了させる。事前レポートと実験配布資料(実験書)を完成させる。毎回活動レポートを作成する。 (全教員)
8回	科学イベントを実施する(科学博物館などの科学イベント)。発表会レポート作成と相互評価を実施する。事後指導を行う。事後レポートの作成、事後自己評価と授業アンケートを実施する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	このシラバスを読んで授業内容と科学ボランティアリーダーについて理解しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	第1回授業で紹介された科学イベントでどのような実験をしたいかを考えておくこと。関心のある分野の自然科学の書籍を読んでおくこと。(標準学習時間180分)
3回	チーム内での事前準備 実験内容決定のための情報を書籍やインターネットで収集しておくこと。(標準学習時間180分)
4回	チーム内での事前準備 実験に必要な器具や予備実験の内容を考えておくこと。(標準学習時間120分)
5回	チーム内での事前準備 発表会での実験の流れと役割分担を考えておくこと。(標準学習時間120分)
6回	チーム内での事前準備 事前レポートと実験配布資料(実験書)作成の準備をしておくこと。(標準学習時間120分)
7回	チーム内での科学イベント発表会の事前準備をしておくこと。(標準学習時間120分)
8回	事後レポート作成のための準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	市民と青少年の科学・技術への関心・理解を深めるために、全国各地で科学イベントが開催されている。本講義は、このような活動を推進する人材である「科学ボランティアリーダー」の養成を目指し、地域で活躍するために必要な資質・能力の基礎を培うことを目的とする。まず、チームを組んで地域などで開催される科学イベント(例えば本学の大学祭企画「科学博物館」など)で科学ボランティア活動を2時間以上実践する(主にブース出展形式)。この科学ボランティア活動を安全
------	--

	かつ効果的に実施できるよう、主にチームごとに決めた指導教員が手厚く事前・事後指導を行う。チーム内での討論、教員への報告、科学イベントでのプレゼンテーションによりアクティブ・ラーニングを行う。(到達目標に対する関与程度の【思考・判断・表現】にもっとも強く関与する)
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一般の参加者(小学生から大人まで)を相手とする科学イベントにおいて実験の企画立案、情報の収集、実験原理の理解、材料の確保、実験手法の改善を通して自分たちで決めた実験を確実にかつ安全に実行できる。【思考・判断・表現】 2. 自分たちのチームの活動・発表の総括と他のグループの発表の優れた点を記述できる。【思考・判断・表現】 3. チームメンバーと協力し、自らの責任を積極的に果たしたことを説明できる。【思考・判断・表現】 4. 自らが感じている科学ボランティア活動の魅力を説明することができる。【思考・判断・表現】 5. 科学イベントにおいて、伝えたいことと一般の参加者の知識・関心等を踏まえて、効果的でわかりやすい発表で参加者を満足させることができる。【技能】 6. 社会人として必要な企画力、情報収集力、問題解決力、チームワーク、リーダーシップ、コミュニケーション力などをどれだけ身につけられたか判断できる。【関心・意欲・態度】
キーワード	地域での実践 科学博物館 科学イベント 科学ボランティア 楽しい科学実験
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	レポートの内容70%(到達目標1~4を確認)、発表会の内容30%(受講生相互の評価と自己評価も加味、到達目標1、5~6を確認)によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導、科学ボランティア活動
関連科目	使用しない。
参考書	適宜指示する。
連絡先	科学ボランティアセンター B4号館 svc〔アトマーク〕ridai-svc.org) もしくは理学部基礎理学科 山口一裕 (D2号館1階、e-mail:kyamaguchi〔アトマーク〕das.ous.ac.jp)
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・受講希望者が60名を超える場合はガイダンス(初回の講義)の参加者から受講生を選抜することがあるので、ガイダンスには必ず出席すること。 ・発表会の予備実験等の材料費は基本的に受講生の自己負担とする。 ・講義資料は講義中に配布する。 ・講義中および発表会の録音/録画/撮影は自由であるが、他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)は禁止する。
アクティブ・ラーニング	課題解決学習、ディスカッション、プレゼンテーション、実験・実習、グループワーク 実験内容の決定から準備・実施、実験手法の改善のための試行錯誤、グループ内での討論、発表会でのプレゼンテーションによりアクティブ・ラーニングを行う。
課題に対するフィードバック	毎回の授業の最後に提出してもらったレポートに書かれた意見・質問については、次の講義で紹介し、質問については回答するという形でフィードバックを行う。発表会での相互評価結果はWeb上でフィードバックされる。発表会での教員の評価はその場でフィードバックされる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	吉村功(元中学校教員)、森田明義(元小学校教員)、高見寿(元高等学校教員)、武田芳紀(元高等学校教員)、春日二郎(元中学校教員)、糸山嘉彦(人と科学の未来館サイピア・サイエンスインストラクター) 小学校・中学校・高等学校の教員および科学館サイエンスインストラクターとしての経験を生かして、科学ボランティア活動に適した教材の紹介および発表方法の指導を行う。
その他(注意・備考)	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は科学ボランティアリーダー資格認定の必修科目である。科学ボランティアリーダー資格認定制度については、科学ボランティアセンターのホームページ(http://ridai-svc.org/)に説明がある。 ・「科学ボランティアリーダー養成科目」は以下の順番で受講することを推奨する。「科学・工作ボランティア入門」「科学ボランティア実践指導」「科学ボランティア実践指導」「科学ボランティア活動」

科目名	科学ボランティア実践指導 (FEP07210)
英文科目名	Practical Course for Science Educational Volunteer Activities I
担当教員名	山口一裕(やまぐちかずひろ),吉村功*(よしむらたくみ*),森田明義*(もりたあきよし*),武田芳紀*(たけだよしのり*),高見寿*(たかみひさし*),重松利信(しげまつとしのぶ),糸山嘉彦*(いとやまよしひこ*),滝澤昇(たきざわのぼる),猪口雅彦(いのぐちまさひこ),米田稔(よねだみのる),高原周一(たかはらしゅういち),クルモフバレー(くるもふばれりー),竹崎誠(たけざきまこと)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	ガイダンス(講義内容と進め方の説明)理科大学認定資格:科学ボランティアリーダーとは? 出展可能な科学イベント(科学博物館など)の紹介をする。 (全教員)
2回	チームおよび指導教員を決定する。 (全教員)
3回	科学イベント準備(1) チーム毎に他のメンバーに書籍紹介を行う。出展内容を決定する。毎回活動レポートを作成する。 (全教員)
4回	科学イベント準備(2) 実験器具およびプレゼンテーションなどの準備を行う。毎回活動レポートを作成する。 (全教員)
5回	科学イベント準備(3) 発表会予行演習を行う。毎回活動レポートを作成する。 (全教員)
6回	科学イベント準備(4) 発表会予行演習を行う。毎回活動レポートを作成する。 (全教員)
7回	科学イベント準備(5) 発表会準備をほぼ完了させる。事前レポートと実験配布資料(実験書)を完成させる。毎回活動レポートを作成する。 (全教員)
8回	科学イベントを実施する(科学博物館などの科学イベント)。発表会レポート作成と相互評価を実施する。事後指導を行う。事後レポートの作成、事後自己評価と授業アンケートを実施する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	このシラバスを読んで授業内容と科学ボランティアリーダーについて理解しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	第1回授業で紹介された科学イベントでどのような実験をしたいかを考えておくこと。関心のある分野の自然科学の書籍を読んでおくこと。(標準学習時間180分)
3回	チーム内での事前準備 実験内容決定のための情報を書籍やインターネットで収集しておくこと。(標準学習時間180分)
4回	チーム内での事前準備 実験に必要な器具や予備実験の内容を考えておくこと。(標準学習時間120分)
5回	チーム内での事前準備 発表会での実験の流れと役割分担を考えておくこと。(標準学習時間120分)
6回	チーム内での事前準備 事前レポートと実験配布資料(実験書)作成の準備をしておくこと。(標準学習時間120分)
7回	チーム内での科学イベント発表会の事前準備をしておくこと。(標準学習時間120分)
8回	事後レポート作成のための準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	市民と青少年の科学・技術への関心・理解を深めるために、全国各地で科学イベントが開催されている。本講義は、このような活動を推進する人材である「科学ボランティアリーダー」の養成を目指し、地域で活躍するために必要な資質・能力の基礎を培うことを目的とする。まず、チームを組
------	--

	んで地域などで開催される科学イベント（例えば本学の大学祭企画「科学博物館」など）で科学ボランティア活動を2時間以上実践する（主にブース出展形式）。この科学ボランティア活動を安全かつ効果的に実施できるよう、主にチームごとに決めた指導教員が手厚く事前・事後指導を行う。チーム内での討論、教員への報告、科学イベントでのプレゼンテーションによりアクティブ・ラーニングを行う。（到達目標に対する関与程度の【思考・判断・表現】にもっとも強く関与する）
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一般の参加者（小学生から大人まで）を相手とする科学イベントにおいて実験の企画立案、情報の収集、実験原理の理解、材料の確保、実験手法の改善を通して自分たちで決めた実験を確実に安全に実行できる。【思考・判断・表現】 2. 自分たちのチームの活動・発表の総括と他のグループの発表の優れた点を記述できる。【思考・判断・表現】 3. チームメンバーと協力し、自らの責任を積極的に果たしたことを説明できる。【思考・判断・表現】 4. 自らが感じている科学ボランティア活動の魅力を説明することができる。【思考・判断・表現】 5. 科学イベントにおいて、伝えたいことと一般の参加者の知識・関心等を踏まえて、効果的でわかりやすい発表で参加者を満足させることができる。【技能】 6. 社会人として必要な企画力、情報収集力、問題解決力、チームワーク、リーダーシップ、コミュニケーション力などをどれだけ身につけられたか判断できる。【関心・意欲・態度】
キーワード	地域での実践 科学博物館 科学イベント 科学ボランティア 楽しい科学実験
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	レポートの内容70%（到達目標1～4を確認）、発表会の内容30%（受講生相互の評価と自己評価も加味、到達目標1、5～6を確認）によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導、科学ボランティア活動
関連科目	使用しない。
参考書	適宜指示する。
連絡先	科学ボランティアセンター B4号館 svc〔アトマーク〕ridai-svc.org) もしくは理学部基礎理学科 山口一裕 (D2号館1階、e-mail:kyamaguchi〔アトマーク〕das.ous.ac.jp)
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・受講希望者が60名を超える場合はガイダンス（初回の講義）の参加者から受講生を選抜することがあるので、ガイダンスには必ず出席すること。 ・発表会の予備実験等の材料費は基本的に受講生の自己負担とする。 ・講義資料は講義中に配布する。 ・講義中および発表会の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
アクティブ・ラーニング	課題解決学習、ディスカッション、プレゼンテーション、実験・実習、グループワーク 実験内容の決定から準備・実施、実験手法の改善のための試行錯誤、グループ内での討論、発表会でのプレゼンテーションによりアクティブ・ラーニングを行う。
課題に対するフィードバック	毎回の授業の最後に提出してもらったレポートに書かれた意見・質問については、次の講義で紹介し、質問については回答するという形でフィードバックを行う。発表会での相互評価結果はWeb上でフィードバックされる。発表会での教員の評価はその場でフィードバックされる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	吉村功（元中学校教員）、森田明義（元小学校教員）、高見寿（元高等学校教員）、武田芳紀（元高等学校教員）、春日二郎（元中学校教員）、糸山嘉彦（人と科学の未来館サイピア・サイエンスインストラクター） 小学校・中学校・高等学校の教員および科学館サイエンスインストラクターとしての経験を生かして、科学ボランティア活動に適した教材の紹介および発表方法の指導を行う。
その他（注意・備考）	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は科学ボランティアリーダー資格認定の必修科目である。科学ボランティアリーダー資格認定制度については、科学ボランティアセンターのホームページ（http://ridai-svc.org/）に説明がある。 ・「科学ボランティアリーダー養成科目」は以下の順番で受講することを推奨する。「科学・工作ボランティア入門」「科学ボランティア実践指導」「科学ボランティア実践指導」「科学ボランティア活動」

科目名	科学ボランティア実践指導 (FEP07300)
英文科目名	Practical Course for Science Educational Volunteer Activities II
担当教員名	滝澤昇(たきざわのぼる),吉村功*(よしむらたくみ*),森田明義*(もりたあきよし*),武田芳紀*(たけだよしのり*),高見寿*(たかみひさし*),糸山嘉彦*(いとやまよしひこ*),春日二郎*(かすがじろう*),山口一裕(やまぐちかずひろ),米田稔(よねだみのる),高原周一(たかはらしゅういち),クルモフバレリー(くるもふばれりー)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	ガイダンス：講義内容と進め方の説明を受けこの講義の意義と進め方を理解する。また、本学認定資格「科学ボランティアリーダー」の詳細説明と出展可能な科学イベントの紹介をうける。 (全教員)
2回	チームおよび指導教員が決定され、各チームで活動方針・内容についての討論をする。 (全教員)
3回	科学イベント準備(1)：出展内容を決定し、次回までにメンバー各自がやっておくべきこと(宿題：実験材料・器具の調達、実験原理の調査、イベント当日の進行の検討など)を決める。 (全教員)
4回	科学イベント準備(2)：事前準備に基づいて実験器具およびプレゼンテーションなどの準備・練習をし、次回までの宿題を決める。 (全教員)
5回	科学イベント準備(3)：発表会予行練習をする。次回までの宿題を決める。 (全教員)
6回	科学イベント準備(4)：発表会に向けて練習を重ね仕上げる。 (全教員)
7回	科学イベントを実施する。 (全教員)
8回	事後指導を受け、レポートを作成する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	このシラバスをよく読んでこの講義の内容を理解するとともに、「科学ボランティアリーダー」について理解しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	第1回ガイダンスで紹介された情報に基づいて、どのイベントで、どのような活動をしたいかを考えておくこと。(標準学習時間120分)
3回	前回の討論に基づいて、内容を各自考案し、チームメンバーと情報を交換しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
5回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
6回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
7回	本番に備え、チームで随時練習をすること。また必要な道具類を最終チェックしておくこと。(標準学習時間120分)
8回	反省点を各自で整理しておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	この講義では、地域で行われている科学教室等の講師となり、イベントの企画、準備、運営の方法を実践的に学ぶ。また、実践の前後に、イベント毎に決めた指導教員により事前・事後指導を受ける。これらのことを通じて、科学イベントを主宰し、安全かつ効果的に実施する力を身につける。同時に、社会人として必要となる思考力・判断力・表現力等の汎用的な能力の向上も目指す。
------	--

	(初等教育学科の学位授与方針Eに最も強く関与)
達成目標	1. 科学実験教室や科学実験ショーが、教材開発・選定から準備、実施まで自力でできる。(A、C、E) 2. 自らの活動・発表の総括を記述できる。(E) 3. 自らが感じている科学ボランティア活動の魅力を記述することができる。(E) 4. 発表会において、伝えたいことと参加者の知識・関心等を踏まえて、効果的でわかりやすい発表を行い、参加者を満足させることができる。(E)
キーワード	地域での実践 科学イベント 科学ボランティア 楽しい科学実験
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	毎回の授業において提出するレポート20%(到達目標1、2を確認)、企画書の内容20%(到達目標1を確認)、実践活動の内容40%(到達目標1、4を確認)、事後レポート20%(到達目標2、3を確認)によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導Ⅰ、科学ボランティア活動
参考書	適宜指示します。科学ボランティアセンターには、関連する図書・資料が多数ありますので、利用して下さい。
連絡先	工学部 バイオ・応用化学科 滝澤 昇 研究室：B6号館 5階 電話：086-256-9552 電子メール：takizawan [アトマーク] dac.ous.ac.jp オフィスアワーは、mylog で確認のこと 科学ボランティアセンター所在：B4号館 1階 電話：086-256-9570 電子メール：svc [アトマーク] ridai-svc.ous.ac.jp 同センターには、午後は概ね教員が常駐しています。
授業の運営方針	・受講者が20名を超える場合は受講制限することがあるので、ガイダンス(=初回の講義)には必ず出席すること。 ・チームごとに決めた指導教員が学内で事前・事後指導を行う。 ・本クラスは基本的に指定された曜日・時限に行われるが、科学イベントは基本的に学外で休日に行われる。 ・地域での実践は2時間以上行う(現地での準備時間等を含む)。ただし、この中で40分以上の教室形式、またはサイエンスショーの講師を行うこととする。 ・この授業は、受講者の主体的な学修(アクティブ・ラーニング)により成り立っているため、積極的に活動すること。 ・講義資料は講義中に配布するとともに、web上からpdfファイルを取得できるようにする。 ・講義中および発表会の録音/録画/撮影は自由であるが、他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)は禁止する。発表会の様子は記録用として教員が録画・撮影することがある。
アクティブ・ラーニング	課題解決学習、プレゼンテーション、実験・実習 実験内容の決定から準備・実施、実験手法の改善のための試行錯誤、実践活動でのプレゼンテーションによりアクティブ・ラーニングを行う。
課題に対するフィードバック	・レポートについては、次の講義でコメントすることでフィードバックを行う。 ・発表会における教員の評価は事後指導時にフィードバックされる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	吉村功(元中学校教員)、森田明義(元小学校教員) 小学校・中学校教員としての経験を生かして、科学ボランティア活動に適した教材の紹介および発表方法の指導を行う。
その他(注意・備考)	・本科目は科学ボランティアリーダー資格認定の必修科目である。科学ボランティアリーダー資格認定制度については、科学ボランティアセンターのホームページ(http://ridai-svc.org/)に説明がある。 ・「科学ボランティアリーダー養成科目」は以下の順番で受講することを推奨する。「科学・工作ボランティア入門」「科学ボランティア実践指導Ⅰ」「科学ボランティア実践指導Ⅱ」「科学ボランティア活動」

科目名	科学ボランティア実践指導 (FEP07310)
英文科目名	Practical Course for Science Educational Volunteer Activities II
担当教員名	滝澤昇(たきざわのぼる),吉村功*(よしむらたくみ*),森田明義*(もりたあきよし*),武田芳紀*(たけだよしのり*),高見寿*(たかみひさし*),糸山嘉彦*(いとやまよしひこ*),春日二郎*(かすがじろう*),山口一裕(やまぐちかずひろ),米田稔(よねだみのる),高原周一(たかはらしゅういち),クルモフバレリー(くるもふばれりー)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	ガイダンス：講義内容と進め方の説明を受けこの講義の意義と進め方を理解する。また、本学認定資格「科学ボランティアリーダー」の詳細説明と出展可能な科学イベントの紹介をうける。 (全教員)
2回	チームおよび指導教員が決定され、各チームで活動方針・内容についての討論をする。 (全教員)
3回	科学イベント準備(1)：出展内容を決定し、次回までにメンバー各自がやっておくべきこと(宿題：実験材料・器具の調達、実験原理の調査、イベント当日の進行の検討など)を決める。 (全教員)
4回	科学イベント準備(2)：事前準備に基づいて実験器具およびプレゼンテーションなどの準備・練習をし、次回までの宿題を決める。 (全教員)
5回	科学イベント準備(3)：発表会予行練習をする。次回までの宿題を決める。 (全教員)
6回	科学イベント準備(4)：発表会に向けて練習を重ね仕上げる。 (全教員)
7回	科学イベントを実施する。 (全教員)
8回	事後指導を受け、レポートを作成する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	このシラバスをよく読んでこの講義の内容を理解するとともに、「科学ボランティアリーダー」について理解しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	第1回ガイダンスで紹介された情報に基づいて、どのイベントで、どのような活動をしたいかを考えておくこと。(標準学習時間120分)
3回	前回の討論に基づいて、内容を各自考案し、チームメンバーと情報を交換しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
5回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
6回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
7回	本番に備え、チームで随時練習をすること。また必要な道具類を最終チェックしておくこと。(標準学習時間120分)
8回	反省点を各自で整理しておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	この講義では、地域で行われている科学教室等の講師となり、イベントの企画、準備、運営の方法を実践的に学ぶ。また、実践の前後に、イベント毎に決めた指導教員により事前・事後指導を受ける。これらのことを通じて、科学イベントを主宰し、安全かつ効果的に実施する力を身につける。同時に、社会人として必要となる思考力・判断力・表現力等の汎用的な能力の向上も目指す。
------	--

	(初等教育学科の学位授与方針Eに最も強く関与)
達成目標	1. 科学実験教室や科学実験ショーが、教材開発・選定から準備、実施まで自力でできる。(A、C、E) 2. 自らの活動・発表の総括を記述できる。(E) 3. 自らが感じている科学ボランティア活動の魅力を記述することができる。(E) 4. 発表会において、伝えたいことと参加者の知識・関心等を踏まえて、効果的でわかりやすい発表を行い、参加者を満足させることができる。(E)
キーワード	地域での実践 科学イベント 科学ボランティア 楽しい科学実験
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	毎回の授業において提出するレポート20%(到達目標1、2を確認)、企画書の内容20%(到達目標1を確認)、実践活動の内容40%(到達目標1、4を確認)、事後レポート20%(到達目標2、3を確認)によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導Ⅰ、科学ボランティア活動
参考書	適宜指示します。科学ボランティアセンターには、関連する図書・資料が多数ありますので、利用して下さい。
連絡先	工学部 バイオ・応用化学科 滝澤 昇 研究室：B6号館 5階 電話：086-256-9552 電子メール：takizawan [アトマーク] dac.ous.ac.jp オフィスアワーは、mylog で確認のこと 科学ボランティアセンター所在：B4号館 1階 電話：086-256-9570 電子メール：svc [アトマーク] ridai-svc.ous.ac.jp 同センターには、午後は概ね教員が常駐しています。
授業の運営方針	・受講者が20名を超える場合は受講制限することがあるので、ガイダンス(=初回の講義)には必ず出席すること。ガイダンスの日時・場所は教務の掲示板で確認すること。 ・チームごとに決めた指導教員が学内で事前・事後指導を行う。 ・事前・事後指導の日時は指導教員と相談して決定する。科学イベントは基本的に学外で休日に行われる。 ・地域での実践は2時間以上行う(現地での準備時間等を含む)。ただし、この中で40分以上の教室形式、またはサイエンスショーの講師を行うこととする。 ・この授業は、受講者の主体的な学修(アクティブ・ラーニング)により成り立っているため、積極的に活動すること。 ・講義資料は講義中に配布するとともに、web上からpdfファイルを取得できるようにする。 ・講義中および発表会の録音/録画/撮影は自由であるが、他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)は禁止する。発表会の様子は記録用として教員が録画・撮影することがある。
アクティブ・ラーニング	課題解決学習、プレゼンテーション、実験・実習 実験内容の決定から準備・実施、実験手法の改善のための試行錯誤、実践活動でのプレゼンテーションによりアクティブ・ラーニングを行う。
課題に対するフィードバック	・レポートについては、次の講義でコメントすることでフィードバックを行う。 ・発表会における教員の評価は事後指導時にフィードバックされる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	吉村功(元中学校教員)、森田明義(元小学校教員) 小学校・中学校教員としての経験を生かして、科学ボランティア活動に適した教材の紹介および発表方法の指導を行う。
その他(注意・備考)	・本科目は科学ボランティアリーダー資格認定の必修科目である。科学ボランティアリーダー資格認定制度については、科学ボランティアセンターのホームページ(http://ridai-svc.org/)に説明がある。 ・「科学ボランティアリーダー養成科目」は以下の順番で受講することを推奨する。「科学・工作ボランティア入門」「科学ボランティア実践指導Ⅰ」「科学ボランティア実践指導Ⅱ」「科学ボランティア活動」

科目名	科学ボランティア実践指導 (FEP07320)
英文科目名	Practical Course for Science Educational Volunteer Activities II
担当教員名	滝澤昇(たきざわのぼる), 吉村功*(よしむらたくみ*), 森田明義*(もりたあきよし*), 武田芳紀*(たけだよしのり*), 高見寿*(たかみひさし*), 糸山嘉彦*(いとやまよしひこ*), 春日二郎*(かすがじろう*), 山口一裕(やまぐちかずひろ), 米田稔(よねだみのる), 高原周一(たかはらしゅういち), クルモフバレリー(くるもふばれりー)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	ガイダンス：講義内容と進め方の説明を受けこの講義の意義と進め方を理解する。また、本学認定資格「科学ボランティアリーダー」の詳細説明と出展可能な科学イベントの紹介をうける。 (全教員)
2回	チームおよび指導教員が決定され、各チームで活動方針・内容についての討論をする。 (全教員)
3回	科学イベント準備(1)：出展内容を決定し、次回までにメンバー各自がやっておくべきこと(宿題：実験材料・器具の調達、実験原理の調査、イベント当日の進行の検討など)を決める。 (全教員)
4回	科学イベント準備(2)：事前準備に基づいて実験器具およびプレゼンテーションなどの準備・練習をし、次回までの宿題を決める。 (全教員)
5回	科学イベント準備(3)：発表会予行練習をする。次回までの宿題を決める。 (全教員)
6回	科学イベント準備(4)：発表会に向けて練習を重ね仕上げる。 (全教員)
7回	科学イベントを実施する。 (全教員)
8回	事後指導を受け、レポートを作成する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	このシラバスをよく読んでこの講義の内容を理解するとともに、「科学ボランティアリーダー」について理解しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	第1回ガイダンスで紹介された情報に基づいて、どのイベントで、どのような活動をしたいかを考えておくこと。(標準学習時間120分)
3回	前回の討論に基づいて、内容を各自考案し、チームメンバーと情報を交換しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
5回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
6回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
7回	本番に備え、チームで随時練習をすること。また必要な道具類を最終チェックしておくこと。(標準学習時間120分)
8回	反省点を各自で整理しておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	この講義では、地域で行われている科学教室等の講師となり、イベントの企画、準備、運営の方法を実践的に学ぶ。また、実践の前後に、イベント毎に決めた指導教員により事前・事後指導を受ける。これらのことを通じて、科学イベントを主宰し、安全かつ効果的に実施する力を身につける。同時に、社会人として必要となる思考力・判断力・表現力等の汎用的な能力の向上も目指す。
------	--

	(初等教育学科の学位授与方針Eに最も強く関与)
達成目標	1. 科学実験教室や科学実験ショーが、教材開発・選定から準備、実施まで自力でできる。(A、C、E) 2. 自らの活動・発表の総括を記述できる。(E) 3. 自らが感じている科学ボランティア活動の魅力を記述することができる。(E) 4. 発表会において、伝えたいことと参加者の知識・関心等を踏まえて、効果的でわかりやすい発表を行い、参加者を満足させることができる。(E)
キーワード	地域での実践 科学イベント 科学ボランティア 楽しい科学実験
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	毎回の授業において提出するレポート20%(到達目標1、2を確認)、企画書の内容20%(到達目標1を確認)、実践活動の内容40%(到達目標1、4を確認)、事後レポート20%(到達目標2、3を確認)によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導Ⅰ、科学ボランティア活動
参考書	適宜指示します。科学ボランティアセンターには、関連する図書・資料が多数ありますので、利用して下さい。
連絡先	工学部 バイオ・応用化学科 滝澤 昇 研究室：B6号館 5階 電話：086-256-9552 電子メール：takizawan [アトマーク] dac.ous.ac.jp オフィスアワーは、mylog で確認のこと 科学ボランティアセンター所在：B4号館 1階 電話：086-256-9570 電子メール：svc [アトマーク] ridai-svc.ous.ac.jp 同センターには、午後は概ね教員が常駐しています。
授業の運営方針	・受講者が20名を超える場合は受講制限することがあるので、ガイダンス(=初回の講義)には必ず出席すること。 ・チームごとに決めた指導教員が学内で事前・事後指導を行う。 ・本クラスは基本的に指定された曜日・時限に行われるが、科学イベントは基本的に学外で休日に行われる。 ・地域での実践は2時間以上行う(現地での準備時間等を含む)。ただし、この中で40分以上の教室形式、またはサイエンスショーの講師を行うこととする。 ・この授業は、受講者の主体的な学修(アクティブ・ラーニング)により成り立っているため、積極的に活動すること。 ・講義資料は講義中に配布するとともに、web上からpdfファイルを取得できるようにする。 ・講義中および発表会の録音/録画/撮影は自由であるが、他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)は禁止する。発表会の様子は記録用として教員が録画・撮影することがある。
アクティブ・ラーニング	課題解決学習、プレゼンテーション、実験・実習 実験内容の決定から準備・実施、実験手法の改善のための試行錯誤、実践活動でのプレゼンテーションによりアクティブ・ラーニングを行う。
課題に対するフィードバック	・レポートについては、次の講義でコメントすることでフィードバックを行う。 ・発表会における教員の評価は事後指導時にフィードバックされる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	吉村功(元中学校教員)、森田明義(元小学校教員) 小学校・中学校教員としての経験を生かして、科学ボランティア活動に適した教材の紹介および発表方法の指導を行う。
その他(注意・備考)	・本科目は科学ボランティアリーダー資格認定の必修科目である。科学ボランティアリーダー資格認定制度については、科学ボランティアセンターのホームページ(http://ridai-svc.org/)に説明がある。 ・「科学ボランティアリーダー養成科目」は以下の順番で受講することを推奨する。「科学・工作ボランティア入門」「科学ボランティア実践指導Ⅰ」「科学ボランティア実践指導Ⅱ」「科学ボランティア活動」

科目名	科学ボランティア実践指導 (FEP07330)
英文科目名	Practical Course for Science Educational Volunteer Activities II
担当教員名	滝澤昇(たきざわのぼる),吉村功*(よしむらたくみ*),森田明義*(もりたあきよし*),武田芳紀*(たけだよしのり*),高見寿*(たかみひさし*),糸山嘉彦*(いとやまよしひこ*),春日二郎*(かすがじろう*),山口一裕(やまぐちかずひろ),米田稔(よねだみのる),高原周一(たかはらしゅういち),クルモフバレリー(くるもふばれりー)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	ガイダンス：講義内容と進め方の説明を受けこの講義の意義と進め方を理解する。また、本学認定資格「科学ボランティアリーダー」の詳細説明と出展可能な科学イベントの紹介をうける。 (全教員)
2回	チームおよび指導教員が決定され、各チームで活動方針・内容についての討論をする。 (全教員)
3回	科学イベント準備(1)：出展内容を決定し、次回までにメンバー各自がやっておくべきこと(宿題：実験材料・器具の調達、実験原理の調査、イベント当日の進行の検討など)を決める。 (全教員)
4回	科学イベント準備(2)：事前準備に基づいて実験器具およびプレゼンテーションなどの準備・練習をし、次回までの宿題を決める。 (全教員)
5回	科学イベント準備(3)：発表会予行練習をする。次回までの宿題を決める。 (全教員)
6回	科学イベント準備(4)：発表会に向けて練習を重ね仕上げる。 (全教員)
7回	科学イベントを実施する。 (全教員)
8回	事後指導を受け、レポートを作成する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	このシラバスをよく読んでこの講義の内容を理解するとともに、「科学ボランティアリーダー」について理解しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	第1回ガイダンスで紹介された情報に基づいて、どのイベントで、どのような活動をしたいかを考えておくこと。(標準学習時間120分)
3回	前回の討論に基づいて、内容を各自考案し、チームメンバーと情報を交換しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
5回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
6回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
7回	本番に備え、チームで随時練習をすること。また必要な道具類を最終チェックしておくこと。(標準学習時間120分)
8回	反省点を各自で整理しておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	この講義では、地域で行われている科学教室等の講師となり、イベントの企画、準備、運営の方法を実践的に学ぶ。また、実践の前後に、イベント毎に決めた指導教員により事前・事後指導を受ける。これらのことを通じて、科学イベントを主宰し、安全かつ効果的に実施する力を身につける。同時に、社会人として必要となる思考力・判断力・表現力等の汎用的な能力の向上も目指す。
------	--

	(初等教育学科の学位授与方針Eに最も強く関与)
達成目標	1. 科学実験教室や科学実験ショーが、教材開発・選定から準備、実施まで自力でできる。(A、C、E) 2. 自らの活動・発表の総括を記述できる。(E) 3. 自らが感じている科学ボランティア活動の魅力を記述することができる。(E) 4. 発表会において、伝えたいことと参加者の知識・関心等を踏まえて、効果的でわかりやすい発表を行い、参加者を満足させることができる。(E)
キーワード	地域での実践 科学イベント 科学ボランティア 楽しい科学実験
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	毎回の授業において提出するレポート20%(到達目標1、2を確認)、企画書の内容20%(到達目標1を確認)、実践活動の内容40%(到達目標1、4を確認)、事後レポート20%(到達目標2、3を確認)によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導Ⅰ、科学ボランティア活動
参考書	適宜指示します。科学ボランティアセンターには、関連する図書・資料が多数ありますので、利用して下さい。
連絡先	工学部 バイオ・応用化学科 滝澤 昇 研究室：B6号館 5階 電話：086-256-9552 電子メール：takizawan [アトマーク] dac.ous.ac.jp オフィスアワーは、mylog で確認のこと 科学ボランティアセンター所在：B4号館 1階 電話：086-256-9570 電子メール：svc [アトマーク] ridai-svc.ous.ac.jp 同センターには、午後は概ね教員が常駐しています。
授業の運営方針	・受講者が20名を超える場合は受講制限することがあるので、ガイダンス(=初回の講義)には必ず出席すること。ガイダンスの日時・場所は教務の掲示板で確認すること。 ・チームごとに決めた指導教員が学内で事前・事後指導を行う。 ・事前・事後指導の日時は指導教員と相談して決定する。科学イベントは基本的に学外で休日に行われる。 ・地域での実践は2時間以上行う(現地での準備時間等を含む)。ただし、この中で40分以上の教室形式、またはサイエンスショーの講師を行うこととする。 ・この授業は、受講者の主体的な学修(アクティブ・ラーニング)により成り立っているため、積極的に活動すること。 ・講義資料は講義中に配布するとともに、web上からpdfファイルを取得できるようにする。 ・講義中および発表会の録音/録画/撮影は自由であるが、他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)は禁止する。発表会の様子は記録用として教員が録画・撮影することがある。
アクティブ・ラーニング	課題解決学習、プレゼンテーション、実験・実習 実験内容の決定から準備・実施、実験手法の改善のための試行錯誤、実践活動でのプレゼンテーションによりアクティブ・ラーニングを行う。
課題に対するフィードバック	・レポートについては、次の講義でコメントすることでフィードバックを行う。 ・発表会における教員の評価は事後指導時にフィードバックされる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	吉村功(元中学校教員)、森田明義(元小学校教員) 小学校・中学校教員としての経験を生かして、科学ボランティア活動に適した教材の紹介および発表方法の指導を行う。
その他(注意・備考)	・本科目は科学ボランティアリーダー資格認定の必修科目である。科学ボランティアリーダー資格認定制度については、科学ボランティアセンターのホームページ(http://ridai-svc.org/)に説明がある。 ・「科学ボランティアリーダー養成科目」は以下の順番で受講することを推奨する。「科学・工作ボランティア入門」「科学ボランティア実践指導Ⅰ」「科学ボランティア実践指導Ⅱ」「科学ボランティア活動」

科目名	科学ボランティア活動 (FEP07400)
英文科目名	Science Educational Volunteer Activities
担当教員名	高原周一 (たかはらしゅういち), 衣笠哲也 (きぬがさてつや), 吉村功* (よしむらたくみ*), 森田明義* (もりたあきよし*), 武田芳紀* (たけだよしのり*), 高見寿* (たかみひさし*), 重松利信 (しげまつとしのぶ), 糸山嘉彦* (いとやまよしひこ*), 春日二郎* (かすがじろう*), 滝澤昇 (たきざわのぼる), 猪口雅彦 (いのぐちまさひこ), 山口一裕 (やまぐちかずひろ), 米田稔 (よねだみのる), クルモフバレー (くるもふばれりー), 菅野幸夫 (かんのさちお)
対象学年	3年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	科学ボランティア活動の進め方および成果発表会について説明する。科学ボランティアリーダー資格認定について説明する。 (高原 周一)
2回	地域で24時間以上の科学ボランティア活動を行う。この中で少なくとも1回は、科学ボランティア実践指導 および で扱ったテーマ以外で、科学教室 (サイエンスショーも含む) の講師もしくはブース出展責任者を務めること。 (高原 周一)
3回	
4回	
5回	
6回	
7回	
8回	
9回	
10回	
11回	
12回	
13回	
14回	科学ボランティア活動証明書、活動報告書、科学ボランティアリーダー認定申請書および科学ボランティア活動実績報告書を提出する。成果発表会の発表内容を調整するとともに、発表準備を行う。企画書およびプレゼンテーション用資料を作成する。 (高原 周一)
15回	成果発表会を行う。 (全教員)

回数	準備学習
1回	このシラバスをよく読んでこの講義の内容を理解するとともに、本学の「科学ボランティアリーダー養成事業」について理解しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	参加する科学ボランティア活動の事前申請および準備を行うこと。活動参加後に所定の様式で報告書を作成し、速やかに所定の窓口まで提出すること。(標準学習時間各回90分)
3回	
4回	
5回	
6回	
7回	
8回	
9回	
10回	
11回	
12回	
13回	
14回	科学ボランティアリーダー認定申請書および科学ボランティア活動実績報告書を作成すること。これまでの科学ボランティア活動について総括し、振り返りレポートを作成すること。発表会での発表内容について考えておくこと。(標準学習時間90分)
15回	企画書を作成すること。成果発表会の準備を行うこと。成果発表会でを行う実験・工作等については、必ず事前に予行演習をしておくこと。(標準学習時間90分)

講義目的	地域で開催される科学イベントや科学実験教室にボランティアとして参加する。また、少なくとも1回は、40分以上の科学教室（サイエンスショーも含む）の講師もしくはブース出展責任者を務める。これらを通じて、受講生自身が、科学・技術全般に対する関心を深め、科学ボランティア活動を行うためのスキルを向上させるとともに、科学ボランティアリーダーとして社会貢献を続ける意欲を育むことを目的とする。同時に、社会人として必要となる思考力・判断力・表現力等の汎用的な能力の向上も目指す。最後に、これまでの科学ボランティア活動のまとめとして成果発表会を行い、これらの目標が達成されていることを判定する。 (初等教育学科の学位授与方針Eに最も強く関与)
達成目標	1. 科学ボランティア活動に24時間を超えて積極的に参加している。(E) 2. 科学教室の講師もしくはブース出展責任者として科学ボランティア活動をリーダーとして牽引できる。(A、C、E) 3. 科学ボランティア活動について振り返りを行い、活動の中で培った力を自己評価し、それを今後どう生かしていくか説明できる。(E) 4. 成果発表会で科学ボランティア活動の様子を再現し、教材をわかりやすく紹介できる。(A、C、E)
キーワード	地域貢献 科学イベント 科学実験教室 成果発表会 科学ボランティアリーダー
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	本学および地域で行った科学ボランティア活動の活動時間・件数20%(到達目標1を確認), 活動報告書20%(到達目標2, 3を確認), 振り返りレポート10%(到達目標3を確認), 成果発表会の企画書10%(到達目標2を確認), 成果発表会の発表内容40%(到達目標2~4を確認)により評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導Ⅰ・
参考書	適宜指示する。
連絡先	教育学部初等教育学科 高原周一 (A1号館3階、e-mail: takahara[アットマーク]ped.ous.ac.jp TEL: 086-256-9607) もしくは科学ボランティアセンター (B4号館1階、TEL: 086-256-9570)
授業の運営方針	・成果発表会までに科学ボランティア活動の活動時間数が24時間に達する見込みのある学生が履修すること。 ・科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導 の単位を修得済か履修中であることが望ましい。 ・科学ボランティア活動部分(2~13回目)については1年次から活動を認める。ただし、科学ボランティア活動の説明会(科学・工作ボランティア入門の講義の1回目)に参加するか科学ボランティアセンターでの講習を受けた後に活動すること。 ・受講者が20名を超える場合は受講制限することがあるので、ガイダンス(日時・場所は教務の掲示板に張り出す)に必ず出席すること。 ・講義資料は講義中に配布する。 ・講義中および発表会の録音/録画/撮影は自由であるが、他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)は禁止する。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、実験・実習 科学ボランティア活動における実習、成果発表会での発表によりアクティブ・ラーニングを行う。
課題に対するフィードバック	レポートおよび成果発表会についてのフィードバックは成果発表会の場で行われる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	吉村功(元中学校教員), 森田明義(元小学校教員) 小学校・中学校の教員としての経験を生かして、科学ボランティア活動に適した教材の紹介および発表方法の指導を行う。
その他(注意・備考)	・本科目は科学ボランティアリーダー資格認定の必修科目である。科学ボランティアリーダー資格認定制度については、科学ボランティアセンターのホームページ(http://ridai-svc.org/)に説明がある。 ・この科目の成果発表会は科学ボランティアリーダー資格認定の最終試験を兼ねる。 ・「科学ボランティアリーダー養成科目」は以下の順番で受講することを推奨する。「科学・工作ボランティア入門」「科学ボランティア実践指導」「科学ボランティア実践指導」「科学ボランティア活動」

科目名	科学ボランティア活動 (FEP07410)
英文科目名	Science Educational Volunteer Activities
担当教員名	高原周一 (たかはらしゅういち), 衣笠哲也 (きぬがさてつや), 吉村功* (よしむらたくみ*), 森田明義* (もりたあきよし*), 武田芳紀* (たけだよしのり*), 高見寿* (たかみひさし*), 重松利信 (しげまつとしのぶ), 糸山嘉彦* (いとやまよしひこ*), 春日二郎* (かすがじろう*), 滝澤昇 (たきざわのぼる), 猪口雅彦 (いのぐちまさひこ), 山口一裕 (やまぐちかずひろ), 米田稔 (よねだみのる), クルモフバレー (くるもふばれりー), 菅野幸夫 (かんのさちお)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	科学ボランティア活動の進め方および成果発表会について説明する。科学ボランティアリーダー資格認定について説明する。 (高原 周一)
2回	地域で24時間以上の科学ボランティア活動を行う。この中で少なくとも1回は、科学ボランティア実践指導 および で扱ったテーマ以外で、科学教室 (サイエンスショーも含む) の講師もしくはブース出展責任者を務めること。 (高原 周一)
3回	
4回	
5回	
6回	
7回	
8回	
9回	
10回	
11回	
12回	
13回	
14回	科学ボランティア活動証明書、活動報告書、科学ボランティアリーダー認定申請書および科学ボランティア活動実績報告書を提出する。成果発表会の発表内容を調整するとともに、発表準備を行う。企画書およびプレゼンテーション用資料を作成する。 (高原 周一)
15回	成果発表会を行う。 (全教員)

回数	準備学習
1回	このシラバスをよく読んでこの講義の内容を理解するとともに、本学の「科学ボランティアリーダー養成事業」について理解しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	参加する科学ボランティア活動の事前申請および準備を行うこと。活動参加後に所定の様式で報告書を作成し、速やかに所定の窓口まで提出すること。(標準学習時間各回90分)
3回	
4回	
5回	
6回	
7回	
8回	
9回	
10回	
11回	
12回	
13回	
14回	科学ボランティアリーダー認定申請書および科学ボランティア活動実績報告書を作成すること。これまでの科学ボランティア活動について総括し、振り返りレポートを作成すること。発表会での発表内容について考えておくこと。(標準学習時間90分)
15回	企画書を作成すること。成果発表会の準備を行うこと。成果発表会でを行う実験・工作等については、必ず事前に予行演習をしておくこと。(標準学習時間90分)

講義目的	地域で開催される科学イベントや科学実験教室にボランティアとして参加する。また、少なくとも1回は、40分以上の科学教室（サイエンスショーも含む）の講師もしくはブース出展責任者を務める。これらを通じて、受講生自身が、科学・技術全般に対する関心を深め、科学ボランティア活動を行うためのスキルを向上させるとともに、科学ボランティアリーダーとして社会貢献を続ける意欲を育むことを目的とする。同時に、社会人として必要となる思考力・判断力・表現力等の汎用的な能力の向上も目指す。最後に、これまでの科学ボランティア活動のまとめとして成果発表会を行い、これらの目標が達成されていることを判定する。 (初等教育学科の学位授与方針Eに最も強く関与)
達成目標	1. 科学ボランティア活動に24時間を超えて積極的に参加している。(E) 2. 科学教室の講師もしくはブース出展責任者として科学ボランティア活動をリーダーとして牽引できる。(A、C、E) 3. 科学ボランティア活動について振り返りを行い、活動の中で培った力を自己評価し、それを今後どう生かしていくか説明できる。(E) 4. 成果発表会で科学ボランティア活動の様子を再現し、教材をわかりやすく紹介できる。(A、C、E)
キーワード	地域貢献 科学イベント 科学実験教室 成果発表会 科学ボランティアリーダー
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	本学および地域で行った科学ボランティア活動の活動時間・件数20%(到達目標1を確認), 活動報告書20%(到達目標2, 3を確認), 振り返りレポート10%(到達目標3を確認), 成果発表会の企画書10%(到達目標2を確認), 成果発表会の発表内容40%(到達目標2~4を確認)により評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導Ⅰ・
参考書	適宜指示する。
連絡先	教育学部初等教育学科 高原周一 (A1号館3階、e-mail: takahara[アットマーク]ped.ous.ac.jp TEL: 086-256-9607) もしくは科学ボランティアセンター (B4号館1階、TEL: 086-256-9570)
授業の運営方針	・成果発表会までに科学ボランティア活動の活動時間数が24時間に達する見込みのある学生が履修すること。 ・科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導 の単位を修得済か履修中であることが望ましい。 ・科学ボランティア活動部分(2~13回目)については1年次から活動を認める。ただし、科学ボランティア活動の説明会(科学・工作ボランティア入門の講義の1回目)に参加するか科学ボランティアセンターでの講習を受けた後に活動すること。 ・受講者が20名を超える場合は受講制限することがあるので、ガイダンス(日時・場所は教務の掲示板に張り出す)に必ず出席すること。 ・講義資料は講義中に配布する。 ・講義中および発表会の録音/録画/撮影は自由であるが、他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)は禁止する。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、実験・実習 科学ボランティア活動における実習、成果発表会での発表によりアクティブ・ラーニングを行う。
課題に対するフィードバック	レポートおよび成果発表会についてのフィードバックは成果発表会の場で行われる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	吉村功(元中学校教員), 森田明義(元小学校教員) 小学校・中学校の教員としての経験を生かして、科学ボランティア活動に適した教材の紹介および発表方法の指導を行う。
その他(注意・備考)	・本科目は科学ボランティアリーダー資格認定の必修科目である。科学ボランティアリーダー資格認定制度については、科学ボランティアセンターのホームページ(http://ridai-svc.org/)に説明がある。 ・この科目の成果発表会は科学ボランティアリーダー資格認定の最終試験を兼ねる。 ・「科学ボランティアリーダー養成科目」は以下の順番で受講することを推奨する。「科学・工作ボランティア入門」「科学ボランティア実践指導」「科学ボランティア実践指導」「科学ボランティア活動」

科目名	教育ボランティア (FEP07500)
英文科目名	Educational Volunteer I
担当教員名	松岡律(まつおかただし), 山中芳和(やまなかよしかず), 森敏昭(もりとしあき), 小川孝司(おがわたかし), 黒崎東洋郎(くろさきとよお), 山下浩之(やましたひろゆき), 紙田路子(かみたみちこ), 井本美穂(いもとみほ), 笹山健作(ささやまけんさく), 妻藤純子(さいとうじゅんこ), 原田省吾(はらだしょうご)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	事前指導を行う (全教員)
2回	実習(1) (全教員)
3回	実習(2) (全教員)
4回	実習(3) (全教員)
5回	実習(4) (全教員)
6回	実習(5) (全教員)
7回	実習(6) (全教員)
8回	実習(7) (全教員)
9回	実習(8) (全教員)
10回	実習(9) (全教員)
11回	実習(10) (全教員)
12回	実習(11) (全教員)
13回	実習(12) (全教員)
14回	グループ・リフレクションを行う (全教員)
15回	成果発表を行う (全教員)

回数	準備学習
1回	学校でのボランティアに必要なことについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
2回	事前指導を踏まえ、学校でのあいさつをはじめとするコミュニケーションの持ち方について熟考しておくこと。(標準学習時間60分)

3回	今後の活動の中で、自分ができることについてよく考えること。(標準学習時間60分)
4回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
5回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
6回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
7回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
8回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
9回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
10回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
11回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
12回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
13回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
14回	これまでの活動を踏まえ、自分の成果と課題について整理しておくこと。(標準学習時間60分)
15回	自身の活動について、レポート・プレゼンテーションとしてまとめておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	1年次の「教育現場観察実習」を踏まえ、2年次のこの授業では大学の授業外の時間を使って、学校や児童館、社会教育施設などの教育関連施設の現場において、ボランティアとして教育の補助及び子どもの遊びや学習などの支援活動を行い、教職能力を培うために必要な学びの内容と方法の経験的な把握を目指す。まず、グループ事前調査により、教育現場を観察する視点・目的・方法を明確化する。そして現場を訪問し、児童・生徒の学習や生活の実際を観察し、参与実習をする。最後に実習で得た知見や問題点を報告・討議し、全体で成果を共有し、ボランティア活動のレポートをまとめる。(初等教育学科の学位授与方針B・D、中等教育学科の学位授与方針：国語E、英語Bに最も強く関与する)
達成目標	小・中学校と日常的・継続的な関わりを持ち、学校空間に参加していく中で、教職に対する自己の意識を明確に持つこと。 教員に必要な知識・スキルを自分の課題として明確に意識し、それに対する取り組みを始められるようになること。
キーワード	学校支援ボランティア
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	ボランティア受け入れ校からの評価(達成目標を確認)および、事後指導におけるレポート(達成目標を確認)を総合的に評価する。60%以上を合格とする。
教科書	使用しない
関連科目	教育ボランティア
参考書	
連絡先	A1号館904 松岡
授業の運営方針	ほとんどが現地での実習ですが、最後に学修成果をレポートにまとめる作業が必要になります。そのため、日頃から体験の振り返りを行う習慣を心がけることが必要です。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション グループリフレクション、および発表会にて意見交換を行う。
課題に対するフィードバック	レポートを添削し、返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	教育ボランティア (FEP07600)
英文科目名	Educational Volunteer II
担当教員名	松岡律(まつおかただし), 山中芳和(やまなかよしかず), 森敏昭(もりとしあき), 小川孝司(おがわたかし), 黒崎東洋郎(くろさきとよお), 山下浩之(やましたひろゆき), 紙田路子(かみたみちこ), 井本美穂(いもとみほ), 笹山健作(ささやまけんさく), 妻藤純子(さいとうじゅんこ), 原田省吾(はらだしょうご)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	事前指導を行う (全教員)
2回	実習(1) (全教員)
3回	実習(2) (全教員)
4回	実習(3) (全教員)
5回	実習(4) (全教員)
6回	実習(5) (全教員)
7回	実習(6) (全教員)
8回	実習(7) (全教員)
9回	実習(8) (全教員)
10回	実習(9) (全教員)
11回	実習(10) (全教員)
12回	実習(11) (全教員)
13回	実習(12) (全教員)
14回	グループ・リフレクションを行う (全教員)
15回	成果発表を行う (全教員)

回数	準備学習
1回	NPO等でのボランティアに必要なことについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
2回	事前指導を踏まえ、一般の人々とのコミュニケーションの持ち方について熟考しておくこと。(標準学習時間60分)

3回	今後の活動の中で、自分ができることについてよく考えること。(標準学習時間60分)
4回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
5回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
6回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
7回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
8回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
9回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
10回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
11回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
12回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
13回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
14回	これまでの活動を踏まえ、自分の成果と課題について整理しておくこと。(標準学習時間60分)
15回	自身の活動について、レポート・プレゼンテーションとしてまとめておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	「教育ボランティア」での活動体験を踏まえて、この授業においても大学の授業外の時間を使い、教育関連施設のボランティアとして、教育的活動の補助及び子どもの遊びや学習の支援活動を行う。特に近隣の教育関連NPOとの連携により、主として児童生徒の集团的活動の企画や運営、活動に参画することで、子どもを理解し、教師として子どもの学習や生活の集団を支持的風土に満ちた集団に高めていく力の育成を目指す。(初等教育学科の学位授与方針B・D、中等教育学科の学位授与方針：国語E、英語Bに最も強く関与する)
達成目標	NPO職員や子どもの保護者、他のボランティア参加者など、多様な人々との関わりの中で活動を企画し運営して行く中で、学校関係者や子供どもだけでなく様々な人と円滑にコミュニケーションできる力を身につけること。 組織の中で自発的に自分の役割を見つけ、率先しかつ協調して動けるようになること。
キーワード	NPO
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	ボランティア受け入れ先からの評価および、事後指導におけるレポートを総合的に評価(達成目標を確認)する。60%以上を合格とする。
教科書	使用しない
関連科目	教育ボランティア
参考書	
連絡先	A1号館904 松岡
授業の運営方針	殆どを現地での実習が占めることとなりますが、最後にレポートとしてまとめられるよう、日頃から自身の体験を振り返る習慣を心がけること。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション 終盤のグループリフレクションや発表会において意見・情報交換を行う。
課題に対するフィードバック	レポートを添削、返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	フィールド観察実習 (FEP07700)
英文科目名	Field Observation Training
担当教員名	山下浩之 (やましたひろゆき)
対象学年	3年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	本講義全体のオリエンテーションを行う。主に講義の目的と概略，アプローチの方法などを解説する。
2回	浮子を使用した測定と電磁流速計を使用した測定の方法を身につけ，実際の河川の幾つかのポイントを測定する。
3回	測定したポイントでの流速と堆積物の粒度とを関係づけ，その考察をプレゼンテーションする。
4回	地形図をもとに，地形の大まかな様子を把握し，実際に旭川の沖積地を鳥瞰する。その周辺の地形と地学的な環境を確認する。生物的な環境として，草本植物および木本植物の大まかな分類方法や種名の検索を行う。特に初等理科で扱う植物を中心とする。
5回	生物的な視点および地学的な視点から，どのような野外学習が考えられるか，教育的な視点からプレゼンテーションを行う。また，防災的な視点からもアプローチする。
6回	標高差の異なる場所に視点を移し，大学キャンパス周辺とどのような違いがあるかを，年平均気温や気圧をもとに考察する。
7回	河川に入り，河川の様子を幾つかのポイントで比較する。堆積物の違いと流速との関連を五感を使って身につける。
8回	河川での様子の違いを議論し，その場所で何がわかるようになったかを明確に説明できるようにする。
9回	地層を観察する際，河川での観察と関連づけて，その見方を身につける。記録の仕方を身につけ，その記録から何が言えるかを考察する。
10回	地学的な視点から，どのような野外学習が考えられるか，教育的な視点からプレゼンテーションを行う。
11回	天体観測を行い，初等理科で扱う星座や高度の測り方などを解説するとともに，星座早見盤をもとに天の川や星の動き方を教育的観点から考察する。
12回	周辺の山に登り，植生の違いや形態の変化を解説する。
13回	木本植物や地形・地質に視点を当て，その特徴や環境との関わりなどに言及し，解説する。
14回	木本植物や昆虫との関係に視点を当て，その特徴や環境との関わりなどに言及し，解説する。
15回	周りの環境と生物との関係や，環境の違いによる適応の違いを教育的な視点からプレゼンテーションを行う。

回数	準備学習
1回	講義概略を理解しておくこと。全講義に必要な準備物をそろえておくこと。(標準学習時間60分)
2回	浮子を使用する場合は役割分担が必要になる。教科書を参考にしてどのような分担が必要か考えておくこと。安全上どのような危険が考えられるか，想定できることを全て書き出しておくこと。(標準学習時間90分)
3回	予め粒度計を作成しておくこと。地形図からどのようなことが過去に起こったと考えられるか，想定できることを全て書き出しておくこと。(標準学習時間90分)
4回	地図の見方，コンパス・ルーペ・クリノメーター・野外用双眼実体顕微鏡などの使用法を予習しておくこと。採集標本をもとにスケッチ等を行いながら，特徴を捉え，大まかな分類ができるようにしておくこと。(標準学習時間90分)
5回	自分でテーマを決め，フィールドの中のどの部分を切り取るか，何を学習者に理解して欲しいかなどのアウトラインを描いておくこと。(標準学習時間90分)
6回	観察地点の状況を前もって地形図で調べておくこと。標高や，地形的な特徴，周囲の様子などを地図等で予想できるようにしておくこと。(90分)
7回	流速計と浮子のそれぞれのメリットデメリットを確認しておくこと。(標準学習時間90分)
8回	測定法のそれぞれの利点を整理しておくこと。地点ごとに記録したことを正確に記し，小レポートにまとめること。(標準学習時間90分)
9回	地層で観察したことを正確に記し，小レポートにまとめること。(標準学習時間60分)
10回	自分でテーマを決め，フィールドの中のどの部分を切り取るか，何を学習者に理解して欲しいかなどのアウトラインを描いておくこと。(標準学習時間90分)
11回	双眼鏡や望遠鏡の使用法を前もって確認しておくこと。事前に星座早見盤で見える星座を予測しておくこと(標準学習時間90分)。
12回	大学キャンパス周辺との違いを，植生という観点から，観察の視点を決めておくこと(標準学習時間90分)。
13回	大まかに被子植物の分類や生態の違いを調べておくこと(標準学習時間90分)。

14回	昆虫がもつ擬態や被子植物との共進化について調べておくこと(標準学習時間90分)。
15回	自分でテーマを決め、フィールドの中のどの部分を切り取るか、何を学習者に理解して欲しいかなどのアウトラインを描いておくこと。(標準学習時間90分)
講義目的	本講義は、初等理科で野外学習の基本を身につけるための講義である。初等理科で扱う野外学習は生物領域や地学領域(天体を含む)など幅広い範囲に及ぶ。近年、安全対策等の心配から野外学習が避けられる傾向にあるが、野外は教材の宝庫であり、学習としてもその効果は大きい。この講義では実際にフィールドを歩き、ミクロやマクロの視点から五感を通して生物や地学の世界を覗きこむことにしている。その不思議さと奥深さに感動し、その感動を学校や社会で還元していくことを目指す。これは学位授与方針AおよびDに関連している。
達成目標	フィールド学習を行う際の安全面の確保についての基本を身につけることができる。(A) フィールド学習の目的を理解した上で、基本的な技能と身につけることができる。(A) 植物や動物との関係や地形や地質との関係等幾つかの要素を関連づけて思考できる。(A) 測定等の方法を身につけることができる。(A) 自らのテーマに沿ってプレゼンテーションを行い、議論を深めることができる。(E)
キーワード	野外学習、安全対策、木本植物、水の流速測定、地質(地質図)と地形(地形図)、礫・砂・泥など粒径の違い、浸食・運搬・堆積、天体の観察等
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	レポート60%、プレゼンテーション40%で評価し、総計で全体の60%以上の成績を合格とする。特にプレゼンテーションでは内容の論理性、表現力、対話力を3つの主な観点として評価する。
教科書	指定しない。
関連科目	探究活動、探究活動 A
参考書	国土地理院 2万5000分の1地形図「岡山北部」「岡山南部」「湯原湖」「蒜山」
連絡先	山下研究室A1号館10F 1012 直通電話 086-256-9624 E-mail:yamashita ped.ous.ac.jp(はat sign) オフィスアワー 水曜日4・5時限
授業の運営方針	・予習復習および補足を必要とする内容についてはMomo-campusに配信する。 ・フィールドでは安全面に十分に留意する。野外に適した服を着用すること。 ・集中講義であることとフィールドでの授業であるため時間厳守すること。全体に迷惑が及ぶ行為は認められないので注意すること。 ・レポートを期限内に提出すること。期限を過ぎての提出は減点の対象にする。 ・最終評価試験は実施しないので、授業時間と授業時間外での活動が重要である。課題レポート等にコピーなどの剽窃がある場合は、成績評価の対象としない場合もある。
アクティブ・ラーニング	・基本的にはまず自分自身でデータを取り、Stop地点ごとに結果や考察についての発表および議論を行いながらテーマを深めていく。
課題に対するフィードバック	・レポート課題については、採点後返却する。 ・課題についての補足やフィードバックに関する情報はMomocampusで行う場合がある。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・講義中の録音・録画・撮影は個人で利用する場合、許可する場合がありますので事前に相談すること。 ・障害に応じて補助器具(ICレコーダー、タブレット型端末の撮影、録画機能)の使用を認めるので、事前に相談すること。 ・配布資料や録画データなどは他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)や転用は禁止する。 ・フィールドでの講義が主体となるので配慮が必要な場合は必ず事前に相談すること。
実務経験のある教員	ア)元小学校勤務イ)学校現場の経験を活かして、今日的な教育的な課題(理科離れ、理科嫌い等)とその対策方法について講義する。
その他(注意・備考)	本講義はフィールドでの活動を主とした、アクティブラーニングによる目標達成を目指している。指導計画は天候その他の状況により変更することがある。集中講義で行うため、春期の土日を3日間程度使って行う。授業の1週間前に簡単なオリエンテーションを行うので参加すること。授業の場所は大学キャンパス周辺、岡山市内の旭川下流域、京山、蒜山高原等を使用し、蒜山高原では1泊して授業を行う。食費および宿泊費4000円程度は実費負担とする。なお、安全面の確保を優先するため、受講者数を10名程度に制限している。抽選状況は教育学部9F10F掲示板等で行うが、発表後5日目以降のキャンセルは認められないので注意すること。発表時はmailで通知する。オリエンテーションでも説明するが、第1日目からフィールドを歩くので靴・帽子・虫除け・(昼食)等野外に適した準備を心がけること。

科目名	教育研究ゼミナール (FEP07800)
英文科目名	Seminar for Educational Research
担当教員名	紙田路子 (かみたみちこ), 山中芳和 (やまなかよしかず), 森敏昭 (もりとしあき), 小川孝司 (おがわたかし), 黒崎東洋郎 (くろさきとよお), 松岡律 (まつおかただし), 山下浩之 (やましたひろゆき), 井本美穂 (いもとみほ), 笹山健作 (ささやまけんさく), 妻藤純子 (さいとうじゅんこ), 原田省吾 (はらだしょうご)
対象学年	4年
単位数	2.0
授業形態	演習
授業内容	3年次までの学習を土台に、教育の理論と実践について研究的視点から考え・議論する力を身に付けることを目的とする。この教育研究ゼミナールでは、個々の学生が自ら調査・研究する課題を設定し、指導教員の助言を受けながら、卒業までの1年間を通して、主体的・継続的に研究を展開する。そして、その研究を随時ゼミナール単位で報告し、相互に討議する過程を通して、最終的に卒業論文へとつなげていく。
準備学習	3年間の講義や教育実習、教育ボランティア等の経験を省察、分析し、自己の研究において追究すべきテーマを設定すること。教育研究ゼミナールでは、自己の研究テーマの解決に向けて積極的継続的に、各研究分野の特性に応じた調査活動を行うこと。
講義目的	3年次までの学習を土台に、教育の理論と実践について研究的視点から考え・議論する力を身に付けることを目的とする。
達成目標	1. 研究課題の解決のために必要な客観的・科学的なデータを文献調査、質的・量的調査、実験・実践研究を通して収集することができる。(A, C) 2. 学問的・教育的課題を発見し、解決に向けて計画的かつ積極的に探究し続けることができる。(B, D) 3. 研究を随時ゼミナール単位で報告し、相互に討議することで、自己の研究を修正し、次の研究活動への見通しを持つことができる。(D)
キーワード	研究規範、量的・質的研究、文献研究、実験・調査、授業研究・実践研究、討議
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	教育研究ゼミナールでの報告レポート50% (主に達成目標1, 2を評価)、教育研究ゼミナールでの討論・振り返り50% (主に達成目標3を評価)
教科書	各教育研究ゼミナールの指定による
関連科目	卒業研究
参考書	適宜紹介する。
連絡先	各卒業研究ゼミナールの教員、および紙田路子研究室 (A1号館 9F907号室)
授業の運営方針	・卒業研究テーマ、および教育研究ゼミナールにおける課題を必ず決められた期日に提出、あるいは発表すること。 ・上記について、提出期限を過ぎた場合、またグループ討議の実施に不利益を与えたと判断した場合は不可とすることがあるので十分注意すること。
アクティブ・ラーニング	・研究テーマの探究: 個々で課題を設定し、資料調査、フィールドワーク等の情報収集を行い解決していく。 ・グループワーク: 教育研究ゼミナールにおいて研究の経過や成果を報告し、吟味、修正する。
課題に対するフィードバック	・教育研究ゼミナールにおける報告・発表における評価。 ・教育研究ゼミナールにおける討議の評価、及びそれを生かした研究の修正についての評価。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。 ・個々の状況や研究特性に応じて、教育研究ゼミナールの形態を設定する。
実務経験のある教員	元小中学校教諭: 学校現場における教育経験者がその経験を生かして、社会的事象の探究方法について解説、実践指導する。
その他 (注意・備考)	・卒業研究指導中の録音/録画/撮影は原則認めない。当別の理由がある場合事前に相談すること。 ・卒業研究ゼミナールは卒業研究論文、製作を最終的な目的とする。そのため、教育研究ゼミナールにおいて研究を積み重ねておくことが必要不可欠である。

科目名	卒業研究 (FEP99000)
英文科目名	Graduation Thesis
担当教員名	紙田路子 (かみたみちこ), 山中芳和 (やまなかよしかず), 森敏昭 (もりとしあき), 小川孝司 (おがわたかし), 黒崎東洋郎 (くろさきとよお), 松岡律 (まつおかただし), 山下浩之 (やましたひろゆき), 井本美穂 (いもとみほ), 笹山健作 (ささやまけんさく), 妻藤純子 (さいとうじゅんこ), 原田省吾 (はらだしょうご)
対象学年	4年
単位数	4.0
授業形態	実験実習
授業内容	論文執筆、卒業制作及び演奏、発表を通じて学修の集大成を目指す。教育学部における学修のまとめとして、3年次までに修得してきた科学的、客観的態度で物事の本質を追究し、課題解決を図る能力を駆使して、教育に関する個別の研究課題を設定し、論文作成や課題製作を通じて多面的・総合的視点から探究する力を深化させる。構想発表会および卒業研究発表会において研究の経過や成果を発表・共有することにより、卒業後の教育研究や実践活動の基盤となる力を磨く。 第1回～3回 研究テーマの設定・発表 第4回～10回 研究テーマの追究・討議 第11回～14回 論文作成 第15回 卒業研究発表
準備学習	各研究分野の研究規範、先行研究分析をおさえておくこと。また必要に応じて文献調査、量的・質的調査、実践研究を行い客観的かつ検証可能なデータを入手すること。卒業研究ゼミナール、研究発表会での意見交換をもとに、論理的に論を展開できる卒業制作を目指すこと。
講義目的	教育学部における卒業研究の目的は、論文の執筆、作品の制作および演奏を通して4年間の学修を集大成することにある。3年次までに修得した知識・技能、思考力・判断力・表現力を駆使し、自己の研究課題を解決することで、多面的・総合的視点から探究する力を深めることができるようにする。また構想発表会及び卒業研究発表会において研究の経過や成果を発表し、それらを共有することにより、卒業後の教育研究活動や実践活動の基盤を培うことを目的としている。
達成目標	1. 研究課題の解決のために必要な客観的・科学的なデータを文献調査、質的・量的調査、実験・実践研究を通して収集することができる。(A、C) 2. 学問的・教育的課題を発見し、解決に向けて計画的かつ積極的に探究し続けることができる。(B、D) 3. 各研究分野の研究規範、先行研究を踏まえ、自己の研究成果を論理的に表現することができる。(D)
キーワード	研究規範、先行研究分析、量的・質的研究、文献研究、実験・実践研究、研究論文構成
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	卒業研究 80% (主に達成目標 1、2 を評価)、卒業研究発表 20% (主に達成目標 3 を評価)
教科書	各教育研究ゼミナールの指定による
関連科目	各教育研究ゼミナールを履修のこと
参考書	適宜紹介する。
連絡先	各教育研究ゼミナールの教員、および紙田路子研究室 (A1号館 9F907号室)
授業の運営方針	・卒業研究テーマ、および卒業研究論文・製作は必ず期限内に提出すること。 ・上記について、提出期限を過ぎた場合、特段の事情がなければ不可とすることがあるので十分注意すること。
アクティブ・ラーニング	・研究テーマの探究：個々で課題を設定し、資料調査、フィールドワーク等の情報収集を行い解決していく。 ・グループワーク：構想発表会および卒業研究発表会において研究の経過や成果を発表・共有する。
課題に対するフィードバック	・構想発表会および卒業研究発表会における評価。 ・卒業研究論文、製作における主査・協力教員の評価・コメント。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。 ・個々の状況に応じて、卒業研究の表現形態について配慮する。
実務経験のある教員	元小中学校教諭：学校現場における教育経験者がその経験を生かして、社会的事象の探究方法について解説、実践指導する。
その他 (注意・備考)	・卒業研究は教育研究ゼミナールを基礎に置く。そのため、教育研究ゼミナールにおいて積極的な探究活動を重ねておくことが必要不可欠である。 ・研究指導における録音/録画/撮影は原則認めない。当別の理由がある場合事前に相談すること。